

茨城県教育財団文化財調査報告第191集

島名境松遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ

中 卷

平成14年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第191集

しま な さかい まつ
島名境松遺跡

島名・福田坪一体型特定土地地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ

中 卷

平成14年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団



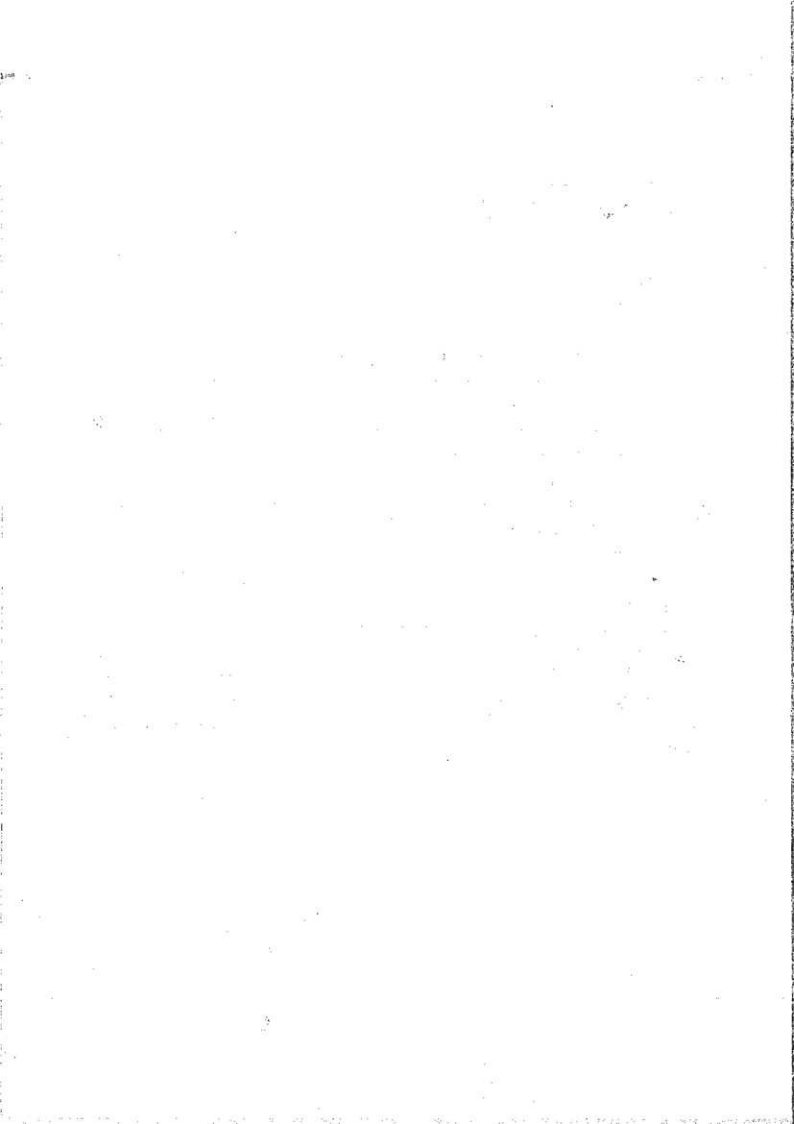
遺跡遠景



第1号土器焼成遺構

目 次

第4章 高名境松遺跡の調査の成果	319
第1節 遺跡の概要	319
第2節 基本層序	319
第3節 遺構と遺物	323
1 縄文時代の遺構と遺物	323
(1) 竪穴住居跡	323
(2) 炉跡	422
(3) 土器焼成遺構	424
(4) 土器埋設遺構	429
(5) 土坑	430
ア 大形土坑	430
イ 円筒形土坑	440
ウ フラスコ状土坑	454
エ その他の土坑	458
2 古墳時代の遺構と遺物	524
(1) 竪穴住居跡	524
3 その他の遺構と遺物	559
(1) 土坑	559
(2) 不明遺構	574
4 遺構外	579
(1) 遺構外出土遺物	579
(2) 南斜面部	589
第4節 まとめ	591
写真図版	
付図	



第4章 鳥名境松遺跡の調査の成果

第1節 遺跡の概要

平成12年度調査区域の総面積は9,288㎡で、現況は山林と畑地である。調査区は舌状台地上に位置し、「つくばエクスプレス」の路線幅での調査となり、南北最大長は約230mである。調査区内には市道が2本横切って、3区に分断されているため、便宜上Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区に分けて調査した。(第2図)

調査の結果、当遺跡は縄文時代中期及び古墳時代後期に集落が営まれた複合遺跡であることが判明し、縄文時代の竪穴住居跡32軒、炉跡3基、土器焼成遺構1基、土器埋設遺構1基、土坑238基(大形4基、円筒形12基、フラスコ状5基、その他の土坑217基)、古墳時代の竪穴住居跡7軒、時期不明の土坑451基、不明遺構4基を確認した。また、縄文土器、土師器、土製品、石器、石製品などの遺物が出土している。

第2節 基本層序

調査区域は、標高22.0~22.5mの台地上に位置し、南部の一部は東谷田川からのびる支谷に面しているため標高差3mの斜面部となっている。テストピットは、調査区中央部のF7d3区にテストピットⅠを掘削し、斜面部の土層を検討するため南部のF7a4区にもう一つのテストピットⅡを設けた。テストピット間の地表面の標高差は1mである。当遺跡付近の一般的な土層は、テストピットⅠのものと考えられるため基本土層はテストピットⅠを用いる。テストピットⅠにおける地表面の標高は22.4mで、地表面から深度3.25mほど掘削した。テストピット断面の実測図を第1図に示す。

基本土層は、色調・構成粒子・含有物・粘性などから15層に細分される。これらの土層は大きく表土・関東ローム層・常総粘土層に区分され、1層が表土に、2~13層が関東ローム層に、14層と15層は常総粘土層に対比される。

表土は、多量の腐植物を含む腐植土である。関東ローム層は、層厚2.5mで、地表面から深度0.8mと深度2.0mの2層部に暗色帯が認められる。また、最下部に黄褐色の軽石を含む層(11~13層)が認められ、特に12層に含まれる軽石の量が多い。茨城県南部の取手市大山Ⅰ遺跡の調査例では、常総粘土層の直上に黄褐色の軽石層が報告され箱根-東京軽石(約49,000年前)と推定されている⁽¹¹⁾⁽¹²⁾。本層も常総粘土層との層序関係から箱根-東京軽石に対比されると考えられる。

遺構は2層上面で確認した。

各層の特徴を述べる。

1層は、暗褐色を呈する腐植土層で、少量のローム小ブロックやローム粒子を含む。粘性は弱くしまりは普通であり、厚さは26~36cmである。

2層は、明褐色を呈するローム層である。粘性は弱く、しまりは普通である。厚さは24cmである。

3層は、褐色を呈するローム層である。粘性は弱く、しまりは強い。厚さは8~24cmである。

4層は、褐色を呈するローム層である。粘性は弱く、しまりは強い。厚さは10~15cmである。

5層は、暗褐色を呈するローム層である。粘性は弱く、しまりは強い。厚さは18~30cmである。

6層は、褐色を呈するローム層である。粘性は弱く、しまりは強い。厚さは5~10cmである。

7層は、褐色を呈するローム層である。粘性は弱く、しまりは強い。厚さは18~30cmである。
 8層は、褐色を呈するローム層である。粘性は普通で、しまりは強い。厚さは26~30cmである。
 9層は、褐色を呈するローム層である。粘性は普通で、しまりは強い。厚さは14~40cmである。
 10層は、暗褐色を呈するローム層である。粘性は普通で、しまりは強い。厚さは42~62cmである。
 11層は、明褐色を呈するローム層で、径3~5mmの黄褐色をした軽石を微量含む。粘性は普通でしまりは強い。厚さは5~15cmである。

12層は、明褐色を呈するローム層で、径3~5mmの黄褐色をした軽石を少量含む。粘性は普通でしまりは強い。厚さは10~30cmである。

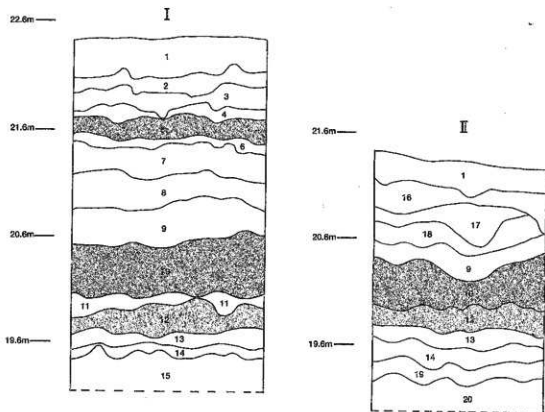
13層は、明褐色を呈するローム層で、径3~5mmの黄褐色をした軽石を微量含む。粘性は普通でしまりは強い。厚さは5~20cmである。

14層は、淡黄色を呈する砂質粘土層で、ローム粒子を微量含む。また、暗赤褐色や黒色をした斑点が認められ、粘性・しまりは、ともに強い。厚さは8~10cmである。

15層は、にぶい黄色を呈する砂質粘土層である。暗赤褐色や黒色をした斑点が認められ、粘性・しまりはともに強い。厚さは25~30cmである。

テストピットⅡの土層について述べる。

斜面にあるためテストピットⅡでは、関東ローム層が1.2mほど削平されている。9層より上の土層は、腐植物や炭化物、焼土粒子をわずかに含んだロームより構成され調査区南部の斜面部に特徴的な土層である。これらの土層は、降雨などにより谷津に向かい流された炭化物や焼土粒子などがローム層に混入して、二次的に形



第1図 基本土層図

成されたと考えられる。

また12層に含まれる箱根-東京軽石は層状に密集していた。常総粘土層に対比される土層は、主に砂から構成される。水平方向へ粘土層から砂層への変化は、常総粘土層に一般的にみられる特徴である。

斜面部に見られる土層の特徴を述べる。

16層は、褐色を呈するローム層で炭化粒子や腐植物をわずかに含む。粘性は弱く、しまりは普通である。厚さは5～16cmである。

17層は、褐色を呈するローム層で炭化粒子や焼土粒子をわずかに含む。粘性は弱く、しまりは普通である。厚さは5～30cmである。

18層は、褐色を呈するローム層である。粘性は弱く、しまりは普通である。厚さは5～20cmである。

19層は、明褐色を呈するローム層で、砂粒をわずかに含む、黒色の斑点が少量みられ、粘性は普通で、しまりは強い。厚さは10～14cmである。

20層は、明黄褐色を呈する砂質粘土層である。粘性は弱く、しまりは強い。厚さは30～35cmである。

註

- (1) 茨城県教育財団 旧石器時代研究班 「茨城県南部における立川ローム層の層序区分について」『研究ノート』6号 1997年
- (2) 町田 洋, 新井房夫 「火山灰アトラス」東京大学出版会 1992年



第2图 島名境松道跡調査区設定図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

今回の調査で、縄文時代の竪穴住居跡32軒、炉跡3基、土器焼成遺構1基、土器埋設遺構1基、土坑238基(大形4基、円筒形12基、フラスコ状5基、その他の土坑217基)を検出した。以下、検出した遺構と遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡(第3・4図)

位置 調査区北部、C6b5区の平坦部に立地しており、本跡南には第3～5号住居跡が位置している。

重複関係 北部を第6号土坑に掘り込まれている。また、トレンチャーによる攪乱をうけている。

規模と形状 覆土のほとんどが削平されているが、長径7.58m、短径7.52mの楕円形と推定され、長径方向は、N-33°-Eである。壁はほとんど削平されているが、最も残りが良好な部分の高さは3～5cmで、ほぼ直立する。

床 平坦であり、中央部がやや踏み固められている。

炉 2か所。炉1は中央部東側に付設され、炉2はその南側に隣接している。炉1は長径75cm、短径55cmの楕円形で、床面を5cmほど風状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は赤変しており、中央部は径20cmの円形で深さ20cmほどの攪乱を受けている。炉2は径70cmの円形で、深さ20cmほど風状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

- 1 褐色 色 焼七粒子・炭化物微量
- 2 におい褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量

炉2土層解説

- 1 褐色 色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 におい赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量
- 4 赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量

ピット 8か所。P1～P8は深さ15～33cmで、規模や配列から主柱穴と考えられる。

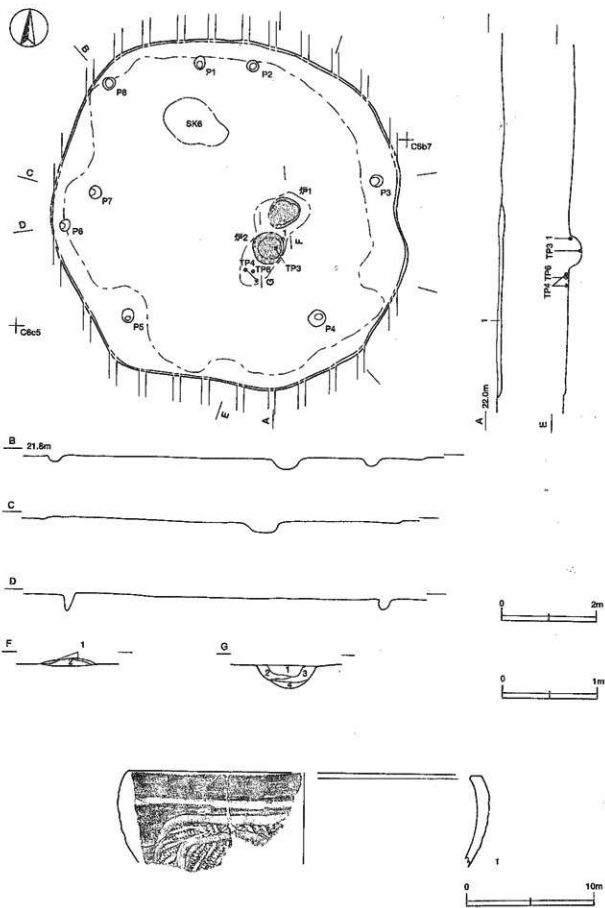
覆土 単一層で自然堆積の状況を示している。

土層解説

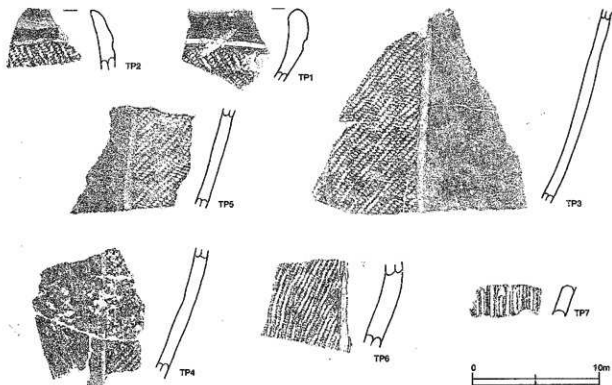
- 1 褐色 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片139点(口縁部9、胴部130)が出土し、深鉢の胴部片が多く、炉2の南西側の床面から散在した状態で出土している。時期は縄文時代中期の加曾利EⅡ～Ⅲ式期の土器が混在しているが、多くは加曾利EⅢ式期のものである。1は炉2の覆土上層、TP3は炉2の覆土下層から出土し、炉を囲む埋設土器の一部である。TP4・TP6は炉2の南西側床面から出土している。TP1・TP7は北東部、TP2は南東部の覆土中からそれぞれ出土し、TP5は炉2内の覆土中から出土している。

所見 本跡は、トレンチャーによる攪乱が激しいが、硬化面の範囲と柱穴の配列から住居規模が推定できた。炉が2か所検出されており、炉2は炉1より深く掘り窪められた土器埋設炉である。本跡の時期は出土土器から、縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第3图 第1号住居跡・出土遺物実測図



第4図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
1	縄文土器	深鉢	[28.0]	(7.2)	-	口辺部は乱線と無文帯を区別、胴部は乱線で無文帯を区別し、区画内に及しの帯形縄文文様	灰石・石英・雲母	普通	にぶい黄褐色	準上層 P.L24
TP番号	時期	器形および文様の特徴				出土位置	備考			
1・2	縄文時代中期後葉	口縁部片で、無文帯を有し、胴部にはR.Lの単筋縄文施文				覆土中				
3~6	縄文時代中期後葉	胴部片で、R.Lの単筋縄文地に乱線を施成させ、沈線四角形				36°部底面・5覆土中・4・6中央部底面	P.L31			
7	縄文時代中期後葉	縦位の条線文施文				覆土中				

第2号住居跡 (第5図)

位置 調査区北部、D6 b3区の平坦部に立地し、第6号住居跡と重複している。北には第3号住居跡、北東には第5号住居跡が、本跡から7mほどに位置している。

重複関係 第6号住居跡に掘り込まれている。また、トレンチャーによる擾乱を受けている。

規模と形状 長径4.90m、短径4.50mの楕円形と推定されるが、壁はほとんど削平されている。

床 はほぼ平坦であり、中央部がやや踏み固められている。

炉 中央部に付設されており、長径65cm、短径54cmの楕円形で、床面を4cmほど皿状に掘り窪めた床炉である。炉床面は火熱を受けて、赤変硬化している。

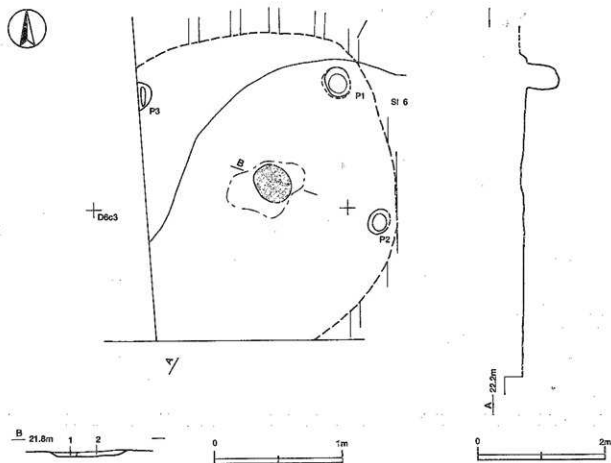
炉土層解説

- 1 灰褐色赤褐色 縦土ブロック・焼土粒中量、ロームブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック微量

ピット 3か所。P1~P3は深さ36~55cmで、規模や配列から主柱穴と考えられる。

遺物出土状況 覆土のほとんどが削平されており、隣接している第6号住居跡にも掘り込まれているために、遺物は出土していない。

所見 本跡も、トレンチャーによる攪乱が激しく、第6号住居跡にも掘り込まれているが、硬化面の範囲と柱穴の配列から住居規模が推定できた。出土遺物はないものの、切り合い関係や住居の形態などから、第6号住居跡とはほぼ同時期の縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第5図 第2号住居跡実測図

第3号住居跡（第6～8図）

位置 調査区北部、C6j3区の平坦部に立地しており、本跡の南東には第5号住居跡、南には第2・6号住居跡がそれぞれ位置している。

確認状況 西部は調査区域外に延びており、トレンチャーによる攪乱も受けている。

規模と形状 長径3.85m、短径2.82mの楕円形であると推定され、長径方向はN-7°-Wであり、壁高は12～22cmで直立する。

床 ほぼ平坦であり、ほとんど硬化面は認められない。

炉 中央部に付設されて、平面形は長径33cm、短径は25cmだけ確認され、円形と推定される。床面を35cmほど皿状に掘り窪めた地床炉であるが、炉床面はわずかに赤変している程度である。

炉土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

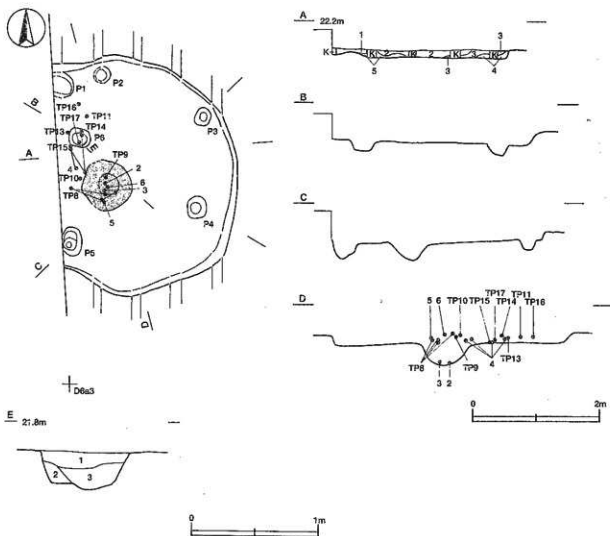
ピット 6か所。P1～P5は深さ15～26cmで、規模や配列から支柱穴と考えられるが、P6の性格は不明である。

覆土 5層からなる。1層は不自然な堆積状況のため人為堆積であり、2～4層は、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

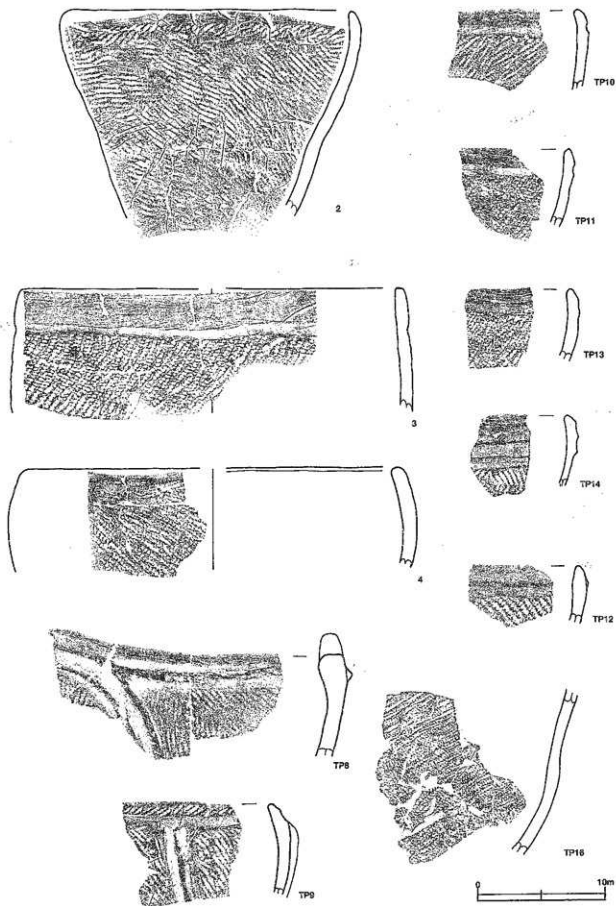
土層解説

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 | 4 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量 | |

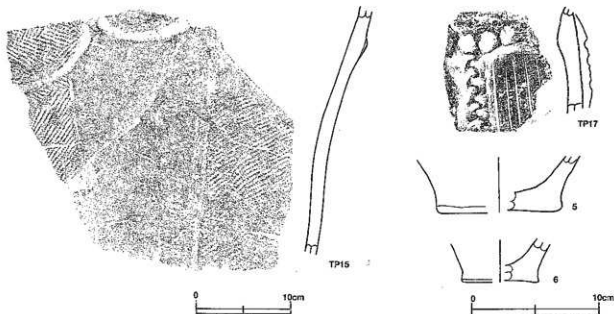
遺物出土状況 縄文土器片296点（口縁部13，胴部280，底部3），礫2点であり、炉内部と炉北側の覆土中層から床面にかけて出土したものがほとんどである。4はP6の上面と炉の北西側の覆土中層から出土した土器の接合資料である。また、6は炉中央部の覆土上層、2・3は炉の底面よりやや浮いた状態で出土している。所見 本跡は西部が調査区域外に延び、トレンチャーによる攪乱も受けている。炉の底面よりやや浮いた状態で出土している深鉢片は、火熱を受けているため炉の埋設土器の可能性も考えられる。本跡の時期は出土土器から、縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第6図 第3号住居跡実測図



第7圖 第3号住居跡出土遺物実測圖(1)



第8図 第3号住居跡出土遺物実測図(2)

第3号住居跡出土遺物観察表

番号	観測	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色澤	備考(出土位置)
2	縄文土器	漆鉢	22.4	(16.5)	-	口縁部以下にわずかに無文帯を有し、胴部が縄文	長石・石英・雲母	普通	に白い霞	中央部 P.L.24
3	縄文土器	漆鉢	[30.2]	(9.8)	-	口縁部に無文帯を有し、胴部は日しの早期縄文	長石・石英・雲母	普通	に白い霞	伊波川
4	縄文土器	漆鉢	[28.4]	(8.0)	-	口縁部に無文帯を有し、胴部は日しの早期縄文	長石・石英・雲母	普通	に白い霞	北西部中層
5	縄文土器	漆鉢	-	(4.4)	[9.2]	底部分で、ヘラ掘り	長石・雲母・白色 砂子	普通	に白い霞	中央部
6	縄文土器	漆鉢	-	(3.4)	[6.0]	底部分で、ヘラ掘り	長石・雲母・白色 砂子	普通	霞	中央部上層

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
8・9	縄文時代 中期 後葉	口縁部で日しの20文帯を有し、早期縄文を有す	中央部上層	P.L.31
10~14	縄文時代 中期 後葉	口縁部以下に日しの下に無文帯を有す10~11は胴部を有す12~14は日しの早期縄文	中央部上層、11-13は北西部中層、14は土中	
15	縄文時代 中期 後葉	口縁部以下に日しの下に無文帯を有す15は胴部を有す16は日しの早期縄文を有す	北西部下層	
16	縄文時代 中期 後葉	口縁部以下に日しの下に無文帯を有す	北西部中層	
17	縄文時代 中期 後葉	口縁部以下に日しの下に無文帯を有す17は胴部を有す18は日しの早期縄文を有す	北西部下層	

第4号住居跡 (第9~11層)

位置 調査区北部、C610区の平坦部に立地しており、西には第5号住居跡が位置している。

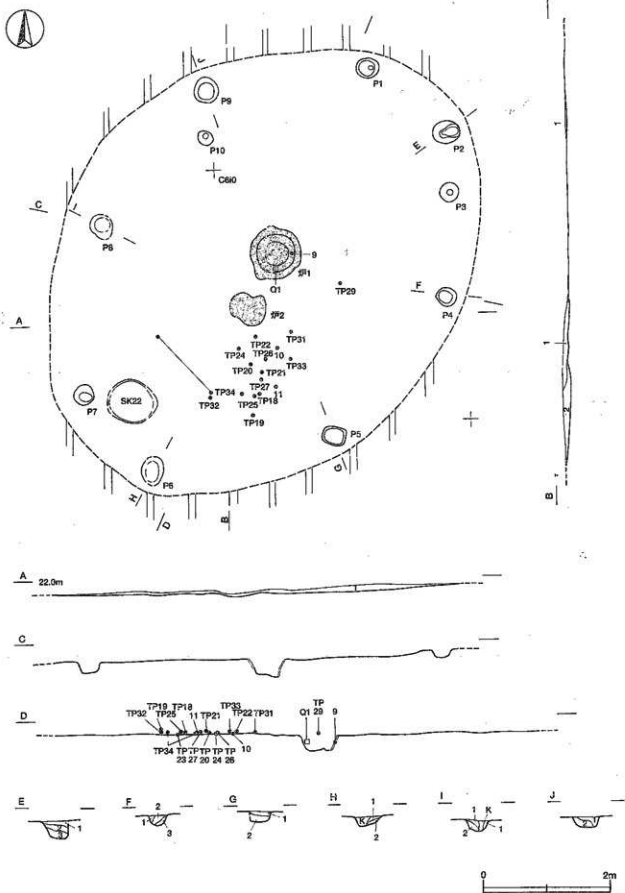
規模と形状 覆土が削平されているため、壁の立ち上がり捉えることができなかったが、柱穴の配列などから長径8.0m、短径6.2mの楕円形と推定され、長径方向は、N-42°-Eである。

床 ほほ平坦であり、硬化面はほとんど認められない。

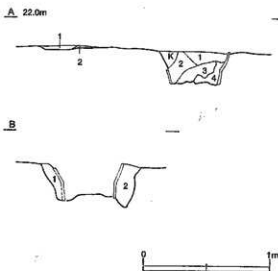
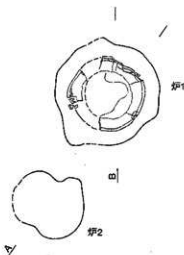
炉 中央部に2か所確認されている。炉1は中央部に位置した長径85cm、短径80cmの円形の土器埋設炉である。炉床面及び炉体土器は火熱を受け、赤変硬化している。炉2はその南側に隣接し、長径55cm、短径40cmの楕円形で、3cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床面は火熱を受け、赤変硬化している。

炉1土層観察

- | | | | | | |
|---|--------|------------------|---|------|-----------------------|
| 1 | に白い赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物微量 | 3 | 赤褐色 | ローム砂子・焼土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 | に白い赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム砂子少量 | 4 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |



第9图 第4号住居跡実測图



第10図 第4号住居跡実測図

炉2土層解説

- 1 濃い赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量
- 2 赤褐色 焼土小ブロック多量

ピット 10か所。P2・P4～P6・P8・P9は深さ14～29cmで、規模や配列から支柱穴と考えられるが、その他のピットの性格は不明である。

P2土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

P4土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

P5土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

P6土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

P8土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量 締まり有り

P9土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

覆土 2層から成り、堆積状況や含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

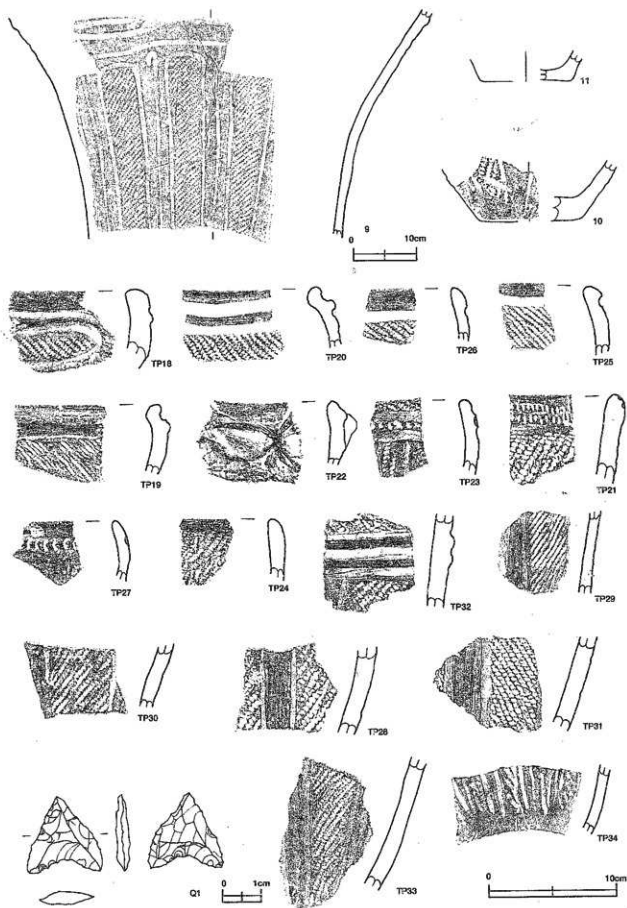
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片494点（I線部42、胴部444、底部8）、石鏃1点、粘土塊1点、鏝2点が出土している。9は埋設土器であり、Q1は炉1の南壁中層から出土している。土器の多くは南部の覆土中を中心に存在しており、南側から投棄されたものと思われる。これらは加曽利EⅡ～Ⅲ式期の土器片がほとんどであるが、阿玉台式期の土器片も若干含まれており、混入である。

所見 本跡はトレンチャーによる擾乱が激しく、壁の立ち上がりを捉えられなかったが、柱穴の配列などから住居規模を推定できた。出土土器は南部を中心に投棄されたもので、本跡の時期は埋設土器から、縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	目録	器点	量積	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
9	縄文土器	深鉢	-	(36)	-	胴部の懸垂文は上縁が連続し、区画内に点線の単節 縄文が充ちられ、無文帯に底手状の沈澱が垂下	長石・石英・高岭	普通	黄	炉1 P.L.24
10	縄文土器	深鉢	-	(47)	80	底部下部に、早期縄文が輪文	石英・白色粒子 雲母	普通	明赤褐	南部或南



第11图 第4号住居跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色	備考(出土位置)
11	縄文土器	深鉢	-	(1.24)	[7.2]	へろ彫りがあり、黒文	石英・白色粒子・炭粒	普通	黒	南部灰函

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
18	縄文時代中期後葉	口縁部片で、厚帯により文帯を区画し、区内に単純縄文を施す	南部床面	P L 31
19・20・25	縄文時代中期後葉	口縁部片で、横位の沈線が走り、20・25・26はRLの環状縄文、19は新部縄文が施文	19南部中尉、20・25・26南部床面	P L 31
22	縄文時代中期後葉	口縁部片で、厚帯によって口縁部文帯を区画	南部床面	
21・23	縄文時代中期後葉	口縁部片で、21は1辺部に単純管脚文が、23は2段に横線が走り、RLの単純縄文が施文	南部床面	
27		文が施文とは横位の沈線間に斜交文		
24	縄文時代中期後葉	口縁部に幅の狭い黒文帯を有し、胴部はRLの単純縄文	南部床面	
32	縄文時代中期後葉	胴部片で2本の横位の環帯により文帯を区画、胴部には懸垂区画文	南部床面	
28-31	縄文時代中期後葉	胴部片で、沈線による帯消滅文を有す、地文は28-30・33RL単純縄文、31・34R	29中央部床面、31・33・34南部	P L 31
33・34		LR単純縄文	床面、28・30腹土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q.1	石	2.0	2.0	0.35	1.0	凝灰岩	灰褐色を呈し、無茶色	部1中層	

第5号住居跡(第12・13図)

位置 調査区北部、D6a6区の平坦部に立地しており、北西には第3号住居跡、南西には第6号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北西部を第1号不明遺構に掘り込まれており、第2号不明遺構との重複関係は不明である。また、トレンチャーによる攪乱を受けている。

規模と形状 長径5.11m、短径4.6mの楕円形と推定され、長径方向はN-90°-Wである。最も残りの良い部分の壁高は8cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。

炉 中央部に付設されている。径1mほどの円形で、床面を20cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床面は火熱を受けて、赤変している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中炭焼土ブロック少量炭化粒子微量 | 3 赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量 |

ピット 9か所。P1～P8は深さ53～100cmで、規模や配列から主柱穴と考えられるが、P9の性格は不明である。

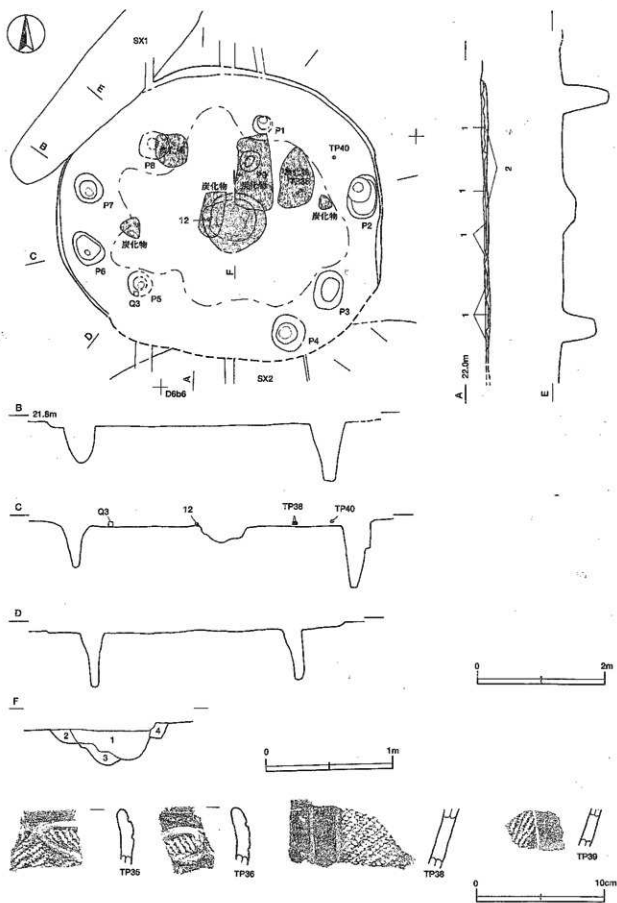
覆土 2層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

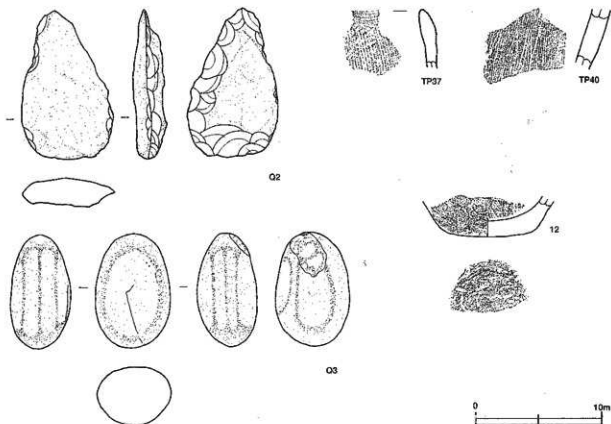
- | | |
|------|----------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片197点(口縁部17、胴部178、底部2)、磨石1点、炭化物が出土している。土器片のほとんどは、東西壁際の覆土中からの出土であるが、12は炉の直上から出土している。

所見 本跡は、トレンチャーによる攪乱が激しく、第1号不明遺構にも掘り込まれているが、出土土器から、縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第12图 第5号住居跡・出土遺物実測図



第13図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	11E	器高	底径	文様の特徴	胎土	地味	色調	備考(出土位置)
12	縄文土器	深鉢	-	(32)	7.0	底部分で、無文	長石・赤色粘土	普通	黄	中央部破損

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
35・36	縄文時代中期後葉	口縁部片は35-36では流線による口縁部文様帯を区別し、上Rの早期縄文を施文	35・36・38度土中、38北東部中層	
38・39		38・39は斜形逆で懸垂文内にRの早期縄文を施文		
37・40	縄文時代中期後葉	37は口縁部片、40は胴部片で縦位の急縁文施文	37度土中、40北東部中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q2	打製石斧	11.8	7.3	2.7	212.0	安山片岩	片面剥離調整	度土中	
Q3	磨石	9.1	5.9	1.63	(347.0)	砂岩	表面上部部磨行による縦粗	南西部破面	1・L39

第6号住居跡 (第14・15図)

位置 調査区北部、D6b4区の平坦部に立地し、第2号住居跡と重複している。北約7mに第3号住居跡、北東約6mに第5号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 東部を第71号土坑に掘り込まれており、第2号住居跡の東部を掘り込んでいる。また、トレンチャーによる攪乱を受けている。

規模と形状 調査区域外に延びているため検出された長径は5.88m、短径4.65mの楕円形と推定され、長径方向はN-20°-Wである。壁は高さ4cmほどで、外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。

炉 2か所。炉1は中央部に付設された径1.20mほどの円形で、床面を20cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。炉2は、炉1の東部に隣接して付設された長径55cm、短径45cmの楕円形の地床炉である。深さ5cmほど掘り窪め、炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

- 1 赭赤褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック散在
 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子微量
 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量
 4 赤褐色 焼土ブロック多量

炉2土層解説

- 1 赭赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物散在
 2 暗赤褐色 ロームブロック多量

ピット 12か所。P1～P3は深さ70～82cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。P4～P6は主柱穴の間に配列されており、深さが24～30cmとやや小形であることから補助柱穴と思われ、その他のピットの性格は不明である。

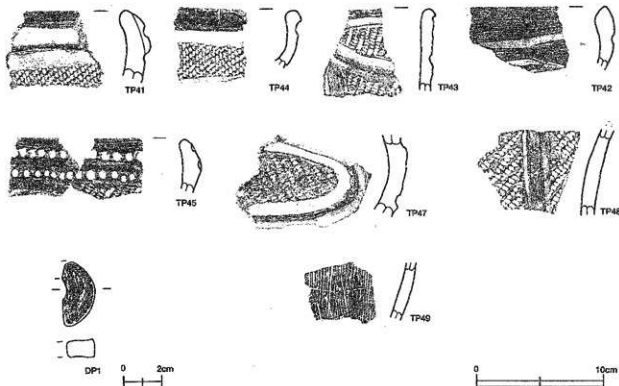
覆土 2層からなる。自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化物散在
 2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片58点（口縁部16、胴部38、底部4）、土製品1点が出土している。遺物は少なく、北東部の覆土中からの出土がほとんどである。

所見 本跡は、トレンチャーによる擾乱が激しいが、壁の立ち上がり捉えることができた。また、時期は出土土器などから、縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第15図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	段状片断	3.4	(1.4)	1.0	(6.1)	土製	無文、半欠	覆土中	P.L.37

TP番号	時期	形態および文様の特徴	出土位置	備考
41	縄文時代中期後葉	縁帯による口辺部文様帯を有し、行は口縁部を欠いている	覆土中	
42	縄文時代中期後葉	口辺部に楕円の波線が施文、無文帯区画	覆土中	
45	縄文時代中期後葉	口辺部に楕円の円形刺突文を二列に配し、胴部は厚部縄文施文	覆土中	
48	縄文時代中期後葉	胴部片で、Rの半部縄文施文に比喩による豹活態形文施文	覆土中	
49	縄文時代中期後葉	縦位の条線文が施文	覆土中	

第7号住居跡 (第16~18図)

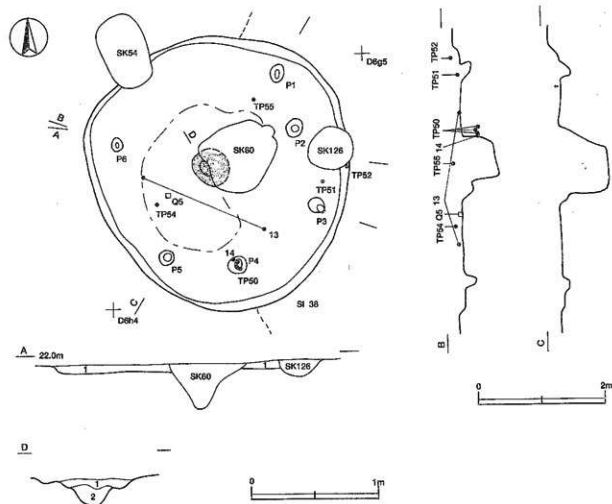
位置 調査区北部、D6g4区の平坦部に立地し、第38号住居跡と重複している。南には第8・9号住居跡、南東には第37号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 第38号住居跡の西部を掘り込んでおり、第54・60・126号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径4.28m、短径4.12mの楕円形で、長径方向はN-34°-Wである。壁高は6~14cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。

炉 中央部に付設されているが、一部第60号土坑に掘り込まれている。径57cmほどの円形で、床面を20cmほど皿状に掘り窪めた地床炉であり、炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。



第16図 第7号住居跡実測図

炉土層解説

- 1 赭褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼上ブロック微量
2 明赤褐色 ロームブロック・焼上ブロック少量

ピット 6か所。P1・P3・P5・P6は深さ8～19cmで、規模や配列から主柱穴と考えられる。また、P2・P4は9～27cmで位置的に補助柱穴と考えられる。

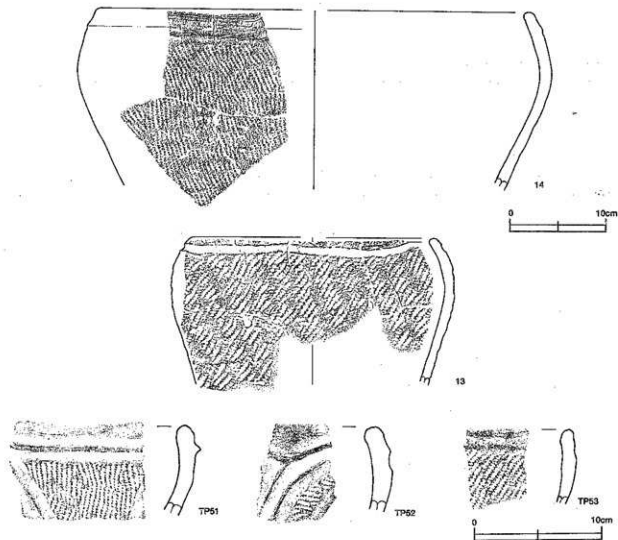
覆土 単一層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

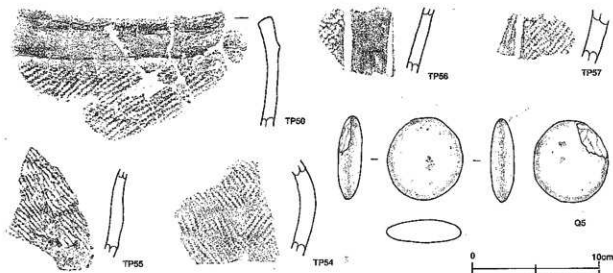
- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片162点（口縁部22、胴部138、底部2）、磨石1点、剥片1点、標5点が出土している。遺物は少量で全体的に散在しているが、とくに南側床面からの出土が多い。13は坪の西側と南側床面出土の破片が接合したものであり、14とTP50はP4の覆土中層から出土している。また、Q5はが南西側の覆土下層から出土している。

所見 本跡は第38号住居跡を掘り込んでいるが、出土土器や遺構の形態などから、第38号住居跡とはそれほど時間差は認められず、時期は縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第17図 第7号住居跡出土遺物実測図(1)



第18図 第7号住居跡出土遺物実測図(2)

第7号住居跡土遺物出観察表

番号	種別	器種	口径	器高	口径	文様の特徴	胎土	硬質	色調	備考(出土位置)
13	縄文土器	深鉢	[19.4]	(11.6)	-	口縁直下に波線を施し、胴部はR.Lの半節縄文を施文 支線文	長石・白色粒子 当緑	普通	にぶい黄橙	胴部・内面の表面 P.L.24
14	縄文土器	深鉢	[45.0]	(18.8)	-	口縁部は無文帯で、胴部はR.Lの半節縄文施文	長石・当緑	普通	黄	P.4中層 P.L.24

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
51・52	縄文時代中期後葉	口縁部片で、段帯に上り文帯帯を区画し、R.Lの半節縄文を施文	51東部床面、52東部土層	
50・53	縄文時代中期後葉	口縁部片で、口縁部片で段帯帯で無文帯を区画し、以下にはR.Lの半節縄文施文	50 P.4中層、53覆土中	
56・57	縄文時代中期後葉	胴部片で、懸垂帯にR.Lの半節縄文施文	覆土中	
54・55	縄文時代中期後葉	胴部片で、54はR.Lの半節縄文、55はR.Lの半節縄文がそれぞれ施文	54西部中層、55北花土層	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q5	磨石	6.5	5.9	1.85	(105.0)	砂岩	右側縁部磨行による破損	西部床面	

第8号住居跡 (第19～21図)

位置 調査区北部、D6j4区の平坦部に立地しており、第9号住居跡と重複している。北には第7・38号住居跡、東には第37号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 東部を第9号住居跡に掘り込まれているが、掘り込みが浅いため遺構の残りは良好である。

規模と形状 西側半分は調査区域外に延びているが、長径8.88m、短径は3.78mの楕円形と推定される。壁高は17～30cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦形であるが、硬化面はほとんど認められない。

炉 長径90cm、短径は20cmほど確認され楕円形と推定される。中央部に付設されている。床面を14cmほど厚状に掘り穿めた地床であり、炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |

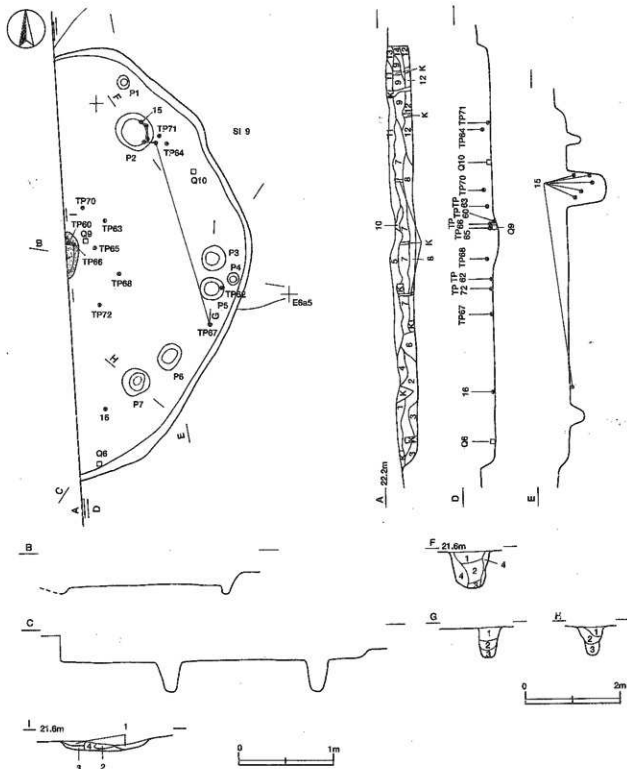
ピット 7か所。P2・P3・P7は深さ61~83cmで、規模や配列から主柱穴と考えられる。P5・P6はP3とP7の間に位置し、深さは12~28cmの補助柱穴と思われる。その他のピットの性格は不明である。

P2土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

P3土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量



第19図 第8号住居跡実測図

P7土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化物少量

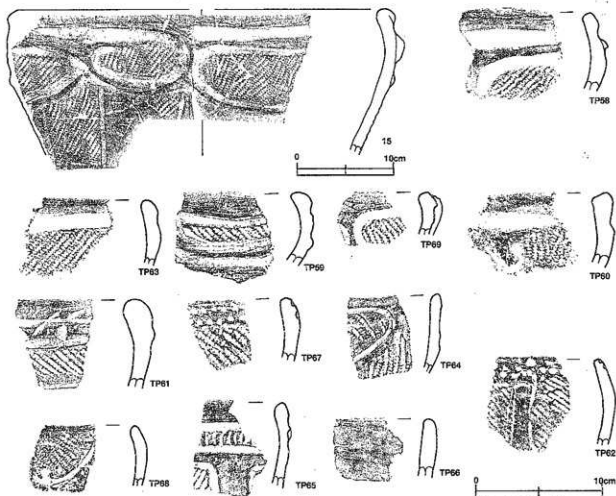
覆土 14層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

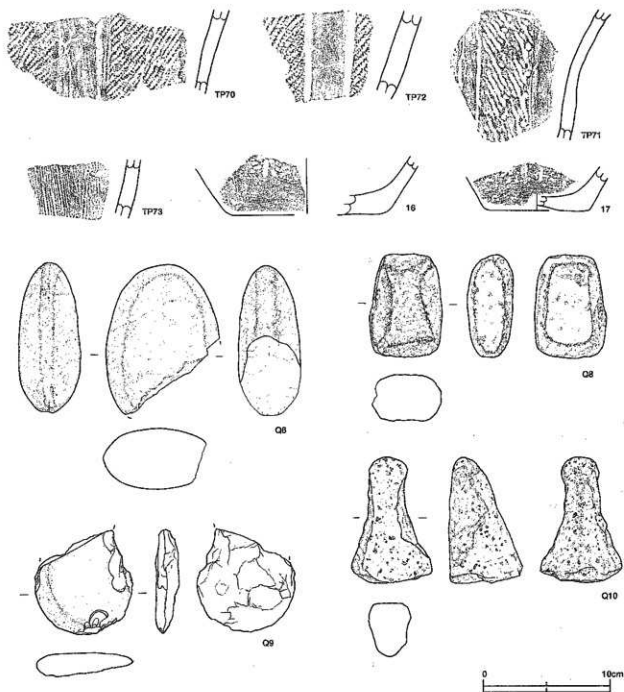
- | | | | |
|--------|----------------------|---------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 11 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 5 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック微量 | 12 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 6 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 13 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片916点（口縁部82、胴部823、底部11）、磨石2点、打製石斧1点、石槌1点、礫8点、土師器1点が出土している。縄文土器はほとんど深鉢で、土師器は混入したものである。中央部には覆土中層から床面にかけて、投棄された遺物が集中して出土している。15はP2の上層から下層にかけて出土した土器と東部壁の床面の出土の土器の接合資料である。

所見 本跡は、西側半分が調査区域外に延びているため、調査できた範囲は狭いが、掘り込みが深くて遺存状態は良好である。時期は土器の出土状況などから、縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。



第20図 第8号住居跡出土物実測図(1)



第21図 第8号住居跡出土遺物実測図(2)

第8号住居跡出土遺物観察表

番号	器 類	器 形	L径	器高	底径	文様の特徴	胎 土	施 装	包 装	備考(出土位置)
15	縄文土器	深鉢	[38.6]	(13.5)	-	口縁部は隆帯によって区別し、胴部は北緯網文R.Lの早稲縄文充填	長石・白色粘土・赤色砂子	普通	にぶい絞	P2上層・下層 P.L24
16	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	[12.0]	底部下層に早稲縄文が施文	長石・石英	普通	絞	溝部床面
17	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	[8.4]	底部下層に早稲縄文が施文	長石・石英	普通	明赤陶	掘土中

TP番号	時 期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
38-59-61 63-69	縄文時代中期後葉	1口縁部片で、沈線によって区別され、区別内にR.Lの早稲縄文充填	G3中央部中層、38・59・61・69 掘土中	

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
60	縄文時代中期後葉	口縁部片で、窪帯と沈線によって区別され、区内内にR Lの単線縄文文化	81上面	
62・67	縄文時代中期後葉	口縁部片で、L1辺部に2列の凹形縄文を配し、67はR Lの単線縄文、62はL Rの単線縄文地に寄り添い型文	62・67左部床面	
64・68	縄文時代中期後葉	口縁部片で、沈線によって区別し、区内内に単線縄文を充填	64北部中層、68中央部中層	
65・66	縄文時代中期後葉	口縁部片で、65は沈線によって区別し、区内内に早期縄文文化、L1辺部の窪帯にはキザミ目を有す、66は無文	65中央部床面、66伊上面	
70~72	縄文時代中期後葉	胴部片で沈線を懸架させ、沈線間を70・72がR L、71がLの無線縄文文化	中央部70中層・72床面、71北東部床面	
73	縄文時代中期後葉	胴部片で、縦長の名器文が施文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q 6	磨石	11.7	9.0	4.9	6(10.0)	砂岩	左側縁に鋭角な断面を有し、下部欠損	南部床面	
Q 8	磨石	8.1	3.7	3.7	206.0	安山岩	多孔質安山岩製、全面研磨	覆土中	
Q 9	打製石斧	8.2	7.5	1.8	1138.0	安山岩	上端縁の分層形打製石斧で片面を主に割削	中央部床面	
Q10	石鏡	10.0	5.8	5.6	305.0	石英理岩	両側縁を磨打によって括り、下部部半減	北東部床面	P L 39

第9号住居跡 (第22・23図)

位置 調査区北部、D 6 J 4区の平坦部に立地しており、第8号住居跡と重複している。北には第7・38号住居跡、東には第37号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 第8号住居跡の東部を掘り込んでいる。

規模と形状 西部は調査区域外に延びているため検出された長径は7.85m、短径4.28mの楕円形と推定され、長径方向はN-69°-Wである。壁高は6~10cmで外傾して立ち上がる。

床 平坦であるが、硬化面はほとんど認められない。

炉 長径98cm、短径88cmの楕円形で、中央部よりやや東側に付設され、床面を5cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変している。

炉土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化物微量

ピット 11か所。P1・P5・P6・P8・P11は深さ57~94cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。P2・P3・P4・P9・P10は主柱穴の間に位置し、補助柱穴と思われる。P7の性格は不明である。

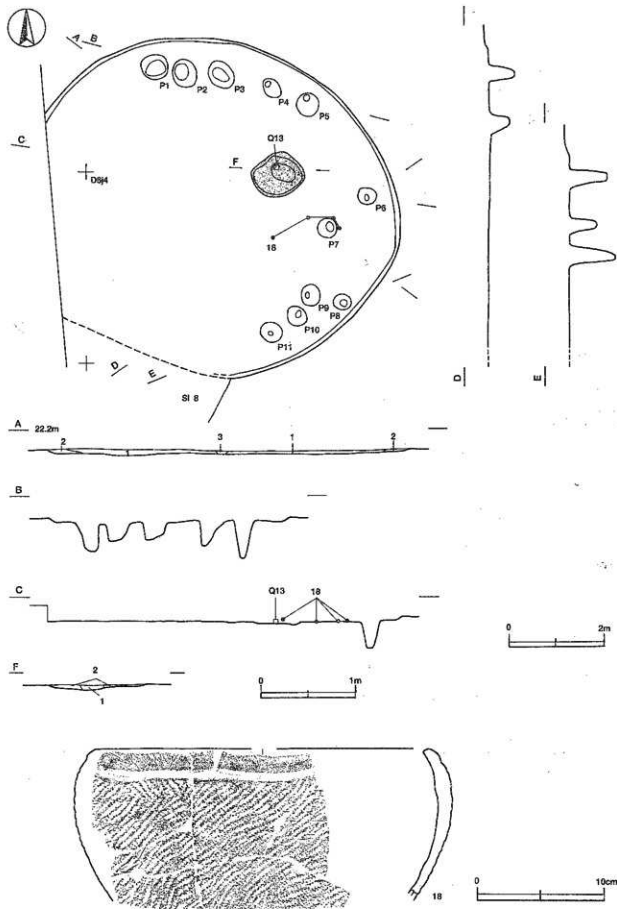
覆土 3層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

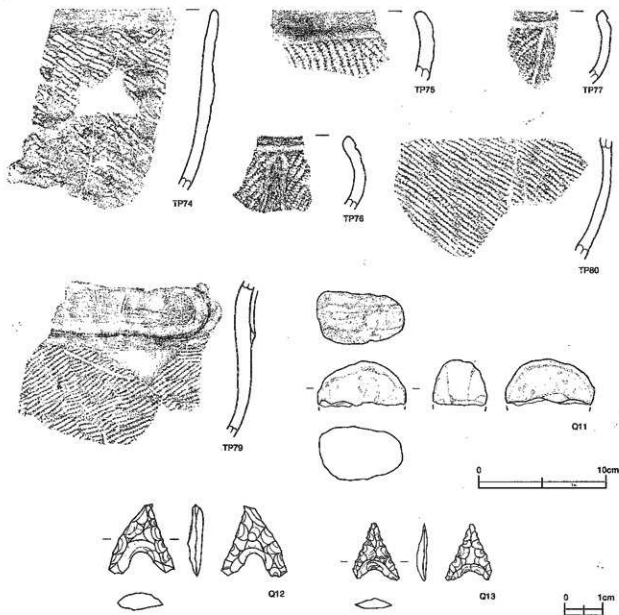
- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片113点(口縁部14、胴部94、底部5)、石鏃2点、磨石1点、礫2点が出土している。遺物は少量で中央部とP7周辺からの出土がほとんどであるが、18はP7周辺の床面及び覆土下層の土器が接合し、Q13は炉の火床部から出土している。

所見 本跡は第8号住居跡の東部を掘り込んでいるが、全体的に掘り込みが浅いため、遺存状況は比較的良くない。出土土器や遺構の形態から、第8号住居跡との時期差が認められ、本跡の時期は縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ~Ⅳ式期)と考えられる。



第22図 第9号住居跡・出土遺物実測図



第23図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
18	縄文土器	深鉢	[20.4]	(12.1)	-	口縁部直下に沈線を通らし、胴部はR.Lの単節縄文施文 節縄文が施文	灰白-白色粒子・ 赤色粒子	若焼	にふい黄橙	東部床前

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
74・75	縄文時代中期後葉	74は口縁部から胴部片で、口縁部直下は無文帯、以下はLの無節縄文施文。 75は口縁部片で無文帯下にR.Lの単節縄文施文	腹土中	
76・77	縄文時代中期後葉	口縁部片で、沈線によって文様を描出し、R.Lの単節縄文施文	腹土中	
79・80	縄文時代中期後葉	79は胴部から胴部片で、沈線によって区画し、胴部にR.Lの単節縄文施文。 80は胴部片で、L.Rの単節縄文施文	腹土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	石材	特徴	出土位置	番号
Q11	磨石	(3.3)	7.8	4.2	(87.0)	花崗岩	下縁部破損、上面縁に磨面	覆土中	
Q12	石皿	1.8	1.7	0.5	0.8	安山岩	基部を大きく抉られた無蓋皿	覆土中	P.L.38
Q13	石皿	1.48	1.15	0.25	0.3	チャート	小形の無蓋皿	切込面	

第10号住居跡 (第24~26図)

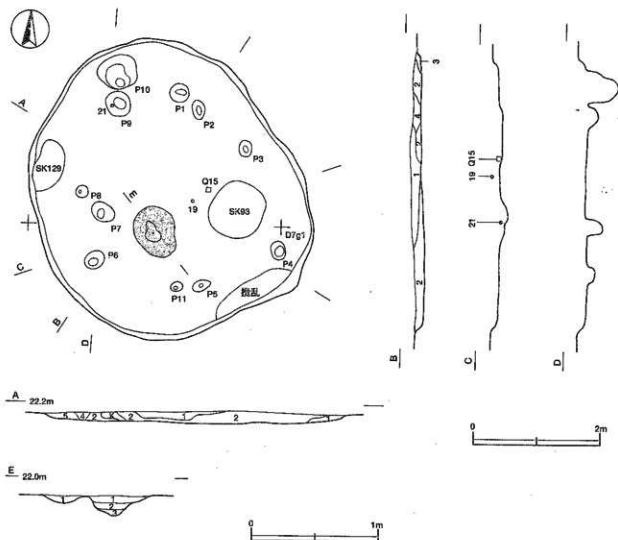
位置 調査区北部、D60区の平坦部に立地し、南東約5mに第39号住居跡、南西約9mに第37号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 第93・129号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径4.75m、短径4.16mの楕円形であり、長径方向はN-35°-Wである。標高は11~14cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦であるが、硬化面はほとんど認められない。

炉 長径85cm、短径67cmほどの楕円形で、中央部よりやや南側に付設され、床面を17cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。



第24図 第10号住居跡実測図

炉土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 11か所。P1・P4・P6・P9は深さ13~26cmで、規模や配列から主柱穴と考えられる。P2・P3・P7・P8、P11は主柱穴の間に位置し、深さ11~29cmの規模で補助柱穴の可能性はある。P5・P10の性格は不明である。

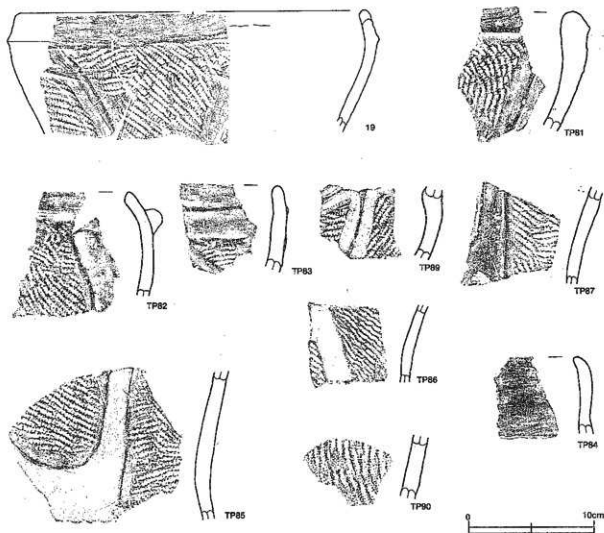
覆土 5層からなり、自然地積の状況を示している。

土層解説

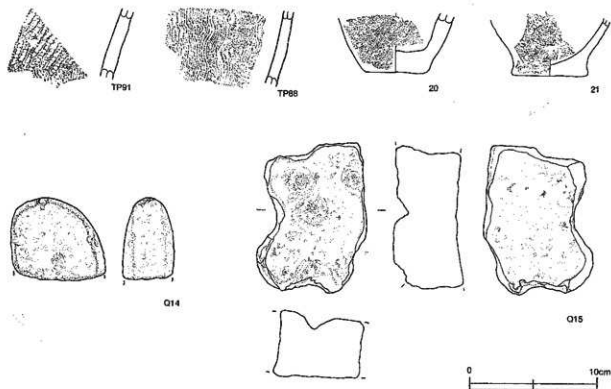
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片525点(口縁部36、胴部481、底部8)、磨石1点、石皿兼用凹石1点が出土している。土器片は住居跡中央部の覆土上層からの出土がほとんどであり、投棄されたものである。

所見 本跡は、土器のほとんどが覆土上層からの出土であり、投棄パターンの状況を示している。時間的には周りの住居跡との関係や出土土器などから、縄文時代中期後葉(加曽利EIV式期)と考えられる。



第25図 第10号住居跡出土遺物実測図(1)



第26図 第10号住居跡出土遺物実測図(2)

第10号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	L径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
19	縄文土器	深鉢	[28.0]	(9.7)	-	胴縁帯によって文様を編出し、R.Lの厚縁縄文が施文	長石・赤色砂子・雲母	普通	にぶい色	中央部上面
20	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	4.6	無文帯	長石・石英・雲母	普通	にぶい色	覆土中
21	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	5.8	厚縁縄文が施文	長石・赤色砂子・雲母	普通	にぶい色	北部表面

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
81-83-85-87-89	縄文時代中期後葉	胴縁帯区画を有する土器群で、胴部に逆U字状の区画帯を有す	覆土中	P.L.31
84	縄文時代中期後葉	口縁部に無文帯	覆土中	
88	縄文時代中期後葉	胴部片で胴部に波状の条縄文が施文	覆土中	
90・91	縄文時代中期後葉	90・91はR.Lの厚縁縄文が施文、91はさらに胴部の条縄文が施文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q14	磨石	(6.5)	7.4	4.0	(230.0)	安山岩	右側縁に岩面、上縁部に縦行歯	覆土中	
Q15	石皿	(11.8)	(7.7)	3.2	(732.0)	安山岩	裏面に凹みを有し、裏面を研磨面として使用	中央部表面	P.L.40

第11号住居跡 (第27~29図)

位置 調査Ⅱ区北部、E 6 a0区の平坦部に立地しており、西には第13号住居跡、北西には第38号住居跡、北東には第39号住居跡、南には第12号住居跡が位置している。

規模と形状 東側部分が削平されているが、長径5.10m、短径5.00mの楕円形と推定され、長径方向はN-5°-Eである。壁高は7~18cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦であり、中央部がやや踏み固められている。

炉 長径130cm, 短径100cmの楕円形で, 中央部に付設されており, 床面を20cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は, 火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

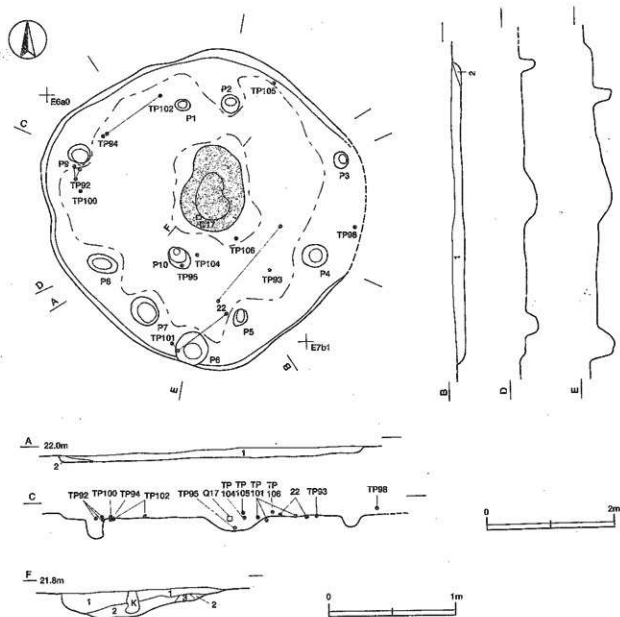
- 1 暗褐色 焼上ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量
- 2 赤褐色 焼上ブロック多量, 炭化物少量, ロームブロック微量
- 3 赤褐色 焼上ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 10か所。P2～P4・P6・P8・P9は深さ18～35cmで規模や配列から主柱穴と考えられ, その他のピットの性格は不明である。

覆土 2層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

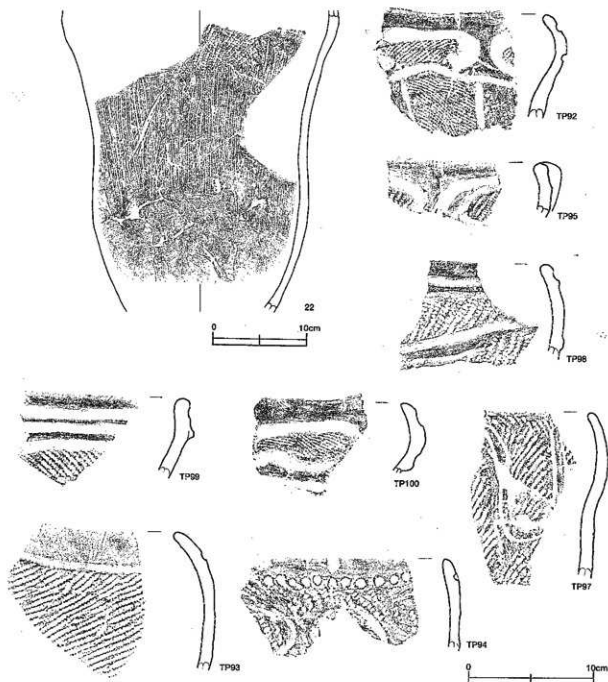
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼上粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量



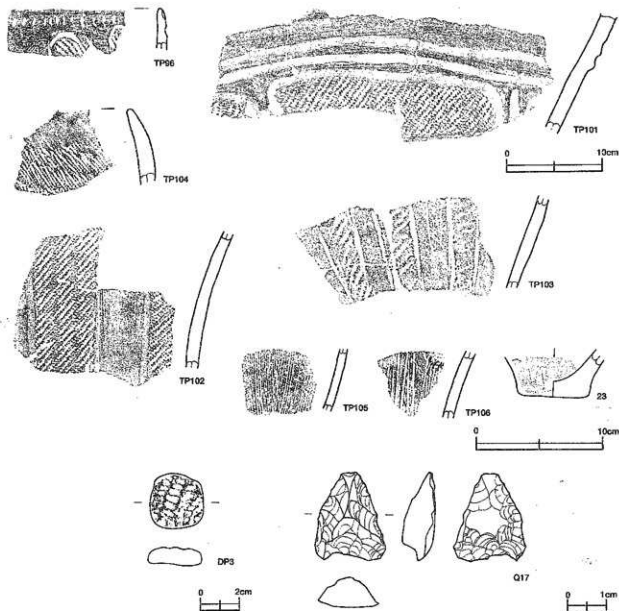
第27図 第11号住居跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片528点（口縁部59，胴部459，底部10），土製品（円板）1点，石礫未製品1点が出土している。土器は全体に散在しているが，特に中央部からの出土量が多く，時期的には加曾利EⅢ式期のものが多く含まれている。22は南部と東部の床面から出土した接合資料であり，TP94は北西部壁寄りの床面から約50×25cmの長方形に並べられたような状態で出土している。また，覆土中から出土しているDP3は縄文土器片を利用して作成された円盤状の土製品である。

所見 本跡は坪の大きさの割合にしては比較的小規模な住居跡であるが，全体的に土器が散在しており，量も多い。また，意図的に別個体の破片が並べられたような状態で出土したTP94は特異であるが，その理由は不明である。時期は出土土器から，縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第28図 第11号住居跡出土遺物実測図(1)



第29図 第11号住居跡出土遺物実測図(2)

第11号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
22	縄文土器	漆鉢	-	(32.5)	-	胴部には厚胎縄文が施され、胴部は黒い染黒文が施文	長石・石英・雲母	普通	に黒い質粒	南・東部露出 P L.28
23	縄文土器	漆鉢	-	(3.9)	5.6	底部分で、黒文	長石・雲母	普通	に黒い粒	覆土中

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
92・100	縄文時代中期後葉	口縁部分で、沈線によって文様帯を区画し、無胎縄文が施文	92・100露出部正面	
95・98・99	縄文時代中期後葉	口縁部分で、段帯と沈線によって文様帯を区画し、区画内にLの早期縄文が施文	95P10底面、98東部土層、99覆土中	
93	縄文時代中期後葉	口縁部分で、無文帯を1条の沈線で区画し、胴部にLの早期縄文が施文	南東部正面	P L.31
94・97	縄文時代中期後葉	口縁部分で、94はLの早期縄文地文に沈線により文様を区画し、口縁部直下に円形刺突文が施されている。97はLの早期縄文地文に沈線により文様を区画	94北西部底面、97覆土中	P L.32
96・104	縄文時代中期後葉	口縁部分で、口縁部にキギリ目を有し、以下沈線により文様を区画して、区画内にLの早期縄文を施文。104は早期縄文が施文	96覆土中、104中央部底面	

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
102-103	縄文時代中期後葉	胴部片で、102・103は比喩による懸垂文帯にRLの早期縄文施文、105-106は胴位の魚鱗文が施文	102北部床周・103北部上層、105 中央部中層、103南土中	
101	縄文時代中期後葉	胴部片で、胴帯と比喩によって文様帯を区画し、区画内にRLの早期縄文が施文	南部築地床周	P.1.32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q27	石鏡(本器部)	2.3	0.8	1.9	2.6	チャート	銅線緑・赤線に二次加工を施し、毛部は凹部に決る	南土中	

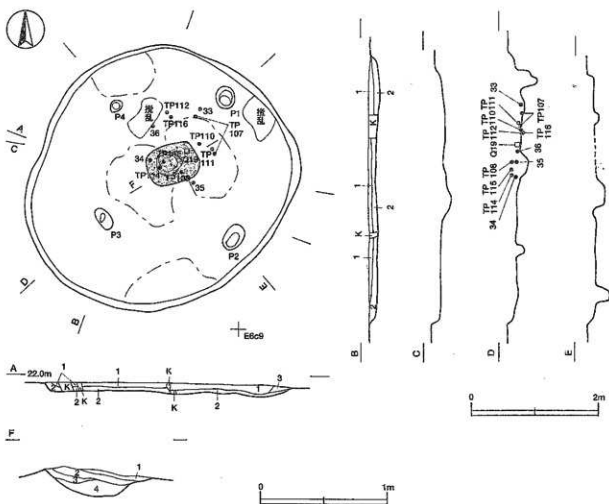
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
DP3	土器円板	2.9	2.9	0.9	9.9	土質	縦線部を研削して成形	南土中	P.1.37

第13号住居跡 (第30～32図)

位置 調査Ⅱ区北部, E 6 b8区の平坦部に立地しており, 東には第11・12号住居跡が, 位置している。

確認状況 縄文土器片が散在した状態で確認された。

規模と形状 長径4.37m, 短径3.90mの楕円形で, 長径方向はN-41°-Eであり, 壁高は12~20cmで外傾して立ち上がる。



第30図 第13号住居跡実測図

床 ほぼ平坦であり、中央部と北壁際と南壁際の一部がよく踏み固められている。

炉 長径80cm、短径63cmの楕円形で中央部に付設され、床面を13cmほど皿状に掘り窪めた地床型である。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック多量、炭化物少量 | 3 濃い赤褐色 焼土ブロック中量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物微量 | 4 濃い赤褐色 焼土ブロック多量 |

ピット 4か所。P1～P4は深さ10～29cmで、規模や配列から支柱穴と考えられる。

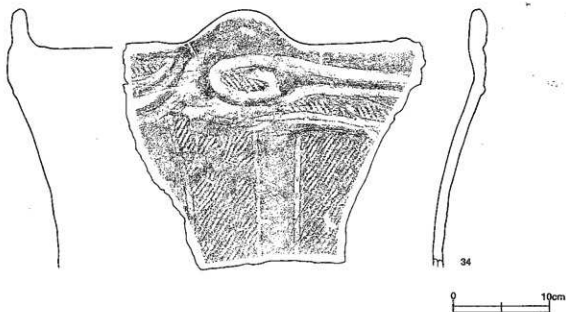
覆土 3層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

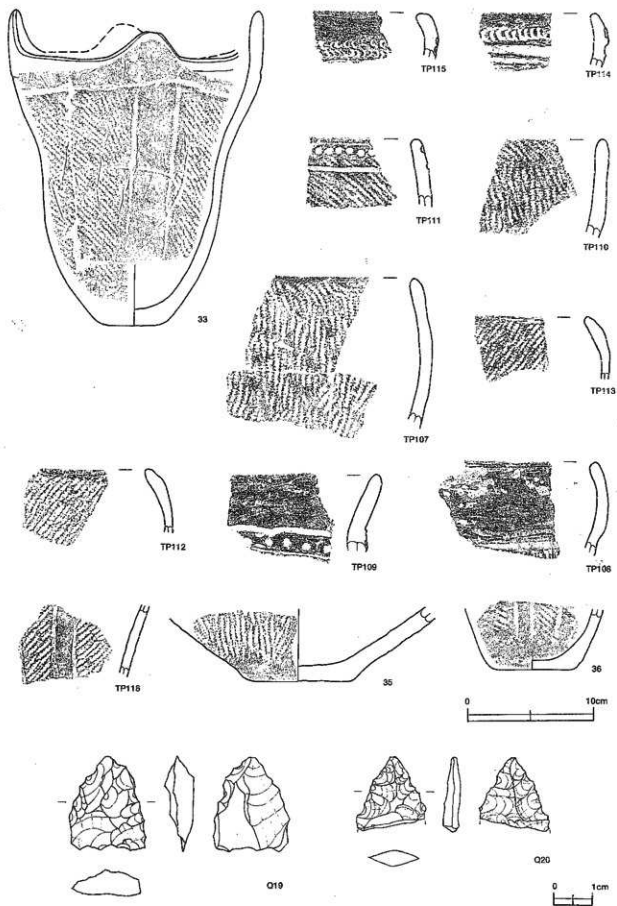
- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子・炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片875点（口縁部64、胴部797、底部14）、土師器片4点、石鏃2点、鏝12点が出土している。土師器片は混入である。全体的に土器は中央部の覆土中層からの出土で、投棄された状況を示し、時的には加曾利EⅡ～Ⅲ式期の土器が混在している。33はP1周辺の床面から押し潰された状態で出土した土器であり、TP107は炉の北側床面から出土した土器と東側床面から出土した土器が接合した資料である。

所見 本跡は、東部の一部分が木の根により擾乱を受けているが、遺構の遺存状況は良好である。炉も赤変硬化しており、住居は長期にわたって使用されたと想定される。本跡の時期は出土土器の状況から、縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。



第31図 第13号住居跡出土遺物実測図(1)



第32图 第13号住居跡出土遺物実測図(2)

第13号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	被色	備考
33	縄文土器	深鉢	[19.1]	25.0	4.0	口辺部に一定の沈線を施らし、胴部の壺巻文帯にはL.Rの早期縄文施文	長石・石英・雲母	普通	被色 北部床面 P.L.24
34	縄文土器	深鉢	[48.0]	(27.3)	4.6	口縁部は隆帯によって口辺部文帯帯が区画され、胴部の壺巻文帯にはR.Lの早期縄文施文	長石・石英・雲母	にない	被色 早土層 P.L.24
35	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	8.0	底部で、早期縄文施文	長石・石英・赤色 砂子	普通	被色 中央部床面
36	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	6.0	底部で、胴部壺巻文帯にL.Rの早期縄文施文	長石・赤色砂子	普通	被色 中央部床面

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
111-114	縄文時代中期後葉	I段部で、111は、I段部に円形刺突文を有し、隆帯の沈線が施文。114-115はI段部に系	111中央部床面、114-115中央部中	
115		形文施文		
107-110-112-113	縄文時代中期後葉	I段部で、早期縄文が施文	107-110中央部床面、112北部床面、113早土層	
108-109	縄文時代中期後葉	I段部で、108は正輪の無文帯を有し、沈線区画内に円形刺突文が施文。108は無文	108中央部中層、109早土層	
116	縄文時代中期後葉	胴部で、壺巻文帯にR.Lの早期縄文施文	北部床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q19	石 錘	25	2.0	0.8	3.1	柱状頁岩	無彫琢、未製品	早土層	
Q20	石 錘	(2.0)	1.8	0.4	(1.1)	チャート	下部欠損	覆土中	

第18号住居跡 (第33~38図)

位置 調査Ⅱ区中央部、E7f1区の平坦部に立地し、第19号住居跡と重複している。北には第12号住居跡、南には第20号住居跡が位置している。

重複関係 第158号土坑に掘り込まれており、第19号住居跡の南西部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径7.94m、短径7.54mの楕円形で、長径方向はN-74°-Wである。壁高は6~26cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦であり、中央部が踏み固められている。

炉 長径1.2mほどの円形で、中央部に付設され、床面を45cmほど皿状に掘り窪めた床敷炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム砂子・焼土砂子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中層、炭化粒子少量 |
| 2 にない赤褐色 | 焼土粒子中層、炭化粒子微量 | 6 赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 3 にない赤褐色 | 焼土粒子中層 | 7 褐色 | ローム砂子中層、炭化粒子・炭化粒子微量 |
| 4 灰褐色 | 焼土ブロック中層、ローム砂子少量、炭化粒子微量 | | |

ピット 9か所。P1・P3~P6・P8は深さ67~87cmで、規模や配列から主柱穴と考えられ、その他のピットの性格は不明である。

覆土 24層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

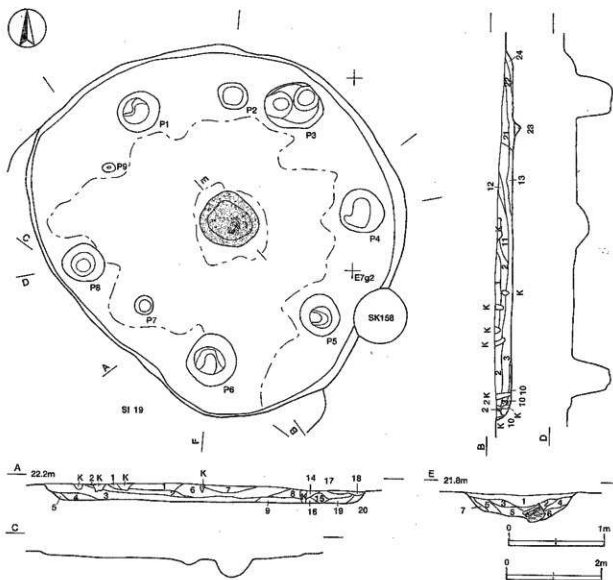
- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 8 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土ブロック微量 | 9 暗褐色 | 炭化物少量、ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 10 黒色 | ロームブロック中層 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム砂子中層、炭化物少量 |
| 6 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |

- 13 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 14 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 15 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 16 極暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 17 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 18 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量

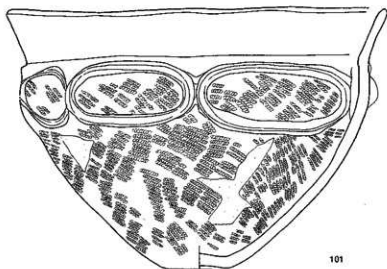
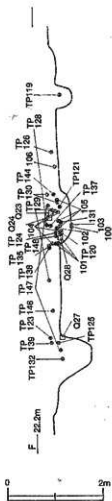
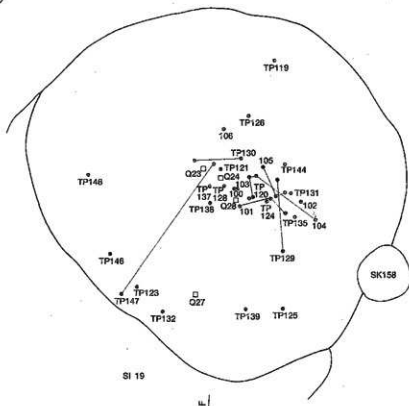
- 19 極暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 20 褐色 ロームブロック少量
- 21 極暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 22 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 23 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 24 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 掃まり有り

遺物出土状況 縄文土器片3,086点（口縁部357，胴部2673，底部56），剥片1点，磨製石斧1点，石皿1点，散石1点，凹石3点，標18点が出土している。土器片は床面から覆土中にかけて全体的に散在しているが，特に中央部から多く出土し，投棄された状況を示している。時期的に縄文時代中期の加曾利EⅡ～Ⅲ式期の土器が混在している。100は炉の底面から出土している。また，102は炉とP4の間の床面から出土し，それぞれ本跡に伴うものと考えられる。

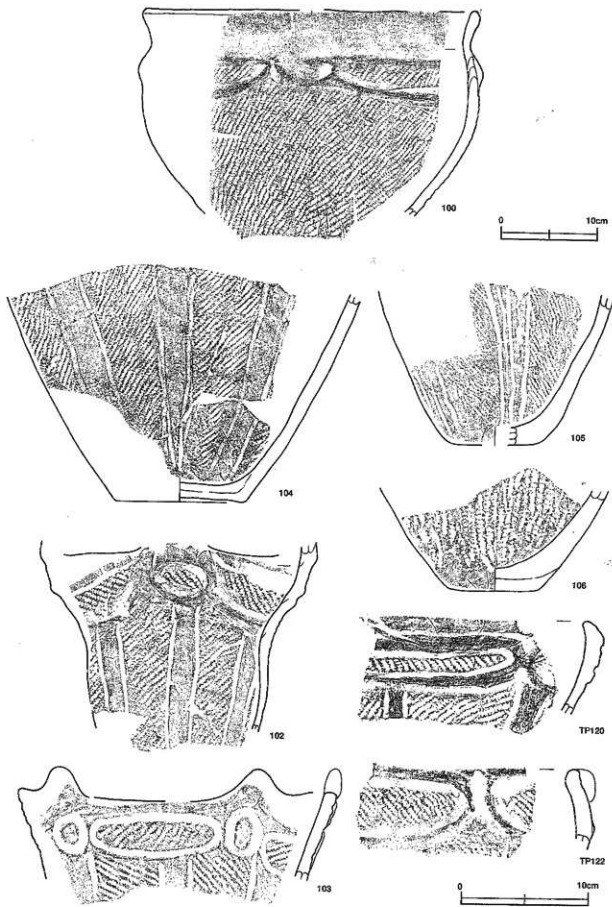
所見 本跡は遺存状況も良好で，炉の掘り込みが深く炉の周辺からも土器が出土している。中央部上面に集中している土器は，床面の土器とやや時期差があることから住居廃絶後，時が経ってから投棄されたものと思われる。時期は，炉及び床面出土の土器などから縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。



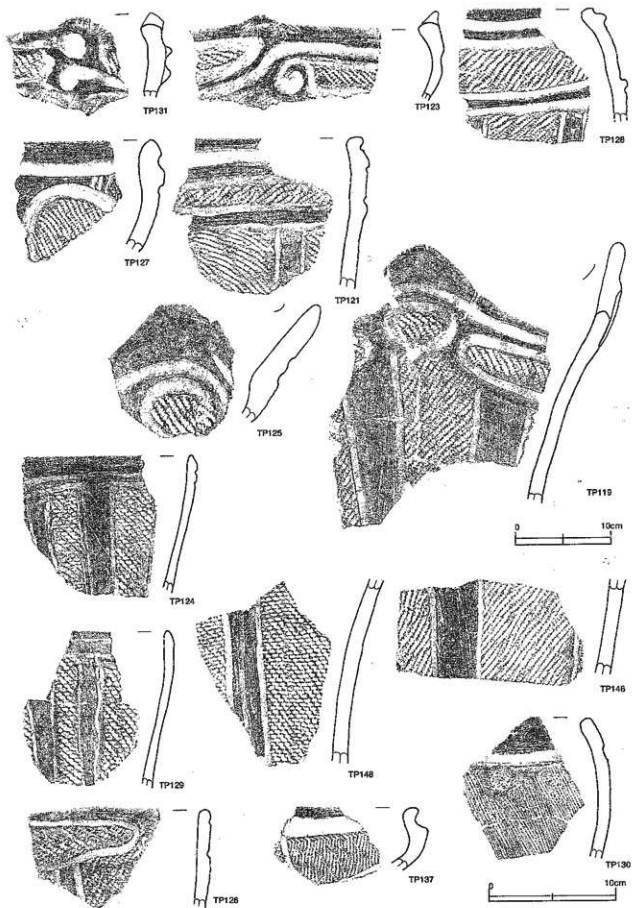
第33図 第18号住居跡実測図



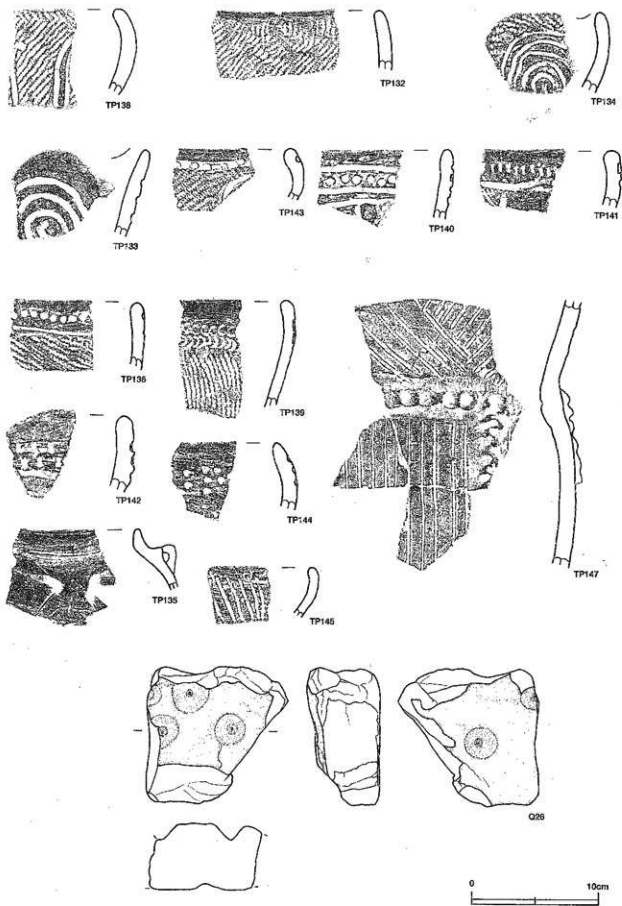
第34図 第18号住居跡・出土遺物実測図



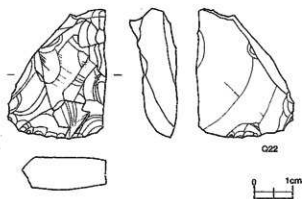
第35图 第18号住居跡出土遺物実測図(1)



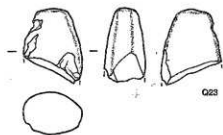
第36图 第18号住居跡出土遺物実測図(2)



第37图 第18号住居跡出土遺物実測图(3)



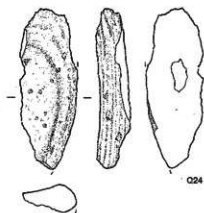
Q22



Q23



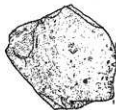
Q25



Q24



Q28



Q27



第38圖 第18号住居跡出土遺物実測圖(4)

第18号住居跡出土遺物観察表

番号	類別	部種	口徑	器高	底径	文様の特徴	胎土	施色	色調	備考(出土位置)
100	縄文土器	鉢	[35.0]	(21.7)	-	口辺部は無文帯で、胴部は陰帯によって区画され、R.Lの早期縄文地文施文	灰石・赤色砂子	普通	橙	伊成圃 P.L.24
101	縄文土器	鉢	[38.4]	27.5	[6.4]	口辺部は無文帯で、胴部は陰帯によって区画され、L,Rの早期縄文地文施文	灰石・赤色砂子・赤砂	普通	にぶい橙	伊成圃 P.L.24
102	縄文土器	漆鉢	[19.5]	(14.9)	-	口辺部は陰帯によって渦巻文や楕円区画文を施し、胴部は懸垂文帯で、R.Lの早期縄文地文施文	灰石・赤色砂子	普通	にぶい黄橙	中央部前面 P.L.24
103	縄文土器	漆鉢	[34.6]	(9.0)	-	口辺部は沈線によって区画文を施し、胴部は懸垂文帯で、R.Lの早期縄文地文施文	灰石・赤色砂子・赤砂	普通	橙	伊成圃 P.L.24
104	縄文土器	漆鉢	-	(16.4)	[10.0]	胴部は懸垂文帯で、R.Lの早期縄文地文施文	灰石・赤色砂子	普通	橙	中央部中央 P.L.13
105	縄文土器	漆鉢	-	(12.2)	7.0	胴部は懸垂文帯で、R.Lの早期縄文地文施文	灰石・赤色砂子・赤砂	普通	橙	中央部前面
106	縄文土器	漆鉢	-	(8.0)	7.0	胴部はR.Lの早期縄文地文施文	灰石・赤色砂子・赤砂	普通	にぶい橙	中央部下側

TT番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
119	縄文時代中期後葉	口辺部に沈線と文様帯を有し、R.Lの早期縄文地文施文、胴部は沈線と文様帯を有し、R.Lの早期縄文地文施文	北部前面	P.L.32
120-122	縄文時代中期後葉	口縁部片で、陰帯と沈線と文様帯を有し、R.Lの早期縄文地文施文	120-121中央部前面、122西部上層、122腹上中	P.L.32
123-131				
121-128	縄文時代中期後葉	口縁部片で、陰帯で文様帯を区画し、胴部は懸垂文帯に早期縄文地文施文	121伊成圃、128中央部上層	P.L.32
129-137	縄文時代中期後葉	口縁部片で、沈線で文様帯を区画し、区画内にR.Lの早期縄文地文施文	129南部前面、137中央部上層、137腹上中	P.L.32
134-136	縄文時代中期後葉	口縁部片で、沈線により渦巻文が施され、区画内に早期縄文地文施文	134中央部上層、135-136中央部中層	P.L.32
139		口縁部片で、懸垂文帯にL,Rの早期縄文地文施文		
146-148	縄文時代中期後葉	胴部片で、懸垂文帯にL,Rの早期縄文地文施文	146西部中層、148西部前面	P.L.32
130-132	縄文時代中期後葉	口縁部片で、130は口辺部に無文帯を一帯の沈線でごく区画し、以下に斜位の条状文が施文	130中央部前面-伊成圃、132南部前面	*
138		口縁部片で、沈線により渦巻文が施され、138はR.Lの早期縄文地文施文	138中央部上層	
133-134	縄文時代中期後葉	口縁部片で、沈線により渦巻文が施され、134はR.Lの早期縄文地文施文	腹上中	
136-140-141-143	縄文時代中期後葉	口縁部片で、136は136-140は羽形文、143は沈線部、141は扇形文の刺突文が施文	腹上中	P.L.32
139-142	縄文時代中期後葉	口縁部片で、139は2列に爪形状の刺突文が見られ、142-144にも円形刺突文を施文	139南部上層、144中央部中層、142腹上中	
144				
135	縄文時代中期後葉	口縁部片で、握持部を有す	中央部上層	
145-147	縄文時代中期後葉	145は斜位の沈線を施文、147は縦位斜位の縦い沈線を胴部の上下に有し、胴部に太い押込帯を施す	147中央部上層-南部前面、145腹上中	P.L.32

番号	器種	長さ	幅	高さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q22	割片	3.4	2.6	1.2	9.7	頁岩	二次加工痕のある割片	腹上中	
Q23	磨製石片	(6.0)	4.5	3.3	(127.0)	安山岩	全面磨製、刃部磨損	中央部上層	
Q24	石 皿	(12.6)	(4.5)	(2.7)	(98.0)	安山岩	中央を門めた石皿の一部	中央部上層	
Q25	磨 石	12.6	7.4	5.6	710.0	火山礫類灰岩	磨行面は5か所以上	腹上中	
Q26	門 石	(10.9)	(11.1)	5.8	(887.0)	砂岩	門の両面	腹上中	P.L.40
Q27	凹 石	(8.1)	(8.7)	7.5	(408.0)	安山岩	門の片面	腹部前面	
Q28	凹 石	(8.2)	(7.1)	4.0	(254.0)	安山岩	門の両面	伊成圃	

第19号住居跡 (第39~41図)

位置 調査Ⅱ区北部、E 6g0区の平坦部に立地しており、第18号住居跡と重複し、北には第12号住居跡、南には第20号住居跡が位置している。

重複関係 第18号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 北東部分を第18号住居跡に掘り込まれているために長径8.40m、短径は2.30mだけが検出され、N-46°-Wを長径方向とする楕円形または円形と推定される。壁高は4~12cmで、緩やかに外傾して立ち上がる。

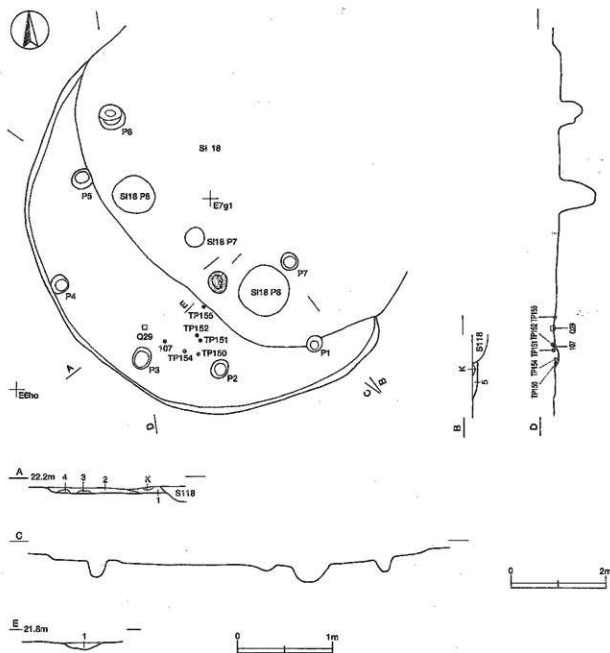
床 平坦であるが、ほとんど硬化面は認められない。

炉 径40cmほどの円形で、南部に付設されているが、第18号住居跡によってほとんどが削半され、現存部で7cmほど皿状に掘り窪められた炉床部である。炉床面は、火熱を受けて亦変硬化している。

炉土層解説

1 明赤褐色 ロームブロック・粘土粒子多量

ピット 7か所。P1・P2・P4~P6は深さ17~35cmで、規模や配列から主柱穴と考えられ、P3は主柱穴



第39図 第19号住居跡実測図

の間に配列されており、深さが8cmとやや浅いことから補助的な柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

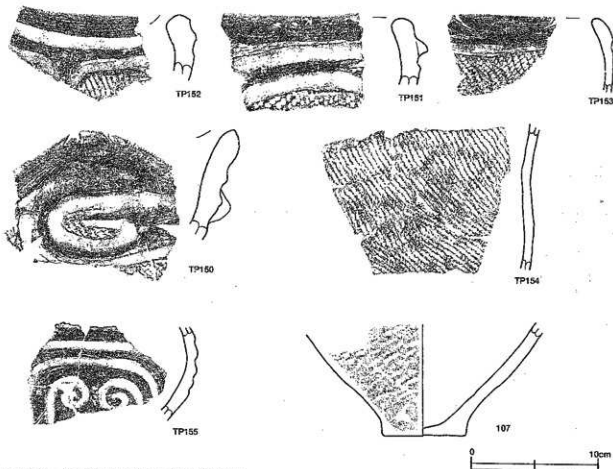
覆土 5層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片310点（口縁部37、胴部265、底部8）、凹石1点が出土している。全体的に遺物が少なく、覆土中からの出土がほとんどである。P2とP3周辺からTP150～152、TP154が出土しているが、覆土上層のため投棄された土器と考えられる。

所見 本跡は重複関係から、第18号住居跡よりやや古い段階の住居跡と考えられるが、出土土器からほとんど時期差はなく縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。

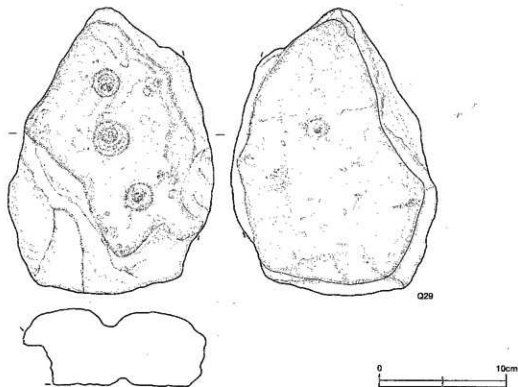


第40図 第19号住居跡出土遺物実測図(1)

第19号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
107	縄文土器	漆鉢	-	(8.8)	6.5	胴部はR1の単節縄文が縮文、底部下縁は無文	長石・雲母	普通	にぶい橙	両部底面

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
150~152	縄文時代中期後葉	150～152は口縁部で残部によって文様帯を区別し、区内に単節縄文文地、153は口縁部で無文帯を有す、154は胴部片でR1の単節縄文文地、155は口縁部によって文様を区別	150～152・154・155は底部底面、153は腹1/4中	



第41図 第19号住居跡出土遺物実測図(2)

番号	器種	長さ	幅	高さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q29	凹石	(22.7)	(16.3)	6.2	(2990.0)	花崗岩	凹み側面	南部床面	P.L.40

第20号住居跡 (第42・43図)

位置 調査Ⅱ区中央部、E7ii区の平坦部に立地しており、第162号土坑と重複し、北には第19号住居跡、西には第23号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 第162号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径4.39m、短径3.90mの楕円形であり、長径方向はN-2°-Eである。壁高は13~20cmで、外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦であり、炉跡南側の一部が踏み固められている。

炉 長径75cm、短径60cmの楕円形で、中央部に付設され、床面を35cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子・炭化物少量、ローム粒子微量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック多量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物微量 | 4 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物微量 |

ピット 13か所。P1・P5・P7・P9・P11は深さ9~20cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

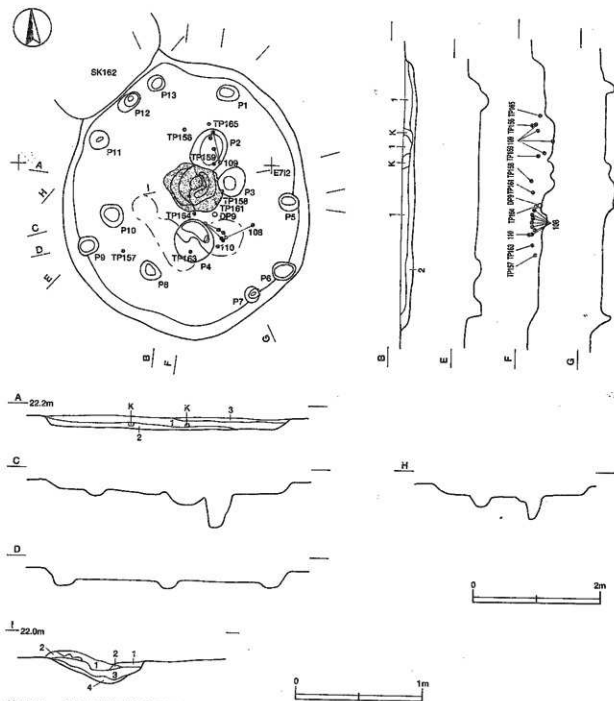
覆土 3層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

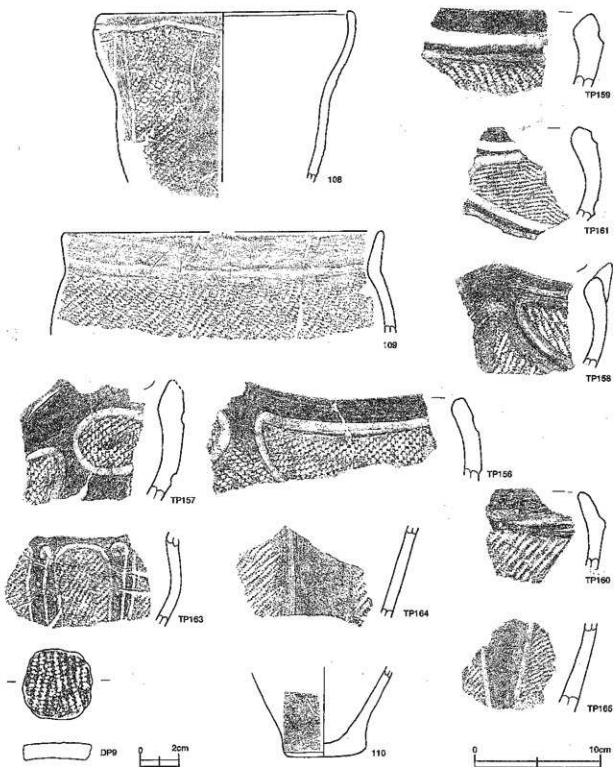
- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1 褐色 ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物少量 | |

遺物出土状況 縄文土器片696点（口縁部76，胴部602，底部18），土製品（円板）1点，礫13点が出土している。土器は中央部の覆土中層から多く出土しており，投棄された状況を示している。TP157は南西部下層から出土し，本跡に伴う土器と考えられる。時期的には，縄文時代中期の加曾利EⅢ～Ⅳ式期の土器が混在しているが，多くは加曾利EⅢ式期のものである。

所見 本跡は炉火床面の状況から，長期にわたって使用された住居と想定され，時期は，縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第42図 第20号住居跡実測図



第43図 第20号住居跡出土遺物実測図
第20号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	地産	色調	番号(出土位置)
108	縄文土器	深鉢	19.6	(13.5)	-	L1辺部に一条の沈線を施らし、胴部には壺垂文帯を区画し、R Lの半卵縄文施文	長石・石英	香浦	にぶい靑	南東部上層 P L 25
109	縄文土器	深鉢	(25.0)	(8.1)	-	L1足部は無文帯で、頸部に一条の沈線を施らし、胴部にはR Lの半卵縄文が施文	長石・赤色砂子・雲母	香浦	にぶい靑	P 2底面 P L 25
110	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	6.6	底部は無文である	長石・石英・雲母	香浦	明赤色	南部上層

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
158~161	縄文時代中期後葉	1 粘部片で器底によって文様帯を区画し、区画内には158-160はRLの平線縄文、159-161はLRの平線縄文、160はR1の平線縄文、161はLRの平線縄文、160はR1の平線縄文、161はLRの平線縄文	158・161中央部上層、159中央部中層、160腹上中	P L 33
156-157	縄文時代中期後葉	1 粘部片で器底によって文様帯を区画し、区画内にはLRの平線縄文、156はR1の平線縄文、157はR1の平線縄文、156はR1の平線縄文、157はR1の平線縄文	156北部上層、157西部下層	P L 33
165	縄文時代中期後葉	1 粘部片で器底によって文様帯を区画し、区画内にはR1の平線縄文、165はR1の平線縄文、165はR1の平線縄文	西部中層	
164-165	縄文時代中期後葉	1 粘部片で器底によって文様帯を区画し、区画内にはR1の平線縄文、164はR1の平線縄文、165はR1の平線縄文	164中央部下層、165北部下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
D19	土器 円板	3.8	3.5	0.8	16.0	土質	周縁部を顕に研削	中央部床面	P L 37

第21号住居跡 (第44~50区)

位置 調査Ⅱ区中央部、F6g7区の平坦部に立地しており、第14号住居跡、第1号土器焼成遺構と重複している。また、北西には第25号住居跡が位置している。

重複関係 南部を第14号住居跡、中央部を第1号土器焼成遺構、西部を第25号土坑に掘り込まれており、第661号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 第14号住居跡に約3分の1掘り込まれているため、全貌は明らかではないが径7.75mほどの円形と推定され、長径方向はN-70°-Eである。壁高は22~39cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり、中央部がやや踏み固められている。

炉 4か所。炉1は中央部に付設されており、長径115cm、短径95cmの楕円形で、床面を17cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉2は炉1の西側に付設された、長径75cm、短径55cmの楕円形で、床面を5cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉3は炉1の東側に付設された長径90cm、短径70cmの楕円形で、床面を5cmほど掘り窪めた地床炉である。炉4は炉1の南東側に付設され、第14号住居跡に掘り込まれて一部を削平されているが、長径35cm、短径30cmの楕円形と推定される。また、床面を5cmほど皿状に掘り窪めており、いずれの炉跡も炉床面は火熱を受けて、赤変硬化している。

炉1土層解説

- 1 濃い赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物微量
- 3 濃い赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量

炉2土層解説

- 1 濃い赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量

炉3土層解説

- 1 濃い赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック中量、炭化物微量
- 2 濃い赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量

炉4土層解説

- 1 濃い赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 8か所。P1~P3・P4・P6・P7は深さ40~85cmで規模や配列から支柱穴と考えられ、その他のピットの性格は不明である。

P1土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック中量

P2土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

P3土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 5 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

P4土層解説

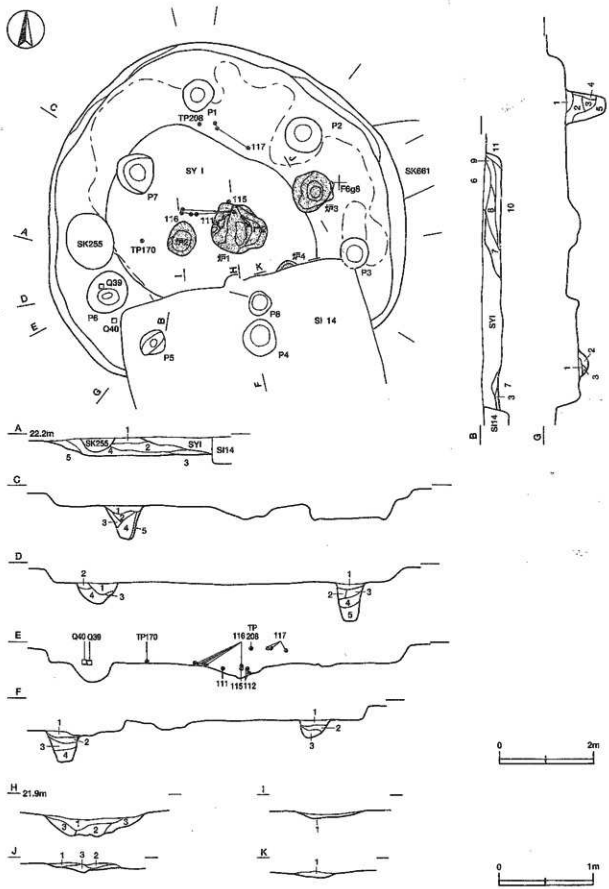
- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量、ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

P6土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ロームブロック少量

P7土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量



第44图 第21号住居跡尖測図

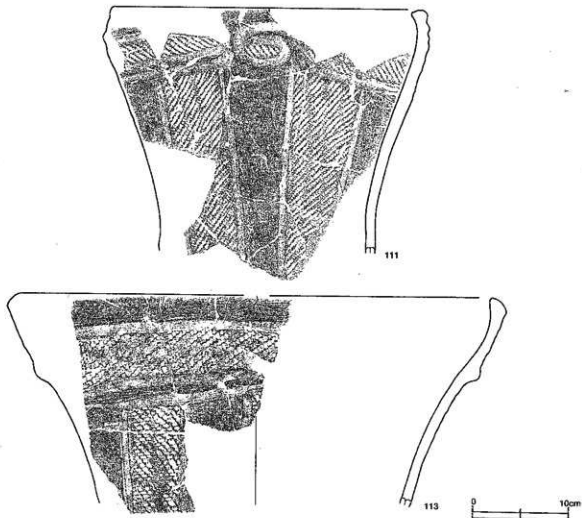
覆土 11層からなり、上層部の6層は投棄された状況を示し、他の層は自然堆積の状況を示している。

土層解説

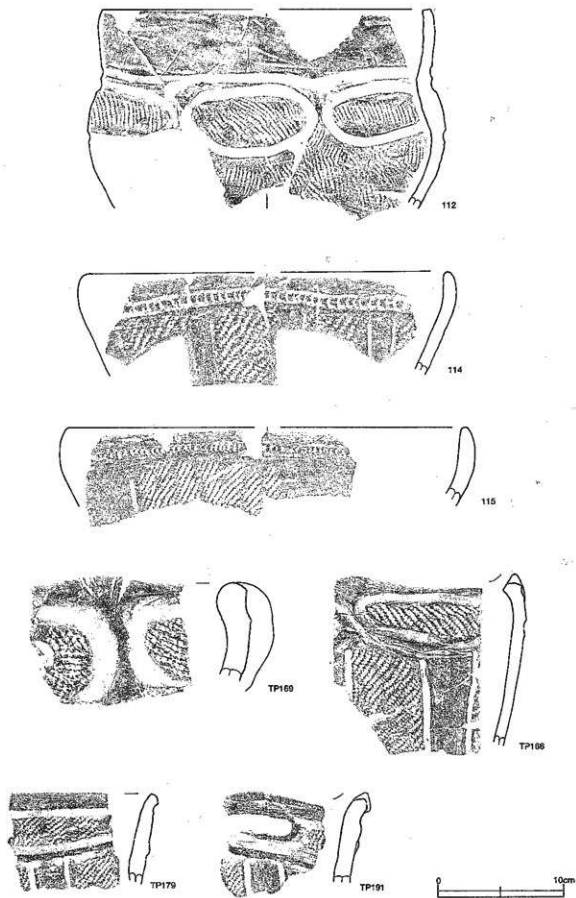
1	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量	7	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
3	にがい赤褐色	ロームブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子中量、炭化物微量
5	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	11	褐色	ローム粒子多量
6	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量			

遺物出土状況 縄文土器片6,344点（口縁部697、胴部5555、底部92）、石鏃5点、削片2点、石核1点、磨石1点、凹石2点が出土している。土器はほぼ全体的に散在しており、特に覆土上層からの出土量が多く、投棄された状況を示しているが、住居中央部の土器焼成遺構に伴う土器が覆土上層部に散在したものと考えられる。111は炉1の上層、112は炉1の上層と床面から出土した土器が接合した資料であり、Q39はP6の上面、Q40はP6南側の床面から出土し、それぞれ本跡に伴う遺物と考えられる。

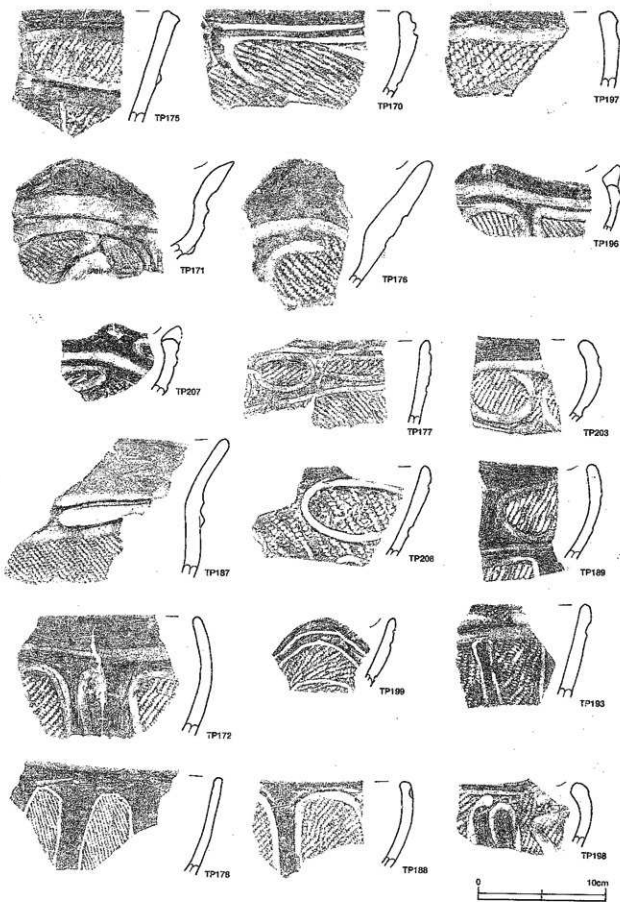
所見 本跡は、南部を第14号住居跡に掘り込まれており、中央部に土器焼成遺構が重複しているが、掘り込みが深いため遺存状態は比較的良好である。炉は4か所検出されており、炉1は掘り込みも深く、炉床面が厚く赤変硬化していることから主体的な炉であり、他の炉は補助的な炉としての使用が考えられる。時期は、出土土器から縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。



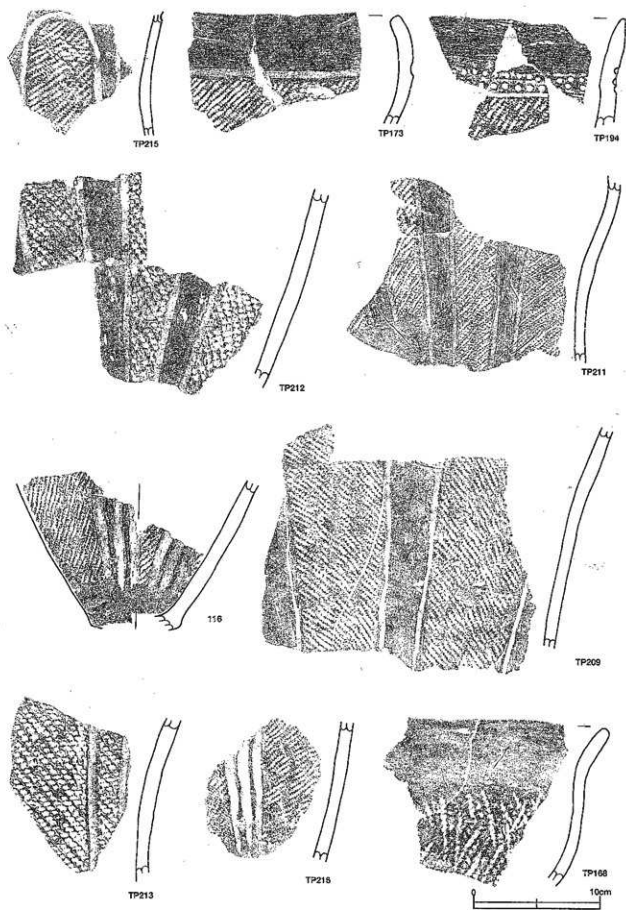
第45図 第21号住居跡出土遺物実測図(1)



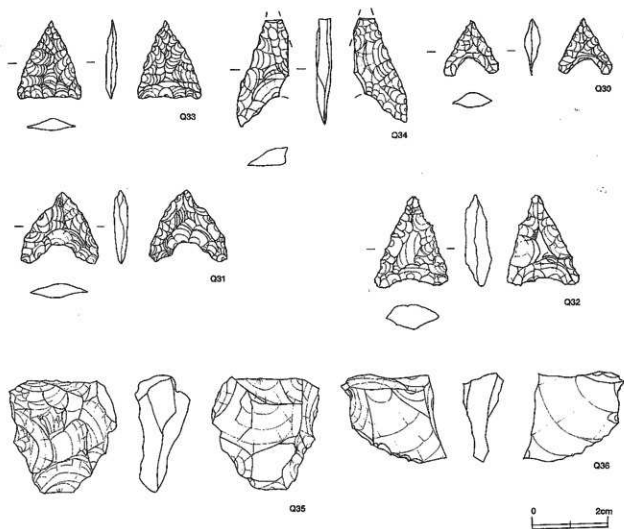
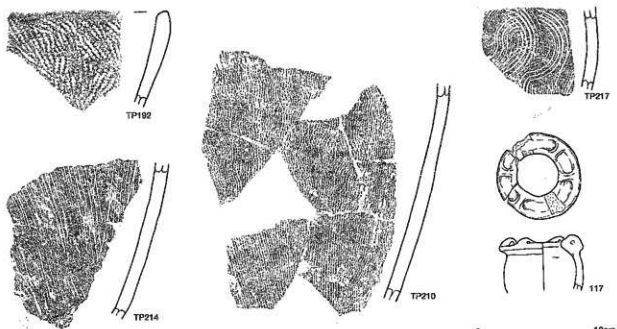
第46圖 第21号住居跡出土遺物実測圖(2)



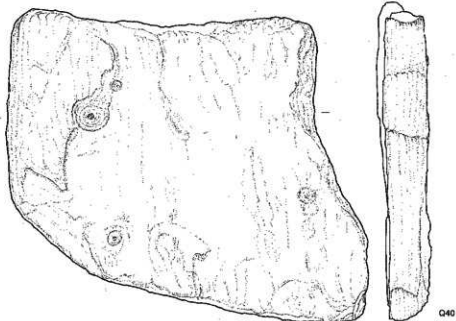
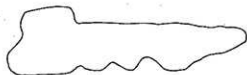
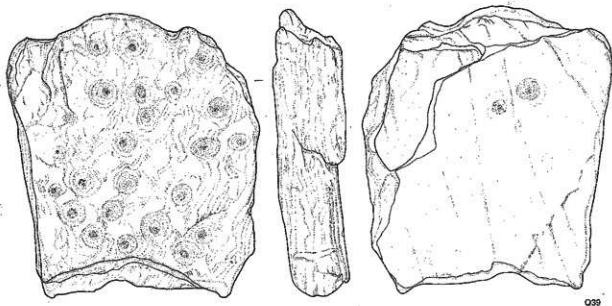
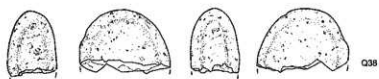
第47图 第21号住居跡出土遺物実測图(3)



第48图 第21号住居跡出土遺物実測図(4)



第49圖 第21号住居跡出土遺物実測図(5)



第50圖 第21号住居跡出土遺物実測圖(6)

第21号住居跡出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	地味	色調	備考(出土位置)
111	縄文土器	深鉢	32.1	(25.0)	-	口縁部に隆帯によって区画。胴部の墨垂文帯にはR上の早期縄文施文	長石・赤色粒子・雲母	普通	にぶい・橙	伊1上層 P.L.25
112	縄文土器	深鉢	[26.0]	(15.7)	-	口縁部は無文帯で、胴部に一帯の沈線を通らし、胴下部には沈線により文帯帯を導出しR1の早期縄文施文	長石・石英・雲母	普通	にぶい・橙	伊1上層と底面 P.L.25
113	縄文土器	深鉢	49.4	(21.2)	-	口縁部は隆帯により区画され、胴部の墨垂文帯にはR1上の早期縄文施文	長石・石英・雲母	普通	にぶい・知色	腹土中 P.L.25
114	縄文土器	深鉢	[28.6]	(8.0)	-	口縁部に創みを導らし、胴部の墨垂文帯にはR1上の早期縄文施文	長石・赤色粒子	普通	にぶい・橙	腹土中 P.L.25
115	縄文土器	深鉢	[31.4]	(6.2)	-	口縁部に創みを導らし、胴部の墨垂文帯にはR1上の早期縄文施文	長石・赤色粒子・雲母	普通	にぶい・黄緑	伊1上層
116	縄文土器	深鉢	-	(11.9)	(7.2)	底部下縁は無文で、胴部の墨垂文帯にはR1上の早期縄文施文	長石・石英	普通	明赤褐色	中央部底面 P.L.25
117	縄文土器	小形	6.2	(4.3)	-	口縁部に把手が付く、底面の底形土器	砂粒・雲母	普通	にぶい・黄	北部上層 P.L.25

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
169	縄文時代中期後葉	口縁部で片帯に隆帯(29)を導き区画、胴部の早期縄文施文	腹土中	P.L.33
166-175-179-191	縄文時代中期後葉	口縁部で施文に沈線に片文帯帯を区画、墨垂文帯(23)の早期縄文施文	腹土中	P.L.33
170-197	縄文時代中期後葉	口縁部で沈線に片文帯帯を区画、R1上の早期縄文施文	E70西部床面、197腹土中	
F71-176-196-207	縄文時代中期後葉	口縁部で沈線に片文帯帯を区画、L1上の早期縄文施文	腹土中	P.L.33
177-202	縄文時代中期後葉	口縁部で沈線に片文帯帯を区画、R1上の早期縄文施文	腹土中	
187	縄文時代中期後葉	口縁部で沈線に片文帯帯を区画、L1上の早期縄文施文	腹土中	
189-208	縄文時代中期後葉	口縁部で沈線に片文帯帯を区画、L1上の早期縄文施文	308北部上層、199腹土中	
172-188-189	縄文時代中期後葉	口縁部で沈線に片文帯帯を区画、R1上の早期縄文施文	腹土中	P.L.33
178	縄文時代中期後葉	口縁部で沈線に片文帯帯を区画、L1上の早期縄文施文	腹土中	
193-196	縄文時代中期後葉	口縁部で沈線に片文帯帯を区画、R1上の早期縄文施文	腹土中	
215	縄文時代中期後葉	口縁部で沈線に片文帯帯を区画、L1上の早期縄文施文	腹土中	
173-194	縄文時代中期後葉	口縁部で沈線に片文帯帯を区画、L1上の早期縄文施文	腹土中	P.L.33
209-211-212	縄文時代中期後葉	胴部で墨垂文帯に片文帯帯を区画、R1上の早期縄文施文	腹土中	P.L.33
213-216	縄文時代中期後葉	胴部で墨垂文帯に片文帯帯を区画、R1上の早期縄文施文	腹土中	P.L.33
168-182	縄文時代中期後葉	口縁部で沈線に片文帯帯を区画	腹土中	
210-214-217	縄文時代中期後葉	口縁部で沈線に片文帯帯を区画	腹土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q30	石 盤	1.5	1.5	0.4	0.4	チャート	無文盤	腹土中	P.L.38
Q31	石 盤	1.9	2.0	0.4	0.9	チャート	無文盤	腹土中	P.L.38
Q32	石 盤	2.4	1.9	0.7	2.0	頁岩	無文盤	腹土中	P.L.38
Q33	石 盤	2.0	1.6	0.4	0.5	黒曜石	無文盤	腹土中	P.L.38
Q34	石 盤 (28)	(1.4)	0.5	(1.3)		頁岩	無文盤、先端部と片側欠損	腹土中	
Q35	削 片	3.0	2.9	1.5	9.0	チャート	調整削片	腹土中	
Q36	削 片	2.3	2.7	1.1	4.7	頁岩	調整削片	腹土中	
Q38	磨 石 (5.0)	7.2	3.9	(191.0)		安山岩	下部欠損	腹土中	
Q39	磨 石	39.7	26.1	7.1	7,630.0	雲母片岩	両面削面	P.6上層	P.L.40
Q40	磨 石	25.2	28.4	4.0	3,800.0	雲母片岩	裏面削面		

第23号住居跡 (第51~54図)

位置 調査Ⅱ区北部, E6j6区の平坦部に立地しており, 北東には第18・19号住居跡, 南西には第25号住居跡がそれぞれ位置している。

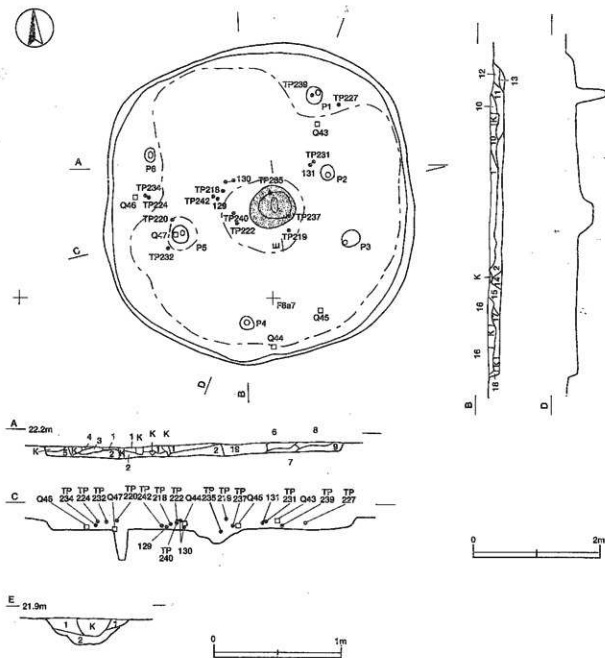
規模と形状 長径5.15m, 短径5.02mの円形で, 長径方向はN-57°-Eである。壁高は12~20cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦であり, 全体的に踏み固められている。

炉 長径75cm, 短径65cmほどの楕円形で, 中央部よりやや東側に付設され, 床面を20cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は, 火熱を受けて赤変している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量
- 2 に近い赤褐色 焼土ブロック多量



第51図 第23号住居跡実測図

ピット 6か所。P1・P3・P5は深さ31~52cmで規模や配列から主柱穴と考えられ、その他のピットの性格は不明である。

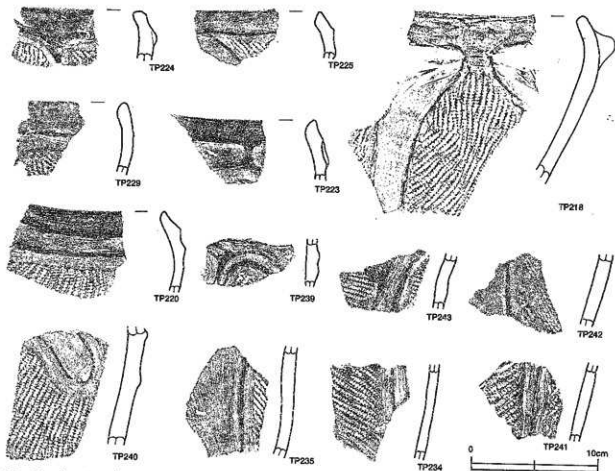
覆土 19層からなり、ロームブロック、焼土ブロック及び炭化物を含んだ、不自然な堆積状況から、人為堆積の状況を呈している。

土層解説

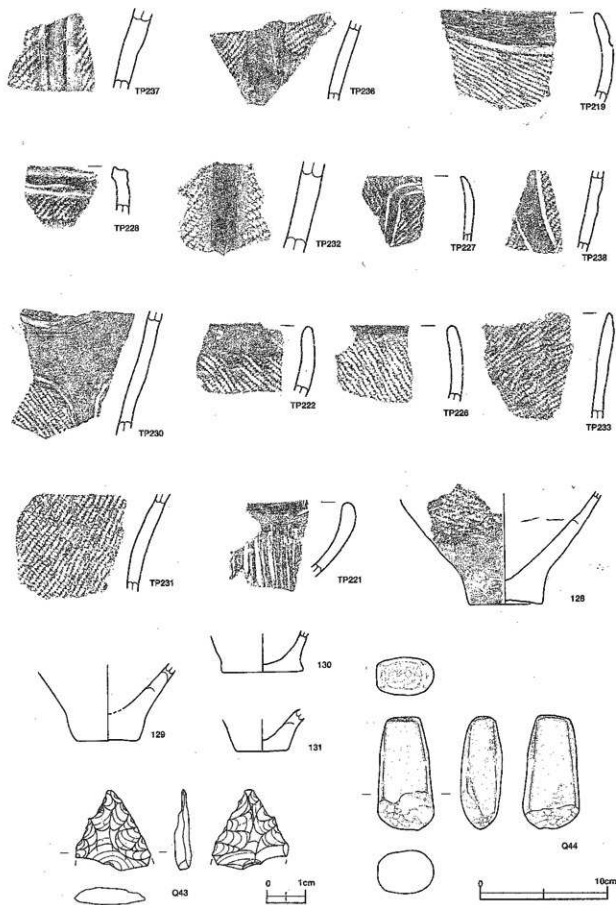
- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量 | 15 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 17 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 8 褐色 | ロームブロック中量 | 18 褐色 | ロームブロック多量 |
| 9 褐色 | ロームブロック中量、ローム粒子微量 | 19 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 10 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片980点（口縁部86、胴部878、底部16）、石鏃1点、石斧1点、石棒1点、凹石2点、礫15点が出土している。遺物は埴岡周辺と西部の覆土中から出土しているものが多く、投棄された状況を示している。また、TP235は埴の上層、TP237は中央部中層、TP239は北部中層、Q47はP5の上層からそれぞれ出土し、本跡に伴う遺物と考えられる。さらに、Q45は南部の南を向いた横位で床面からやや浮いた状態で出土し、側面は火熱を受けて赤変している。

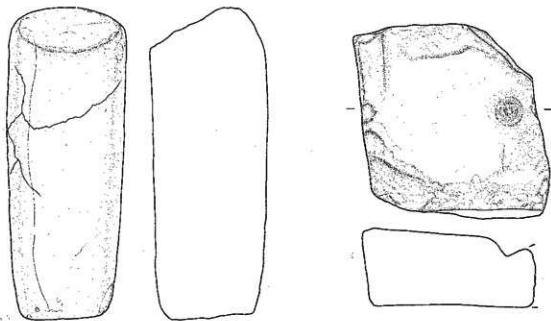
所見 本跡は火熱を受け側面が赤変している石棒が出土し、一種の祭祀的な性格を有した住居跡の可能性もある。土器は加曾利EⅢ~Ⅳ式期の土器が出土しているが、主体となる土器からみて時期は縄文時代中期後葉（加曾利EⅣ式期）と考えられる。



第52図 第23号住居跡出土遺物実測図(1)

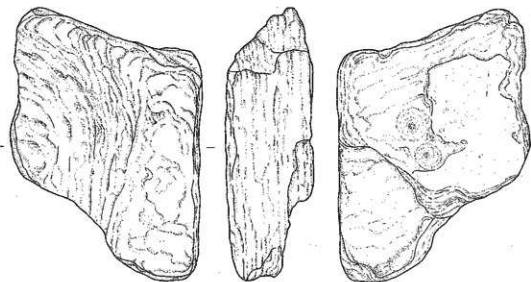


第53图 第23号住居跡出土遺物実測図(2)



Q45

Q46



Q47



第54图 第23号住居跡出土遺物実測図(3)

第23号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
128	縄文土器	深鉢	-	1.83	5.8	底縁下部は黒文で、胴部はR.Lの単節縄文施文	長石・石英	普通	にぶい彫	掘土中
129	縄文土器	深鉢	-	1.53	4.8	底縁は黒文	長石・石英・雲母	普通	彫	中央部表面
130	縄文土器	深鉢	-	1.23	6.4	底縁部で、黒文	長石・赤色鉄子	普通	にぶい彫色	中央部表面
131	縄文土器	深鉢	-	1.23	4.0	底縁部で、黒文	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄彫	中央部中層

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
223-224	縄文時代中期後葉	口縁部片で、胴縁部によって文様帯を区画し、区画内に単節縄文施文。	224西部下層、掘土中	
225-228		器面やや変色		
218-220	縄文時代中期後葉	口縁部片で、胴縁部により文様帯を区画し、区画内にR.Lの単節縄文施文	218中央部中層、220西部下層	P.L.33
230	縄文時代中期後葉	胴部片で、沈線によって文様帯を区画	北部中層	
231-235 236-241 243	縄文時代中期後葉	胴部片で、胴縁部によって文様帯を区画し、区画内にR.Lの単節縄文施文	234西部下層、235中上層、 掘土中	
237-242	縄文時代中期後葉	胴部片で、胴縁部によって文様帯を区画し、区画内にL.Rの単節縄文施文	227中央部中層、242中央部下層	
240	縄文時代中期後葉	胴部片で、R.Lの単節縄文地に胴部で曲線的な文様帯区画	中央部中層	P.L.33
232	縄文時代中期後葉	胴部片で、胴縁部にR.Lの単節縄文施文	西部下層	
219-222	縄文時代中期後葉	口縁部片で、沈線によって文様帯を区画	219中央部上層、222掘土中	
227-230	縄文時代中期後葉	沈線によって文様帯を区画し、区画内に230はR.Lの単節縄文、230はL.Rの単節縄文施文	227北部中層、230・238掘土中	
238				
222-226	縄文時代中期後葉	口縁部片で、L.Rの単節縄文施文	222中央部中層、226掘土中	
233-234	縄文時代中期後葉	233は口縁部片、234は胴部片であり、それぞれR.Lの単節縄文施文	233中央部中層、233掘土中	
221	縄文時代中期後葉	口縁部片で、縦位に沈線施文	掘土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q43	石 鏝	22.0	1.9	0.4	1.13	チャート	無装束、下部欠損	北部中層	
Q44	磨製石斧	8.8	4.5	3.3	227.0	花崗岩	破損した刃部を再加工	南部中層	
Q45	石 斧	34.5	9.2	-	2900.0	凝灰岩	前面に火熱痕有り	南部下層	
Q46	円 石	13.4	13.5	6.3	12490.0	砂岩	凹み片面	西部表面	
Q47	石 鏝	21.5	14.8	6.8	2230.0	雲母片岩	凹み裏面、凹み表面	西部表面	

第25号住居跡 (第55・56号)

位置 調査Ⅱ区中央部、F6d4区の平坦部に立地し、第17号住居跡と重複している。北東には第23号住居跡、南東には第21号住居跡が位置している。

重複関係 第284号土坑を掘り込み、第17号住居跡と第315号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側部分が第17号住居跡に掘り込まれ、また、西側部分が調査区域外に延びているため長径5.27mと、短径の4.61mだけが検出され、N-20°-Wを長径方向とする楕円形であると推定される。楕高は9~16cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり、炉周辺が若干踏み固められている。炉の下には第284号土坑があり、土坑の覆土上層を固めて床面を構築している。

炉 長径52cm、短径40cmほどの楕円形で、中央部のやや南東側に付設され、床面を15cmほど掘り窪めた地床炉である。加床面は、火熱を受けて赤変している。

炉土層解説

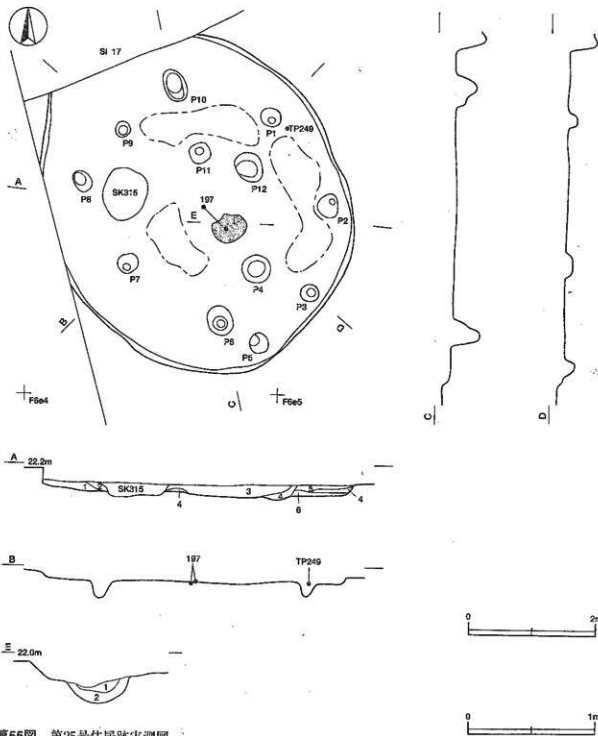
- 1 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量

ピット 12か所。P1～P3・P6～P10は深さ18～36cmで、規模や配列から主柱穴と考えられ、その他のピットの性格は不明である。

覆土 6層からなり、含有物と不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

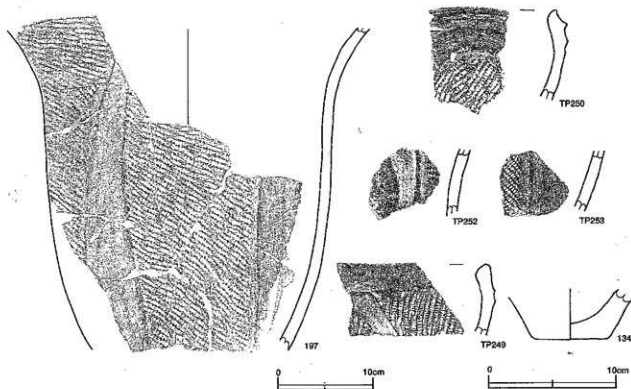
- | | | | |
|-------|------------------|-------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 5 陶色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量、ローム粒子微量 |



第55図 第25号住居跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片200点(L1縁部9, 胴部190, 底部1), 礫4点が出土している。土器は少量であるが中央部の覆土中から出土しているものがほとんどである。197は中央部床面と葦の覆土上層から出土している土器が接合された資料であり, また, TP249はP1東側の床面から出土しており, それぞれ本跡に伴う土器と考えられる。

所見 本跡の時期は出土土器から, 縄文時代中期後葉(加曾利EIV式期)と考えられる。



第56図 第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	口径	文様の特徴	胎土	造色	色調	備考(出土位置)
134	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	6.0	底部片で, 無文	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄褐色	覆土中
197	縄文土器	深鉢	-	(33.9)	-	胴体部によって文様帯を露出し, 区画文内にR1の半筋縄文光磨	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄褐色	中央部床面 P.L.25

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
349-250	縄文時代中期後葉	L1縁部片で, 胴体部によって文様を露出し, R1の半筋縄文光磨	249北東部床面, 250覆土中	
252-253	縄文時代中期後葉	胴体部で, 胴体部によって文様を露出し, R2&R3の半筋縄文光磨, R2&R3は断面がやや平流	覆土中	

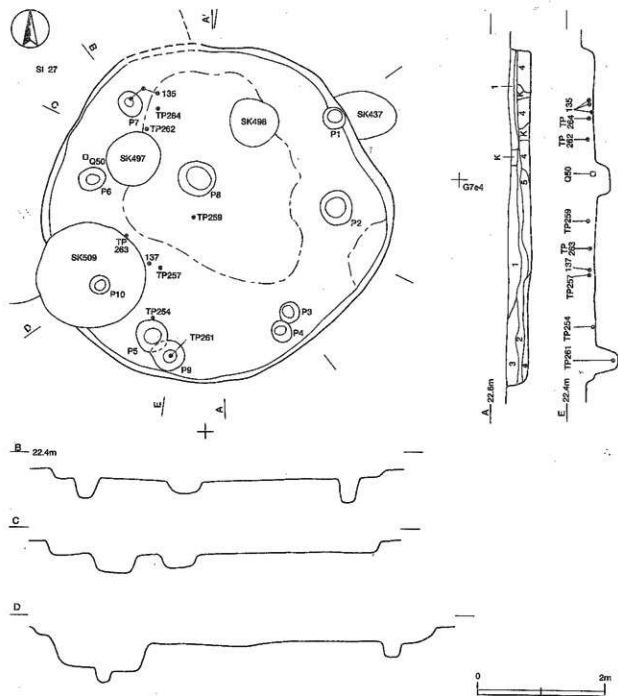
第26号住居跡(第57~59図)

位置 調査Ⅱ区南部, G7e2区の平坦部に立地し, 第27号住居跡と重複し, 北西には第36号住居跡が, 南には第33号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 第27号住居跡と第437・491・496号土坑を掘り込んでおり, 第497・498・509号土坑に掘り込まれている。規模と形状 長径5.58m, 短径5.32mの円形で, 長径方向はN-90°-Wである。壁高は10~22cmで, ほほ直立する。

床 ほほ平坦であり, 中央部がやや踏み固められている。

ビット 10か所。P2・P5・P7は深さ30~39cmで、規模や配列から支柱穴と考えられ、その他のビットの性格は不明である。



第57図 第26号住居跡実測図

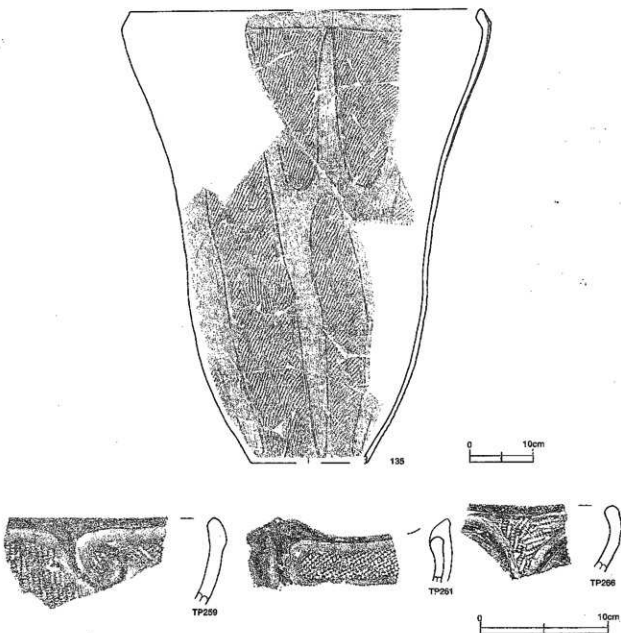
覆土 5層からなり、含有物と不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

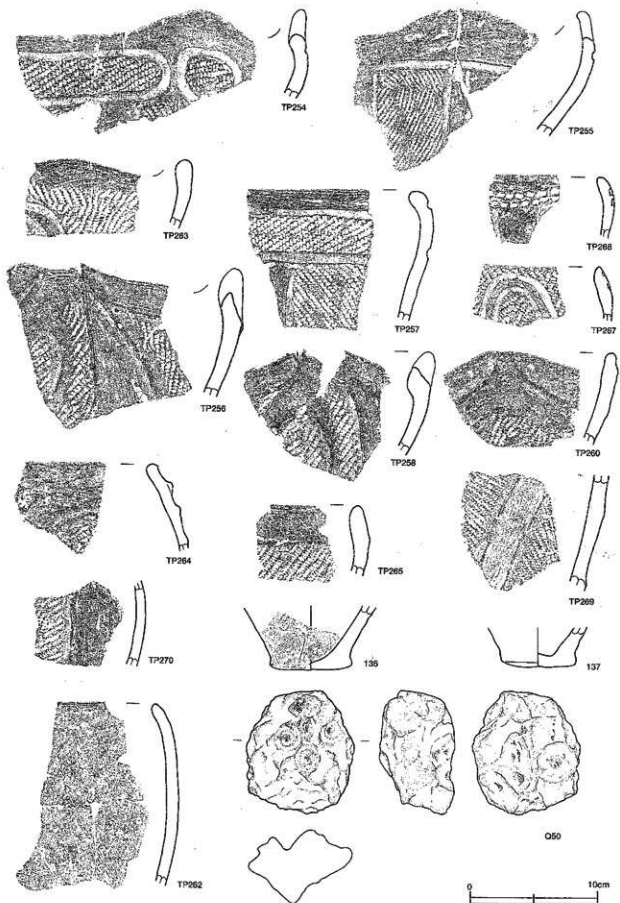
- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片834点（口縁部88、胴部736、底部10）、凹石1点、礫6点が出土している。土器の多くは南部の黒褐色帯の土層から出土し、投棄された状況を示している。135は北西部の床面から出土した土器片が接合された資料で、本跡に伴う土器と考えられる。

所見 本跡は数基の土坑に掘り込まれているため、炉が検出されていない。また、土器はほとんどが南部の覆土土層に投棄されたものであり、加曾利EⅢ～Ⅳ式期の土器が混在しているが、主体となる土器から時期は縄文時代中期後葉（加曾利EⅣ式期）と考えられる。



第58図 第26号住居跡出土遺物実測図(1)



第59图 第26号住居跡出土遺物実測图(2)

第26号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
135	縄文土器	漆器	[54.9]	72.6	[18.0]	磨蝕帯によってW字状の文様帯を区別し、区別文内にはR上の単線縄文光斑	灰石雲母	普通	にぶい黒	北西部床面 P.L.25
136	縄文土器	漆器	-	(5.1)	6.5	底部にはR上の単線縄文光斑、下部は無文	灰石・石英雲母	普通	明焼	覆土中
137	縄文土器	漆器	-	(3.1)	5.9	底部で、無文	灰石・石英・赤色粘土	普通	明焼	北西部中層

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
209-261-266	縄文時代中期後葉	口縁部片で磨蝕帯によって文様帯を抽出、209は磨蝕文、261は磨蝕文をそれぞれ構成	209中央部中層、261P9下部、266覆土中	
254-257	縄文時代中期後葉	口縁部片で口縁部文が磨蝕で区別され、胴部に雙文帯文	254南部床面、257-263北西部中層、267覆土中	
259-268	縄文時代中期後葉	口縁部片で口縁部文が磨蝕で区別され、胴部にはR上の単線縄文光斑、268はR上の単線縄文光斑	覆土中	
256-258-260-264	縄文時代中期後葉	口縁部片で口縁部文が磨蝕で区別され、胴部にはR上の単線縄文光斑	264北西部下層、他覆土中	P.L.33
265-269	縄文時代中期後葉	265は口縁部片で口縁部文が磨蝕で区別し、以下縄文光斑、269は磨蝕文	覆土中	
270		よって文様帯を区別し、区別文内には単線縄文光斑		
263	縄文時代中期後葉	口縁部から胴部片、磨蝕文	北西部中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q50	凹石	(9.2)	(8.3)	6.0	(28.0)	花崗岩	凹み両面	北西部床面	

第27号住居跡 (第60・61図)

位置 調査Ⅱ区南部、G7d2区の平坦部に立地し、第26号住居跡と重複している。北西には第36号住居跡、南には第33号住居跡が位置している。

重複関係 第26号住居跡、第461・509号土坑に掘り込まれ、第3号不明遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 南東側部分が第26号住居跡に掘り込まれているため、長径6.00mと短径は3.57mだけが検出され、長径方向はN-26°-Eの楕円形と推定される。壁高は7~10cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦であり、炉の北部と南部が踏み固められている。

炉 長径90cm、短径60cmほどの楕円形で、中央部よりやや北西側に付設され、床面を16cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化物少量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物少量

ピット 7か所。P3・P6・P7は深さ18~30cmで規模や配列から主柱穴と考えられ、その他のピットの性格は不明である。

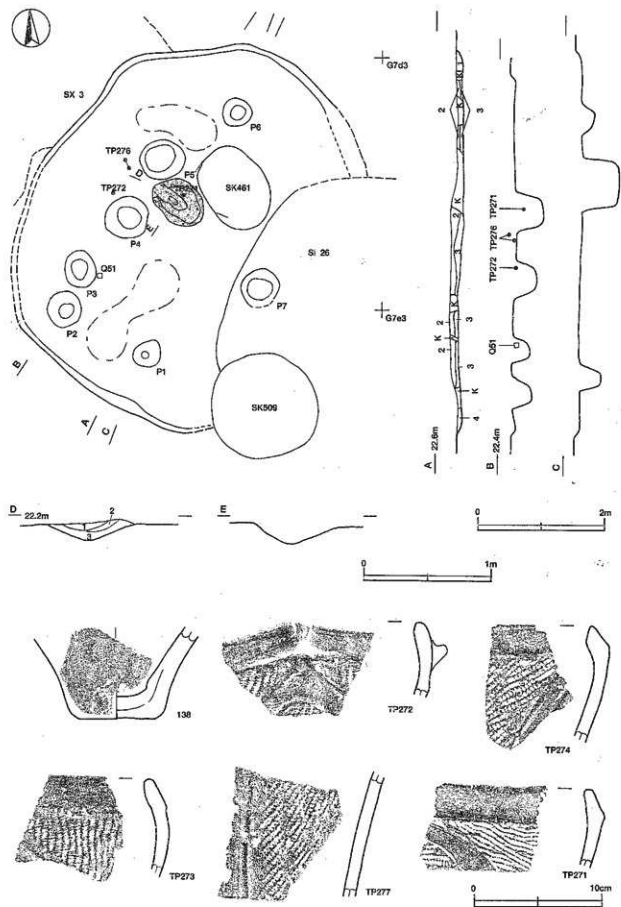
覆土 4層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

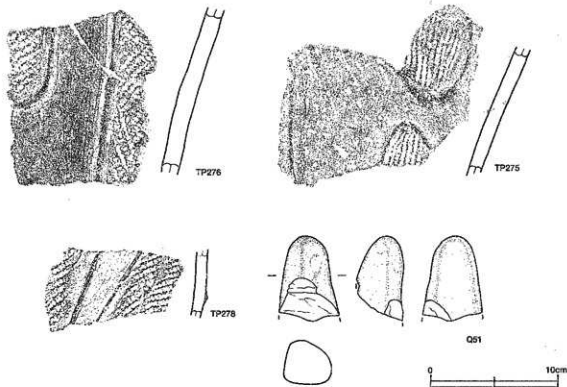
- 1 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 締まり有り
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片202点(口縁部13、胴部184、底部5)、磨製石斧1点、礫1点、粘土塊1点が出土している。土器は中央部を中心に覆土中から出土したものがほとんどである。TP271は炉の覆土中層から出土し、また、炉西側から出土しているTP276は、床面と覆土中層出土の土器が接合された資料であり、それぞれ本跡に伴う土器と考えられる。

所見 本跡は第26号住居跡に掘り込まれて、調査された範囲は少ないが、出土土器から第26号住居跡との時期差はそれほど認められず、時期は縄文時代中期後葉(加曾利EⅣ式期)と考えられる。



第60图 第27号住居跡・出土遺物実測図



第61図 第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
138	縄文上部	深鉢	-	(7.2)	[6.0]	底縁部で、無文であり、若干砂面見れ	長石・石英	普通	橙	Ⅱ区土中

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
272-274	縄文時代中期後葉	口縁部片で、段縁部により文様帯を区画し、区画内に単線縄文充ち	273西部床面、273・274Ⅱ区土中	
271	縄文時代中期後葉	口縁部片で、口縁部を無文帯で区画し、北側に区画内にRの無節縄文施文	柳下層	
275-278	縄文時代中期後葉	胴部片で、段縁部によって文様帯を区画し、区画内に275-277はRの単線縄文、278はL・Rの単線縄文がそれぞれ充ち	276北西部床面、275・277・278Ⅱ区土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	容量	石材	特徴	出土位置	備考
Q51	磨製石釜	(5.7)	(4.8)	3.5	(126.0)	安山岩(磨製)	下部欠損	Ⅱ区西部床面	

第29号住居跡 (第62~64区)

位置 調査Ⅱ区南部、G6g0区の平坦部に立地し、北西には第34号住居跡が位置し、南には第30号住居跡が隣接している。

規模と形状 長径5.30m、短径5.00mの円形で、長径方向はN-18°-Eである。壁高は16~24cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦であり、北東部の一部が若干踏み固められている。また、中央部東側の床面直上からは炭化物・炭化材を含んだ厚さ10cmほどの土層と炉?の北側に隣接した厚さ20cmほどの焼土層が検出されている。

炭化物土層解説

1 黒褐色	炭化物中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量	4 暗褐色	炭化物中量、炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量
2 暗褐色	炭化物多量、ロームブロック少量	5 褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
3 褐色	ロームブロック中量	6 にぶい赤褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量

焼土土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量	5 褐色	ロームブロック少量
2 暗赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	7 極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量		

炉 2か所。炉1は長径39cm、短径32cmの楕円形で、中央部からやや北側に付設され、床面を20cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変している。炉2は径75cmほどの不整形円で、炉1の南側の中央部に付設されている。また、床面を15cmほど皿状に掘り窪めた地床炉であり、炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

1 暗褐色	焼土粒子・炭化物微量
2 暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子中量
3 にぶい赤褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック中量

炉2土層解説

1 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量	5 灰褐色	焼土ブロック・炭化物・ロームブロック・灰微量
2 暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量	6 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・ロームブロック・灰微量
3 黒褐色	炭化物多量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量	7 にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物・ロームブロック・灰微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物少量、ローム粒子・灰微量		

ピット 11か所。P1・P5・P9・P11は深さ10~23cmで規模や配列から主柱穴と考えられ、その他のピットの性格は不明である。

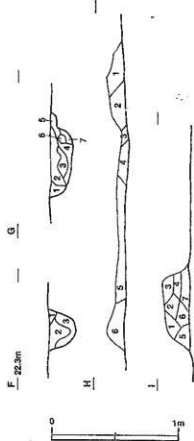
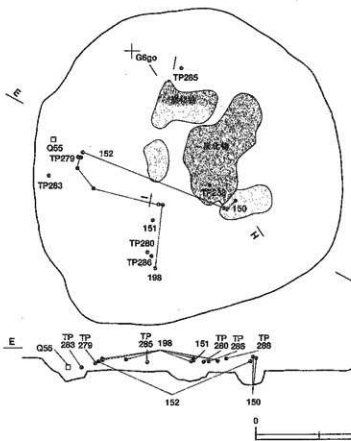
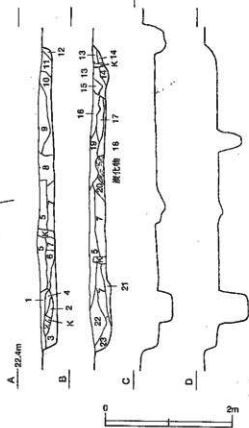
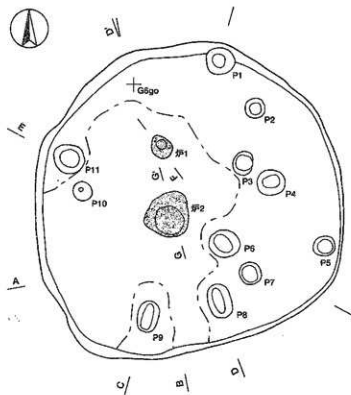
覆土 23層からなり、不連続な堆積状況と含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

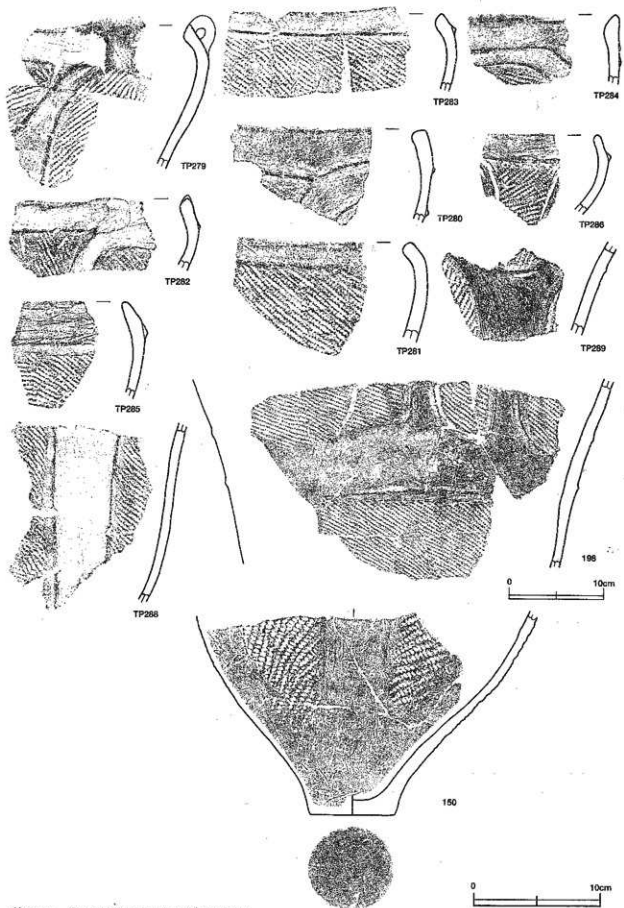
1 黒褐色	炭化物中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量	13 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
2 黒褐色	炭化物中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 暗褐色	炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック微量	16 新暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
5 黒褐色	炭化物中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量	17 黒褐色	炭化材多量、ロームブロック・焼土ブロック少量
6 黒褐色	炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	18 黒褐色	炭化材中量、ロームブロック少量
7 極暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	19 暗赤褐色	炭化物・ロームブロック少量、焼土ブロック微量
8 暗赤褐色	炭化材多量、焼土ブロック中量、ロームブロック微量	20 暗赤褐色	炭化物・焼土ブロック少量、ロームブロック微量
9 黒褐色	炭化材中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量	21 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
10 極暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	22 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
11 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量	23 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
12 褐色	ロームブロック多量		

遺物出土状況 縄文土器片757点（口縁部87、胴部656、底部14）、土製円板1点、巴石1点、礫5点が出土している。土器の多くは西部と南部の覆土中から出土し、152も西部と中央部の覆土上層から出土している接合資料であり、いずれも投棄されたものと想定される。また、床面から炭化物や焼土が出土しており、焼失家屋と考えられる。

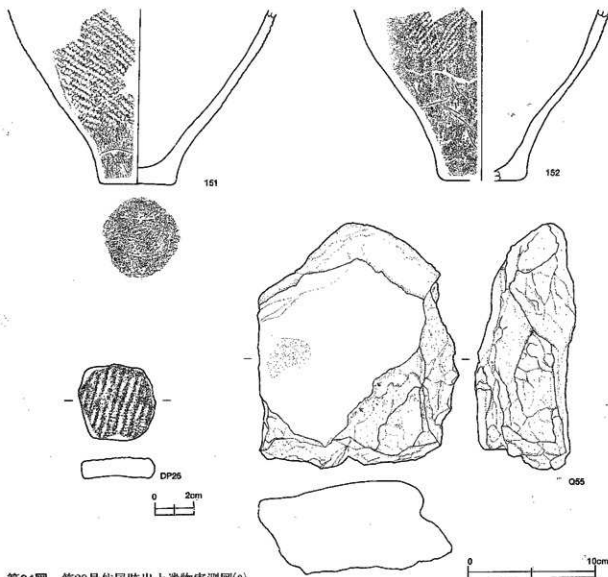
所見 本跡の遺存状態は比較的良好であり、床面から炭化物や焼土が出土している焼失家屋と考えられる。また、炉跡が2か所検出され、炉2は炉床面の状況から主体的な炉と考えられ、炉1は補助的な炉と考えられる。床面出土の土器と覆土中の土器はほぼ同時期であり、住居が焼失して後間もなく投棄されたものと想定される。時期は出土土器から縄文時代中期後葉（加賀利EN式期）と考えられる。



第62图 第29号住居跡実測图



第63圖 第29号住居跡出土遺物実測圖(1)



第64図 第29号住居跡出土遺物実測図(2)

第29号住居跡出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	器高	底径	文種の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土状況)
150	縄文土器	深鉢	-	(16.2)	6.6	底部は無文で、胴部は縦線帯によって区画され、区画内にはR.Lの準節縄文施文	長石・石英・雲母	普通	にふい赤陶	中央部上層 PL26
151	縄文土器	深鉢	-	(13.9)	6.2	底部は無文で、胴部はR.Lの準節縄文施文	長石・石英・雲母	普通	にふい地	中央部上層 PL25
152	縄文土器	深鉢	-	(13.3)	[6.0]	底部は無文で、胴部は縦線帯によって区画され、区画内にはR.Lの準節縄文施文	長石・石英・雲母	普通	にふい赤陶	中央部・西部上層 PL25
198	縄文土器	深鉢	-	(19.8)	-	胴部は縦線帯によって区画され、区画内にはR.Lの準節縄文施文	長石・石英・雲母	普通	緑	中央部・西部上層 PL25

TP番号	時期	器形および文種の特徴	出土位置	備考
279・280・282・284	縄文時代中期後葉	279は口縁部片で、口縁部に指状把手を有して胴部帯によって文様帯を区画し、区画内にはR.Lの準節縄文施文。280・282は口縁部片で、胴部帯によって文様帯を区画し、区画内には280はR.Lの準節縄文、282はR.Lの準節縄文施文	279西部・280南部上層、埋没土中層	
286	縄文時代中期後葉	口縁部片で、口縁部帯を区画し、花飾によって文様帯を抽出し、区画内に準節縄文施文	南部上層	
281・283・285・288・289	縄文時代中期後葉	281・283・285は口縁部片で、口縁部帯を区画し、胴部は準節縄文施文。288・289は胴部片で、胴部帯によって文様帯を区画し、準節縄文施文	283西部・285北部中層・288中央部上層、281・289埋土中	

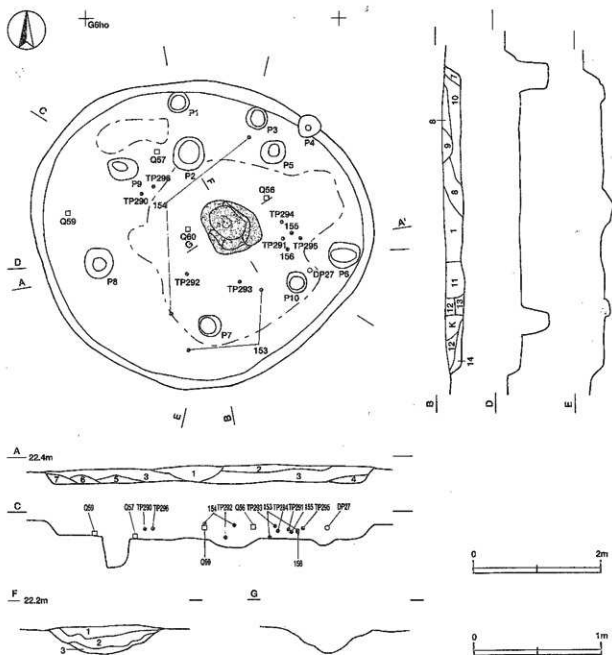
番号	部種	長さ	幅	厚さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
DP26	土器 円板	3.9	4.1	1.0	200	土質	周縁部は難な硬脆	掘土中	P.L.37

番号	部種	長さ	幅	厚さ	高さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q55	門 石	(18.0)	(15.3)	(7.6)	(3.1500)	角閃岩	門面表面	西部中庭	

第30号住居跡 (第65~68図)

位置 調査Ⅱ区南部, G6h0区の平坦部に立地し, 北には第29号住居跡, 東には第28号住居跡が隣接している。
規模と形状 長径5.38m, 短径4.88mの楕円形で, 長径方向はN-75°-Wである。壁高は17~22cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦であり, 掘周辺が踏み固められている。



第65図 第30号住居跡実測図

炉 長径100cm、短径84cmほどの楕円形で、中央部のやや東寄りに付設され、床面を19cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | |
|---|--------|----------------------------|
| 1 | にがい赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 | にがい赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化物・炭微粒 |
| 3 | 赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭少量、ロームブロック・炭化物微量 |

ピット 10か所。P2・P5・P7～P10は深さ11～49cmで規模や配列から主柱穴と考えられ、その他のピットの性格は不明である。

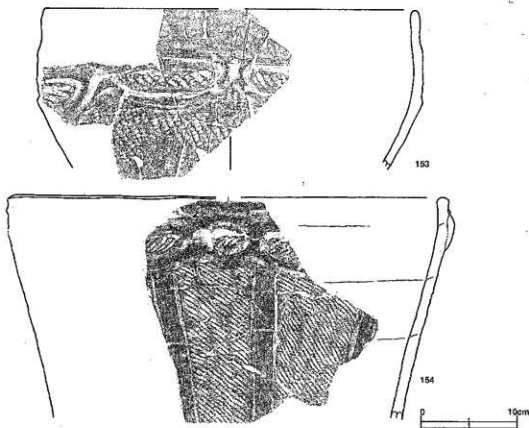
覆土 14層からなり、含有物や不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

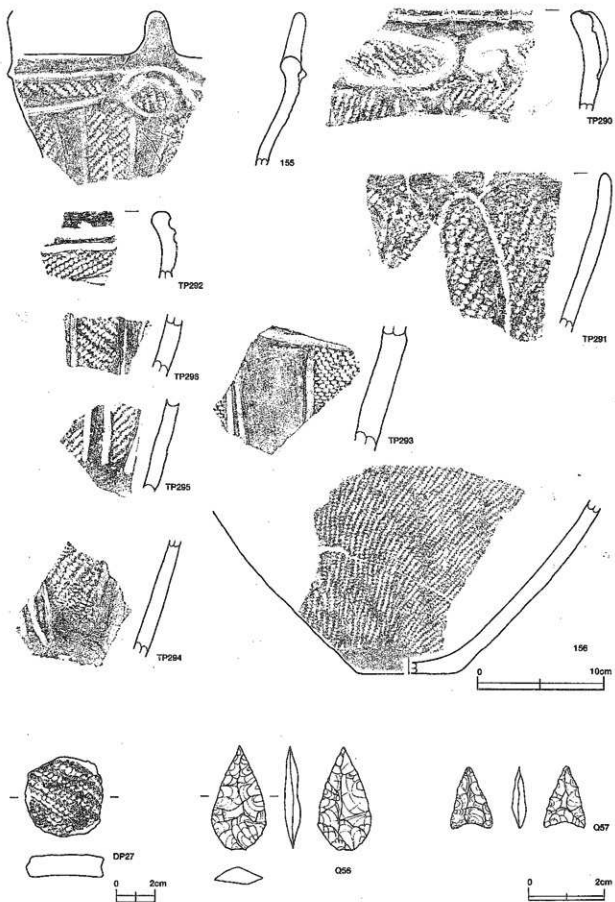
- | | | | | | |
|---|-----|----------------------|----|-----|-------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物少量 | 8 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 | 粗色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 9 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 | 粗色 | ロームブロック多量 | 10 | 褐色 | ロームブロック中量、ローム粒子微量 |
| 4 | 粗色 | ロームブロック多量、ローム粒子微量 | 11 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 | 粗色 | ロームブロック中量 | 12 | 褐色 | ロームブロック多量、炭化物微量 |
| 6 | 粗色 | ロームブロック中量、ローム粒子微量 | 13 | 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子微量 |
| 7 | 明褐色 | ロームブロック多量 | 14 | 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片699点（口縁部88、胴部592、底部19）、土製円板1点、石鏃2点、磨製石斧1点、敲石1点、凹石1点、礫25点が出土している。土器の多くは中央部の覆土中から出土しており、投棄された状況を示している。また、153は南部の床面と東部の覆土中層出土の上器が接合された資料であり、本跡に伴う土器と考えられる。

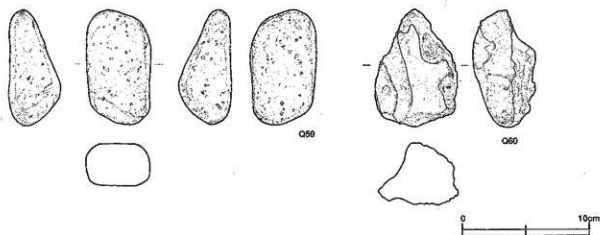
所見 本跡の遺存状態は比較的良好で、床面と覆土中の土器にあまり時期差は認められず、住居廃絶後間もなく投棄されたものと想定される。時期は出土土器から縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。



第66図 第30号住居跡出土遺物実測図(1)



第67图 第30号住居跡出土遺物実測図(2)



第68図 第30号住居跡出土遺物実測図(3)

第30号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	地産	色調	備考(出土位置)
153	縄文土器	深鉢	[39.0]	(16.9)	-	口辺部は基文帯で、胴上部に隆帯による楕円区画がなされしRの単節縄文施文	長石・石英・赤色 砂子	普通	にぶい橙	出陣田・中央D6南 P L 26
154	縄文土器	深鉢	[45.0]	(23.6)	-	口辺部は隆帯によって楕円区画文が隆文され、胴部の壺系文帯にはしRの単節縄文施文	長石・石英・赤澤	普通	にぶい橙	北部・南面上層 P L 26
155	縄文土器	深鉢	-	(12.0)	-	口縁部は隆帯と沈線によって区画され、胴部は壺系文帯にしRの単節縄文施文	長石・白色砂子	普通	にぶい黄褐	東部中層 P L 26
156	縄文土器	深鉢	-	(13.6)	[8.1]	底部分で、胴部にはしRの単節縄文施文	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄褐	東部中層 P L 26

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
290-292	縄文時代 中期 後葉	口縁部片で、290は隆帯によって楕円区画文や壺系文を有し、R1の単節縄文施文。 292は隆帯に沿って沈線区画し、区画内L,Rの単節縄文充文。	290中央部中層, 292中央部東面	P L 33
291-293 ~296	縄文時代 中期 後葉	291は口縁部片で、R1の単節縄文施に沈線によって文様を構成し、293~296は胴部片で、壺系文帯に293はL,Rの単節縄文施、294~296はR1の単節縄文施文。	中央部291・294・296中層, 293上層, 295東部上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
D127	土器 円板	4.2	4.1	1.1	38.0	土器	周縁部縁を研削	東部上層	

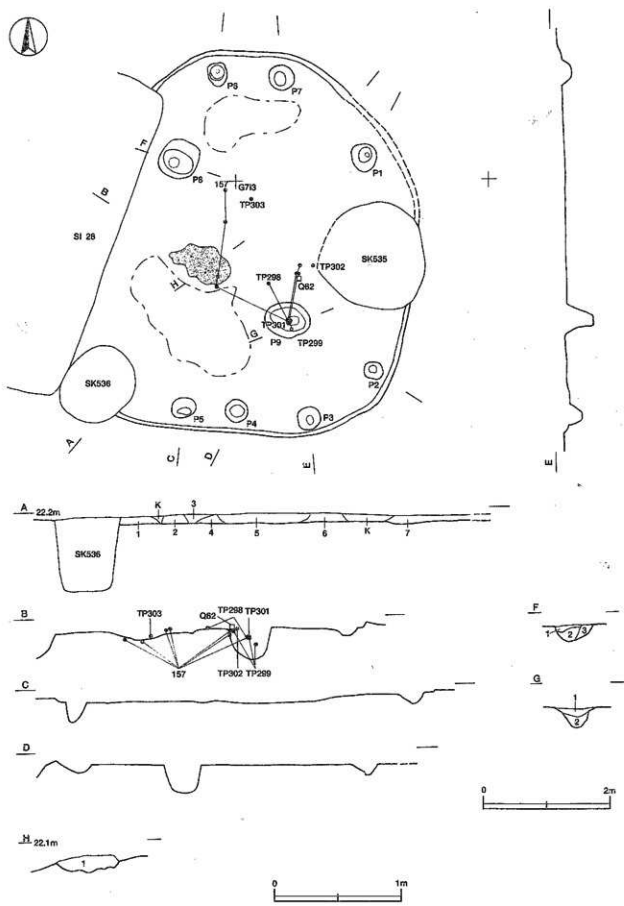
番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q96	石 鏃	2.8	1.4	0.4	1.3	チャート	尖頭型	中央部上層	P L 35
Q97	石 鏃	1.6	1.1	0.4	0.5	チャート	無平縁	北部東面	
Q99	磁 石	9.1	5.2	4.1	396.0	安山岩	周縁部に打撃痕有り	西部東面	
Q98	円 石	(9.3)	(6.6)	(5.0)	(171.0)	安山岩	凹み片面	中央部上層	

第31号住居跡 (第69~71図)

位置 調査Ⅱ区南部、G7I3区の平坦部に立地し、第28号住居跡と重複している。北には第33号住居跡、南には第35号住居跡が隣接している。

重複関係 第28号住居跡、第535・536号土坑に掘り込まれており、第428号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 第28号住居跡に西部を掘り込まれており、検出されたのは長径6.22mと短径4.76mの楕円形と考えられ、長径方向はN-20°-Eである。壁高は4~10cmで、緩やかに外傾して立ち上がる。



第69图 第31号住居跡実測図

床 はほぼ平坦であり、炉の南側がよく踏み固められている。炉の下には第428号土坑があり、土坑の覆土上層を固めて床面を構築している。

炉 長径100cm、短径60cmほどの不整形で、中央部に付設され、床面を12cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物中量

ピット 9か所。P8・P9は深さ34～38cmで規模や配列から支柱穴と考えられ、P1～P7は深さ12～32cmで壁際に配列されていることから壁柱穴と考えられる。

P8土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
2 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量 結まり有り
3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

P9土層解説

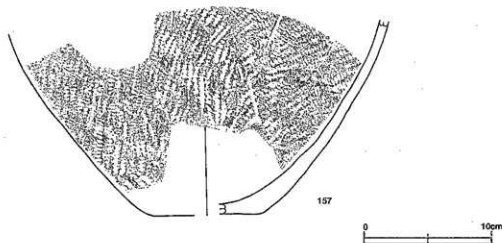
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

覆土 7層からなり、不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
4 暗褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化物微量
5 暗褐色 炭化物中量、焼土ブロック・ロームブロック微量
6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
7 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

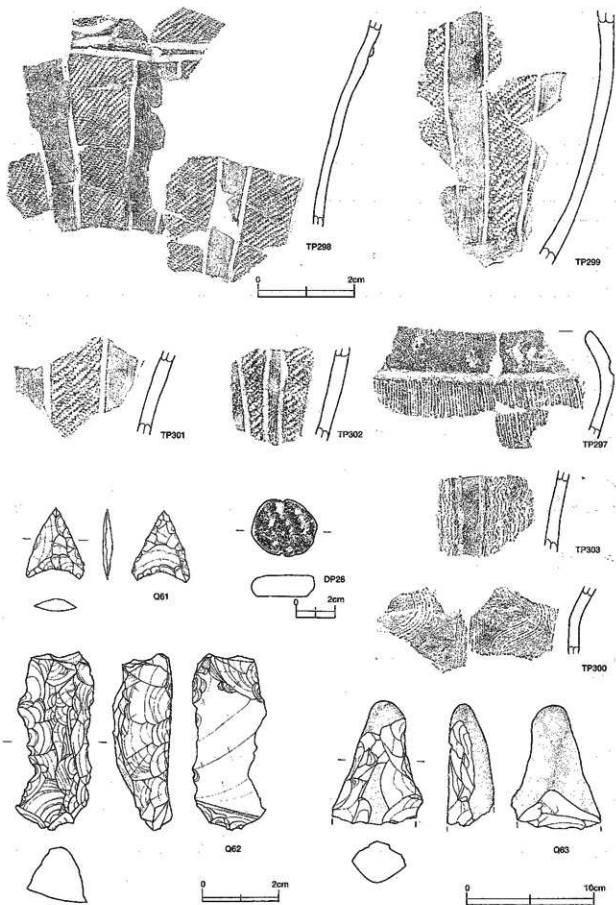
遺物出土状況 縄文土器片433点（口縁部64、胴部365、底部4）、土器片鎌1点、石鏃1点、銅片1点、石槌状石器1点が出土している。土器片の多くは、中央部の床面から出土している。157は炉の直上から出土し、P9の覆土中や中央部の床面から出土した土器が接合されていた資料であり、本跡に伴う土器と考えられる。所見 本跡は西部を第28号住居跡に、東部及び南部を第535号・536号土坑にそれぞれ掘り込まれ、また、硬化面の範囲も狭く遺構の遺存状況はあまり良くないが、出土土器から時期は縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第70図 第31号住居跡出土遺物実測図(1)

第31号住居跡出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	粘土	焼成	色調	備考(出土位置)
157	縄文土器	深鉢	-	(15.0)	[9.0]	底部分で、胴部にはR1の甲線画文飾文	灰石・石英・赤色鉄子	普通	にがい輝	中央部後部 P.L.25



第71图 第31号住居跡出土遺物実測図(2)

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
298-299	縄文時代中期後葉	298は胴部から胴部片で、壺垂文帯に紅の単節縄文施文。口辺部も沈線によって文様帯区画。299は胴部片で、壺垂文帯に紅の単節縄文施文	298中央部床面・P9土層, 299P9土層・中層	
301-302	縄文時代中期後葉	胴部片で、壺垂文帯に紅の単節縄文施文	301P9中層, 302中央部床面	
297	縄文時代中期後葉	口縁部片で、口辺部は横位の沈線で区画し、胴部に縦位の壺垂文施文	覆土中	
300-303	縄文時代中期後葉	胴部片で、いずれも壺垂文が見られ300は沈線、303は壺垂文帯に横位の壺垂文施文	303中央部床面, 300覆土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
DP28	土器片類	3.0	3.4	1.2	13.0	土製	扇輪両面に挟り入り部作出, 扇辺部研物	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q61	石 槌	2.0	1.6	0.3	0.6	安山岩	無著跡	覆土中	P L38
Q62	削 片	4.6	2.0	1.6	13.0	黒曜石	舟底型石核状	中央部床面	
Q63	石籠状石器	(9.7)	(7.1)	(3.2)	(214.0)	安山岩	下部欠損	覆土中	P L39

第32号住居跡 (第72図)

位置 調査Ⅱ区南部, H 6 b0区の緩斜面部に立地し, 北東には第35号住居跡が隣接している。

重複関係 第460号土坑を掘り込んでおり, 第473号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径4.81m, 短径4.32mの楕円形で, 長径方向はN-22°-Wである。壁高は11cmほどで, 緩やかに外傾して立ち上がる。

床 平坦であり, ほとんど硬化面は認められない。

炉 長径84cm, 短径35cmほどの楕円形で, 中央部から西寄りに付設され, 床面を13cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は, 火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 4 に近い赤褐色 ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化物微量
- 5 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子中量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

ピット 検出されなかった。

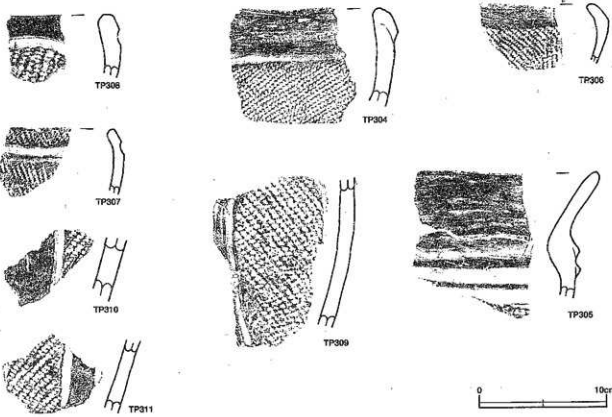
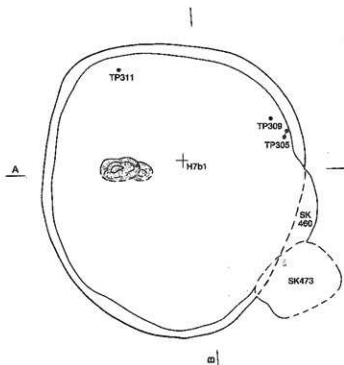
覆土 3層からなり, 含有物や不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化物少量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片276点(口縁部46, 胴部223, 底部7), 土師器片5点, 礫3点が出土している。土師器片は混入である。出土土器は細片で, 東部の覆土中から出土しているものが多く, 时期的には加曾利EⅢ式期を中心としたものである。拓影図で取り上げた土器は床面から出土した土器で, 本跡に伴うものと考えられる。

所見 東部は第460号土坑を掘り込んで構築しているが遺存状況は悪く, 床面も軟弱である。また, 柱穴は床面からは検出されず, 壁外の可能性が想定されたがいずれも不明である。時期は縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第72图 第32号住居跡・出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
305-308	縄文時代中期後葉	口縁部片で口辺部に無文帯を有し、胴部に沈線によって文様帯を構成し、以下早期縄文施文	305東部中層、308覆土中	
304-306	縄文時代中期後葉	口縁部片で口辺部の無文帯を胴部帯で区別し、以下早期縄文施文	覆土中	
307	縄文時代中期後葉	口縁部片で口上の厚縁部を施文し、胴部に沈線の施文	覆土中	
309-311	縄文時代中期後葉	胴部片で垂文帯に早期縄文施文	309東部中層、311北部床面、 310覆土中	

第33号住居跡 (第73図)

位置 調査Ⅱ区南部、G7g3区の平坦部に立地し、北には第26号住居跡が位置し、南には第31号住居跡が隣接している。

重複関係 第551・553・554・555・557・558・560・603号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長さ5.22m、短径4.86mの円形で、長径方向はN-65°-Wである。壁高は5~12cmで、緩やかに外傾して立ち上がる。

床 平坦であり、ほとんど硬化面は認められない。

炉 長さ65cm、短径45cmほどの楕円形で、中央部に付設され、床面を5cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 に近い赤褐色 塗上ブロック多量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量

ピット 9か所。P1・P2、P6~P9は深さ10~20cmで、規模や配列から主柱穴と考えられ、その他のピットの性格は不明である。

覆土 18層からなり、含有物と不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

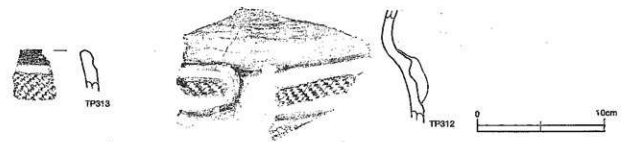
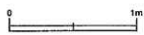
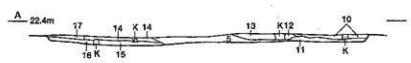
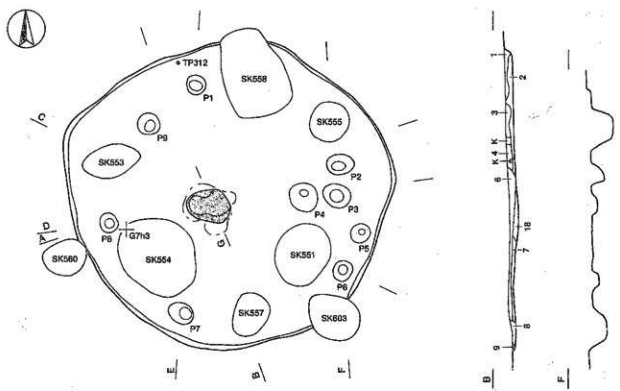
- | | | | |
|--------|------------------------|---------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、炭化粒子微量 |
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 5 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック中量、ローム粒子・炭化物微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 8 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック微量 | 17 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 9 褐色 | ロームブロック中量 | 18 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片87点(口縁部4、胴部82、底部1)が散在した状態で覆土中から出土している。TP312はP1の北西床面から出土しており、本跡に伴うものである。

所見 本跡は多くの土坑に掘り込まれているため、検出された範囲は狭く遺存状況は不良であり、時期は縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第33号住居跡出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
312-313	縄文時代中期後葉	312は口縁部片で、口辺部を無文帯を区別、313は胴部片で、胴上部に沈線による文様帯を区別し、区別内に早期縄文施文	312北部中層、313覆土中	



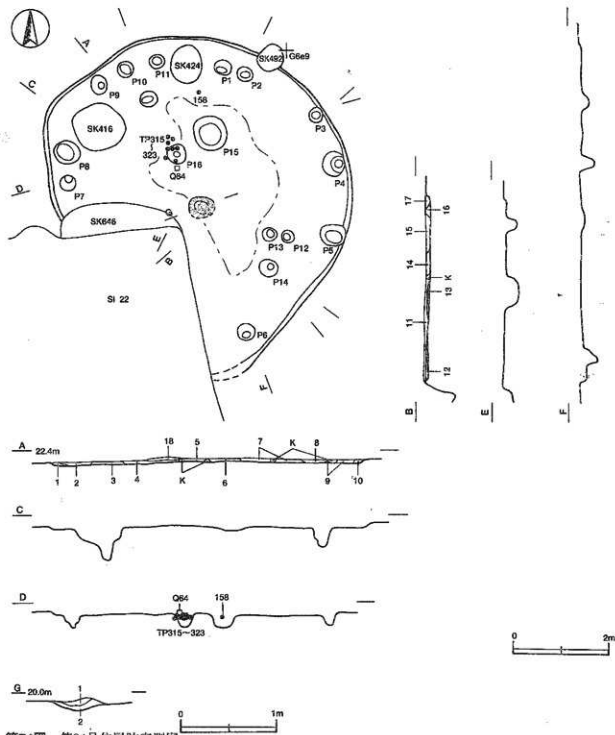
第73図 第33号住居跡・出土遺物実測図

第34号住居跡 (第74・75図)

位置 調査Ⅱ区南部, G6 e8区の平坦部に立地し, 第22号住居跡と重複している。北東には第36号住居跡, 南東には第29号住居跡が位置している。

重複関係 第22号住居跡と第416・424・492・646号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西部は第22号住居跡と第646号土坑に掘り込まれており, 検出されたのは長径6.52m, 短径3.85mだけで楕円形と推定され, 長径方向はN-38°-Wである。壁高は5cmほどで, 緩やかに外傾して立ち上がる。



第74図 第34号住居跡実測図

床 平坦であり、炉の北側がやや踏み固められている。

炉 炉の南部が擾乱を受けているため、検出されたのは長径55cm、短径45cmほどの楕円形と推定され、中央部に付設されている。床面を8cmほど掘り直めた地床炉であり、炉床面は、火熱を受けて赤変している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 におい赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子微量

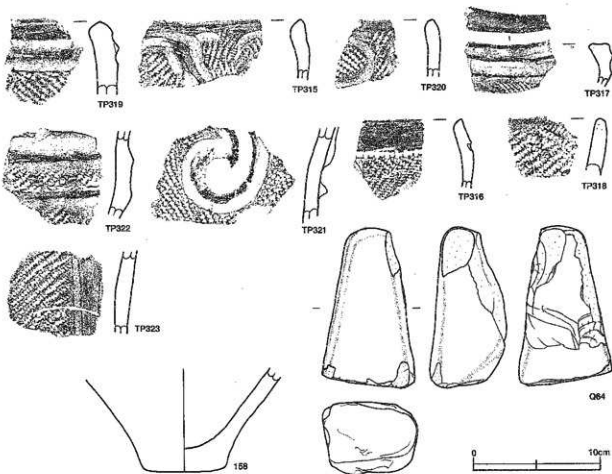
ピット 16か所。P1・P3・P5・P6・P8・P10は深さ20~32cmで、規模や配列から主柱穴と考えられ、その他のピットの性格は不明である。

覆土 18層からなり、含有物や不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、ローム粒子・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 におい褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック、炭化物微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 16 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 17 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 18 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |

遺物出土状況 縄文土器片81点（口縁部15、胴部61、底部5）が出土している。TP315~323を含め、縄文土器片の多くはP16の上層から出土し、投棄されたものと想定される。時代的には加曾利EⅢ式期を中心としたものである。158はP15の北側床面から出土し、本跡に伴うものと考えられる。



第75図 第34号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は古墳時代の住居跡や土坑に掘り込まれており、遺存状況は比較的良くない。また、炉は炉床面の状況から、使用頻度は少なかったと想定される。時期は出土土器から縄文時代中期後葉（加賀利EⅢ式期）と考えられる。

第34号住居跡出土遺物観察表

番号	性別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
158	縄文土器	深鉢	-	(R2)	6.7	底面片で、無文	長石・石英	普通	にぶい橙	北部床面

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
317-319	縄文時代中期後葉	口縁部片で、肩位の隆帯に沿う沈線によって区画され、卑部縄文施文	中央部床面	
315-320	縄文時代中期後葉	口縁部片で、沈線によって文様帯を抽出し、R1の卑部縄文施文	中央部床面	
316-318	縄文時代中期後葉	口縁部片で、R16は口辺部に刺突文を配し、胴部はR1の卑部縄文が羽状に施文	中央部床面	
321-322	縄文時代中期後葉	胴部片で、R22は隆帯によって文様帯を区画し、区画内にR1の卑部縄文を施文、R21は隆帯と沈線によって渦巻文を施文し、R1の卑部縄文施文	中央部床面	
323	縄文時代中期後葉	胴部片で、隆帯文帯に卑部縄文施文	中央部床面	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q64	鏝	12.7	7.4	6.1	732.0	花崗岩	痕打器として使用	中央部床面	P.L.20

第35号住居跡 (第76~78図)

位置 調査Ⅱ区南部、G7J2区の緩斜面部に立地し、北には第28・30・31号住居跡、南には第32号住居跡が隣接している。

規模と形状 長径7.30m、短径7.00mの円形であり、長径方向はN-35°-Eである。壁高は6~16cmで、緩やかに外傾している。

床 全体的にほぼ平坦であるが、北部から南部にかけてやや傾斜し、北部がよく踏み固められている。

炉 3か所。炉1は径120cmほどの円形で、北東部に付設されており、床面を25cmほど掘り窪めた地床炉である。炉2は長径90cm、短径54cmほどの不整形円形で北西部に付設されており、床面を25cmほど掘り窪めた地床炉である。炉3は径95cmほどの円形で炉2の南側に付設されており、床面を20cmほど掘り窪めた地床炉である。いずれの炉床面も火熱を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土ブロック中厚、ロームブロック・炭化物少量	6	暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物少量、灰燼量
2	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量	7	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物・灰燼量
3	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物少量、ローム粒子・灰燼量	8	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子・灰燼量
4	暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物少量、灰燼量	9	にぶい赤褐色	焼土ブロック中厚、炭化物・灰燼量
5	にぶい赤褐色	焼土ブロック中厚、ロームブロック・炭化物・灰燼量			

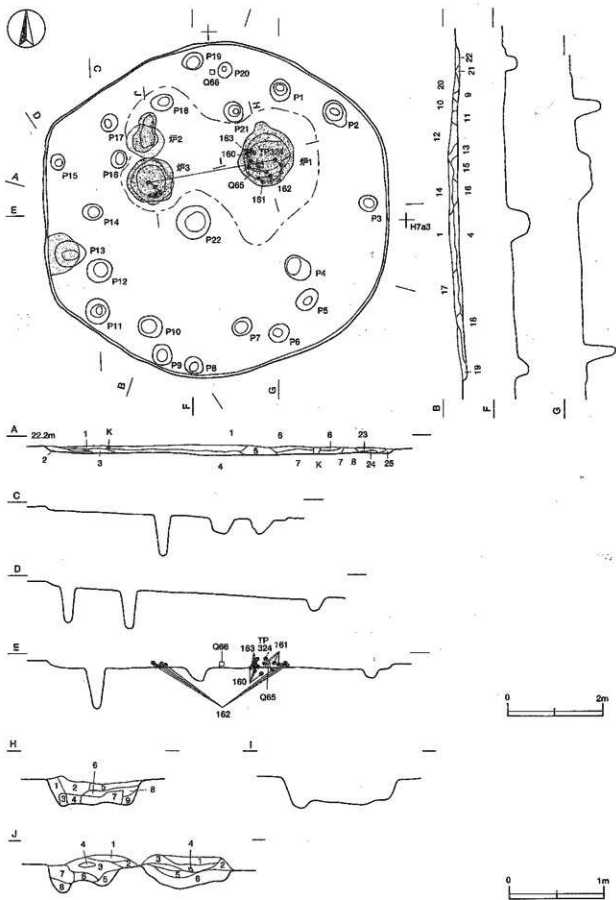
炉2土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化物・灰燼量	5	赤褐色	ロームブロック多量、焼土粒子少量
2	にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物・灰燼量	6	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量
3	にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中厚、炭化物・灰燼量	7	にぶい赤褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物・灰燼量	8	褐色	ロームブロック多量

炉3土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土ブロック中厚、ロームブロック・炭化物・灰燼量	4	暗赤褐色	焼土ブロック中厚、ロームブロック少量、炭化物・灰燼量
2	褐色	ロームブロック少量、炭化物・灰燼量	5	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物・灰燼量
3	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化物・灰燼量	6	暗褐色	ロームブロック中厚、炭化物・灰燼量

ピット 22か所。P2・P4・P8・P12・P17・P20は深さ23~46cmで、規模や配列から主柱穴と考えられ、その他のピットの性格は不明である。



第76图 第35号住居跡実測图

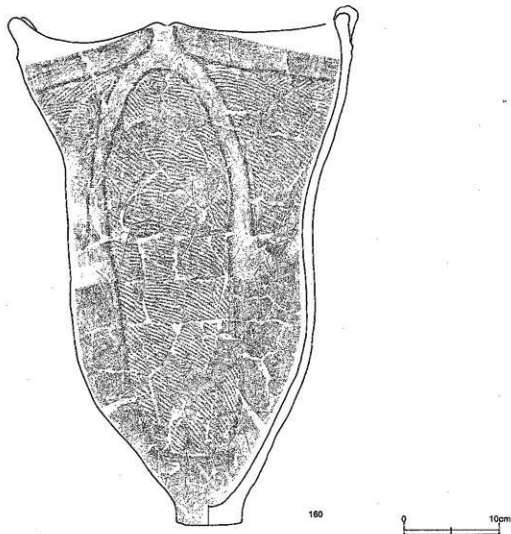
覆土 25層からなり、不連続な堆積状況と含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

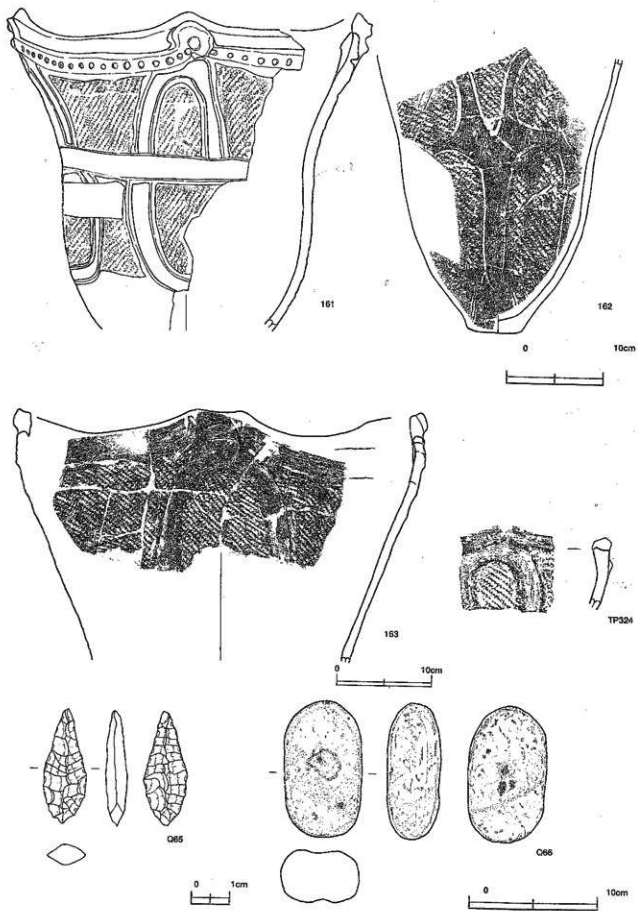
1 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	14 極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2 極暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	15 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	17 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
5 暗褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物微量	18 極暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
6 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	19 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
7 極暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	20 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
8 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	21 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
9 褐色	ロームブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量	22 極暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
10 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	23 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
11 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	24 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
12 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	25 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
13 暗褐色	ロームブロック中量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片1,209点（口縁部86、胴部1115、底部8）、石鉄1点、磨石1点、礫23点が出土している。炉1の覆土中から上面にかけては多くの土器が出土し、ある程度の形まで接合できるものがほとんどである。160・161は炉1から、162は炉1と炉3の上層から出土した土器が接合された資料であり、本跡に伴うものと考えられる。Q66は北部の覆土中層から出土し、磨石や凹石としての多用途の使用が想定される。

所見 本跡は炉が3か所検出され、炉1は特に掘り込みもしっかりしており、その状況から主体的な使用が考えられる。時期は出土土器から縄文時代中期後葉（加富利EIV式期）と考えられる。



第77図 第35号住居跡出土遺物実測図(1)



第78图 第35号住居跡出土遺物実測图(2)

第35号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	口径	文様の特徴	胎土	施文	色調	備考(出土位置)
160	縄文土器	深鉢	35.6	54.8	7.0	文様は微隆帯によって、底部部を起点とするY字状文の区画文を露出し、区画内にはR.Lの半筋縄文充填	長石・赤色粒子	普通	にぶい	伊1上層 P.L.26
161	縄文土器	深鉢	[35.1]	[33.9]	-	口辺部に円形刺突文を施らし、胴部文様は微隆帯によって露出し、区画内にはR.Lの半筋縄文充填	長石・赤色	普通	粗	伊1上層 P.L.26
162	縄文土器	深鉢	-	[28.0]	5.7	文様は沈凹によって露出した上2段構成で、区画内にはL.Rの半筋縄文充填	長石・石灰・黄砂	普通	にぶい	伊1・伊3上層 P.L.26
163	縄文土器	深鉢	[41.6]	[20.5]	-	文様は微隆帯によって露出し、底部部を起点とするY字状文の区画で、区画内にはL.Rの半筋縄文充填	長石・石灰・赤色粒子	普通	にぶい	伊1上層 P.L.26

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
324	縄文時代中期後葉	口縁部片で、微隆帯によって文様帯を区画し、区画内にL.Rの半筋縄文充填。	伊1上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q65	石 鏝	3.1	1.1	0.6	1.6	安山岩	尖頭状	伊1上層	P.L.38
Q66	磨 石	10.7	6.1	4.2	404.0	安山岩	磨縁に磨面、上下部部に磨打痕	北部中野	

第36号住居跡 (第79・80図)

位置 調査Ⅱ区北部、G6 b9区の平坦部に立地し、南西には第34号住居跡、南東には第27号住居跡が位置している。

重複関係 第385・386・458・465・476・478・479・482・485・486号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径8.21m、短径7.89mの円形で、長径方向は、N-80°-Wである。壁高は5~21cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦であり、ほとんど硬化面は認められない。

炉 東側半分はどがやや攪乱を受けているため、長径70cm、短径55cmの楕円形と推定される。中央部に付設され、床面を37cmほど皿状に掘り窪めた地床炉であり、炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

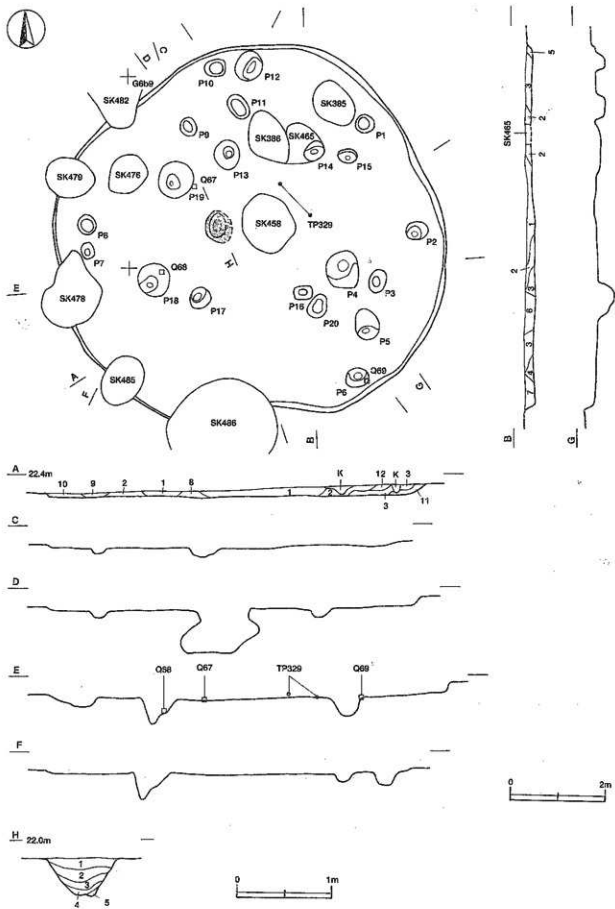
- | | | | |
|----------|------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化物少量、ロームブロック・炭微粒 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物・灰少量、ロームブロック微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化物微量 | | |

ピット 20か所。P4・P14・P18・P19は深さ35~57cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。また、P1・P2・P6・P7・P8は、深さ16~30cmで壁周辺部に配列されており、壁柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

覆土 12層からなり、不連続な堆積状況と含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

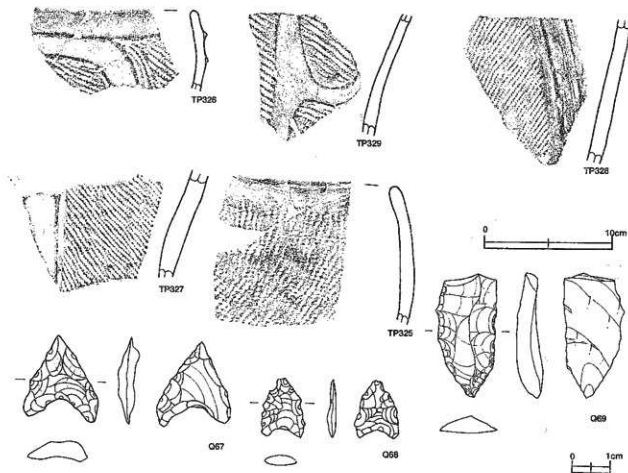
- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 8 褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量 | 11 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | 12 褐色 | ローム粒子少量 |



第79图 第36号住居跡実測图

遺物出土状況 縄文土器片173点（口縁部13、胴部152、底部8）、石鏝2点、ナイフ形石器1点が出土している。ナイフ形石器は混入である。土器は中央部の覆土中層から出土しているものが多く、329は中央部の床面と覆土中層の土器片が接合された資料で、本跡に伴う土器と考えられる。

所見 本跡は多くの土坑に掘り込まれているが、遺構の遺存状況は比較的良好である。時期は出土土器から縄文時代中期後葉（加曾利ⅡⅣ期）と考えられる。



第60図 第36号住居跡出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表

TP番号	時期	形状および文様の特徴	出土位置	備考
325-329	縄文時代中期後葉	325は口縁部片、327-329は胴部片、小平は周縁部。小平は周縁部等によって文様帯を区別し、区内に準拠縄文文様	329中央部床面・中層、他覆土中	P.L.33
325	縄文時代中期後葉	口縁部片で口縁部に無文帯を有し、胴部は口の平縁縄文文様	覆土中	

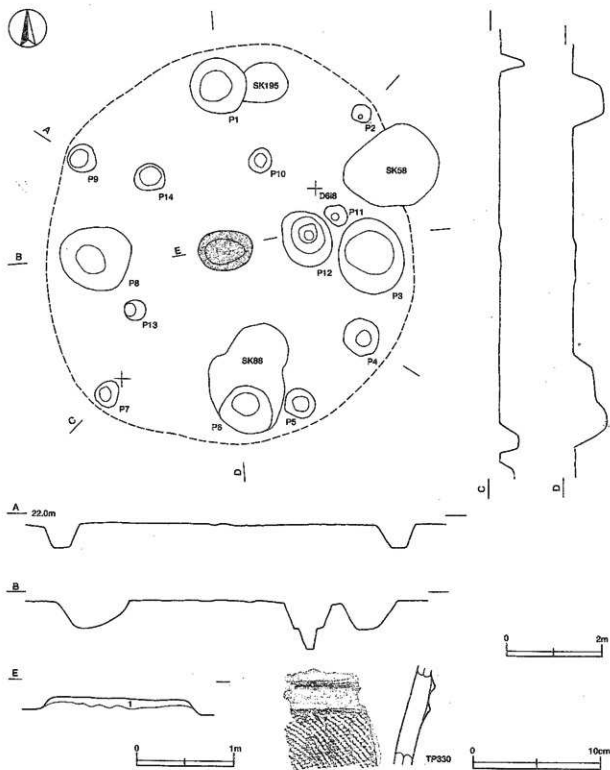
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q67	石鏝	2.3	1.9	0.6	1.3	チャート	無文様	中央部床面	P.L.38
Q68	石鏝	1.6	1.2	0.1	0.4	黒曜石	小形無文様	P.18中層	P.L.38
Q69	ナイフ形石器	3.3	1.6	0.7	2.7	硬質頁岩	縦長細片を素材とする上半部は主要割縁面側から折損、二個縁加工	南東部床面	旧石器 P.L.38

第37号住居跡 (第81図)

位置 調査Ⅱ区北部, D6 i7区の平坦部に立地し, 北西には第38号住居跡, 西には第9号住居跡が位置している。

重複関係 第58・88・195号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 壁は削平されているが, 炉や柱穴の配置から長径8.20m, 短径7.60mほどの円形と推定される。



第81図 第37号住居跡・出土遺物実測図

床 平坦であり、ほとんど硬化面は認められない。

炉 長径110cm, 短径84cmの楕円形で、中央部に付設されており、床面を2cmほど掘り窪めた地床炉であり、炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ロームブロック少量, 炭化物微量

ピット 14か所。P1・P3・P6・P8は深さ50~65cmで規模や配列から主柱穴と考えられ、その他のピットの性格は不明である。

覆土 削平されているため検出されなかった。

遺物出土状況 縄文土器片17点(胴部17)が散在している状態で出土している。

所見 本跡の壁はすでに削平されているため炉や柱穴の配列から住居規模が推定できた。時期は出土土器や住居形態などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第37号住居跡出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
330	縄文時代中期後葉	胴土器片で、縁帯と沈線によって区別され、1.1の早期縄文線文	覆土中	

第38号住居跡 (第82図)

位置 調査区北部、D6g5区の平坦部に立地し、南には第9号住居跡、南東には37号住居跡が位置している。

重複関係 第7号住居跡や第1号土器埋設遺構、第51・52・56・57・60・62・126号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 壁は削平されているが、炉や柱穴の配列から長径7.90m, 短径6.70mほどの楕円形と推定される。

床 ほほ平坦であり、ほとんど硬化面は認められない。

炉 長径128cm, 短径67cmの楕円形で中央部に付設され、床面を5cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量 3 暗赤褐色 ローム粒子中量, 炭土粒子少量
2 に近い赤褐色 ローム粒子・炭土粒子中量 4 褐色 ロームブロック中量

ピット 7か所。P1・P2・P4・P7は深さ20~48cmで規模や配列から主柱穴と考えられ、その他のピットの性格は不明である。

P1土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量

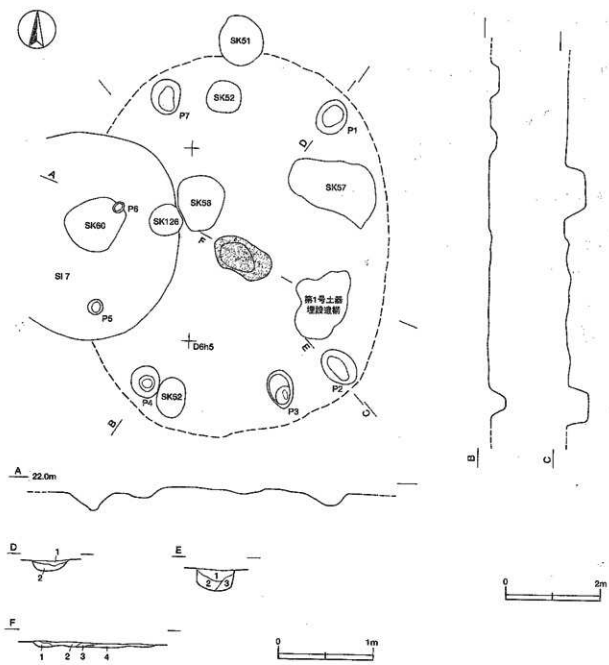
P2土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量
3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

覆土 削平されているため、検出されなかった。

遺物出土状況 縄文土器片19点(口縁部4, 胴部15)が床面に散在した状態で出土しているが、細片のため図示できるものはない。

所見 本跡は、削平されているため壁の立ち上がりを確認することができなかったが、炉と柱穴の配列から住居規模が推定できた。時期は出土土器や重複関係から、縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第82図 第38号住居跡実測図

第39号住居跡 (第83・84図)

位置 調査Ⅱ区北部、D711区の平坦部に立地し、北西には第10号住居跡が、南西には第11号住居跡が位置している。

規模と形状 北東部の壁は削平されているが、長さ5.00m、短径4.60mほどの円形と推定され、確認された壁は8~12cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり、ほとんど硬化面は認められない。

炉 中央部に付設され、長さ70cm、短径59cmの楕円形と推定される。床面を10cmほど掘り窪めた地床がである。切床面は火熱を受けてやや赤変している。

炉土層解説

- 1 濃い赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

ピット 6か所検出されているが、いずれも主柱穴とは考えにくい。また、壁外からも発見されていないため、各ピットの性格は不明である。

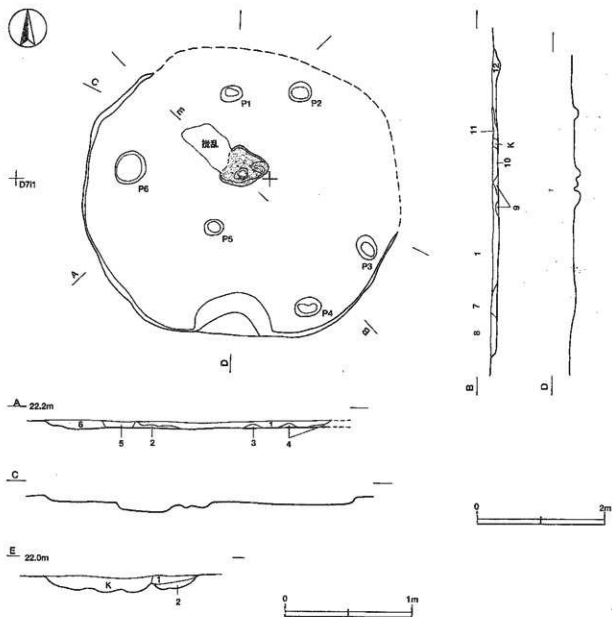
覆土 12層からなり、不連続な堆積状況と含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

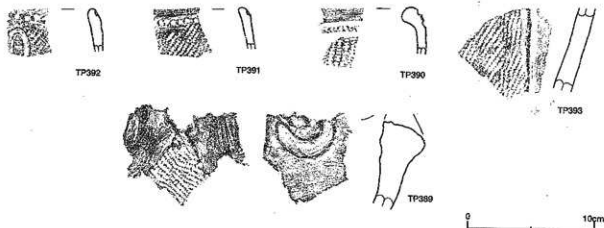
1 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量	7 暗褐色	ロームブロック少量
2 褐色	ロームブロック少量	8 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
4 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	10 黒暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	11 褐色	ロームブロック少量
6 褐色	ロームブロック少量	12 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片70点（胴部69, 底部1）が床面に散在した状態で出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 本跡は方跡の状況や床面の状況から、使用された期間は短かったと想定される。時期は出土土器から、縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ～Ⅳ式期）と考えられる。



第83図 第39号住居跡実測図



第84図 第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
390-392	縄文時代中期後葉	390-392は口縁部片で、黒色の厚輪縄文地文に口縁部に斜交文を造文した上唇で、392は逆縁で文様を露出、390は縁部の残存によって文様帯を認め	葦土中	
389-393	縄文時代中期後葉	頸縁部による文様帯を認め、389は把手部、393は胴部片であり、黒色の厚輪縄文地文	葦土中	

第40号住居跡 (第85・86図)

位置 調査Ⅱ区北部、E64区の平坦部に立地し、西には古墳時代後期の第15号住居跡、南西には第16号住居跡が位置している。

規模と形状 長径3.34m、短径3.10mほどの隅丸方形と推定され、壁高は31cmほどで外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦であり、ほとんど硬化面は認められない。

ピット 2か所。P1・P2は深さ25-43cmで主柱穴と考えられる。

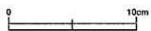
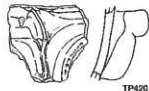
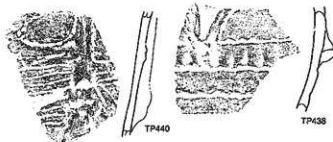
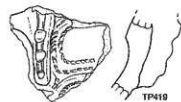
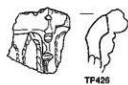
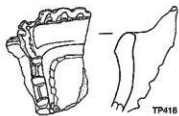
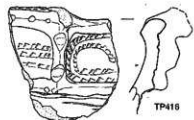
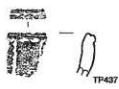
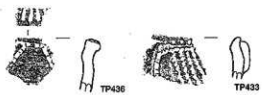
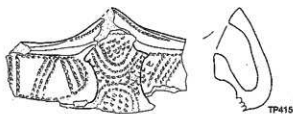
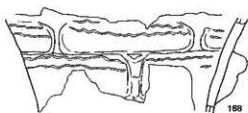
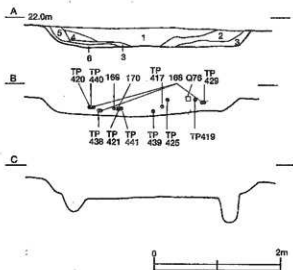
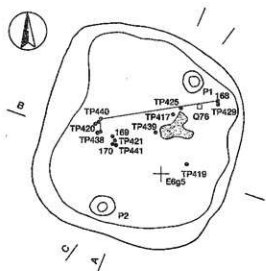
覆土 6層からなる。最上層は投棄された状況を示し、その下の層は自然堆積の状況を示している。

土層解説

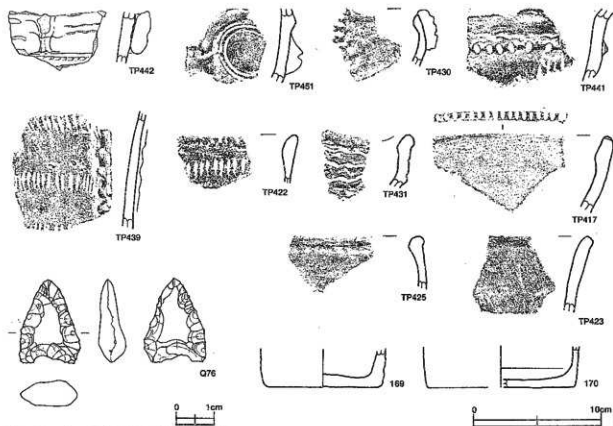
- | | | | |
|-------|--------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片486点（口縁部48、胴部414、底部24）、石器1点、礎8点が出土している。土器は中央部から北東にかけて多く出土し、投棄された状況を示している。时期的には阿玉台Ib～Ⅱ式期のものが中心に出土し、168は中央部からやや西側寄りの覆土中層から出土した土器と東部上層から出土した土器が接合された資料である。また、中央部東寄りの床面から焼土が出土しており、仮として短期間使用されたものと想定される。

所見 本跡は、住居としてはやや小形であり、古式の阿玉台期の形態と類似している。時期は出土土器と住居の形態から、縄文時代中期前葉（阿玉台Ib～Ⅱ式期）と考えられる。



第85圖 第40号住居跡・出土遺物実測図



第86図 第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
168	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	縁部によって文様帯を区画し、区内には2組の角形文様文。外面はやや窪凹	長石・雲母	普通	黒	北部上層・西部中層
169	縄文土器	深鉢	-	(3.0)	φ9.4	底部分で、副代板が確認されるが、器面は若干荒れ目立つ	長石・石英・雲母	普通	明黒	中央部中層
170	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	φ11.6	底部分で、副代板確認	長石・石英・雲母	普通	におい赤黒	中央部中層

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
415-442	縄文時代中期前葉	口縁部を折した口縁部で、422は底部内で角形文によって文様帯	覆土中	P.L.33
416-418	縄文時代中期前葉	口縁部内で最上部と角形文によって文様帯を区画し、区内には角形文	覆土中	P.L.33
439-431	縄文時代中期前葉	口縁部内で、439は口縁部に角形文を有し、431は口縁部に半角形文による文様帯、439-431は口縁部に角形文を有す	覆土中	
436-437		角形文が連続し、角形文によって文様帯を区画		
421-427	縄文時代中期前葉	口縁部内で、角形文によって文様帯を区画している。427は口縁部に角形文を有す	429北部中層、427・428覆土中、421中央部中層	
~429				
419-420	縄文時代中期前葉	底部分で、419は口縁部に角形文によって文様帯を区画し、420は口縁部に角形文を有し、419は口縁部に角形文を有す	419北部上層、420西部中層、423覆土中	
450				
438-440	縄文時代中期前葉	口縁部内で小波状の半角形文を有し、438は口縁部に角形文によって文様帯を区画し、439は口縁部に角形文を有す	438・440西部中層	
431-431	縄文時代中期前葉	口縁部内で、431は口縁部に角形文を有し、431は口縁部に半角形文による文様帯が形成し、431は口縁部に角形文を有す	411中央部中層、他覆土中	P.L.33
441				
422-430	縄文時代中期前葉	口縁部内で、422は口縁部に角形文を有し、423は口縁部に角形文を有し、424は口縁部に角形文を有し、425は口縁部に角形文を有す	430中央部下層、他覆土中	
439				
417-423	縄文時代中期前葉	口縁部内で、417は口縁部に角形文を有し、422は口縁部に角形文を有す	417中央部中層・423北部上層、423覆土中	
425				

番号	築期	長さ	幅	厚さ	高さ	石材	特徴	出土位置	備考	
Q76	石	礎	2.2	1.5	0.7	2.2	チャート	無名窯、一部未調査	北東部上層	

(2) 炉跡

今回の調査では、炉跡が3か所調査されている。

第1号炉跡(第87図)

位置 調査Ⅱ区北部, E6c7区の平坦部に立地し, 北東には第13号住居跡が位置している。

規模と形状 長径0.75m, 短径0.47mの不整楕円形で, 長径方向はN-60°-Eである。深さは6cmほどで, 底面には凹凸があり, 中央部が火熱を受けて赤変している。壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡に伴う遺物は出土していないが, 形態や他の炉跡との比較から縄文時代中期の住居跡に伴う炉跡と考えられ, 床・柱穴などについては不明である。

第2号炉跡(第87図)

位置 調査Ⅱ区北部, D7j2区の平坦部に立地し, 北には第39号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.10m, 短径0.90mの不整形円で, 長径方向はN-45°-Wである。深さは10cmほどで, 底面には凹凸があり, 中央部が火熱を受けて赤変している。壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量
- 3 赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子微量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡に伴う遺物は出土していないが, 形態や他の炉跡との比較から縄文時代中期の住居跡に伴う炉跡と考えられ, 床・柱穴などについては不明である。

第3号炉跡(第87図)

位置 調査Ⅱ区中央部, E7g3区の平坦部に立地し, 西には第18・19号住居跡が位置している。

規模と形状 東部と西部が削平されているため, 検出されたのは長径0.70m, 短径0.50mで, 本来は楕円形と推定される。長径方向はN-48°-Wであり, 深さは7cmほどである。底面には凹凸があり, 西部は火熱を受けて赤変している。壁は削平されていたため, 立ち上がりを確認することはできない。

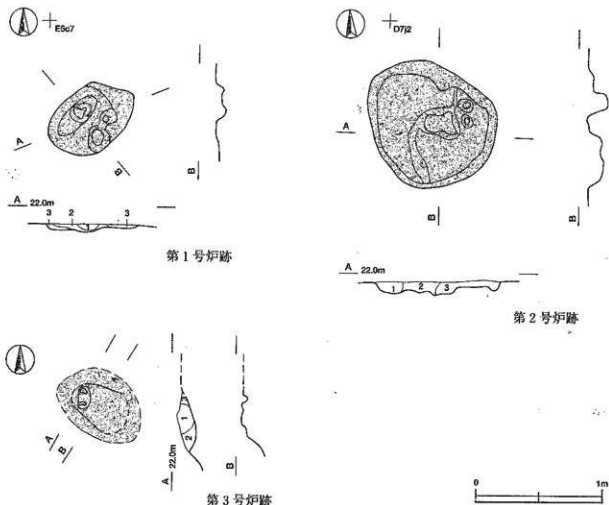
覆土 3層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡に伴う遺物は出土せず, 遺存状況もあまり良くないが, 形態や他の炉跡との比較から縄文時代中期の住居跡に伴う炉跡と考えられ, 床・柱穴などについては不明である。



第87図 炉跡実測図

炉跡一覧表

炉跡番号	位置	長短方向	平面形	規模 (m)	深さ	底面	覆土	主な出土遺物	備考
1	E 6 c 7	N-60°-E	不規則形	0.75 × 0.47	6	凹凸	自然		縄文時代中期
2	D 7 j 2	N-45°-W	不規則形	1.10 × 0.90	10	凹凸	自然		縄文時代中期
3	E 7 j 2	N-48°-W	[楕円形]	(0.70) × (0.50)	7	凹凸	自然		縄文時代中期

(3) 土器焼成遺構

今回の調査で、廃絶住居跡から縄文土器を焼いた土器焼成遺構1基を検出した。

第1号土器焼成遺構(第88~91図)

位置 調査Ⅱ区中央部、F6g7区の平坦部に立地し、第14号住居跡・第21号住居跡と重複している。また、北西には第25号住居跡が位置している。

埋蔵状況 焼成遺構上面は黒褐色土が広がっており、多くの縄文土器片が確認された。調査当初は単独遺構として調査を進めたが、第1層目を約10cm掘り下げたところで焼土が広範囲に検出されたため、住居跡以外の遺構があることが判明した。

重複関係 第21号住居跡が廃絶された後に中央部の窪地にやや掘り込みを加えて土器焼成遺構に利用し、第14号住居跡に南部を掘り込まれている。

規模と形状 南部を第14号住居跡に掘り込まれているため、検出できたのは長径が3.8m、短径3.7mの楕円形である。長径方向はN-38°-Wであり、深さは40cmほどで、緩やかに外傾して立ち上がる。窪地をやや掘り込んだ中で焼かれた焼土範囲は、南部を掘り込まれているため長径は2.65m、短径2.55mである。形状は楕円形を呈し、焼土の厚さは35cmほどである。

底面 第21号住居跡の窪地を利用していためやや皿状を呈している。

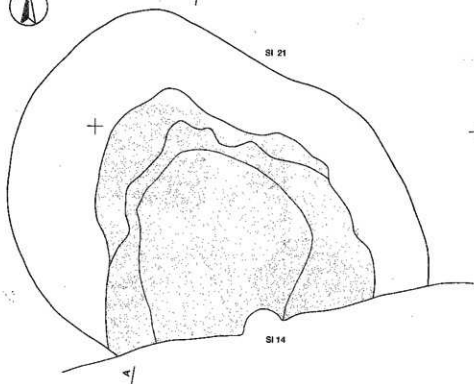
覆土 9層からなり、少なくとも3度は土器を焼いている状況を示している。特に、3~5層は焼土が厚く堆積しており大量に火を焚いた痕跡を示している。

土層解説

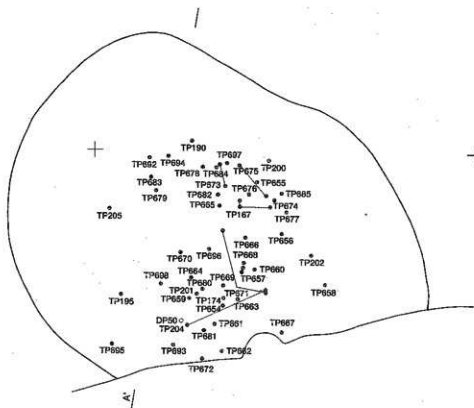
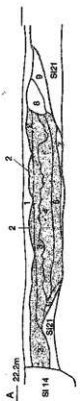
1 黒褐色 romeブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	6 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量、rome粒子微量
2 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量	7 細暗褐色 炭化物少量、romeブロック・焼土粒子微量
3 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物微量、綿まり極めて強い	8 細暗褐色 romeブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
4 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物少量	9 褐色 romeブロック中量、焼土粒子・炭化物微量
5 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物・rome粒子微量	

遺物出土状況 縄文土器片722点(口縁部103, 胴部601, 底部18), 粘土塊1点, 礫20点が出土している。破片でとりあげたものを含めて、土器は2層からも出土しているが、3~5層内から出土したものがほとんどであり、多くはここで焼かれたものと想定される。覆土下層の5層から出土した土器は、廃絶後の住居がまだ埋まりきらない段階に掘り込み加えて、焼かれた最初のもので想定される。覆土中層の4層は、一番焼土の層が厚く、土器が大量に焼かれたものと考えられる。覆土上層の2・3層から出土した土器は、当遺構での最終段階に焼かれたものと想定される。各層とも上面は火床部として赤変硬化しており、これらの面からの土器の出土が多い。焼成された粘土塊は5層から出土し、成形前のもので想定される。

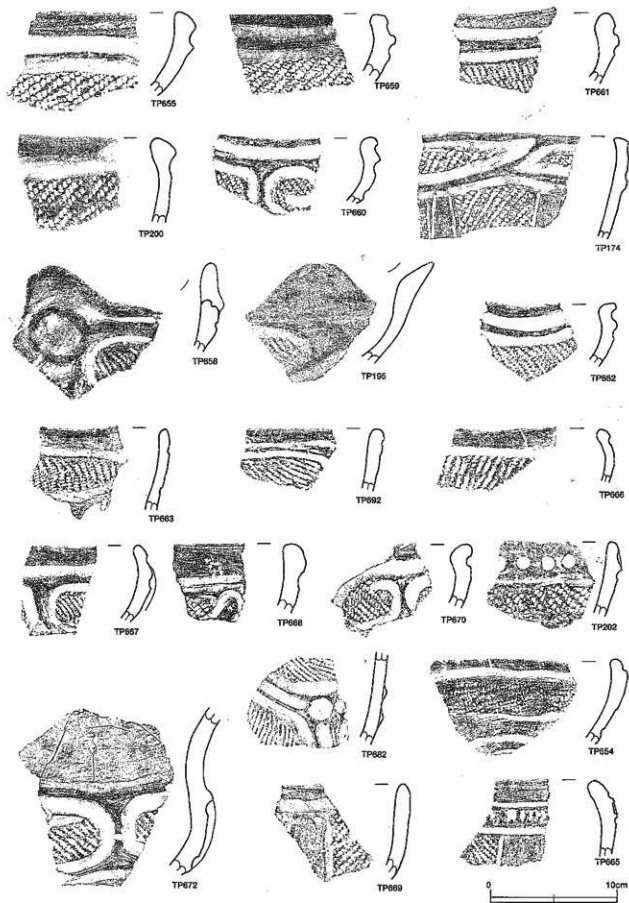
所見 検出した焼土範囲を把握し、平面的に調査を進めると、多くの土器が3~5層の赤変硬化した面の間から出土し、赤変硬化した面は、火床部と想定される。本跡は遺物的には第21号住居跡と若干時期差が見られ、廃絶した住居跡の窪地にやや掘り込み加えて利用した土器焼成のための遺構である。遺構周辺にも多量の土器が出土しており、本跡で焼かれたものと想定できる。視覚的特徴としては、他の遺構出土の土器と比べて焼土中にあったため赤みを帯びている土器が多く、焼成された粘土塊も出土している。また、土器は加曾利EⅢ式土器がほとんどであるため、3~5層で焼かれた土器の時期差は確認されず、時期は縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



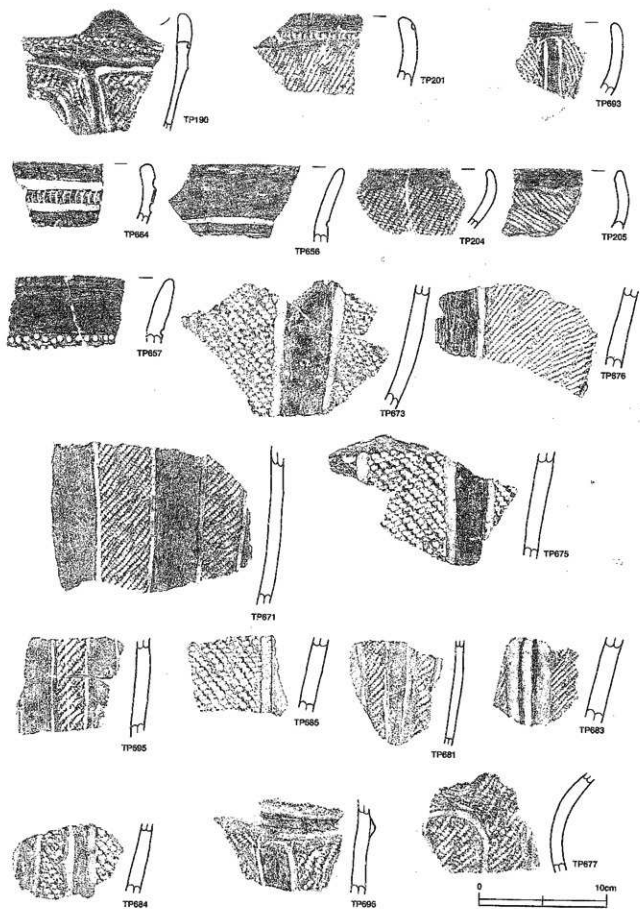
F898



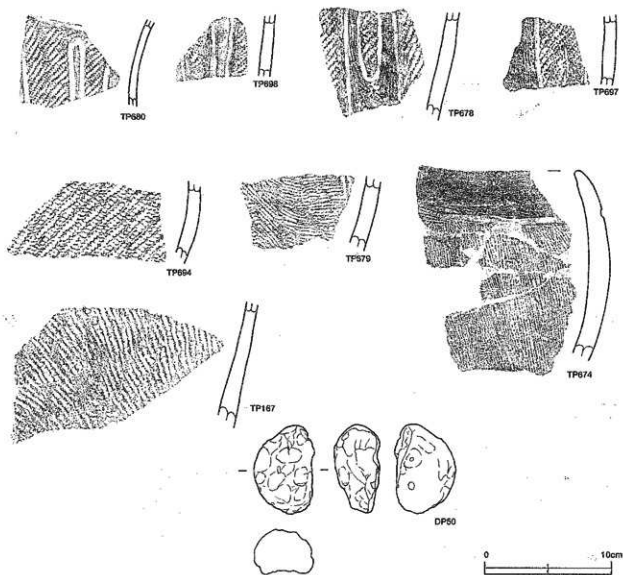
第88图 第1号土器烧成遺構実測図



第89圖 第1号土器烧成遺構出土遺物実測圖(1)



第90图 第1号土器烧成道構成上遺物実測図(2)



第91図 第1号土器焼成遺構出土遺物実測図(3)

第1号土器焼成遺構出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
200-625 659-661	縄文時代中期後葉	口縁部片で、溝状の沈線で1辺部を区画し、200-625はRLの単線縄文、659-661はRLの単線縄文・施文	200・661 3割、659・630 4割	P.L.31
174-660 662	縄文時代中期後葉	口縁部片で、縁部と沈線での1辺部を区画し、区画内にRLの単線縄文・施文、174は沈線による彫文帯が彫部に施文	174・660 4割、662 3割	P.L.34
195-638	縄文時代中期後葉	口縁部片で、溝状の沈線と沈線によって1辺部を区画し、区画内にRLの単線縄文・施文	195 2割、638 4割	P.L.34
654-663 665-662	縄文時代中期後葉	口縁部片で、沈線によって1辺部を区画し、区画内にRLの単線縄文・施文	654 5割、663・666 4割、 662 2割	P.L.34
202-667 668-670	縄文時代中期後葉	口縁部片で、縁部と溝状の沈線での1辺部を区画し、区画内にRLの単線縄文・施文、202は口縁部無文帯を縁部の沈線で区画し、区画内に口縁部無文を有し、以下RLの単線縄文・施文	4割	P.L.34
665-669	縄文時代中期後葉	口縁部片で、1辺部を区画する沈線によって1辺部を区画し、665は1辺部に施文を有す	4割	P.L.34

TP番号	時期	彫形および文様の特徴	出土位置	備考
672-682	縄文時代中期後葉	彫形片で672は縦帯に斜う状線によって隣り区画文を抽出し、区内に刺しの半部縄文文様、682は身帯によって文様帯区画	672 2層、682 4層	P.L.34
190-201	縄文時代中期後葉	口縁部片で、190は縦帯によって支線帯を区別し、201は1区画に半横帯文を有す、190は、	190・664 5層、201 3層、	P.L.34
664-667		横長の波線帯に斜めを光射し、664・667は1区画に半横帯文帯に斜交文様	667 4層	
204-205	縄文時代中期後葉	口縁部片で、204・205は1区画に半横帯文を有し、以下、F.L.の半部縄文文様(682)に類似の口縁部	204 2・3層、205 2層、666 3層	P.L.34
656		横文帯に横位の波線が走る		
693	縄文時代中期後葉	口縁部片で、懸垂区画帯にL.R.の半部縄文文様	3層	
671-675	縄文時代中期後葉	彫形片で671-675は懸垂区画帯にL.R.の半部縄文文様	676 4層、671 5層	P.L.34
673-675	縄文時代中期後葉	彫形片で、懸垂区画帯にL.R.の半部縄文文様	4層	P.L.34
684-683	縄文時代中期後葉	彫形片で、穴つれ懸垂区画帯を有し、区内に半部縄文文様	681 3層、685 2層、683・684・	P.L.34
684-685			685 4層	
685				
677-696	縄文時代中期後葉	彫形片で波線による上部の連続する懸垂区画帯を有し、696は基部に横位の波帯で支線帯を区分	4層	
678-697	縄文時代中期後葉	彫形片で、波線による懸垂区画帯を抽出し、L.R.の半部縄文文様	678・680 4層、697 3層、698 2層	
698-690				
167-674	縄文時代中期後葉	167は口縁部片で、L.R.の半部縄文文帯を有し、以下縦位の波線文様、他は彫形片で674はL.R.	167・694 2層、674・679 3層	P.L.34
679-694		の半部縄文、679はL.R.の半部縄文、694はL.R.の半部縄文文様		

番号	彫形	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
DP90	粘土塊	7.1	4.8	3.7	99.0	粘土塊に割痕あり、火傷を受けて変色	5層	

(4) 土器埋設遺構

第1号土器埋設遺構 (第92図)

位置 調査Ⅱ区北部、D 6 g5区の平坦部に立地し、南には第9号住居跡が位置している。

重複関係 第38号住居跡の南東部を掘り込んでいる。

規模と形状 中央部に深鉢形土器が埋設されているが、掘り方は長径1.59m、短径0.88mの不定形であり、長径方向はN-34°-Eである。深さは25cm、底面はやや皿状を呈し、縁は南西部に緩やかに立ち上がり、その他は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなり、土器を埋設の際に埋め戻された土層である。

土層解説

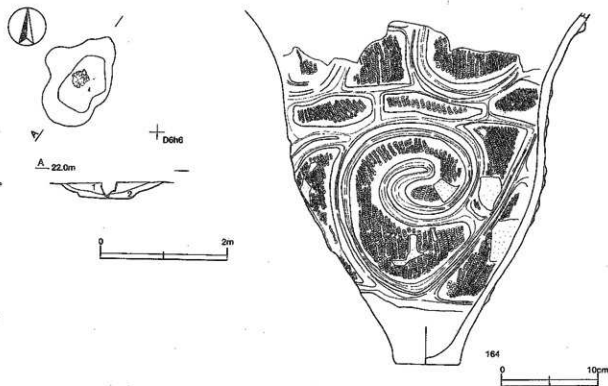
- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片深鉢1点、際2点が出土している。164は掘方の中央部に正位で埋められた状態で、出土している。

所見 本跡は埋設土器であり、墓塚の可能性も考えられる。時期は縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)である。また、第38号住居跡に伴うかどうかは不明である。

第1号土器埋設遺構出土遺物観察表

番号	種類	形状	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色澤	備考(出土位置)
164	縄文土器	深鉢	—	(37.5)	6.5	彫形には縦帯に2・4単位の波線文が描文され、L.L.の半部縄文文様	長石・石英・雲母	普通	橙	埋設 P.L.27



第92図 第1号土器埋設遺構・出土遺物実測図

(5) 土坑

形状、覆土の堆積状況、出土遺物等について検討した結果、形状から次のように分類した。

- (ア) 大形土坑 (長軸及び長径が3m以上)
- (イ) 円筒形土坑
- (ウ) フラスコ状土坑
- (エ) その他の土坑

以上、文章記述以外のものについては、平面図・土層解説及び一覧表で対応する。

(ア) 大形土坑

第273号土坑 (第93・94図)

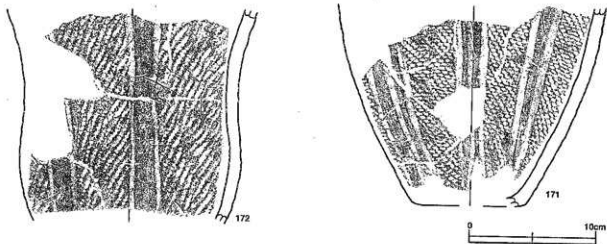
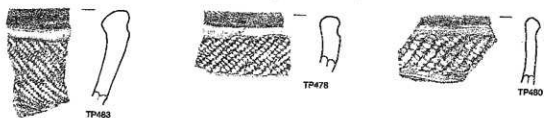
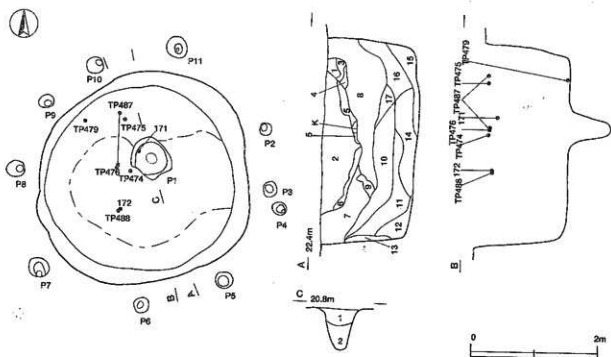
位置 調査Ⅱ区南部、F7Ⅱ区の平坦部に立地し、北西には第14号住居跡、西には第36号住居跡、南には364号土坑が位置している。

規模と形状 長径3.58m、短径3.36mの円形で、深さは145cmである。底面はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。ピットは11か所検出され、P1は底面中央部からやや北寄りに位置し、深さ68cmである。P2～P11は深さ15～52cmで土坑の周りで検出されている。

P1土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中層、粘土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量

覆土 17層からなる。上層の2・5・6層は投棄された状況を示し、下層は自然堆積の状況を示している。この状況は、自然に埋まりきらない時点で窪地への土砂が投棄されたものと考えられる。

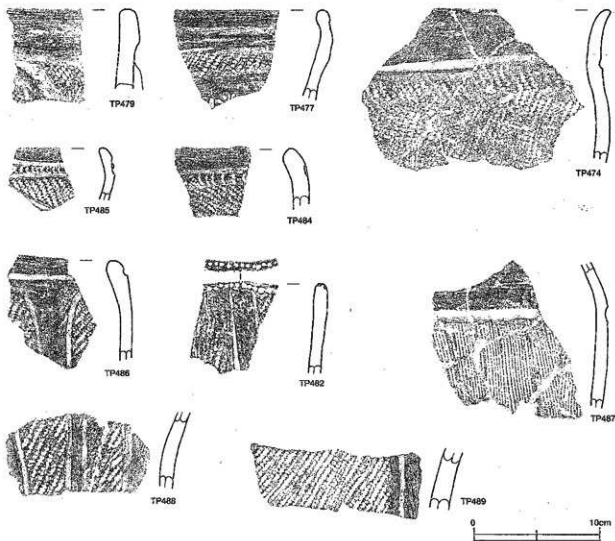


第93图 第273号土坑·出土物实测图

土層解説

1 極暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック中量
3 褐色	ロームブロック中量	12 暗褐色	ロームブロック中量
4 極暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 褐色	ロームブロック多量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量	14 暗褐色	ロームブロック中量
6 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	15 褐色	ロームブロック中量
7 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	16 暗褐色	ロームブロック中量
8 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量 餅まき有り	17 暗褐色	ロームブロック中量
9 極暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片931点（口縁部100、胴部811、底部20）、燻17点が出土している。土器は中央部の覆土上層から多く出土して投棄された状況を示し、TP479は北西部の底面よりやや浮いた状態で出土している。時期的には縄文時代中期の加曾利EⅡ～Ⅲ式期の土器が混在しているが、多くは加曾利EⅢ式期のものである。所見 ビットが本跡を取り囲むように存在しており、上層構造を持った土坑の可能性も考えられる。さらに、中央部覆土上層から出土している土器は、底面の土器とほぼ同時期であることから土坑廃絶後、間もなく投棄されたものと思われる。時期は底面出土の土器などから縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第94図 第273号土坑出土遺物実測図

第273号土坑出土遺物観察表

番号	性別	器種	口徑	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
171	縄文土器	深鉢	-	(15.8)	(9.0)	胴下部で、懸垂文帯にしろの半環縄文施文	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄	中央部上層
172	縄文土器	深鉢	-	(16.0)	-	胴部で、懸垂文帯にしろの半環縄文施文	長石・石英	普通	にぶい黄	中央部上層 P137

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
475-476	縄文時代中期後葉	口縁部片で縁部によって文様部を区別し、胴部内は半環縄文施文	475北東部・476中央部上層	P.135
479-481			479北西部底面、481腹土中	
477-478	縄文時代中期後葉	口縁部片で縁部によって文様部を区別し、胴部内は半環縄文施文	腹土中	
480-483				
474-487	縄文時代中期後葉	474は口縁部片で口縁部を区別し、以下半環縄文施文、487は胴部片で縁部の半環縄文施文	中央部上層	
482	縄文時代中期後葉	口縁部片で、481・483と比べ縁部で区別され、区部内には半環縄文施文、482は口縁部片で縁部の半環縄文施文を有し、	腹土中	
484-486		486は口縁部を区別し、以下半環縄文施文		
488-489	縄文時代中期後葉	胴部片で懸垂文帯を有し、区部内には半環縄文施文	488中央部上層、489腹土中	

第364号土坑 (第95・96図)

位置 調査Ⅱ区南部、G7 b2区の平坦部に立地し、北には第273号土坑、西には第36号住居跡が位置している。

重複関係 第388号土坑に一部掘り込まれ、第403号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.95m、短径3.85mの円形であり、深さは約120cm。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

ピット1は中央部に検出され、深さは110cmである。また、南西部には長径1.10m、短径0.96mの楕円形で円筒状のピット2が見られ、深さは80cmほどである。

P1土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化材微量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 締まり有り | 4 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 |

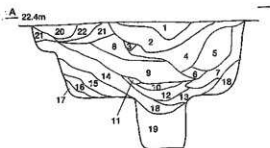
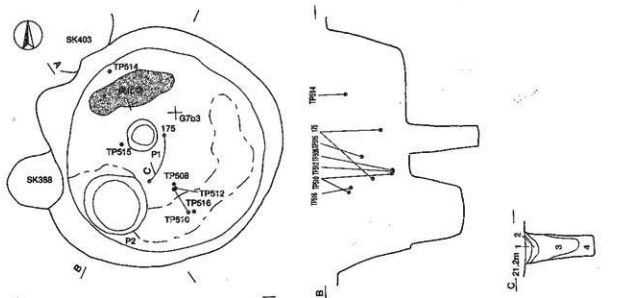
覆土 22層からなり、含有物や不連続な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 12 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 締まり有り | 13 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 14 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 15 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土ブロック微量 | 16 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 6 褐色 ロームブロック少量 | 17 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 7 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 締まり有り | 18 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 |
| 8 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子・炭化物微量 | 19 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 (P2) |
| 9 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 | 20 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量 |
| 10 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 21 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 11 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 22 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片570点(口縁部67、胴部497、底部6)、礫9点が出土している。土器は中央部の覆土上層から中層にかけて出土しているものが多く、投棄された状況を示している。175は覆土下層から出土し、中央部の土器が接合された資料である。時期的には加曾利EⅡ～Ⅲ式期の土器が混在しているが、多くは加曾利EⅢ式期の土器である。また、北部床面から炭化物が検出されている。

所見 北部床面から炭化物が確認され、敷物などの痕跡とも想定されるが、明確ではない。また、床面の中央部からピットが検出され、上層構造をもった土坑の可能性も考えられる。本跡の時期は、遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



TP508



TP511



TP512



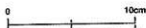
TP509



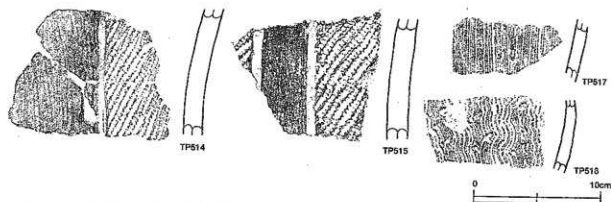
TP510



TP513



第95图 第364号土坑·出土物实测图



第96図 第364号土坑出土遺物実測図

第364号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	11径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
175	縄文土器	深鉢	[30.0]	[10.1]	—	口縁部は、幅広の無文を有す	長石・石英・雲母	普通	昏	中央部中層
TP番号	時期	器形および文様の特徴				出土位置	備考			
508-509	縄文時代中期後葉	口縁部片で、残部や口縁によって口縁部文様帯を区画し、508は懸垂文を区画				508中央部下層、燻土中	P.L.35			
510~512	縄文時代中期後葉	口縁部片で、残部と口縁部同種				510南部上層・F層、512南部下層				
513	縄文時代中期後葉	口縁部片で、口縁部に斜交文様文				燻土中				
514~517	縄文時代中期後葉	胴部片で、514・515は懸垂文帯を有し、517、516は糸縄文を施文し、516は流状を呈す				514北部・516南部上層、517中央部中層	P.L.35			

第429号土坑 (第97~99図)

位置 調査Ⅱ区南部、H7a3区の緩斜面部に立地し、北西には第35号住居跡が隣接している。

規模と形状 径3.00mほどの円形で、深さは113~145cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。ピットは中央部に位置し、深さは4cmほどである。

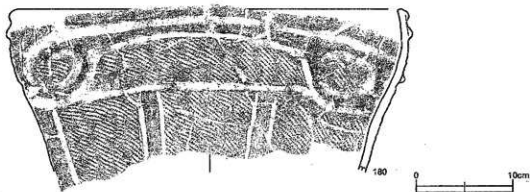
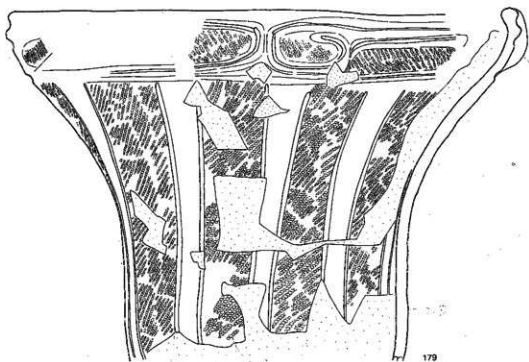
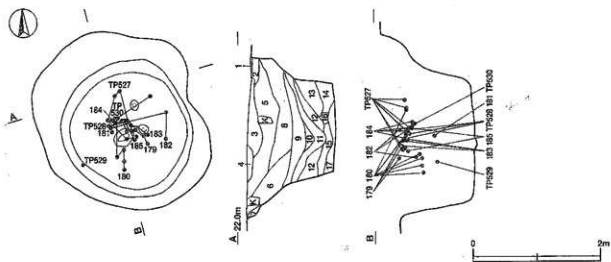
覆土 17層からなり、含有物や不自然な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

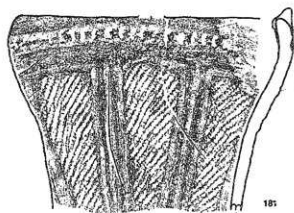
1 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
3 黒褐色	炭化物少量、ロームブロック微量	12 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
4 黒褐色	炭化物少量、ロームブロック微量 柿まり有り	13 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	14 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
6 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	15 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子微量
7 褐色	ロームブロック少量	16 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
8 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	17 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
9 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量		

遺物出土状況 縄文土器片667点(口縁部69、胴部588、底部10)、礫45点が出土している。土器は中央部に放棄された状況を示しており、時間的には加曾利EⅡ~Ⅲ式期の土器が混在している。179は覆土上層からの土器片が接合された資料である。

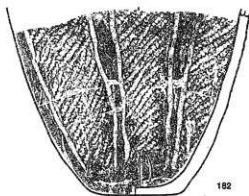
所見 本跡の時期は遺構の形態や主体的な土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅡ~Ⅲ式期)と考えられる。



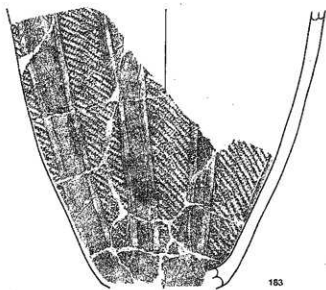
第97图 第429号土坑·出土遗物实测图



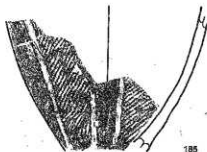
181



182



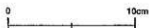
183



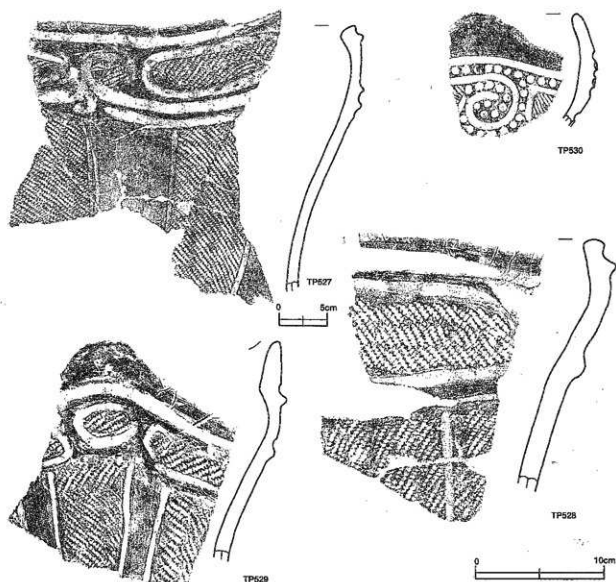
185



184



第98圖 第429号土坑出土遺物実測圖(1)



第99図 第429号土坑出土遺物実測図(2)

第429号土坑出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
179	縄文土器	深鉢	51.6	(37.1)	—	口辺部に褐色文や斜印状縄文を施文し、胴部は懸垂文帯にR.Lの早稲縄文施文	長石・石英・赤色 砂子	普通	赤褐色	中央部上層 P.L.27
180	縄文土器	深鉢	[40.4]	(17.3)	—	口辺部は褐色文や斜印状縄文を施文し、胴部は懸垂文帯に、R.Lの早稲縄文施文	長石・赤色砂子・ 雲母	普通	褐色	中央部上・中層
181	縄文土器	深鉢	[20.4]	(16.2)	—	口辺部に爪形文が施され、底縁による上部が連続した懸垂文内にはR.Lの早稲縄文施文	長石・石英・雲母	普通	褐色	中央部中層
182	縄文土器	深鉢	—	(14.8)	[7.0]	胴部は懸垂文帯で、口内面にR.Lの早稲縄文施文	長石・雲母	普通	にぶい黄褐色	中央部・末部上層
183	縄文土器	深鉢	—	(22.0)	—	胴部は懸垂文帯で、口内面にR.Lの早稲縄文施文	長石・白色砂子・ 雲母	普通	にぶい赤褐色	中央部上層
184	縄文土器	深鉢	—	(18.0)	7.0	胴部から胴部にかけて、R.Lの早稲縄文施文	長石・赤色砂子・ 雲母	普通	褐色	中央部上層

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
185	縄文土器	深鉢	—	(11.5)	—	胴部は壺形文で、区画内にRの早期縄文施文	長石・白色粘土 深緑	普通	橙	中央部上層

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
527~ 529	縄文時代中期後葉	口縁部片で、胎帯に合う沈期によって1区部文様帯を区別し、胴部は壺形文帯を有す	S27北部・中央部・S29中央部上層	P.L.35
530	縄文時代中期後葉	1区部片で、2条の沈期によって文様帯を抽出し、沈期間に何形例文文が施され、 胎にはRの早期縄文施文	S29西部中層	P.L.35

第677号土坑 (第100図)

位置 調査Ⅱ区南部, G7h4区の平坦部に立地し, 第676・700号土坑と重複している。西には第31・33号住居跡が隣接している。

重複関係 第606・676・700号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.15m, 短軸2.33mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-9°-Eである。深さは32cm, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がる。また, ビットは南部に2か所検出されたがその性格は不明である。

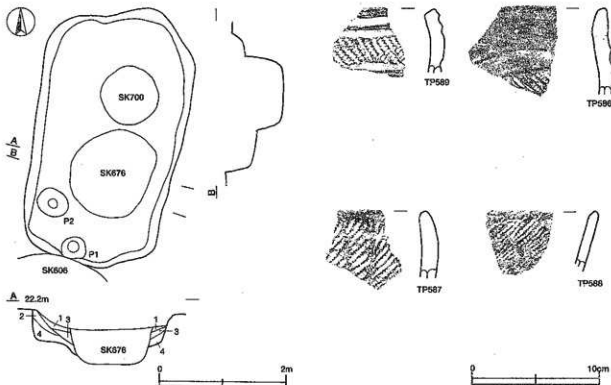
覆土 4層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 灰褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微少 |

遺物出土状況 縄文土器片306点(口縁部28, 胴部273, 底部5), 礫5点が出土している。土器のほとんどはTP586~589も含めて覆土中から出土し, 時間的には加曾利EⅢ~Ⅳ式期の土器が混在している。

所見 本跡の時期は出土土器から縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ~Ⅳ式期)と考えられる。



第100図 第677号土坑・出土遺物実測図

第677号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
586-589	縄文時代中期後葉	口縁部片で、口縁部文様帯を比較で区別し、区画内に京1の早期縄文文様	覆土中	
587-588	縄文時代中期後葉	口縁部片で、早期縄文文様	覆土中	

(イ) 円筒形土坑

第333号土坑 (第101・102図)

位置 調査Ⅱ区南部、F7J1区の平坦部に立地し、北には第273号土坑、南西には第36号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 第356・358号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.60mの円形で、深さは123cmである。底面はほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。壁はやや内傾して立ち上がる。ピットは2か所検出され、P1は北西部、P2はP1の南側に隣接し、ともに深さ4cmほどである。

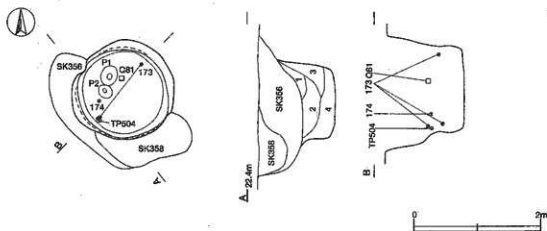
覆土 4層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片154点(口縁部18、胴部134、底面2)、礫1点が出土している。土器は北部、西部、南部の壁際の覆土中層から下層にかけて出土しているものが多く、时期的には加曾利EV式期を中心としている。173は南西部覆土中層や覆土下層と北東部覆土中層から出土した土器が接合された資料であり、本跡に伴うものと考えられる。

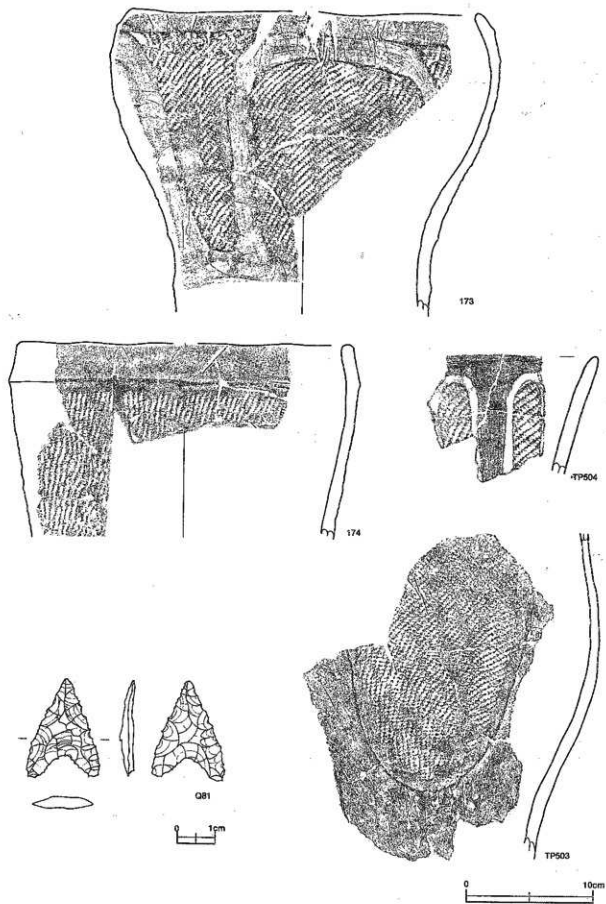
所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EV式期)と考えられる。



第101図 第333号土坑実測図

第333号土坑出土遺物観察表

番号	類別	器種	11径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
173	縄文土器	深鉢	[27.4]	(24.0)	—	陶器帯によって露出した区画を上下二段とし、区画内には京1の早期縄文文様	長石・石英・赤色鉄子・雲母	普通	にぶい・黒	南部北部中層 P L 27
174	縄文土器	深鉢	[26.0]	(18.4)	—	口縁部は、焼成帯で文様帯を代表し、胴部は京1の早期縄文文様	長石・石英・雲母	普通	にぶい・黒	西部中層



第102图 第333号土坑出土遺物実測図

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
304	縄文時代中期後葉	口縁部片で、沈線によって文様帯を区画し、区画内にR.Lの早稲縄文光頭	南西部中層	P.L.35
303	縄文時代中期後葉	胴部片で、環状帯によって文様帯を区画し、区画内にR.Lの早稲縄文光頭	覆土中	P.L.35

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	特徴	出土位置	備考
Q81	石 錘	2.1	1.8	0.3	1.1	チャート	無彫刻	中央部中層	P.L.38

第335号土坑 (第103図)

位置 調査Ⅱ区南部、F6j9区の平坦部に立地し、北西には第14号住居跡、南には第36号住居跡がそれぞれ位置している。

規模と形状 径1.39mの円形で、深さは91cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

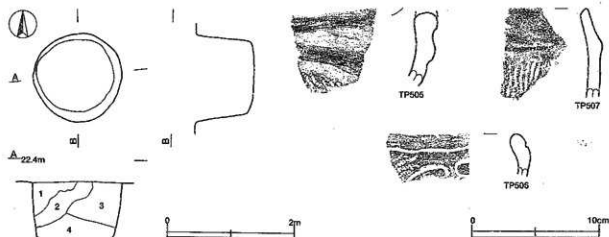
覆土 4層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片74点(口縁部9、胴部63、底部2)、礫3点、炭化物が出土している。土器はTP505～TP507をはじめ覆土中から出土しており、時間的には加曾利EⅢ～Ⅳ式期を中心としたものである。

所見 本跡の時期は遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ～Ⅳ式期)と考えられる。



第103図 第335号土坑・出土遺物実測図

第355号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
505～507	縄文時代中期後葉	口縁部片で、605は沈線と比線によって11段帯文様帯を区画し、R.Lの早稲縄文光頭。506は比線区画にL.Rの早稲縄文光頭、507は環状帯で無文帯を区画し、以下R.Lの早稲縄文光頭	覆土中	

第425号土坑 (第104図)

位置 調査Ⅱ区南部、G6j7区の平坦部に立地し、北には第22号住居跡が位置している。

規模と形状 径1.60mほどの円形で、深さは60cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立する。ピットは北東部

で1か所検出され、深さは6cmほどである。

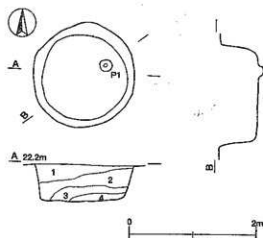
覆土 4層からなり、含有物や不自然な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量・炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片17点（口縁部4、胴部12、底部1）、礫2点が出土しているが、摩滅や細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉と考えられる。



第104図 第425号土坑実測図

第428号土坑（第105・106図）

位置 調査Ⅱ区南部、G7区区の平坦部に立地し、北には第273号土坑、西には第36号住居跡が位置している。

重複関係 第31号住居跡、第535号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.74m、短径2.25mの楕円形で、長径方向はN-80°-Eである。深さは約100cm、底面はほぼ平坦であり、壁は直立する。ピットは南東部に1か所検出され、深さ34cmほどである。

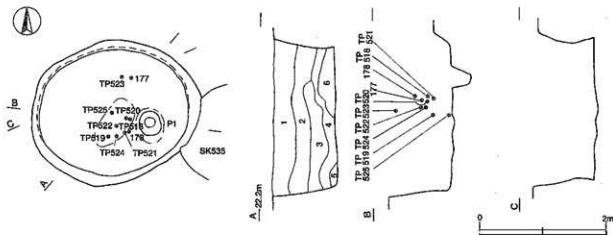
覆土 6層からなり、含有物と不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

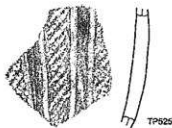
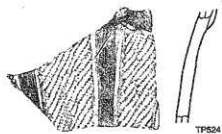
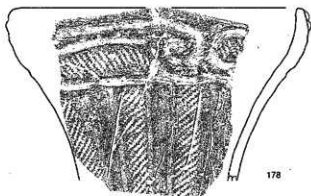
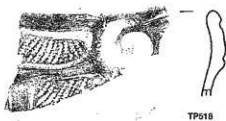
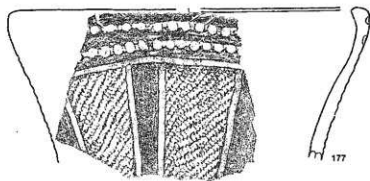
- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化種子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片455点（口縁部61、胴部387、底部7）、土製平板3点、礫6点が出土している。土器は中央部に投棄された状況を示しており、加曽利EⅡ～Ⅲ式土器が混在している。TP525は床面から出土しており、本跡に伴う土器と考えられる。

所見 本跡の時期は、形態や主体となる土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。



第105図 第428号土坑実測図



DP34



DP35



DP36



第106图 第428号土坑出土文物实测图

第428号土坑出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	粘土	地蔵	色調	備考(出土位置)
177	縄文土器	深鉢	〔28.2〕	〔12.1〕	—	口縁部に2段の、円形刺突文が並び、胴部は懸垂文区 胴内にR.L.の単線刺突文	長石・赤色粘土・ 黒付	普通	にじい色	中央部中層 P.L.27
178	縄文土器	深鉢	〔22.0〕	〔13.6〕	—	口縁部は殊形による渦巻文や楕円区画文を施し、胴部 は懸垂文区胴内にR.L.の単線刺突文	長石・石英・黒付	普通	にじい黄褐色	中央部中層 P.L.27

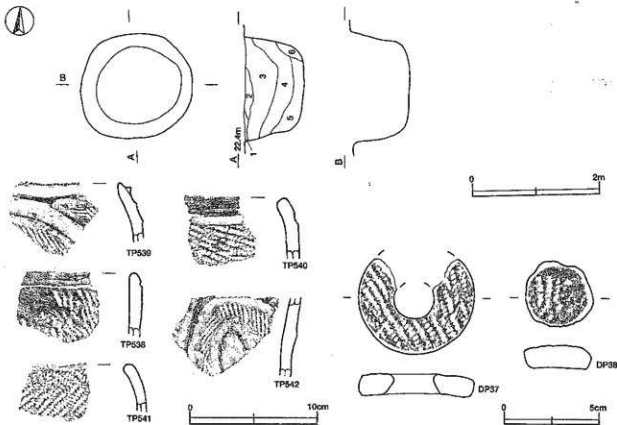
TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
518-519- 521	縄文時代中期後葉	口縁部外で殊形による楕円区画や渦巻文を基調し、区内に単線刺突文を施す	中央部中層	
522	縄文時代中期後葉	胴部外で渦巻文と胴上縁には此際による区画文が基調され、胴内にR.L.の単線刺突文を施す	中央部中層	
520	縄文時代中期後葉	口縁部外で口縁部に刺突文を有し、以下L.R.の単線刺突文を施す	中央部中層	
523- 526	縄文時代中期後葉	胴部外で、523は渦巻文と沈彫による渦巻文、524-526は懸垂文区画を有す	523中央部上層・525中層・ 526下層、526覆上中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP34	土器 円板	4.0	4.1	0.9	18.0	土製	周縁部縁を研削	覆上中	P.L.37
DP35	土器 円板	2.7	3.0	0.9	9.0	土製	周縁部縁を研削	覆上中	P.L.37
DP36	土器 円板	2.7	2.9	0.9	9.0	土製	周縁部縁を研削	覆上中	P.L.37

第456号土坑 (第107図)

位置 調査Ⅱ区南部、G6g5区の平坦部に立地し、東には第22号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.84m、短径1.68mの円形で、深さは92cmである。底面はほぼ平坦で、外傾して立ち上がる。



第107図 第456号土坑・出土遺物実測図

覆土 6層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|--------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片623点(口縁部67, 胴部543, 底部13), 礫11点が出土している。土器は中央部の覆土中層から出土しているものが多く、時期的には加曾利EⅢ～Ⅳ式期の土器が混在している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ～Ⅳ式期)と考えられる。

第456号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
539-542	縄文時代中期後葉	胴部で5.3cmは胴部、溝部によって文様を区別し、区別した手取縄文土器	覆土中	
538-540	縄文時代中期後葉	口縁部で5.38-5.40cmは口縁部、溝部によって文様を区別し、区別した手取縄文土器	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
DP37	有孔円板	5.0	6.1	1.2	3.00g	土器円板に1孔を穿つ。R.L.の手取縄文土器。孔径2.2cm	覆土中	P.L.37
DP38	土器円板	3.5	3.6	1.2	17.0	特殊な形状の研ぎ	覆土中	P.L.37

第460号土坑(第108図)

位置 調査Ⅱ区南部, H7b1区の緩斜面部に立地し、第32号住居跡と重複している。北には第35号住居跡が隣接している。

重複関係 第32号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.39m, 短径2.21mの円形で、深さは108cmである。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立する。

ビットが中央部に検出され、深さは3cmほどである。

覆土 12層からなり、含有物や不自然な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

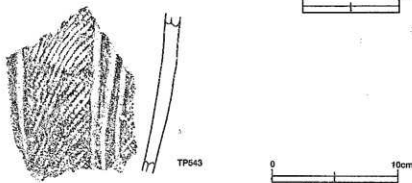
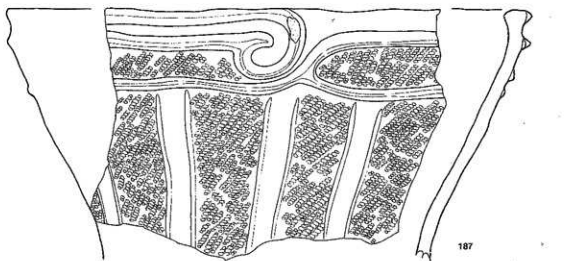
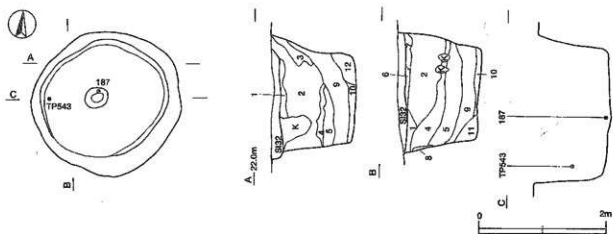
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化物微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子 | 9 極暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片379点(口縁部27, 胴部346, 底部6), 礫11点, 粘土塊1点が覆土中から出土している。時期的には加曾利EⅡ～Ⅲ式期の土器が混在しており、187は中央部の覆土下層から出土している。

また、南東部壁際から底面にかけて焼土が検出され、投棄されたものと考えられる。

所見 本跡の時期は遺構の形態や主体的な出土土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第108図 第460号土坑・出土遺物実測図

第460号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
187	縄文土器	深鉢	[54.0]	(26.7)		口辺部は渦巻文や相円区調文を施文し、胴部は 懸垂文等で、区画内にR.Lの半節縄文施文	灰石・赤色砂子・ 白色砂子・雲母	普通	にぶい橙	中央部下唇 P.L.27
TP番号	時期	器形および文様の特徴				出土位置	備考			
543	縄文時代 中 剛後葉	胴部片で、懸垂文区画内にR.Lの半節縄文施文				西部中腹				

第535号土坑（第109図）

位置 調査Ⅱ区南部，G7B3区の平坦部に立地している。

重複関係 第31号住居跡・第428号土坑の東部を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.70mの円形で，深さは80cmである。底面はほぼ平坦であり，壁は直立する。

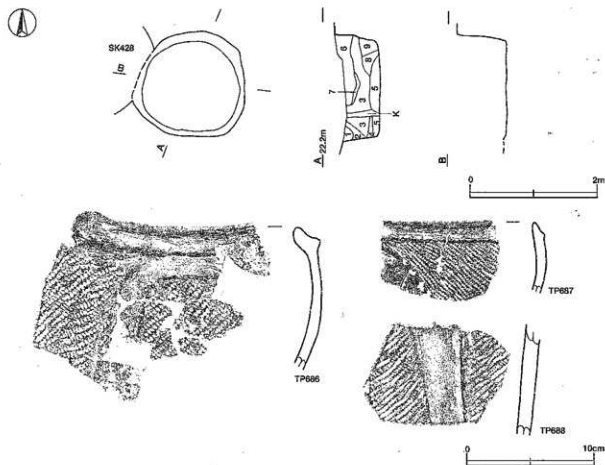
覆土 9層からなり，含有物と不連続な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量，炭化物微量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量，炭化物微量 | 9 暗褐色 ロームブロック少量，炭化物微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量 | |

遺物出土状況 縄文土器片178点（口縁部18，胴部157，底部3），鏝1点が出土している。土器は覆土上層から中層にかけて出土しているものが多く，投棄された状況を示している。時間的には加曾利EIV式期を中心としたもので，TP686は中央部の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉（加曾利EIV式期）と考えられる。



第109図 第535号土坑・出土遺物実測図

第535号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
686-688	縄文時代中期後葉	器1686-687は1/4部断片で，688は割片。平らな器底から，灰褐色の土層から出土した。灰褐色の土層に埋め込まれている。	覆土中	

第536号土坑 (第110図)

位置 調査Ⅱ区南部, G7I3区の平坦部に立地している。

重複関係 第31号住居跡の南西部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.25m, 短径1.05mの楕円形で, 長径方向はN-20°-Eである。深さは110cmで底面はほぼ平坦であり, 壁は直立する。

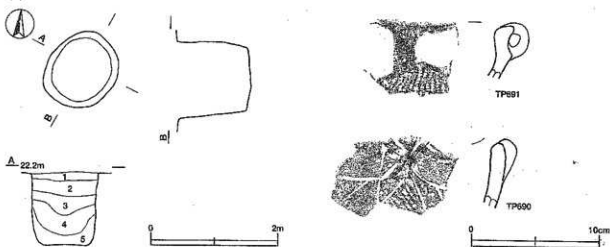
覆土 5層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物少量, ロームブロック微量 | 4 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 5 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片54点(口縁部7, 胴部47), 燧1点が出土している。TP690・TP691を含めた土器は, 覆土中から出土しているものが多く, 期的には加曾利EIV式期を中心としている。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EIV式期)と考えられる。



第110図 第536号土坑・出土遺物実測図

第536号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
690-691	縄文時代中期後葉	691は把手を有する口縁部片で, 腹隆部によって区画, 690は口縁部片で, 沈線によって文様帯を区画し, 区画内に縄文文様	覆土中	

第601号土坑 (第111図)

位置 調査Ⅱ区南部, G6J0区の緩斜面部に立地し, 第673号土坑が重複しており南東には第600号土坑が隣接している。

重複関係 第673号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.66m, 短径2.22mの楕円形で, 長径方向はN-5°-Wである。深さは180cmで底面は皿状を呈し, 壁は外傾して立ち上がる。

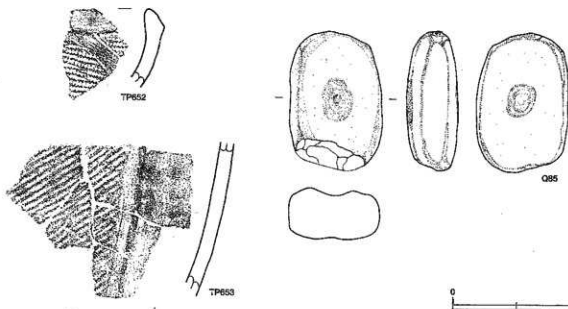
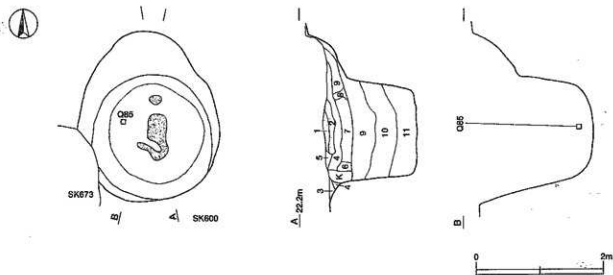
覆土 11層からなり, 自然堆積の状況を示している。上層の1・2層は焼土層であり, 大量に火を焚いた痕跡を示している。

土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|--------|---------------------------|
| 1 におい赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物・炭微塵 | 7 黒褐色 | 炭化物少量, ロームブロック微量 |
| 2 におい赤褐色 | 焼土ブロック多量, 灰少量, ローム粒子・炭化物微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・ロームブロック・炭微塵 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 隣まり有り | 10 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片283点(口縁部16, 胴部254, 底部13), 石器1点(磨石及び凹石を兼用), 燧5点が出土している。土器は中央部の覆土中から出土しているものがほとんどであるが, 摩滅しているものや破片が多い。時期的には加曾利EⅢ～Ⅳ式期の土器が混在しているが, 多くは加曾利EⅣ式期のものである。Q85は覆土下層から出土し, 磨石や凹石など多用途の使用が想定される。

所見 本跡は上面に焼土層が確認されているが, その用途については不明である。しかし, 大量に火を焚いたものであることが想定される。時期は主体的な出土土器から縄文時代中期後葉(加曾利EⅣ式期)と考えられる。



第111図 第601号土坑・出土遺物実測図

第601号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴		出土位置	備考				
052-053	縄文時代中期後葉	602は須部片, 603は胴部片, 高陸帯によって文様帯を区別し, 区画内に手摺模文を刻み出題		覆土中					
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	特徴	出土位置	備考
Q85	磐石(閃石)	11.0	7.4	4.1	498.0	安山岩	全断面使用, 表裏凹み, 頂部打撃面	西部下層	PL-40

第606号土坑 (第112図)

位置 調査Ⅱ区南部, G7I3区の平坦部に立地し, 第677号土坑が隣接している。

規模と形状 長径2.15m, 短径2.12mの不整形円形であり, 長径方向はN-57°-Wである。深さは55~60cmで, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がる。

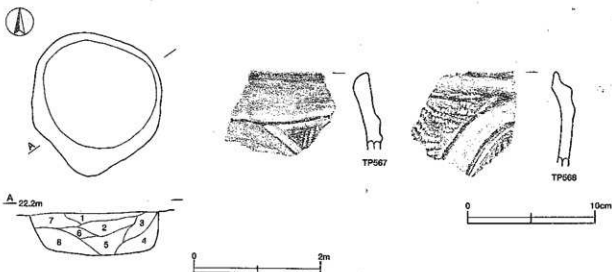
覆土 8層からなり, 含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 5 黒褐色 | 炭化物少量, ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物少量, ロームブロック微量 | 6 棕褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 炭化物少量, ロームブロック微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 8 褐色 | 炭化物少量, ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片54点(口縁部10, 胴部44)が覆土中から出土している。土器は摩滅や細片のために, 図示できるものはないが, 時期的には加曾利EⅣ式期の土器が中心である。

所見 本跡の時期は, 主体的な出土土器から縄文時代中期後葉(加曾利EⅣ式期)と考えられる。



第112図 第606号土坑・出土遺物実測図

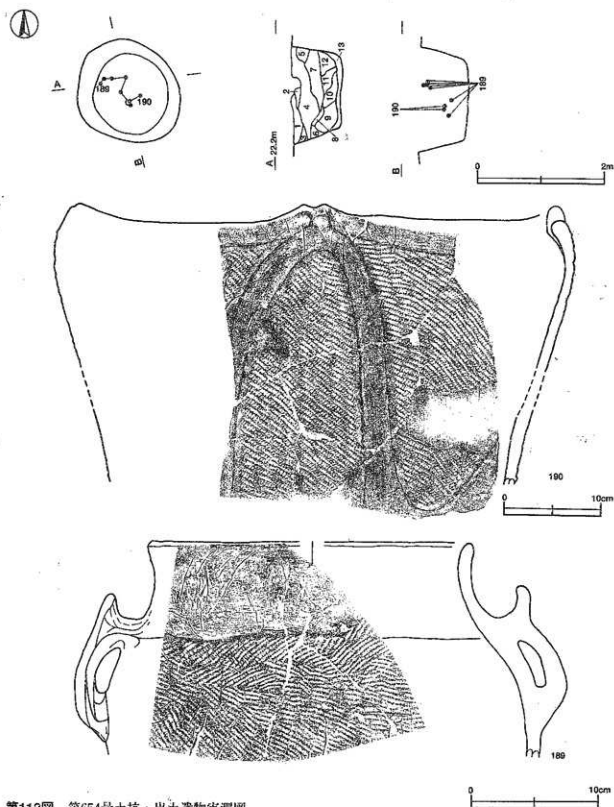
第606号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
507-568	縄文時代中期後葉	口縁部片で, 高陸帯により文様帯を区別し, 区画内にR1の手摺縄文を刻	覆土中	

第654号土坑 (第113図)

位置 調査Ⅱ区南部、G7J4区の緩斜面部に立地し、第653号土坑が隣接している。

規模と形状 長径1.75m、短径1.57mの楕円形であり、長径方向はN-39°-Wである。深さは80cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。



第113図 第654号土坑・出土遺物実測図

覆土 13層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|---------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 10 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子少量 | 12 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 7 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片368点（口縁部32，胴部334，底部2）が出土している。土器は摩滅や細片が多く、時期的には加曾利EIV式期の土器が中心である。189は西部覆土上層と中央部覆土下層から出土した土器が接合された資料であり，190は中央部の覆土中層から出土した土器同士が接合された資料である。

所見 本跡の時期は，出土土器から縄文時代中期後葉（加曾利EIV式期）と考えられる。

第654号土坑出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	新土	焼成	色調	備考(出土位置)
189	縄文土器	広口甕	[36.0]	(17.1)	—	口辺部は無文帯で，柄状把手部及び胴部にはR.Lの 準跚縄文が施文	長石・赤色粒石・ 雲母	普通	浅黄褐色	中央部中層・東部上層 P.L27
190	縄文土器	深鉢	[51.0]	(29.5)	—	須臾帯によって文様帯を横出し，区画内にはL.R の準跚縄文が施文	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄褐色	中央部中層 P.L27

第675号土坑（第114図）

位置 調査Ⅱ区南部，G6区9区の平坦部に立地し，東には第30号住居跡が隣接している。

規模と形状 長径2.70m，短径2.44mの楕円形で，長径方向はN-85°-Eである。深さは65cmで底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

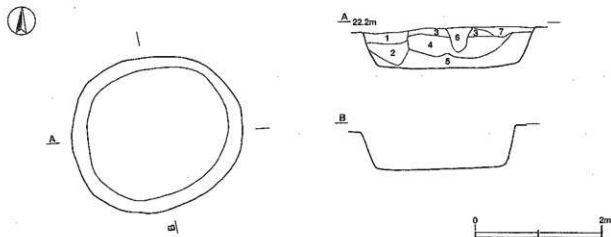
覆土 7層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，埴土ブロック・炭化物微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 黒色 | 炭化物多量，ロームブロック・埴土ブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 炭化物少量，ロームブロック微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は，遺構の形態等から縄文時代中期と考えられる。



第114図 第675号土坑実測図

(ウ) フラスコ状の土坑

第445号土坑 (第115図)

位置 調査Ⅱ区南部, G7 a3区の平坦部に立地し, 南には第364号土坑が位置している。

重複関係 第402号土坑の北西部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.25m, 短径1.19mの楕円形で, 長径方向はN-62°-Eである。深さは88cm, 底面はほぼ平坦で, 壁は下方が袋状を呈している。ピットが中央部に1か所検出され, 深さは3cmほどである。

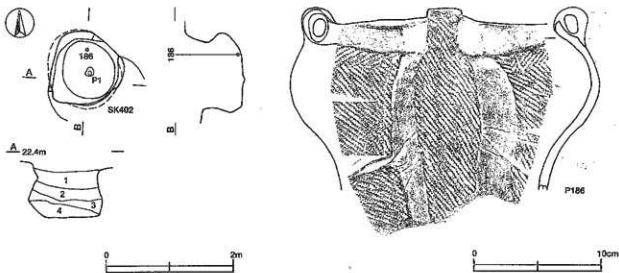
覆土 4層からなり, 含有物や堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物少量 | 3 暗褐色 ローム粒子・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 4 黒褐色 ローム粒子・炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片105点 (口縁部10, 胴部91, 底部4), 礫2点が出土している。土器は中央部の覆土中から出土しているものがほとんどであり, 摩滅しているものや細片がほとんどである。加曾利EⅢ~Ⅳ式期の土器が混在しているが, 时期的に多くは加曾利EⅣ式期のものである。186は北部の底面から出土しており, 本跡に伴うものと考えられる。

所見 本跡は下部が全体的に内傾し, 主体的な出土土器から時期は縄文時代中期後葉 (加曾利EⅣ式期) と考えられる。



第115図 第445号土坑・出土遺物実測図

第445号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
186	縄文土器	深鉢	[200]	(14.5)	—	口縁部に無文帯を有し, 胴部帯によって胴縁の感帯文帯に1.1.1の早稲縄文編文	長石・石英・炭質	普通	褐色	北部底面 P.L.27

第458号土坑 (第116図)

位置 調査Ⅱ区南部, G6 b9区の平坦部に立地し, 第36号住居跡と重複している。

重複関係 第36号住居跡の中央部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.26m, 短径1.10mの楕円形で, 長径方向はN-12°-Wである。深さは92cm, 底面はほぼ平

坦であり、壁は下部が袋状を呈している。

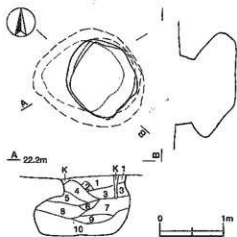
覆土 10層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|----|--------|------------------------|
| 1 | 暗褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化物少量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子中量、炭化物微量 |
| 4 | 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 5 | 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 6 | にぶい赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 7 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 8 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 |
| 9 | にぶい赤褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 10 | 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片16点(胴部16)、礫5点が出土している。土器の多くは覆土中から出土し、摩滅しているものや細片がほとんどであるため、図示できるものはない。加曾利EⅢ～IV式期の土器が混在しているが、多くは加曾利EⅣ式期のものである。

所見 本跡は下部が袋状を呈しており、時期は主体的な出土土器から縄文時代中期後葉(加曾利EⅣ式期)と考えられる。



第116図 第458号土坑実測図

第537号土坑 (第117図)

位置 調査Ⅱ区南部、G6 j6区の緩やかな斜面部に立地し、第539号土坑と重複し、第442・443号土坑が隣接している。

重複関係 第539号土坑の中央部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.62m、短径1.52mの円形である。深さは77cm、底面はほぼ平坦で、壁はやや袋状を呈している。

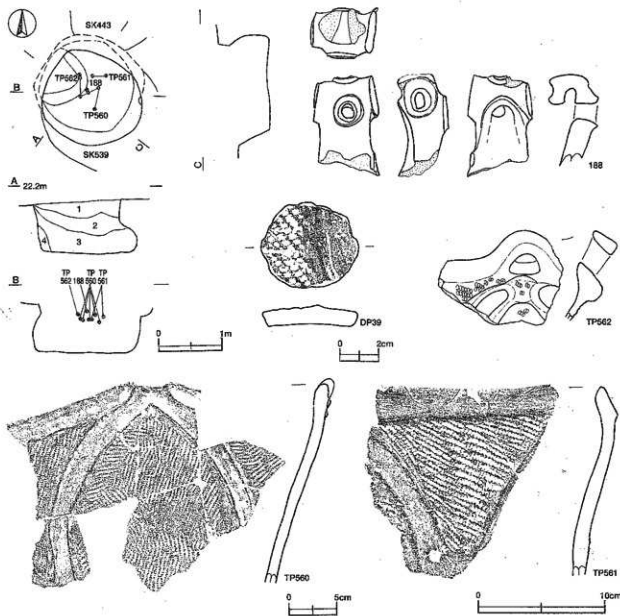
覆土 4層からなり、投棄された状況を示しており含有物などから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------------|---|-----|-------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量、炭化物微量 | 3 | 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 | 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック微量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片276点(口縁部33、胴部240、底部3)、上製品1点(円板)、礫3点が出土している。土器の多くは中央部の覆土上層から覆上下層にかけて出土しており、投棄された状況を示している。時期的には加曾利EⅣ式期のものが中心である。TP561は中央部の覆土上層から出土している土器片が接合された資料である。

所見 本跡は南壁部以外が袋状を呈しており、時期は縄文時代中期後葉(加曾利EⅣ式期)と考えられる。



第117図 第537号土坑・出土遺物実測図

第537号土坑出土遺物観察表

番号	説明	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	出土	焼成	色調	備考(出土位置)
188	縄文土器	深鉢 (把手)	—	—	—	無文の丁字状の把手であり、若干器面荒れ	長石・赤色砂子・ 白色砂子・雲母	普通	にぶい橙	中央部上層 P.L.27

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
560~	縄文時代中 期 後 葉	いずれも口縁部片で、562は、突起部に孔を有す。これらはいずれも縦線帯	中央部上層	
562		によって文様帯を区別し、区画内にR.L.の準部縄文充填		

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP39	上部円板	4.6	3.2	1.1	24.0	土質	周縁部磨削	掘土中	P.L.37

第639号土坑 (第118図)

位置 調査Ⅱ区中央部、F6 b8区の中央部に立地し、第620・640号土坑が隣接している。

規模と形状 長径1.28m、短径1.21mの円形である。深さは69cmで底面はほぼ平坦であり、壁は南半分が袋状を呈している。

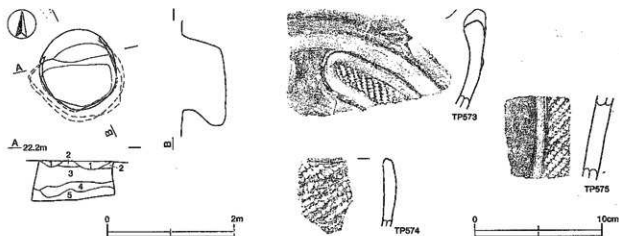
覆土 5層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 4 褐色 ロームブロック多量 粘り有り |
| 2 紫褐色 ロームブロック中量 | 5 褐色 ロームブロック多量 |
| 3 褐色 ロームブロック多量 | |

遺物出土状況 縄文土器片24点(口縁部6、胴部18)が覆土中から出土している。加曾利EⅢ～Ⅳ式期の土器が混在している。

所見 本跡は南半分の底面がやや広い袋状を呈しており、時期は主体的な出土土器から縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ～Ⅳ式期)と考えられる。



第118図 第639号土坑・出土遺物実測図

第639号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土状況	備考
573~	縄文時代中期後葉	573・574は16線部片で、573は12線部片を区別し、区画内にLRの半線縄文	覆土中	
375		先坑、574は半線縄文施文、575は斜部片で、墨垂文帯内に、RLの半線縄文施文		

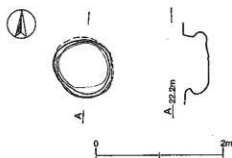
第643号土坑 (第119図)

位置 調査Ⅱ区南部、F6 b77区の平坦部に立地し、第641・642号土坑が隣接している。

規模と形状 長径0.92m、短径0.80mの楕円形で、長径方向はN-7°-Wである。深さは38cm、底面はほぼ平坦であり、壁は袋状を呈している。

遺物出土状況 縄文土器片9点(胴部9)が出土している。土器の多くは覆土中から出土し、摩滅したものや細片がほとんどであるため、図示できるものはない。

所見 本跡は全体的に底部の広い形状を呈し、時期は縄文時代中期後葉と考えられる。



第119図 第643号土坑実測図

(エ) その他の土坑

第1号土坑 (第120図)

位置 調査I区北部、C6a2区の平坦部に立地している。東には第2・4号土坑が隣接し、東には第1号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.07m、短径1.02mの円形で、深さは22cmほどである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 鮮褐色 ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片13点(口縁部2、胴部11)が出土している。TP331は北西部、TP332は中央部の覆土中層から出土しており、縄文時代中期加曾利EⅣ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は主体的な土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅣ式期)と考えられる。

第2号土坑 (第120図)

位置 調査I区北部、C6a3区の平坦部に立地している。第1・4号土坑が隣接し、東には第1号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.52m、短径1.40mの円形で、深さは30cmほどである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片32点(胴部32)が出土している。TP333は中央部の覆土中層から出土しており、縄文時代中期の加曾利EⅢ式土器が混在している。

所見 本跡の時期は主体的な土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第4号土坑 (第120図)

位置 調査I区北部、C6b3区の平坦部に立地している。第1・2号土坑が隣接し、東には第1号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.32m、短径1.10mの楕円形で、長径方向はN-58°-Eである。深さは77cmほどで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 5層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|---------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 4 だいぶ褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 鮮褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 鮮褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 出土していない。

所見 本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第6号土坑 (第120図)

位置 調査I区北部、C6a5区の平坦部に立地し、第1号住居跡と重複している。

重複関係 第1号住居跡の北部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.16m、短径1.0mの楕円形で、長径方向はN-55°-Wである。深さは79cm、底面はやや皿状を呈して、壁はほぼ直立する。

覆土 6層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡は北西部の壁が特に内傾しており、時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第19号土坑 (第120図)

位置 調査I区中央部、C6i3区の平坦部に立地し、北には第16号土坑、南には第3号住居跡が隣接している。

規模と形状 長径1.55m、短径1.43mの円形で、深さは90cm、底面は皿状を呈し、壁は直立する。また、北側の床面が7cmほど円形状に窪んでいる。

覆土 9層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 8 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片24点(口縁部1、胴部23)、燧1点が出土している。TP335・TP336をはじめ覆土中から出土しており、縄文時代中期の加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は主体的な土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第38号土坑 (第120図)

位置 調査I区中央部、D6e9区の平坦部に立地し、北には第16号土坑、南には第3号住居跡が隣接している。

重複関係 第39号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径0.88mの円形で、深さは70~75cmである。床面はほぼ平坦であり、壁は直立する。

覆土 7層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|-------|------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片5点(胴部4、底部1)が覆土中から出土しているが、摩滅した細片がほとんどで図示できるものはない。

所見 本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第40号土坑 (第120図)

位置 調査Ⅱ区北部、D6e8区の平坦部に立地している。西には第42号土坑が隣接し、南東には第10号住居跡が位置している。

規模と形状 長径2.26m、短径1.54mの長楕円形で、長径方向はN-29°-Wである。深さは23cm、底面は皿状を呈しており、外傾して立ち上がる。ピットは南北部に2か所検出され、深さはいずれも8cmほどである。

覆土 5層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 4 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 藨まり有り | 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片12点(口縁部2、胴部10)が出土している。TP338・TP339をはじめ、ほとんどが覆土中から出土し、縄文時代中期の加曾利EⅢ式土器が出土している。

所見 本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第56号土坑 (第120図)

位置 調査Ⅱ区北部、D6g5区の平坦部に立地している。第38号住居跡と重複し、第7号住居跡が隣接している。

重複関係 第38号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.15m、短径0.98mの楕円形で、長径方向はN-5°-Wである。深さは42cm、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 5層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 炭化物中量、ロームブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 極暗褐色 炭化物少量、ロームブロック微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 3 黒色 ロームブロック中量、炭化物微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片66点(口縁部10、胴部56)が出土している。摩滅しているものや細片がほとんどである。TP341は南部の覆土中から出土し、縄文時代中期の加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は主体的な土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第73号土坑 (第120図)

位置 調査Ⅱ区北部、D6i5区の平坦部に立地し、南には第9号住居跡や第74号土坑が隣接している。

規模と形状 長径1.14m、短径0.98mの楕円形で、長径方向はN-67°-Wである。深さは22cm、底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土 5層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 4 黒色 ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 黒色 ロームブロック中量 | 5 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | |

遺物出土状況 出土していない。

所見 本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第75号土坑 (第121図)

位置 調査Ⅱ区北部, D7Ⅰ区の平坦部に立地している。第76号土坑や第78号土坑に隣接し, 西には第10号住居跡が位置している。

規模と形状 長径0.79m, 短径0.68mの楕円形で, 長径方向はN-55°-Wである。深さは52cm, 底面には凹凸があり, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなり, 含有物や水平の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片6点(胴部6)が覆土中から出土しているが, 摩滅した細片がほとんどで図示できるものはない。

所見 本跡の時期は出土土器や遺構の形態などから縄文時代中期後葉と考えられる。

第77号土坑 (第121図)

位置 調査Ⅱ区北部, D7Ⅱ区の平坦部に立地している。第76号土坑や第79号土坑に隣接し, 西には第10号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.13m, 短径1.04mの円形で, 深さは65cmほどである。底面はほぼ平坦であり, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 6層からなり, 含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 1 褐色 ロームブロック中量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量 締まり有り | 5 褐色 ロームブロック中量, 燧石粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 ロームブロック多量 | 6 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片17点(口縁部1, 胴部16)が出土している。TP344~TP346をはじめほとんどが覆土中から出土し, 縄文時代中期の加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は主体的な土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第79号土坑 (第121図)

位置 調査Ⅱ区北部, D7Ⅱ区の平坦部に立地している。第77号土坑や第78号土坑に隣接し, 西には第10号住居跡が位置している。

規模と形状 径1.15mほどの円形で, 深さは32cmほどである。底面は皿状を呈しており, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 5層からなり, 含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 5 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 締まり有り | |

遺物出土状況 縄文土器片31点(口縁部2, 胴部28, 底部1), 石器1点(打製石斧), 竊2点が出土している。TP347をはじめほとんどが覆土中から出土し, 縄文時代中期の加曾利EⅢ~Ⅳ式土器が混在している。

所見 本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ~Ⅳ式期)と考えられる。

第86号土坑 (第121図)

位置 調査Ⅱ区北部, D6h0区の平坦部に立地し, 東には第39号住居跡が隣接している。

規模と形状 長径2.41m, 短径1.45mの長楕円形で, 長径方向はN-45°-Eである。深さは35cmほどで, 底面は皿状を呈しており, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり, 含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 ロームブロック中量, ローム粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片19点(口縁部2, 胴部17)が出土している。TP351~354をはじめほとんどが覆土中から出土し, 縄文時代中期の加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は主体的な土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第88号土坑 (第121図)

位置 調査Ⅱ区北部, D6j7区の平坦部に立地し, 第37号住居跡に重複している。

規模と形状 長径2.25m, 短径1.60mほどの楕円形で, 長径方向はN-21°-Eである。深さは66cmほどで, 底面には凹凸があり, 壁は外傾して立ち上がる。また, ピット1か所が南部に検出され, 深さは10cmほどである。

P1土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

覆土 4層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|-------------------------|
| 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量, 綿まり有り | 6 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片56点(口縁部5, 胴部51)が出土している。TP355をはじめほとんどが覆土中から出土し, 縄文時代中期の加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第90号土坑 (第121図)

位置 調査Ⅱ区北部, D6j0区の平坦部に立地し, 南東には第11号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.86m, 短径1.18mの不定形であり, 長径方向はN-16°-Eである。深さは52cmで底面は皿状を呈し, 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片16点(口縁部2, 胴部14)が出土している。TP356はじめ, すべてが覆土中から出土し, 時期的には加曾利EⅢ式期の土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第94号土坑 (第121図)

位置 調査Ⅱ区南部, E6a8区の平坦部に立地し, 南には第13号住居跡が隣接している。

規模と形状 長径1.22m, 短径1.14mの円形で, 深さは42cmほどである。底面は皿状を呈しており, 壁は外傾

して立ち上がる。

覆土 3層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 締まり有り | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第111号土坑 (第121図)

位置 調査Ⅱ区南部、E7e1区の平坦部に立地し、北西には第12号住居跡、南西には第18号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.20m、短径0.92mの楕円形であり、長径方向はN-8°-Wである。深さは82cmほどで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 6層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 炭化物少量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 5 褐色 炭化物中量 |
| 3 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量 締まり有り | 6 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片4点(口縁部1、胴部3)が覆土中から出土している。土器は摩滅している細片が多く、図示できるものはなく、阿玉台式の土器が含まれている。

所見 本跡の時期は出土土器や遺構の形態から縄文時代中期と考えられる。

第114号土坑 (第121図)

位置 調査Ⅱ区北部、E6b5区の平坦部に立地し、北には第8・9号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.28m、短径1.12mの楕円形で、長径方向はN-80°-Eである。深さは18cmで底面は風状を呈し、壁は外傾して立ち上がる。床の北は、深さは40cmほどのビット状を呈している。

覆土 7層からなり、含有物やブロック状の堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 黒色 炭化粒子中量、焼土ブロック・ロームブロック微量 | 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 棕褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片200点(口縁部14、胴部185、底部1)、礫4点が出土している。TP358はビットの覆土下層、TP359はビットの覆土上層、TP360は覆土中から出土している。時期的には加曾利EⅢ式及び加曾利EⅣ式土器が混在しているが、多くは加曾利EⅣ式土器である。

所見 本跡の時期は出土土器などから、縄文時代中期後葉(加曾利EⅣ式期)と考えられる。

第121号土坑 (第121図)

位置 調査Ⅱ区北部、E6b5区の平坦部に立地し、北西には第8号住居跡が位置している。

規模と形状 長径0.74m、短径0.66mの楕円形であり、長径方向はN-92°-Wである。深さは58cmほどで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第125号土坑 (第121図)

位置 調査Ⅱ区北部、E6b6区の平坦部に立地し、東には第13号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.54m、短径1.14mの楕円形であり、長径方向はN-40°-Eである。深さは73cm、底面は皿状を呈しており、壁は袋状を呈している。ピットは中央やや西に検出され、深さは6cmである。

覆土 3層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片32点(口縁部10、胴部21、底部1)が出土している。TP361~365をはじめほとんどが覆土中から出土し、加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器や遺構の形態などから縄文時代中期後葉(加曽利EⅢ式期)と考えられる。

第131号土坑 (第122図)

位置 調査Ⅱ区北部、D6f6区の平坦部に立地し、東には第38号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.20m、短径1.06mの楕円形で、長径方向はN-39°-Eである。深さは22cm、床面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり、不連続な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量 藪まり有り

遺物出土状況 縄文土器片2点(胴部2)が覆土中から出土しているが、摩滅した細片がほとんどで、図示できるものはない。

所見 本跡の時期は出土土器や遺構の形態などから、縄文時代中期後葉と考えられる。

第134号土坑 (第122図)

位置 調査Ⅱ区北部、D6h7区の平坦部に立地している。南には第37号住居跡、第130号土坑が隣接し、西には第38号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.92m、短径1.30mの楕円形で、長径方向はN-16°-Wである。深さは23cm、底面は凹凸が見られ、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第135号土坑 (第122図)

位置 調査Ⅱ区北部, D 6 g6区の平坦部に立地し, 東には第13号住居跡が位置している。

規模と形状 径1.10mほどの円形で, 深さは49cmである。底面は平坦で, 壁は直立する。

覆土 3層からなり, 水平な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 8点 (I緑部5, 胴部3) が出土している。TP366は中央部, TP369は北部の覆土中層からそれぞれ出土している。加曾利EⅢ~Ⅳ式土器が混在しているが, 加曾利EⅣ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉 (加曾利EⅣ式期) と考えられる。

第136号土坑 (第122図)

位置 調査Ⅱ区北部, D 6 j6区の平坦部に立地し, 西には第9号住居跡, 東には第37号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.24m, 短径1.06mほどの楕円形で, 長径方向はN-65°-Eである。深さは52cm, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり, 不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は遺構の形態などから, 縄文時代中期と考えられる。

第140号土坑 (第122図)

位置 調査Ⅱ区北部, E 6 e7区の平坦部に立地し, 北東には第12号住居跡が隣接している。

規模と形状 長径1.08m, 短径0.86mほどの楕円形で, 長径方向はN-37°-Wである。深さは42cm, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|---------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は遺構の形態などから, 縄文時代中期と考えられる。

第141号土坑 (第122図)

位置 調査Ⅱ区北部, E 6 d9区の平坦部に立地し, 北には第12号住居跡が隣接している。

規模と形状 長径1.92m, 短径1.10mの楕円形で, 長径方向はN-18°-Wである。深さは30~36cm, 底面は西側部がやや高く, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 5層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 締まり有り |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 締まり有り | | |

遺物出土状況 縄文土器片6点(口縁部2, 胴部4)が覆土中から出土しているが、摩滅した細片がほとんどで図示できるものはない。

所見 本跡の時期は縄文時代中期と考えられる。

第142号土坑(第122図)

位置 調査Ⅱ区北部, D7g1区の平坦部に立地している。第143号・182号土坑が隣接しており, 東には第10号住居跡が位置している。

規模と形状 長径0.80m, 短径0.63mの楕円形で, 長径方向はN-69°-Wである。深さは37cm, 底面は皿状を呈しており, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 黒色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | |

遺物出土状況 縄文土器片18点(胴部18)が覆土中から出土しているが、摩滅した細片がほとんどで図示できるものはない。

所見 本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉と考えられる。

第144号土坑(第122図)

位置 調査Ⅱ区中央部, E617区の平坦部に立地している。南には第23号住居跡が位置し, 第176・194・217号土坑が隣接している。

規模と形状 長径1.64m, 短径0.86mの楕円形で, 長径方向はN-13°-Wである。深さは28cm, 底面はほぼ平坦であり, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり, 含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物中量, ロームブロック微量 | 3 褐色 ロームブロック中量, ローム粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片23点(胴部22, 底部1)が覆土中から出土しているが、摩滅した細片がほとんどで図示できるものはない。

所見 本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉と考えられる。

第146号土坑(第122図)

位置 調査Ⅱ区北部, E6e9区の平坦部に立地し, 北東には第12号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.46m, 短径1.32mの楕円形で, 長径方向はN-68°-Wである。深さは52cm, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり, 不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片8点(胴部7, 底部1)が出土している。165は中央部, TP372は北西部, TP373は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第150号土坑 (第122図)

位置 調査Ⅱ区北部, E 6 e7区の平坦部に立地し, 南西には第40号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.12m, 短径0.92mの楕円形で, 長径方向はN-81°-Eである。深さは30cm, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, ローム粒子微量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第156号土坑 (第122図)

位置 調査Ⅱ区北部, E 6 e6区の平坦部に立地し, 南西には第40号住居跡が位置している。

規模と形状 長径0.98m, 短径0.89mほどの楕円形で, 長径方向はN-27°-Wである。深さは40cm, 底面は平坦で, 壁はほぼ直立する。

覆土 3層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片23点(胴部23)が覆土中から出土している。摩滅している細片がほとんどである。TP375は覆土中から出土し, 時間的には加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第157号土坑 (第122図)

位置 調査Ⅱ区北部, E 6 e6区の平坦部に立地し, 南西には第40号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.23m, 短径0.85mほどの楕円形で, 長径方向はN-69°-Wである。深さは33cm, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片4点(口縁部2, 胴部2)が出土している。TP376をはじめほとんどが覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第158号土坑 (第123図)

位置 調査Ⅱ区北部, E 7 g2区の平坦部に立地し, 第18号住居跡が重複している。

重複関係 第18号住居跡の南東部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.20m, 短径1.10mの円形で, 深さは66cm, 底面は皿状を呈し, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり, 不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片24点（口縁部1，胴部23）が出土している。TP377をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第159号土坑（第123図）

位置 調査Ⅱ区北部，E6f9の平坦部に立地し，東には第18・19号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.11m，短径0.98mの楕円形で，長径方向はN-72°-Eである。深さは40cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり，不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量，ローム粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片39点（口縁部4，胴部35）が出土している。TP378～380をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第166号土坑（第123図）

位置 調査Ⅱ区北部，E6f9の平坦部に立地し，東には第18・19号住居跡が位置している。

規模と形状 径1.10mほどの円形で，深さは32cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片16点（口縁部2，胴部14）が出土している。TP384をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第168号土坑（第123図）

位置 調査Ⅱ区北部，E7h2の平坦部に立地し，北西には第18・19号住居跡が位置している。

規模と形状 径1.07mほどの円形で，深さは43cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり，不自然な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片11点（口縁部1，胴部10）が出土している。TP385をはじめほとんどが覆土中から出土し，時期的には加曾利EⅢ式期の土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第170号土坑 (第123図)

位置 調査Ⅱ区北部, E6g2の平坦部に立地し, 東には第18・19号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.52m, 短径1.26mの不定形で, 長径方向はN-38°-Wである。深さは82cm, 底面は平坦で, 壁は直立する。

覆土 4層からなり, 不自然な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片46点 (I緑部2, 胴部44) が出土している。TP386~TP388をはじめほとんどが覆土中から出土し, 加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉 (加曾利EⅢ式期) と考えられる。

第194号土坑 (第123図)

位置 調査Ⅱ区北部, E6j7の平坦部に立地し, 南西には第23号住居跡が隣接している。

規模と形状 長径2.00m, 短径1.45mの楕円形で, 長径方向はN-6°-Wである。深さは57cm, 底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり, 不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片53点 (I緑部3, 胴部50), 燧1点が出土している。土器はTP396をはじめほとんどが覆土中から出土し, 加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉 (加曾利EⅢ式期) と考えられる。

第200号土坑 (第123図)

位置 調査Ⅱ区北部, F7b1の平坦部に立地し, 北には第20号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.56m, 短径1.28mの楕円形で, 長径方向はN-13°-Wである。深さは36cm, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | 炭化物少量, ロームブロック微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片23点 (I緑部5, 胴部18), 土製円板1点が出土している。TP395やDP29をはじめほとんどが覆土中から出土し, 加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉 (加曾利EⅢ式期) と考えられる。

第203号土坑 (第123図)

位置 調査Ⅱ区北部, F7j1の平坦部に立地し, 北には第20号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.45m, 短径1.20mの楕円形で, 長径方向はN-3°-Wである。深さは53cm, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。覆土は2層からなり, 不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化物少量, ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片441点(口縁部29, 胴部407, 底部5), 土製石孔円板1点, 礫6点が出土している。TP397は覆土下層, TP404は覆土上層, TP405は覆土中層のそれぞれ中央部から, DP30は北部の覆土上層から出土し, 加曾利EⅢ~Ⅳ式土器が混在している。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ~Ⅳ式期)と考えられる。

第223号土坑(第123図)

位置 調査Ⅱ区北部, E7e2の平坦部に立地し, 南西には第18号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.50m, 短径1.32mの楕円形で, 長径方向はN-35°-Wである。深さは63cm, 底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------|-------|-----------|
| 1 におい赤褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片22点(口縁部3, 胴部19), 礫6点が出土している。土器はTP408~TP410をはじめほとんどが覆土中から出土し, 加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第228号土坑(第123図)

位置 調査Ⅱ区中央部, E6d7の平坦部に立地し, 北西には第25号住居跡が位置している。

規模と形状 径1.70mほどの円形で, 深さは68cmである。底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 5層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量, 細まり有り | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片28点(口縁部2, 胴部25, 底部1), 礫2点が出土している。TP411~TP413をはじめほとんどが覆土中から出土し, 加曾利EⅣ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉(加曾利EⅣ式期)と考えられる。

第230号土坑(第123図)

位置 調査Ⅱ区南部, F6e7区の平坦部に立地し, 南には第21号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.17m, 短径0.95mの楕円形であり, 長径方向はN-9°-Eである。深さは18cmで底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片5点(胴部5)が覆土中から出土し, 時期的には加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は遺構の形態や土器などから縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第249号土坑（第124図）

位置 調査Ⅱ区北部，F7b2区の平坦部に立地し，第200・291号土坑が隣接している。

規模と形状 長径1.80m，短径1.19mの楕円形で，長径方向はN-43°-Wである。深さは18～38cm，底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。北部にビット1か所が検出され，深さは24cmほどである。

覆土 2層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 縄文土器片3点（口縁部1，胴部2）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどで，図示できるものはない。

所見 本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉と考えられる。

第251号土坑（第124図）

位置 調査Ⅱ区北部，F6c5区の平坦部に立地し，西には第25号住居跡が隣接している。

規模と形状 径1.25mほどの円形で，深さは35cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量，ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片19点（口縁部3，胴部16）が覆土中から出土している。摩滅した細片がほとんどで，図示できるものはない。

所見 本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第255号土坑（第124図）

位置 調査Ⅱ区北部，F6g6区の平坦部に立地し，第21号住居跡と重複している。第76号土坑や第78号土坑が隣接し，西には第10号住居跡が位置している。

重複関係 第21号住居跡の西部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.22m，短径0.98mの楕円形で，長径方向はN-27°-Eである。深さは46cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片5点（口縁部2，胴部3）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどである。TP461は東部の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第259号土坑 (第124図)

位置 調査Ⅱ区北部, F7c3区の平坦部に立地し, 北西には同時期の第249号土坑が位置している。

規模と形状 長径1.28m, 短径1.21mの不整形で, 長径方向はN-54°-Wである。深さは51cmである。底面は皿状を呈し, 壁はほぼ直立する。また, 長方形のビットが北部に検出され, 深さは15cmほどである。

覆土 2層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片6点(胴部6)がTP462・TP463をはじめ覆土中から出土し, 加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第266号土坑 (第124図)

位置 調査Ⅱ区北部, F6e4区の平坦部に立地し, 北には第25号住居跡が隣接している。

規模と形状 長径1.86m, 短径0.87mほどの楕円形で, 長径方向はN-17°-Wである。深さは22cm, 底面はほぼ平坦であり, 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量, ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片3点(口縁部1, 胴部2)が覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅣ式期)と考えられる。

第267号土坑 (第124図)

位置 調査Ⅱ区北部, F6c5区の平坦部に立地し, 北には第25号住居跡や第251号土坑が位置している。

規模と形状 長径1.43m, 短径1.24mの楕円形で, 長径方向はN-12°-Wである。深さは50cm, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片19点(口縁部4, 胴部15), 土製円板1点, 礫1点が出土している。TP468～TP470, DP32も含めてほとんどが, 覆土中から出土し, 加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第268号土坑 (第124図)

位置 調査Ⅱ区中央部, F6e5区の平坦部に立地し, 北には第25号住居跡, 西には第266号土坑が隣接している。

規模と形状 長径1.56m, 短径0.96mほどの楕円形で, 長径方向はN-55°-Wである。深さは23cm, 底面は皿状を呈し, 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり, 不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量

- 3 褐色 ロームブロック中量
4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片33点（口縁部1，胴部32）が出土している。TP471をはじめほとんどが覆土中から出土し、縄文時代中期後葉の加曾利EⅣ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉（加曾利EⅣ式期）と考えられる。

第272号土坑（第124図）

位置 調査Ⅱ区北部，F7g4区の平坦部に立地し、南西には第273号土坑が位置している。

規模と形状 長径1.25m，短径0.94mの楕円形で、長径方向はN-72°-Wである。深さは72cm，底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
2 褐色 ロームブロック中量 紐まり有り

- 3 褐色 ロームブロック中量 炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片2点（胴部2），礫1点が出土している。TP473は南東部の覆土中層から出土し、加曾利EⅢ式期が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから、縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第281号土坑（第124図）

位置 調査Ⅱ区中央部，F6e5区の平坦部に立地している。第282号土坑が重複し、北には第25号住居跡が位置している。

重複関係 第282号土坑の北西部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.11m，短径0.75mの不整形円形であり、長径方向はN-74°-Wである。深さは36cm，底面は皿状を呈しており、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量 炭化物微量
2 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 3 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片30点（口縁部1，胴部29）が出土している。TP492・TP493をはじめほとんどが覆土中から出土し、縄文時代中期後葉の加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第282号土坑（第124図）

位置 調査Ⅱ区中央部，F6e5区の平坦部に立地している。第281号土坑が重複し、北には第25号住居跡が位置している。

重複関係 第281号土坑に北西部を掘り込まれている。

規模と形状 第281号土坑に北西部を掘り込まれているため、長径1.17m，短径1.06mだけが検出され、N-75°-Wを長径方向とする不定形と推定される。深さは39cm，底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

3 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片41点（口縁部7，胴部33，底部1）が出土している。TP494をはじめほとんどが覆土中から出土し，縄文時代中期後葉の加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第283号土坑（第124図）

位置 調査Ⅱ区中央部，F7h2区の平坦部に立地し，南には第273号土坑が位置している。

規模と形状 長径0.92m，短径0.87mの円形で，深さは61cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量

3 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片33点（口縁部4，胴部28，底部1）が出土している。TP495・TP496をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曾利EⅣ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曾利EⅣ式期）と考えられる。

第284号土坑（第124図）

位置 調査Ⅱ区中央部，F6d4区の平坦部に立地し，南には第25号住居跡が重複している。

規模と形状 長径1.28m，短径1.22mの不整形円形で，長径方向はN-19°-Wである。深さは88cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

3 褐色 ロームブロック少量，炭化物微量
4 暗褐色 ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片67点（胴部62，底部5），有孔円板1点，礫1点が出土している。土器はTP497・TP498を含めてほとんどが覆土中から出土し，加曾利EⅣ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曾利EⅣ式期）と考えられる。

第302号土坑（第125図）

位置 調査Ⅱ区中央部，F6g5区の平坦部に立地し，東には第21号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.30m，短径0.93mの隅丸長方形で，長径方向はN-67°-Eである。深さは29cm，底面は凹凸が見られ，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

3 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片8点（胴部8）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどで図示できるものはない。

所見 本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期と考えられる。

第308号土坑 (第125図)

位置 調査Ⅱ区中央部、F6c7区の平坦部に立地し、西には第17・25号住居跡が位置している。

規模と形状 長径2.00m、短径1.59mほどの不定形で、長径方向はN-58°-Wである。深さは35cm、底面はやや皿状を呈しており、壁は外傾して立ち上がり、北部が円形状に窪んでいる。

覆土 3層からなり、不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片93点(口縁部7、胴部86)が覆土中から出土しているが、摩滅した細片がほとんどである。縄文時代中期の阿玉台式土器と加曾利EⅢ式土器が混在している。

所見 本跡の時期は出土土器などから、縄文時代中期と考えられる。

第310号土坑 (第125図)

位置 調査Ⅱ区中央部、F6g5区の平坦部に立地し、東には第21号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.38m、短径0.80mほどの長楕円形で、長径方向はN-65°-Eである。深さは28cm、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片9点(胴部9)が出土している。TP499をはじめほとんどが覆土中から出土し、縄文時代中期後葉の加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから、縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第311号土坑 (第125図)

位置 調査Ⅱ区中央部、F6f5区の平坦部に立地し、東には第21号住居跡が隣接している。

規模と形状 長径1.50m、短径0.87mほどの長楕円形で、長径方向はN-54°-Eである。深さは32cm、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片4点(胴部4)が覆土中から出土しているが、摩滅した細片がほとんどであり、図示できるものはない。縄文時代中期後葉の加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから、縄文時代中期後葉と考えられる。

第324号土坑 (第125図)

位置 調査Ⅱ区北部、F6h5区の平坦部に立地し、東には第14・21号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.96m、短径1.23mの不定形で、深さは28cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり、含有物やブロック状の堆積状況であるが自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物少量, ロームブロック微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 輪まり有り |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片27点(口縁部2, 胴部25), 礫1点が出土している。TP500・TP501をはじめ、ほとんどが覆土中から出土し、時間的には加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから、縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第346号土坑(第125図)

位置 調査Ⅱ区中央部, F619区の平坦部に立地し、北西には第14号住居跡が位置している。

規模と形状 長径2.54m, 短径1.21mほどの長楕円形で、長径方向はN-27°-Eである。深さは25cm, 底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土 7層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 6 褐色 ロームブロック中量, ローム粒子微量 |
| 3 明褐色 ロームブロック中量 | 7 褐色 ロームブロック中量 |
| 4 明褐色 ロームブロック中量, ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第354号土坑(第125図)

位置 調査Ⅱ区南部, F610区の平坦部に立地し、北東には第273号土坑, 南西には第36号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.63m, 短径1.15mの楕円形であり、長径方向はN-25°-Wである。深さは78cmで底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡は近接する土坑の形態などから、時期は縄文時代と考えられる。

第371号土坑(第125図)

位置 調査Ⅱ区中央部, F6d7区の平坦部に立地し、南には第21号住居跡, 西には第25号住居跡が位置している。また、372号土坑と重複している。

規模と形状 長径1.96m, 短径0.92mほどの長楕円形で、長径方向はN-78°-Wである。深さは20cm, 底面は皿状を呈しており、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり、不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 輪まり有り | 4 褐色 ロームブロック中量, ローム粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片8点(胴部8)が覆土中から出土しているが、摩滅した細片がほとんどであり、図示できるものはない。

所見 本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉と考えられる。

第401号土坑(第125図)

位置 調査Ⅱ区南部、G6 b5区の平坦部に立地し、東には第436号土坑が隣接し、南には第22号住居跡が位置している。

規模と形状 径1.50mの円形で、深さは17cmほどである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片226点(口縁部14、胴部212)が出土している。176は南西部の覆土上層から出土している多くの土器片が接合した資料であり、縄文時代中期の阿玉台Ib式の土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期前葉(阿玉台Ib式期)と考えられる。

第439号土坑(第125図)

位置 調査Ⅱ区南部、G6 b5区の平坦部に立地し、北東には第25号住居跡、北には第456号土坑が位置している。

規模と形状 長径2.40m、短径1.94mの楕円形で、長径方向はN-81°-Wである。深さは69cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片52点(口縁部6、胴部44、底部2)、礫4点が出土している。土器はTP531～TP533をはじめほとんどが覆土中から出土し、加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから、縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第440号土坑(第126図)

位置 調査Ⅱ区南部、G6 i6区の平坦部に立地し、北西には第439号土坑、北東には第425号土坑が位置している。

規模と形状 長径1.83m、短径1.65mの楕円形で、長径方向はN-78°-Wである。深さは44cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化材微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片42点(口縁部1、胴部40、底部1)が出土している。TP534～TP537をはじめほとんどが覆土中から出土し、加曾利EⅢ～IV式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから、縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ～IV式期)と考えられる。

第443号土坑 (第126図)

位置 調査Ⅱ区南部, G6j6区の平坦部に立地し, 北には第425号土坑, 北西には第440号土坑が位置している。

規模と形状 径1.38mほどの円形で, 深さは33cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片5点(口縁部3, 胴部2)が覆土中から出土しているが, 摩滅した細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉と考えられる。

第447号土坑 (第126図)

位置 調査Ⅱ区北部, G7a4区の平坦部に立地し, 西には第364号土坑が位置している。

規模と形状 長径0.95m, 短径0.82mの楕円形で, 長径方向はN-14°-Eである。深さは33cm, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片4点(口縁部2, 胴部2)が覆土中から出土しているが, 摩滅した細片がほとんどで, 図示できるものはない。

所見 本跡の時期は遺構の形態などから, 縄文時代中期と考えられる。

第461号土坑 (第126図)

位置 調査Ⅱ区北部, G7d2区の平坦部に立地し, 西には第364号土坑が位置している。

規模と形状 長径1.37m, 短径1.00mの楕円形で, 長径方向はN-30°-Wである。深さは58cm, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 5層からなり, 不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片10点(口縁部3, 胴部7), 燧石1点が出土している。土器はTP544~TP546をはじめほとんどが覆土中から出土し, 加曽利EⅢ~Ⅳ式土器が混在している。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉(加曽利EⅢ~Ⅳ式期)と考えられる。

第471号土坑 (第126図)

位置 調査Ⅱ区南部, H6b7区の緩斜面部に立地し, 東には第32号住居跡が位置している。

規模と形状 長径2.74m, 短径2.14mの楕円形であり, 長径方向はN-50°-Wである。深さは36cmで底面には凹凸が見られ, 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。深さ14cmほどのピットが中央部に検出されている。

覆土 3層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|------|-----------------|------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 3 褐色 | ロームブロック中量、ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、細まり有り | | |

遺物出土状況 縄文土器片24点（口縁部5、胴部16、底部3）、環11点が出土している。土器はほとんどが中央部の覆土中から出土し、時期的には加曾利EⅣ式土器が中心である。TP548～TP550は中央部覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は遺構の形態や土器などから縄文時代中期後葉（加曾利EⅣ式期）と考えられる。

第483号土坑（第126図）

位置 調査Ⅱ区南部、G6a8区の平坦部に立地し、南には第36号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.05m、短径0.87mの楕円形で、長径方向はN-31°-Eである。深さは67cmで底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|------|----------------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は形態や他の土坑との比較から縄文時代中期と考えられる。

第491号土坑（第126図）

位置 調査Ⅱ区南部、G7e3区の平坦部に立地し、西には第27号住居跡が隣接している。

重複関係 第26号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.08m、短径0.92mの楕円形で、長径方向はN-78°-Eである。深さは48cmで底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 5層からなり、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、細まり有り |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片41点（口縁部4、胴部37）、磨石1点が出土している。土器はTP551・TP552をはじめ、覆土中から出土しているものが多く、時期的には加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は形態や出土土器などから縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第496号土坑（第126図）

位置 調査Ⅱ区南部、G7e2区の平坦部に立地し、西には第27号住居跡が隣接している。

重複関係 第26号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.95m、短径0.73mほどの楕円形で、長径方向はN-37°-Eである。深さは31cmで底面は皿状を呈しており、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり、含有物や不自然な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片29点（I口縁部5、胴部24）が出土している。P199は南西部覆土中から出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 本跡の時期は形態や出土土器などから縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。

第509号土坑（第126図）

位置 調査Ⅱ区南部，G7e2区の平坦部に立地し，第26号住居跡と重複している。

重複関係 第26号住居跡の南西部を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.70mの円形で，深さは37cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり，不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------|------------------------------|
| 1 褐色 romeブロック少量 | 3 暗褐色 romeブロック少量，炭化物微量 |
| 2 黒褐色 romeブロック少量，炭化物微量 | 4 暗褐色 romeブロック少量，炭化物微量 餅まき有り |

遺物出土状況 縄文土器片7点（胴部7）が出土している。細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期後葉と考えられる。

第515号土坑（第127図）

位置 調査Ⅱ区北部，G6a9区の平坦部に立地し，南には第29号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.34m，短径0.85mの楕円形で，深さは100cmである。底面は中央部が平坦で，東部にかけては階段状を呈し，他の壁は直立する。

覆土 3層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 romeブロック・炭化物少量 | 3 暗褐色 romeブロック少量，炭化物微量 |
| 2 黒褐色 炭化物少量，romeブロック・焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片29点（I口縁部1，胴部28）が出土している。TP555は中央部やや西寄りの覆土下層，TP556は西部の覆土中層からそれぞれ出土し，時間的には加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡は東側で，土坑が重なり合っている可能性がある。時期は出土土器などから縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第578号土坑（第127図）

位置 調査Ⅱ区中央部，F6e9区の平坦部に立地し，西には第14号住居跡や第21号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.48m，短径1.00mほどの長楕円形で，長径方向はN-75°-Wである。深さは19cm，底面は皿状を呈しており，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。北西部にピット1か所が検出され，深さは14cmほどである。

覆土 3層からなり，不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 褐色 rome粒子中量，炭化粒子微量 | 3 褐色 rome粒子中量，炭化粒子微量 |
| 2 褐色 rome粒子中量，炭化物微量 | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は遺構の形態などから，縄文時代中期と考えられる。

第602号土坑 (第127図)

位置 調査Ⅱ区南部, F6 d9区の平坦部に立地し, 南西には第21号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.40m, 短径1.14mの楕円形で, 長径方向はN-38°-Eである。深さは30cmで底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり, ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量, 炭土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片5点(副部5)が覆土中から出土しているが, 摩滅した細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期と考えられる。

第608号土坑 (第127図)

位置 調査Ⅱ区南部, E6 j9区の平坦部に立地し, 西には第23号住居跡が位置している。

規模と形状 径1.22mほどの円形で, 深さは45cmである。底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり, 含有物や不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 褐色 ロームブロック中量, 炭土粒子・炭化物微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片3点(副部3)が覆土中から出土しているが, 摩滅した細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期と考えられる。

第615号土坑 (第127図)

位置 調査Ⅱ区中央部, E6 j7区の平坦部に立地し, 西には第23号住居跡が隣接している。

規模と形状 長径1.30m, 短径0.90mの楕円形で, 長径方向はN-82°-Eである。深さは18~25cm, 底面は凹凸が見られ, 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。南部でビット1か所が検出され, 深さは5cmほどである。

覆土 5層からなり, 不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量 | 5 褐色 ローム粒子中量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片13点(副部13), 礫1点が覆土中から出土している。土器は摩滅した細片がほとんどであり, 図示できるものはない。

所見 本跡の時期は出土土器などから, 縄文時代中期後葉と考えられる。

第616号土坑 (第127図)

位置 調査Ⅱ区南部, E6 j8区の平坦部に立地し, 西には第23号住居跡が位置している。

規模と形状 径0.90mほどの円形で, 深さは32cmである。底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3層からなり, ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|------|---------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、炭化物微量 | 3 褐色 | ローム粒子多量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片2点(口縁部1, 胴部1)が覆土中から出土しているが、摩滅した細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉と考えられる。

第617号土坑(第127図)

位置 調査Ⅱ区中央部, E6J7区の平坦部に立地し, 西には第23号住居跡が隣接している。

規模と形状 長径1.60m, 短径1.35mほどの楕円形で, 長径方向はN-66°-Wである。深さは30cm, 底面はほぼ平坦であり, 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。東部にビット1か所が検出され, 深さは7cmほどである。

覆土 3層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片9点(胴部9)が覆土中から出土しているが、摩滅した細片がほとんどであり、図示できるものはない。縄文時代中期後葉の土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから、縄文時代中期後葉と考えられる。

第618号土坑(第127図)

位置 調査Ⅱ区南部, F6a7区の平坦部に立地し, 南には第17号住居跡が隣接している。

規模と形状 径0.85mの円形で, 深さは29cmである。底面は皿状を呈し, 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなり, 含有物とブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--|--|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化材微量 | | |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片20点(口縁部2, 胴部18)がTP569・TP570をはじめ覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅣ式期)と考えられる。

第624号土坑(第127図)

位置 調査Ⅱ区中央部, E6J4区の平坦部に立地し, 北には第16号住居跡が位置している。

規模と形状 長径2.03m, 短径1.23mほどの不整形円形で, 長径方向はN-80°-Eである。深さは50cm, 底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり, 自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量、炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片36点(口縁部5, 胴部31), 礫1点が出土している。土器はTP689をはじめほとんどが覆土中から出土し, 縄文時代中期後葉の加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第629号土坑 (第127図)

位置 調査Ⅱ区中央部、F 6 a6区の平坦部に立地し、北東には第23号住居跡、西には第17号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.73m、短径0.95mほどの長楕円形で、長径方向はN-49°-Wである。深さは30cm、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。中央部からやや南東にピット1か所が検出され、深さは20cmほどである。

覆土 2層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片16点(胴部16)が覆土中から出土しているが、摩滅した細片がほとんどであり、図示できるものはない。縄文時代中期後葉の土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから、縄文時代中期後葉と考えられる。

第635号土坑 (第128図)

位置 調査Ⅱ区南部、F 6 a4区の平坦部に立地し、南には第17号住居跡が隣接している。

規模と形状 長径2.15m、短径1.32mの不整形楕円形で、長径方向はN-12°-Wである。深さは63cmで底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。深さは9cmほどのピットが西部に検出されている。

覆土 4層からなり、含有物とブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化材微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片41点(口縁部3、胴部38)がTP571・TP572をはじめ覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第644号土坑 (第128図)

位置 調査Ⅱ区南部、F 6 b5区の平坦部に立地し、西には第17号住居跡が隣接している。

規模と形状 径0.98mの円形で、深さは32cmである。底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片11点(口縁部2、胴部9)が出土している。TP576は中央部の覆土中層から出土し、時間的には加曾利EⅣ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は、土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅣ式期)と考えられる。

第653号土坑 (第127図)

位置 調査Ⅱ区北部、G 7 i4区の平坦部に立地し、西には第31号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.58m、短径1.10mの楕円形で、長径方向はN-59°-Eである。深さは100cmで底面は平坦であり、壁は直立する。

覆土 8層からなり、含有物やブロック状の堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片29点（口縁部13、胴部160、底部2）、礫2点が出土している。TP580は北部の覆土下層、TP581は北東部の覆土上層からそれぞれ出土し、時間的には加曾利EⅣ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は、出土土器などから縄文時代中期後葉（加曾利EⅣ式期）と考えられる。

第661号土坑（第128図）

位置 調査Ⅱ区中央部、F6f8区の平坦部に立地し、第21号住居跡と重複している。

重複関係 東部が第21号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 東部が第21号住居跡に掘り込まれているため、長径1.76m、短径1.65mだけが検出され、N-68°-Eを長径方向とする長楕円形と推定される。深さは23cm、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり、不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化物微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片12点（胴部12）が覆土中から出土しているが、摩滅した細片がほとんどであり、図示できるものはない。縄文時代中期後葉の加曾利EⅡ～Ⅲ式土器が混在している。

所見 本跡は第21号住居跡に掘り込まれており、やや古い遺構と思われる。時期は出土土器などから縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。

第662号土坑（第128図）

位置 調査Ⅱ区中央部、F6f8区の平坦部に立地し、西には第21号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.35m、短径0.95mほどの不整楕円形で、長径方向はN-56°-Eである。深さは20cm、ほぼ平坦であり、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量、炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片17点（口縁部1、胴部16）、礫1点が覆土中から出土しているが、摩滅した細片がほとんどであり、図示できるものはない。縄文時代中期後葉の加曾利EⅡ～Ⅲ式土器が混在しているが、多くは加曾利EⅢ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は出土土器などから、縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第664号土坑（第128図）

位置 調査Ⅱ区北部、G7h4区の平坦部に立地し、西には第31号住居跡が位置している。

規模と形状 東部が調査区域外のため、検出できたのは長径1.60mと短径は0.84mであり、本来は楕円形と推定され、長径方向はN-10°-Eである。深さは46cmで底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 6層からなり、含有物やブロック状の堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 締まり有り | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片29点（口縁部7、胴部55、底部2）、鏢1点が出土している。TP582は北西部の覆土中層から出土し、时期的には加曾利EⅣ式土器が中心である。

所見 本跡の時期は、出土土器などから縄文時代中期後葉（加曾利EⅣ式期）と考えられる。

第665号土坑（第128図）

位置 調査Ⅱ区中央部、F6e7区の平坦部に立地し、南には第21号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.80m、短径1.13mほどの長楕円形で、長径方向はN-80°-Wである。深さは28cm、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 6層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 締まり有り | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 6 褐色 | ロームブロック中量、ローム粒子微量 |

遺物出土状況 ミニチュア壺形土器1点、縄文土器片12点（胴部12）が出土している。191は東部の覆土中層から出土しており、縄文時代中期の阿玉台式土器と加曾利EⅢ式土器が混在している。

所見 本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期（阿玉台式期）と考えられ、蕨塚の可能性が考えられる。

第668号土坑（第128図）

位置 調査Ⅱ区南部、F6e8区の平坦部に立地し、南西には第665号土坑が隣接している。

規模と形状 長径1.92m、短径1.53mの楕円形であり、長径方向はN-79°-Eである。深さは19cmで底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。深さ125cmほどのピットが北東部に検出されている。

覆土 8層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片36点（口縁部1、胴部35）が覆土中から出土しているが、摩滅した細片がほとんどで図示できるものはない。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や土器などから縄文時代中期後葉と考えられる。

第673号土坑（第128図）

位置 調査Ⅱ区南部、G6j9区の緩やかな斜面部に立地している。第601号土坑と重複し、南東には第600号土坑が隣接している。

重複関係 第601号土坑の西部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.10m、短径1.82mの隅丸長方形であり、長径方向はN-0°である。深さは43~50cmで、底面は皿状を呈しており、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 5層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|------|------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片11点(胴部11)が覆土中から出土している。土器は摩滅した細片が多く、図示できるものはない。

所見 本跡は第601号土坑を掘り込んでおり、第601号土坑よりやや新しい土坑と想定される。時期は出土土器から縄文時代中期後葉と考えられる。

第676号土坑(第128図)

位置 調査Ⅱ区南部、G7h4区の平坦部に立地し、西には第31号住居跡が隣接している。

重複関係 第677号土坑の中央部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.42m、短径1.28mの楕円形で、長径方向はN-27°-Eである。深さは54cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 6層からなり、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、ローム粒子・焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片21点(口縁部3、胴部18)、礫1点が出土している。192は中央部覆土中層から、TP584・TP585は北西部の覆土下層・中層から出土し、時間的には加曾利EIV式土器が中心である。

所見 本跡の時期は、土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EIV式期)と考えられる。

第700号土坑(第128図)

位置 調査Ⅱ区南部、G7h4区の平坦部に立地し、西には第31号住居跡が隣接している。

重複関係 第677号土坑の北部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.95mの円形で、深さは54cm、底面は皿状を呈しており、壁は外傾して立ち上がる。

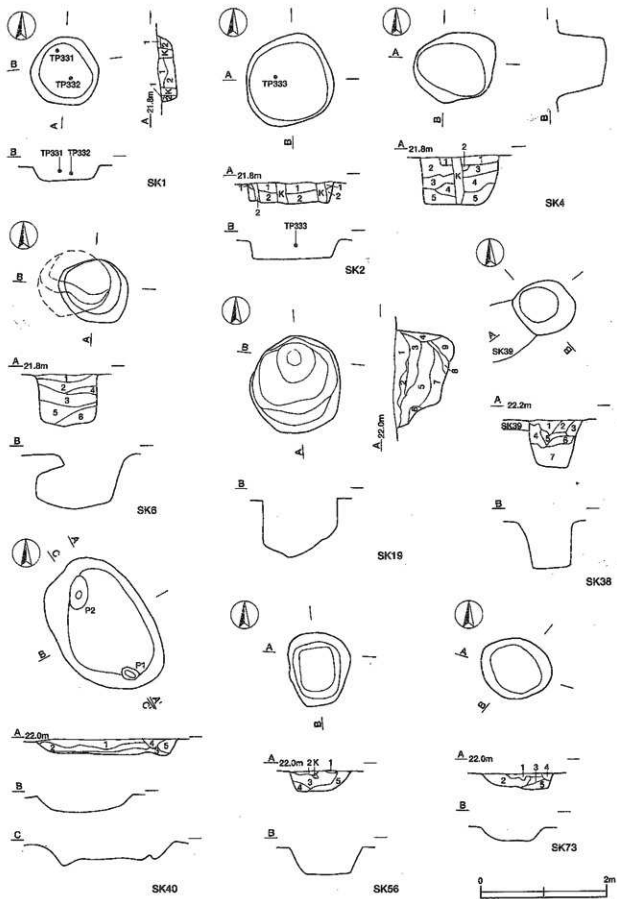
覆土 3層からなり、含有物や堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

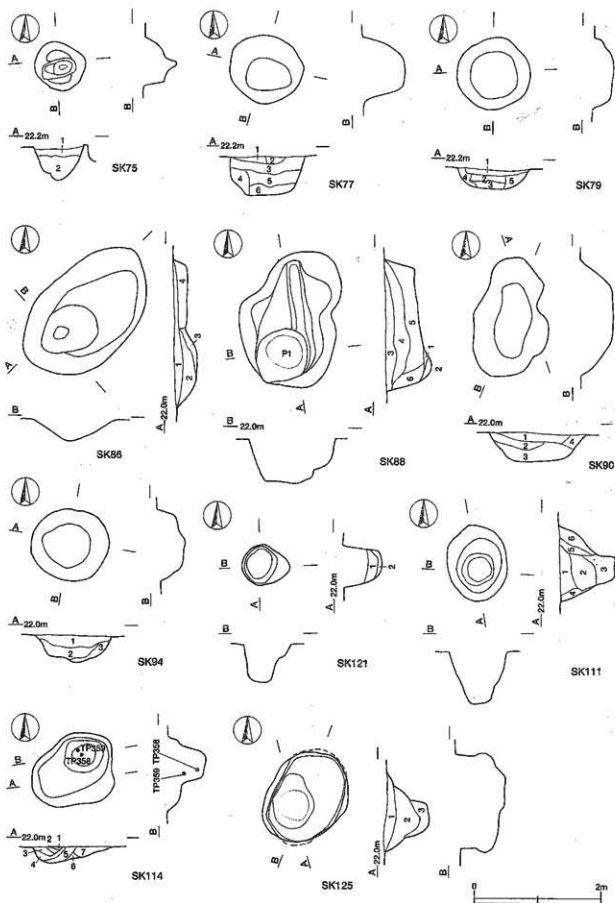
- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片76点(口縁部9、胴部67)、礫1点が出土している。土器は193、TP590~TP592をはじめ覆土中から出土し、時間的には加曾利EIV式土器が中心である。

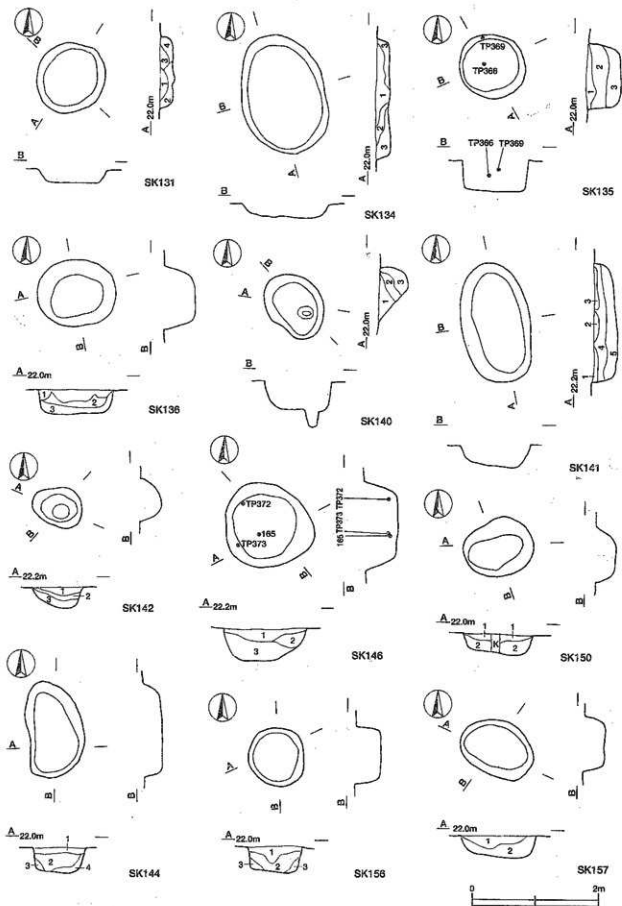
所見 本跡の時期は、土器などから縄文時代中期後葉(加曾利EIV式期)と考えられる。



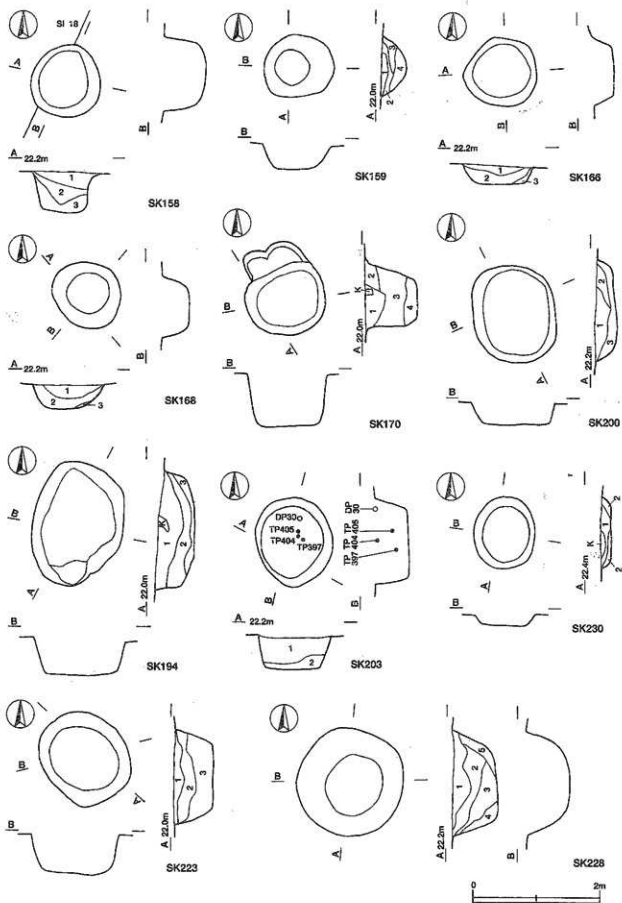
第120图 第1·2·4·6·19·38·40·56·73号土坑平面图(1)



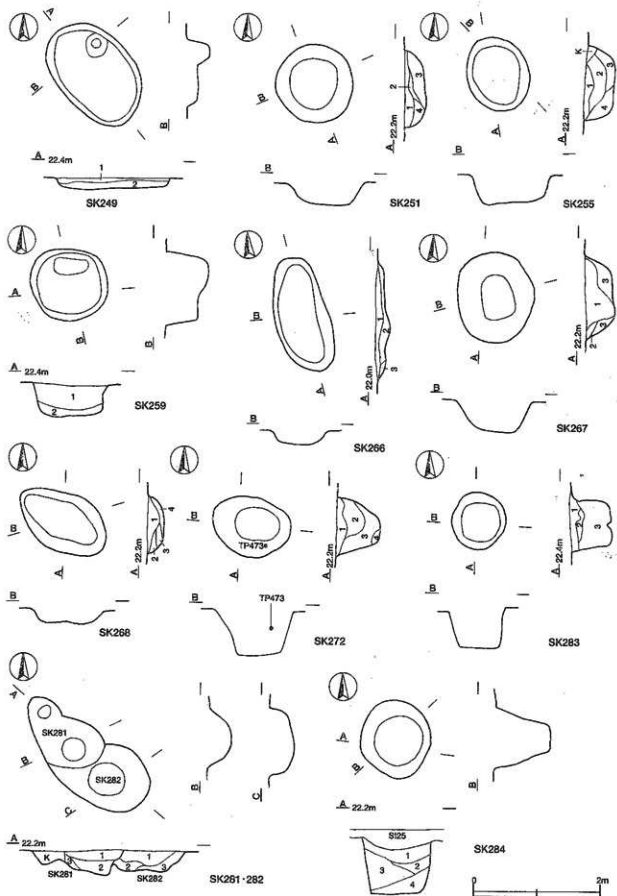
第121图 第75·77·79·86·88·90·94·111·114·121·125号土坑实测图(2)



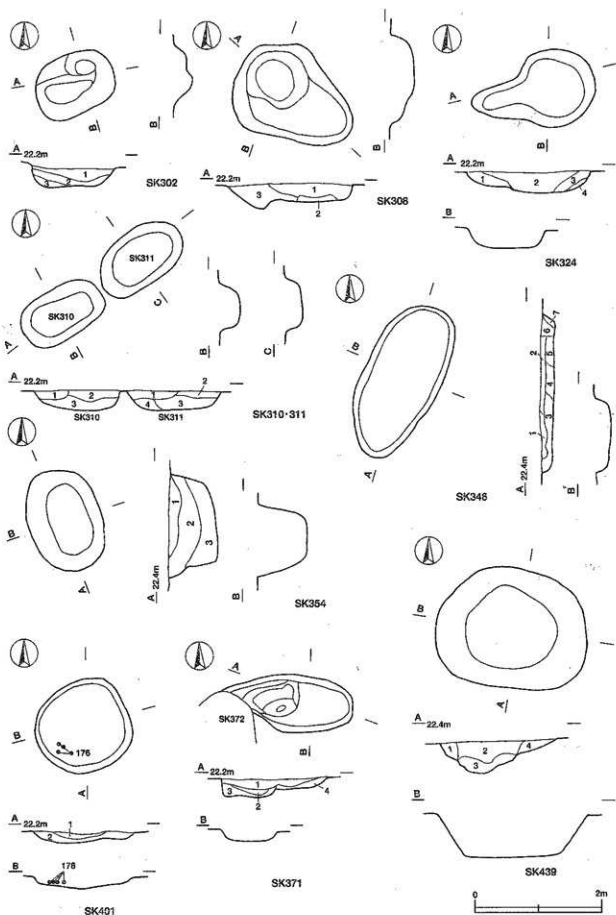
第122图 第131·134·135·136·140·141·142·144·146·150·156·157号土坑实测图(3)



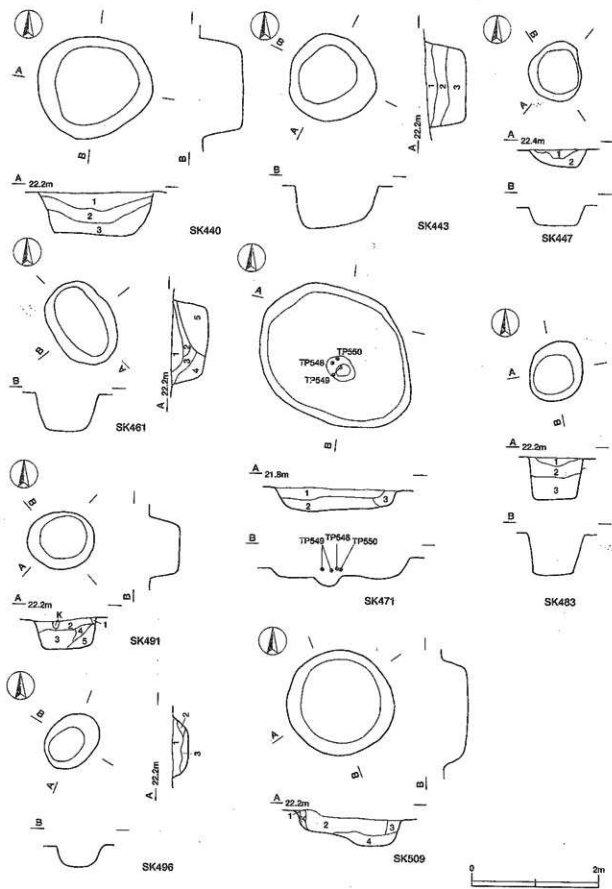
第123图 第158·159·166·168·170·194·200·203·223·228·230号土坑实测图(4)



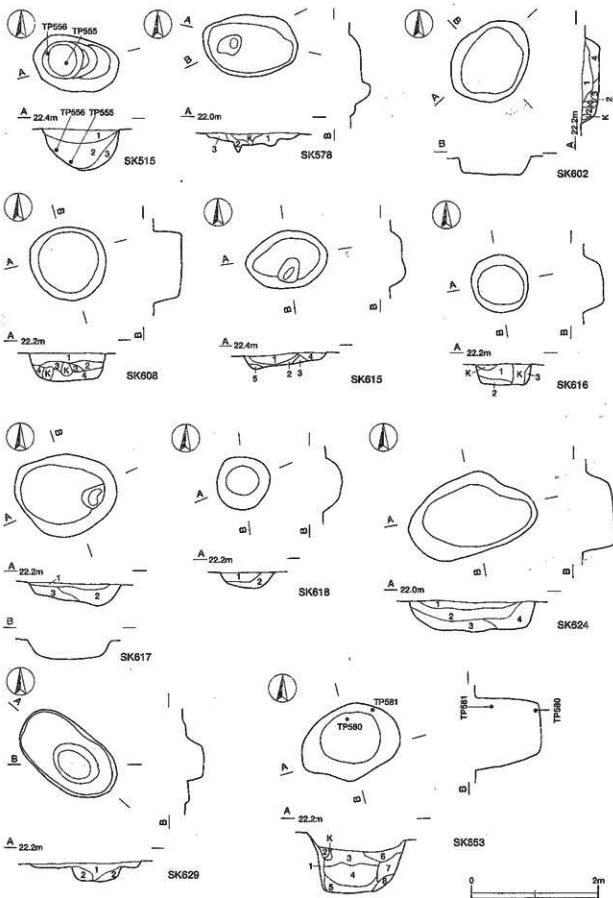
第124图 第249·251·255·259·266·267·268·272·281·282·283·284号土坑实测图(5)



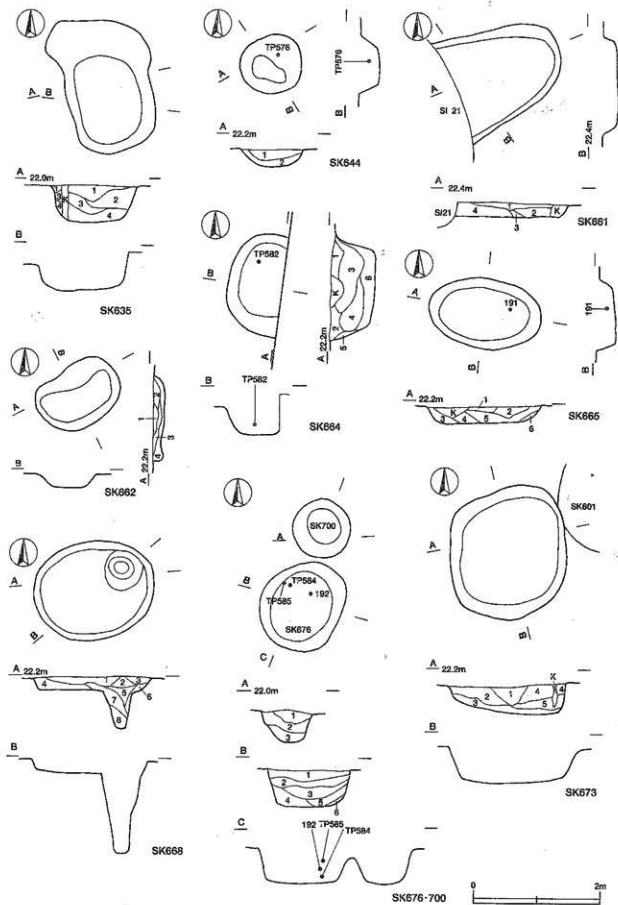
第125图 第302·308·310·311·324·346·354·371·401·439号土坑实测图(6)



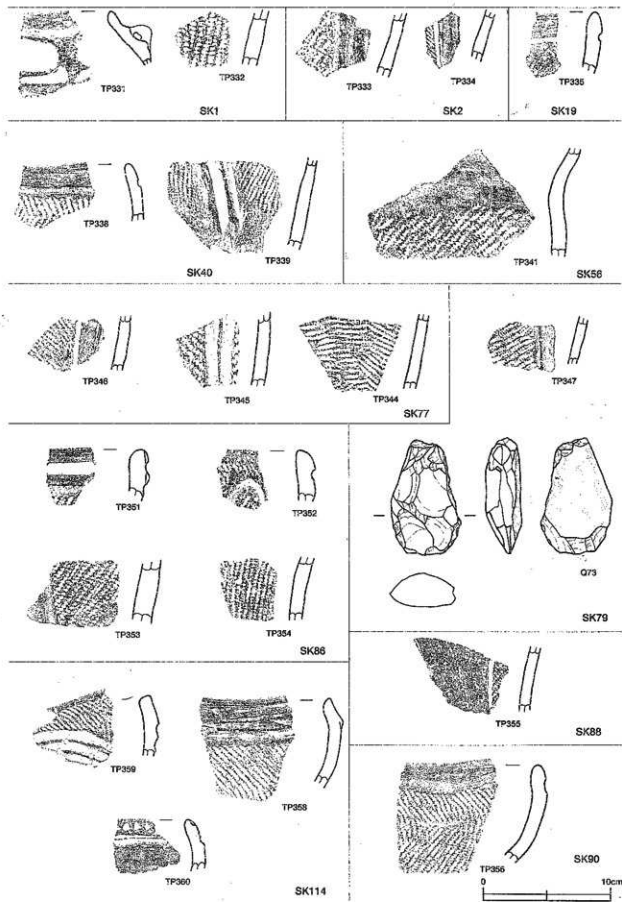
第126图 第440·443·447·461·471·483·491·496·509号土坑夹测图(7)



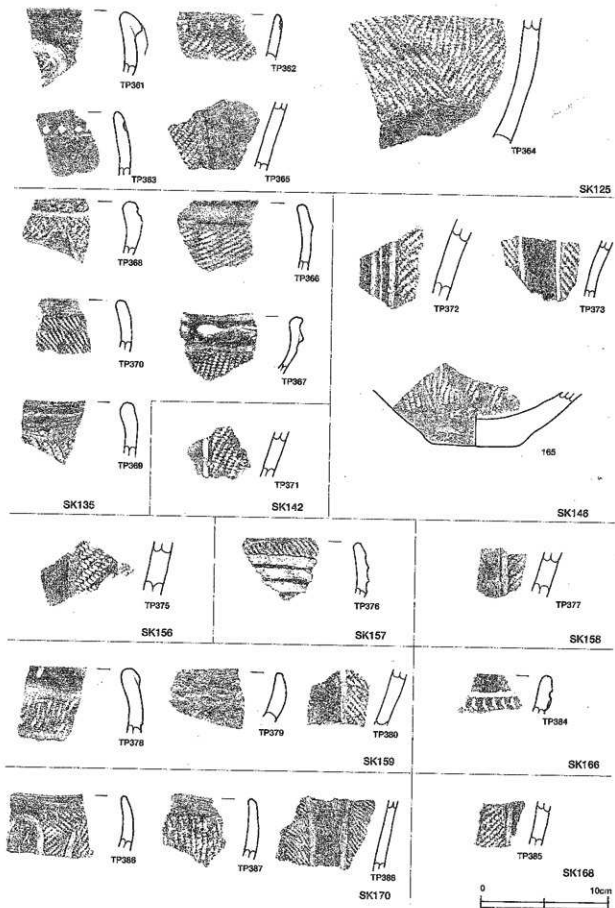
第127图 第515·578·602·608·615·616·617·618·624·629·653号土坑实例图(6)



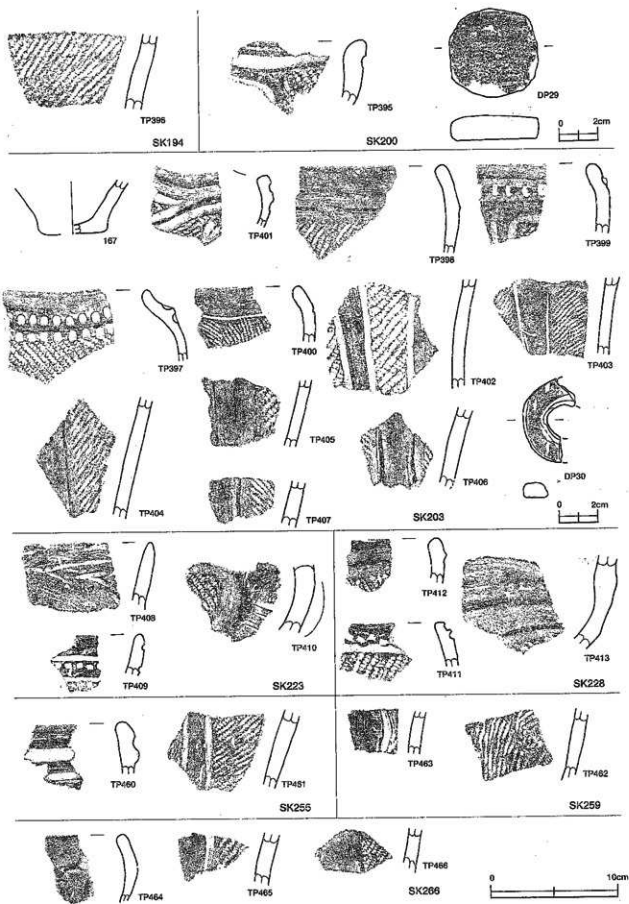
第128图 第635·644·661·662·664·665·668·673·676·700号土坑实测图(9)



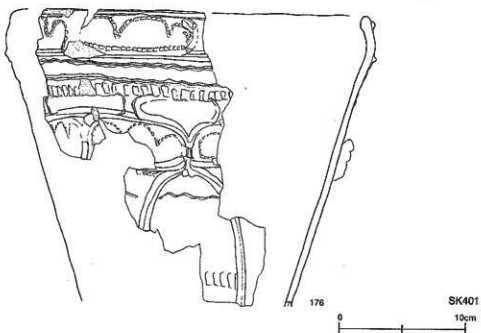
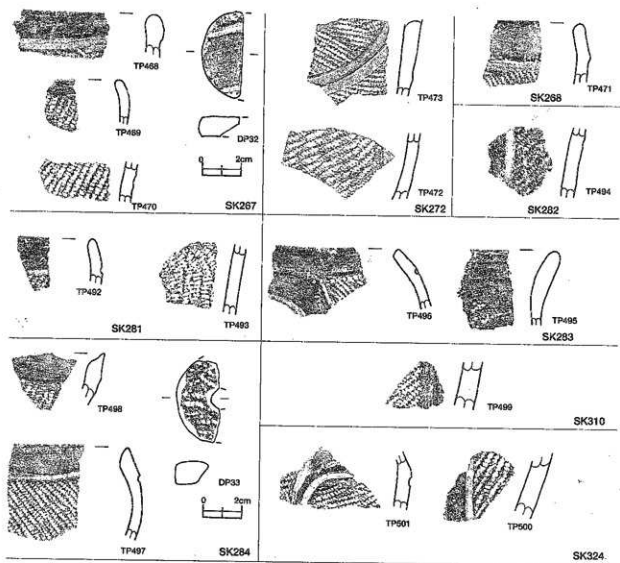
第129图 第1·2·19·40·56·77·79·86·88·90·114号土坑出土遗物实测图(1)



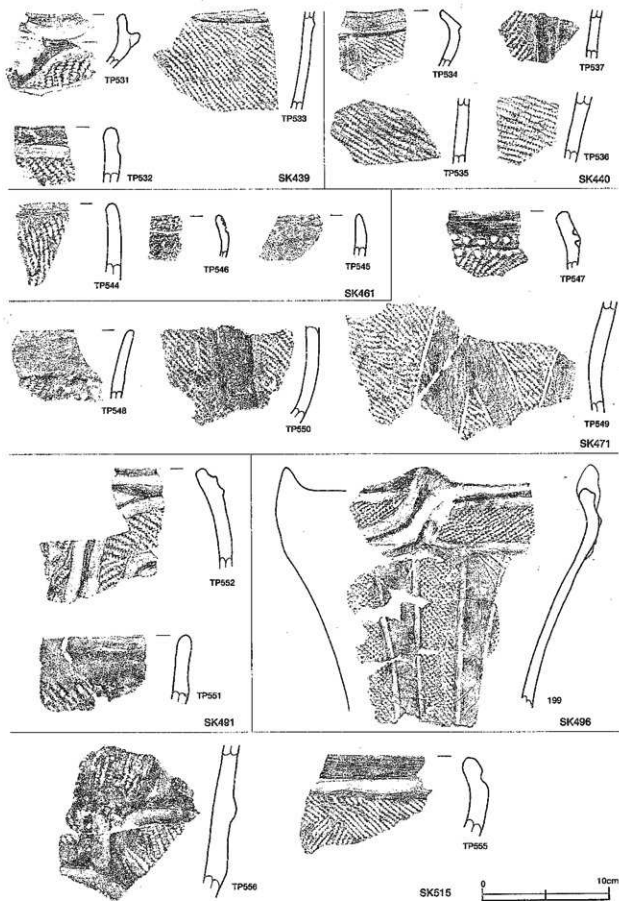
第130图 第125·135·142·146·156·157·158·159·166·168·170号土坑出土遺物突測圖(2)



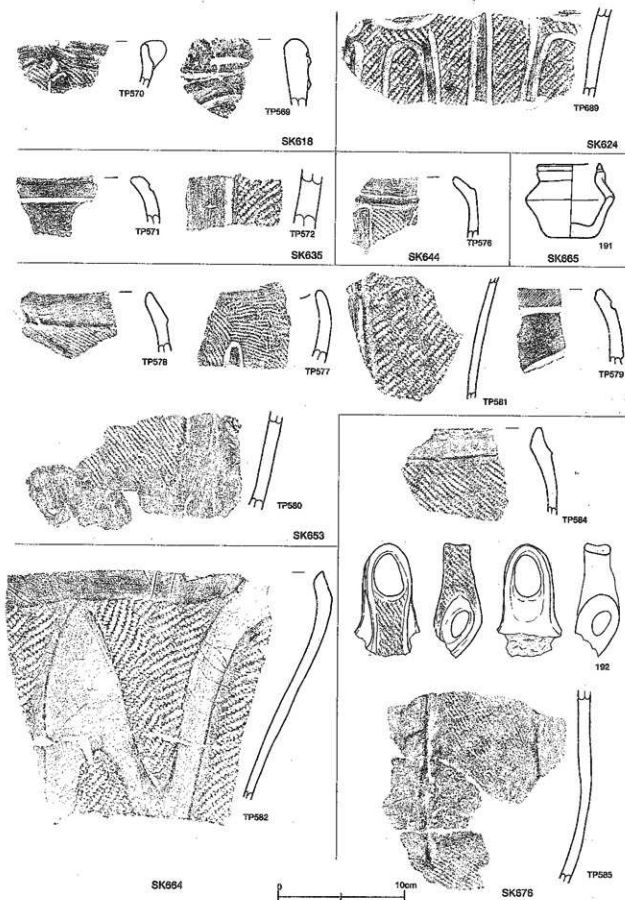
第131图 第194·200·203·223·228·255·259·266号土坑出土遺物実測图(3)



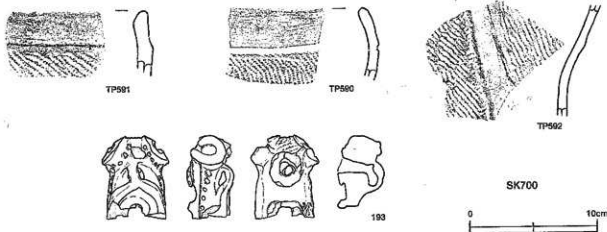
第132图 第267·268·272·281·282·283·284·310·324·401号土坑出土遗物实测图(4)



第133图 第439·440·461·471·491·496·515号土坑出土遗物实测图(5)



第134图 第618·624·635·644·653·664·665·676号土坑出土遗物实测图(c)



第135図 第700号土坑出土遺物実測図(7)

第1号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
331-332	縄文時代中期後葉	331は筒状把手を有する口縁部片で、口辺部無文帯は縦線帯によって区別 332は胴部片で、R Lの単筋縄文施文	331北西部、332中央部中層	

第2号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
333-334	縄文時代中期後葉	胴部片で、垂直文帯を有し333はR Lの単筋縄文、334は無筋縄文をそれぞれ 元柄	333中央部中層、334覆土中	

第19号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
335	縄文時代中期後葉	口縁部片で、口辺部無文帯を有し、胴部はR Lの単筋縄文施文	覆土中	

第40号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
338-339	縄文時代中期後葉	338は口縁部片で、口辺部無文帯を区別し、胴部にR Lの単筋縄文施文 339は胴部片で、垂直帯と比喩で垂直文帯を区別し、R Lの単筋縄文施文	覆土中	

第56号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
341	縄文時代中期後葉	胴部から胴部片で、胴部は無文であり、胴部にはR Lの単筋縄文施文	覆土中	

第77号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
344-346	縄文時代中期後葉	胴部片で、344はR Lの単筋縄文、345・346は垂直帯を区別	覆土中	

第79号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
347	縄文時代中期後葉	胴部片で、縦線帯によって文様帯を区別し、区別内にR Lの単筋縄文施文	覆土中	

番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	備考	特徴	出土位置	備考
Q73	打製石斧	9.1	3.6	2.8	1580	ホムファナルス	器形に片面割離で刃部は両面割離	覆土中	

第86号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
351-352	縄文時代中期後葉	口縁部片で、351は段帯と沈線、11道部文様帯を区別し、352は沈線によって文様帯を抽出	覆土中	
353-354	縄文時代中期後葉	胴部片で、354はR1の早稲縄文、353は懸垂文帯を有す	覆土中	

第88号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
355	縄文時代中期後葉	胴部片で、懸垂文帯にR1の早稲縄文施文	覆土中	

第90号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
356	縄文時代中期後葉	口縁部片で、11道部無文帯を区別し、胴部にR1の早稲縄文施文	覆土中	

第114号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
358~ 360	縄文時代中期後葉	口縁部片で、358は11道部無文帯を区別し、胴部にR1の早稲縄文施文、359は2本の沈線によって文様帯を抽出し、R1の早稲縄文施文、360は懸垂文帯を有し、胴部にR1の早稲縄文施文	358 P下層、359 上層、他覆土中	

第125号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
361~ 363	縄文時代中期後葉	口縁部片で、361は11道部無文帯を沈線で区別し、区内に早稲縄文施文、362-363は11道部に刺突文を施文し、363はR1の早稲縄文施文	覆土中	
364-365	縄文時代中期後葉	胴部片で、364はR1の早稲縄文施文、365は懸垂文帯にR1の早稲縄文施文	覆土中	

第135号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
367-368	縄文時代中期後葉	口縁部片で、367は沈線により11道部文様帯を区別し、R1の早稲縄文施文、368は11道部に無文帯を区別し、懸垂文帯を抽出	覆土中	
366-369- 370	縄文時代中期後葉	口縁部片で、11道部無文帯を有し、早稲縄文施文	366中央部中層、369北部中層、 370覆土中	

第142号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
371	縄文時代中期後葉	胴部片で、懸垂文帯を区別し、R1の早稲縄文施文	覆土中	

第146号土坑出土遺物観察表

番号	材質	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)	
165	縄文土	器	鉢	—	(4.4)	7.0	胴部片で、胴部にR1の早稲縄文が施文され、下層はヘリ部	灰石・赤色粘土・雲母	普通	にふい粉	中央部下層

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
372-373	縄文時代中期後葉	胴部片で、懸垂文帯を区別し、早稲縄文施文	372北西部・373南西部下層	

第156号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
375	縄文時代中期後葉	胴部片で、懸垂文帯にR1の早稲縄文施文	覆土中	

第157号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
376	縄文時代中期後葉	口縁部片で、8本の沈線により文様帯を模出し、R.Lの早稲縄文施文	覆土中	

第158号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
377	縄文時代中期後葉	胴部片で、懸垂文帯に早稲縄文施文	覆土中	

第159号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
378~ 380	縄文時代中期後葉	378・379は口縁部片で、378は沈線によって文様帯を区画し、区画内にR.Lの早稲縄文施文、379は無文帯、380は胴部片で、懸垂文帯にR.Lの早稲縄文施文	覆土中	

第166号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
384	縄文時代中期後葉	口縁部片で、沈線区画内に、爪形文施文	覆土中	

第168号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
385	縄文時代中期後葉	胴部片で、懸垂文帯にR.Lの早稲縄文施文	覆土中	

第170号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
386~ 388	縄文時代中期後葉	386・387は口縁部片で、口縁部に無文帯を有し、R.Lの早稲縄文施文、388は胴部片で、L.Rの早稲縄文を懸垂文帯に施文	覆土中	

第194号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
396	縄文時代中期後葉	胴部片で、R.Lの早稲縄文施文	覆土中	

第200号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
398	縄文時代中期後葉	口縁部片で、沈線によって文様帯を模出し、L.Rの早稲縄文施文	覆土中	

番号	種類	長さ	幅	厚さ	底径	材質	特徴	出土位置	備考
DP29	土器円板	4.6	4.7	1.3	36.0	土器	周縁部縁心押摩	覆土中	P.L.27

第203号土坑出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
167	縄文土器	深鉢	—	(4.1)	(5.5)	胴部片で、無文	長石・雲母	普通	にぶ・黄褐色	中央部覆土下層

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
398-401	縄文時代中期後葉	口縁部片で、398は周縁帯による口縁部無文帯を区画し、胴部はR.Lの早稲縄文施文、401は隆帯と沈線によって文様帯を模出し、R.Lの早稲縄文施文	覆土中	
397-399 400	縄文時代中期後葉	口縁部片で、399は沈線によって文様帯を区画して、胴文を施し、区画内に早稲縄文施文、397は一帯の周縁帯を施し、胴に倒文文が施文され、以下R.Lの早稲縄文施文	397中央部下層、他覆土中	P.L.35
402-403	縄文時代中期後葉	胴部片で、懸垂文帯にR.Lの縄文施文	覆土中	
404-407	縄文時代中期後葉	胴部片で、周縁帯による懸垂文帯を区画し、区画内にR.Lの早稲縄文施文	404中央部上層-403中層、他覆土中	

番号	類別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP30	有孔円板	(4.4)	(2.8)	0.8	(8.0)	土製	円縁部を縮窄した上唇円板に孔を穿つ	北部上層	

第223号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
408~410	縄文時代中期後葉	408・409は口縁部片で、408は無文、409は沈線、区内内に円形刺突文施文 410は口縁部片で、隆帯によって文脈帯を区画し、R.Lの半部刺突文施文	腹上中	

第228号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
411~413	縄文時代中期後葉	411・412は口縁部片で、411は口縁部に刺突文を施らし、高位の沈線区画、412は口縁部隆帯を断続帯で区画し、半部刺突文施文、413は口縁部片で、断続帯によって文脈帯を描出	腹上中	

第255号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
460~461	縄文時代中期後葉	460は口縁部片で、口縁部文脈帯を隆帯と沈線によって描出、461は懸垂文帯にR.Lの半部刺突文施文	腹上中	

第259号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
462~463	縄文時代中期後葉	462は口縁部片で、463はR.Lの半部刺突文施文、463は懸垂文帯を有す	腹上中	

第266号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
464~466	縄文時代中期後葉	464は口縁部片で、無文、465は胴部片で、懸垂文帯に、R.Lの半部刺突文施文 466は隆帯帯によって文脈帯を描出し、区内内にR.Lの半部刺突文施文	腹上中	

第267号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
468~470	縄文時代中期後葉	468・469は口縁部片で、468は口縁部隆帯を描出、469も口縁部隆帯を有し、以下R.Lの半部刺突文施文、470は胴部片で、R.Lの半部刺突文施文	腹上中	

番号	類別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP32	土器円板	4.5	(2.1)	1.1	(12.0)	土製	懸垂文帯に半部刺突文施文。	腹上中	P.137

第268号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
471	縄文時代中期後葉	口縁部片で、口縁部隆帯を区画し、以下R.Lの半部刺突文施文	腹上中	

第272号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
472~473	縄文時代中期後葉	胴部片で、472はR.Lの半部刺突文、473は断続帯によって文脈帯を描出し、R.Lの半部刺突文施文	473南東部中層、472腹上中	

第281号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
482~483	縄文時代中期後葉	482は口縁部片で、断続帯によって文脈帯を区画し、以下半部刺突文施文、483は胴部片で、R.Lの半部刺突文施文	腹上中	

第282号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
484	縄文時代中期後葉	胴部片で、懸垂文帯にR.Lの単節縄文施文	覆土中	

第283号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
485-486	縄文時代中期後葉	口縁部片で、852文帯、486は胴部片によって文帯を抽出し、其内側に斜交之R.Lの単節縄文が施文	覆土中	

第284号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
497-498	縄文時代中期後葉	口縁部片で、497は口辺部無文帯を頸隆帯によって区画し、以下R.Lの単節縄文施文、498は口辺部無文帯を区画し、以下L.Rの単節縄文施文	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	直径	材質	特徴	出土位置	備考
DP23	有孔円板	4.3	(2.3)	1.2	(13.0)	土質	周縁部を保留した上部円板に孔を穿つ	覆土中	P.L.37

第310号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
489	縄文時代中期後葉	胴部片で、懸垂文帯にR.Lの単節縄文施文	覆土中	

第324号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
500-501	縄文時代中期後葉	いずれも胴部片で、沈澱による区画にR.Lの単節縄文施文	覆土中	

第401号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	地味	色調	備考(出土位置)
176	縄文土器	深鉢	[39.0]	(10.1)	—	胴部に段帯による片状文を抽出し、区画内には角状文を施し、口縁部にも連続状の角状文を施す	長石・石英・雲母	普通	赤褐色	南西部土器 P.L.27

第439号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
531~533	縄文時代中期後葉	531は胴部片で、531は隆帯により文帯を抽出し、R.Lの単節縄文施文、532は口辺部無文帯を区画し、以下L.Rの単節縄文施文、533は胴部片によって文帯帯を区画し、L.Rの単節縄文施文	覆土中	

第440号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
534~537	縄文時代中期後葉	534は口縁部片で、535~537は胴部片、534-537は頸隆帯によって文帯帯を区画し、区画内には234はL.Rの単節縄文施文、537はR.Lの単節縄文施文、535-536は胴部片で、R.Lの単節縄文施文	覆土中	

第461号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
544~546	縄文時代中期後葉	口縁部片で、544はR.Lの単節縄文が、545は無節縄文が羽状に施文、546は口辺部無文帯に2段の斜交文を有す	覆土中	

第471号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
547-548	縄文時代中期後葉	口縁部片で、L1辺部無文帯を際限帯によって区画し、以下R1Lの単節縄文 施文、547は際限帯を挟んで2列の円形縄文を有す	548中央部中層、547覆土中	P.L.35
549-550	縄文時代中期後葉	胴部片で、549は沈線によって文様帯を区画し、L.Rの単節縄文充填 550は際限帯によって文様帯を区画し、区画内にL.Rの単節縄文充填	中央部中層	

第491号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
551-552	縄文時代中期後葉	口縁部片で、551はL1辺部無文帯を有し、以下R1Lの単節縄文施文、552は 際帯と沈線によって文様を構成し、R.Lの単節縄文施文	覆土中	

第496号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
199	縄文土器	深鉢	[342]	(29.3)	—	口部部文様帯は際帯と沈線によって文様帯を区画し、 区画内にL.Rの単節縄文充填し、胴部にも際限帯で L.Rの単節縄文充填	砂鉄・雲母	普通	橙	南内層覆土中 P.L.27

第515号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
553-556	縄文時代中期後葉	555は口縁部片で、L1辺部を橋依の沈線によって区画し、以下L.Rの単節 縄文施文、556は胴部片で、際帯によって文様を構成し、R.Lの単節縄文施文	555中央部下層、556内層中層	

第618号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
569-570	縄文時代中期後葉	口縁部片で、569は際帯によって文様帯を区画し、区画内に縄文施文、570は L1辺部無文帯を区画し、沈線によって文様を構成し、L.Rの単節縄文施文	覆土中	

第624号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
680	縄文時代中期後葉	胴部片で、沈線によって胴部文様帯を構成し、R.Lの単節縄文施文	覆土中	

第635号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
571-572	縄文時代中期後葉	571は口縁部片でL1辺部無文帯を区画し、572は胴部片で際限帯にL.Rの単節縄文施文	覆土中	

第644号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
576	縄文時代中期後葉	L1縁部片でL1辺部無文帯を区画し、沈線によって際限帯を構成し、L.Rの単節縄文施文	中央部中層	

第653号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
578-580	縄文時代中期後葉	578は口縁部片、580-581は胴部片、際限帯によって文様帯を区画し、区画内に2列の単節 縄文、581はL.Rの単節縄文施文	580北部下層、581東部上層、 578覆土中	
577-579	縄文時代中期後葉	口縁部片で577はL.Rの単節縄文施文に沈線によって文様帯を構成し、578はL.Rの単節縄文施文	覆土中	

第664号土坑出土遺物観察表

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
582	縄文時代中期後葉	口縁部片から胴部片で、際限帯によって文様帯を区画し、区画内にL.Rの単節縄文施文	北西部中層	P.L.35

第665号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
191	縄文土器	盃	[5.0]	6.0	3.9	器底は宛れており、口辺部には一対の孔が穿たれた。素文	灰石・赤色砂子・灰骨	普通	にぶい褐色	東部中層 P.L.27

第676号土坑出土遺物観察表

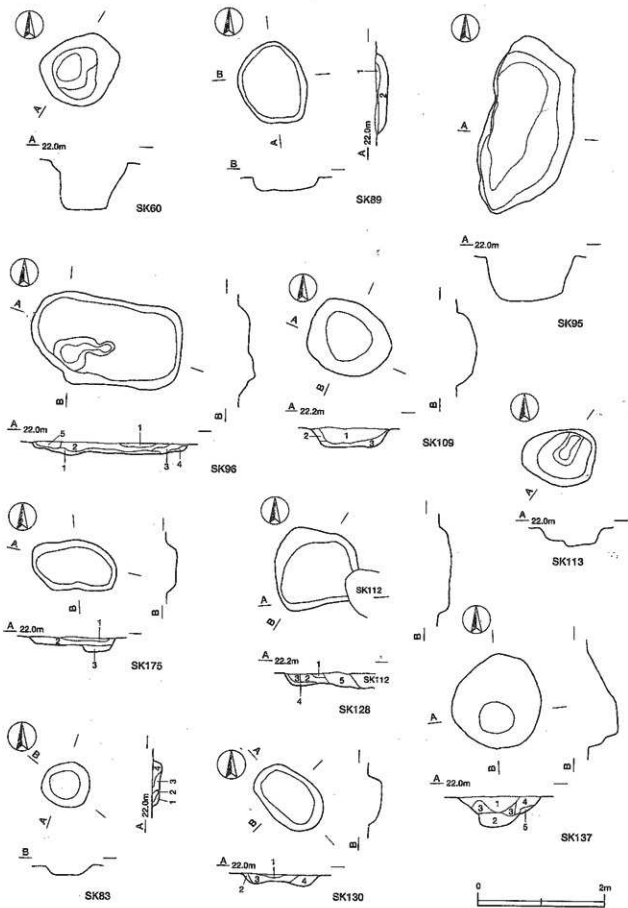
番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
192	縄文土器	深鉢 (把手)	—	—	—	LRの早期縄文素文	灰石・赤色砂子・灰骨	普通	にぶい褐色	中央部中層 P.L.27

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
584-585	縄文時代中期後葉	584は1166部片で、11辺部無文帯を縦線帯で区画し、以下RLの早期縄文素文。585は胴部片で、縦線帯によって文様帯を区画し、区画内にLRの早期縄文素文	北西部585中層、584下層	

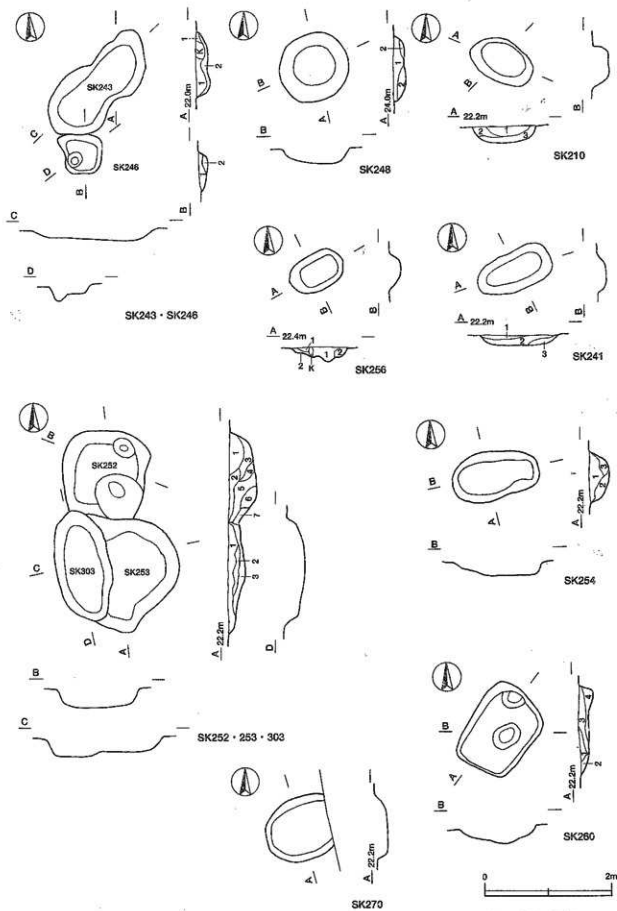
第700号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
193	縄文土器	深鉢 (把手)	—	—	—	灰石の把手で、中部胴部から内部にかけて円形素文 素文	灰石・赤色砂子	普通	にぶい褐色	掘土中 P.L.27

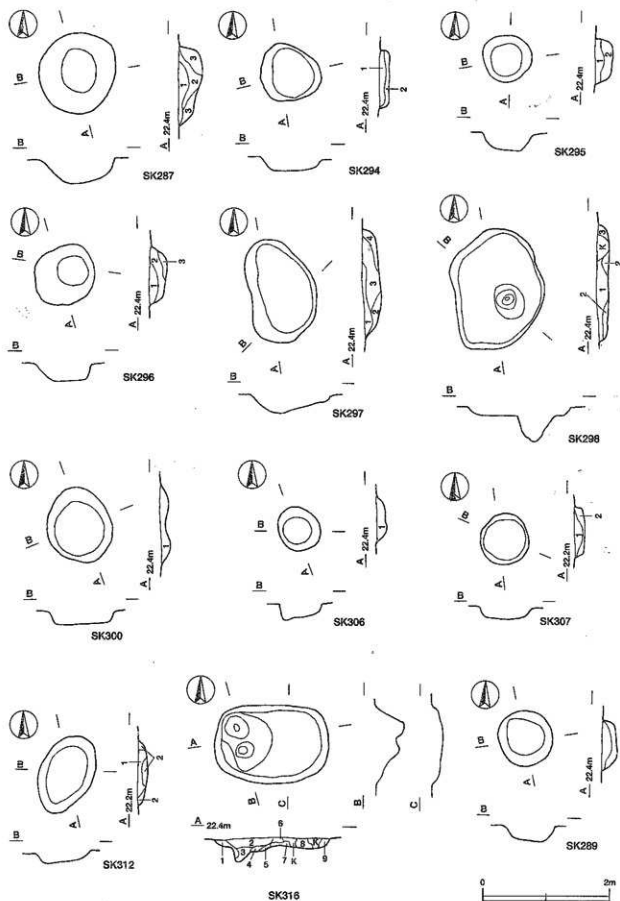
TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
590-592	縄文時代中期後葉	590-591は1166部片で、590は11辺部無文帯を横線の乳線により区画し、以下RLの早期縄文素文。591は11辺部無文帯を横線の縦線帯で区画し、以下LRの早期縄文素文。592は胴部片で、縦線帯によって文様帯を区画し、区画内にLRの早期縄文素文	掘土中	



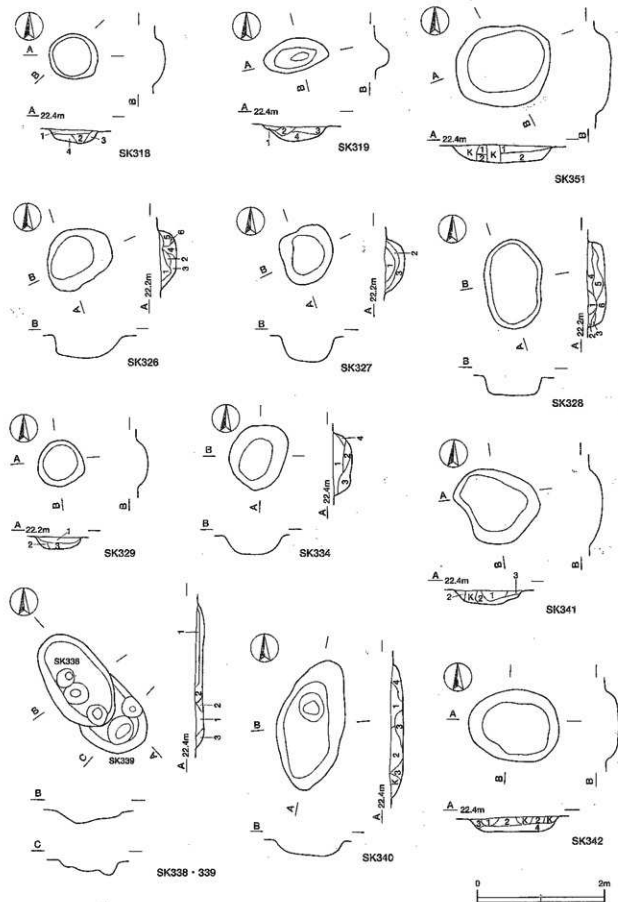
第136图 第60·83·89·95·96·109·113·128·130·137·175号土坑实测图(米)



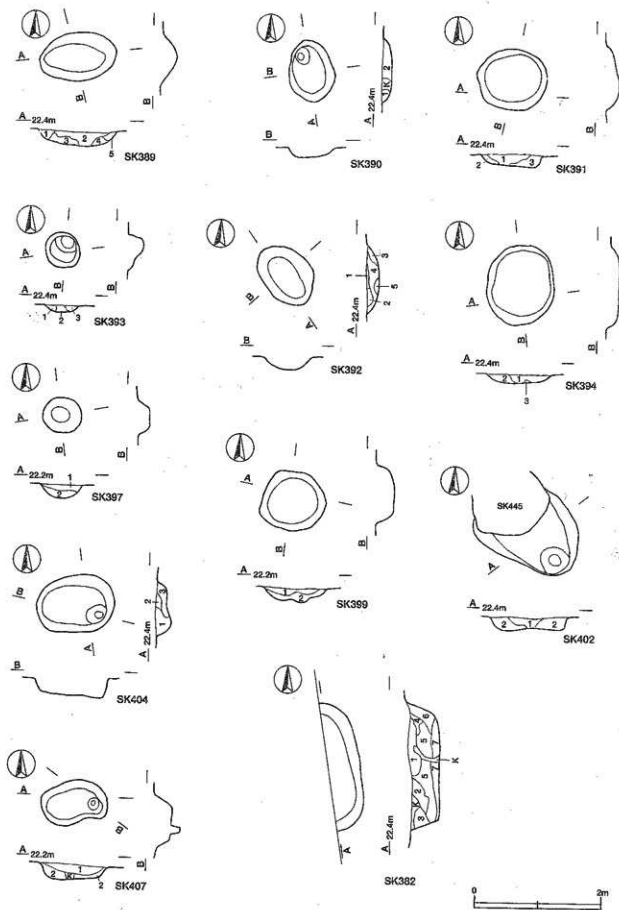
第137图 第210·241·243·246·248·252·253·254·256·260·270·303号土坑实测图(1)



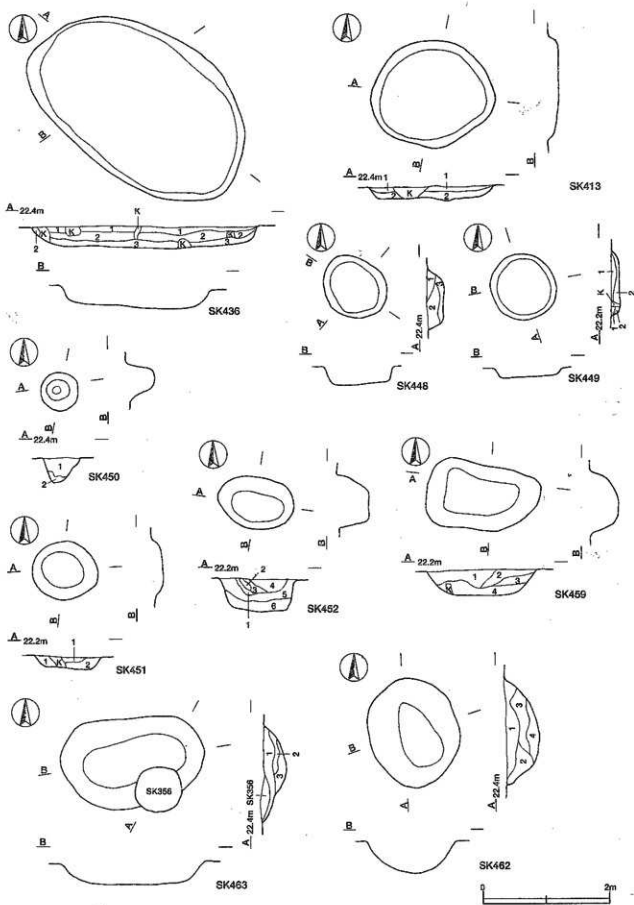
第138图 第287·289·294·295·296·297·298·300·306·307·312·316号土坑实测图(2)



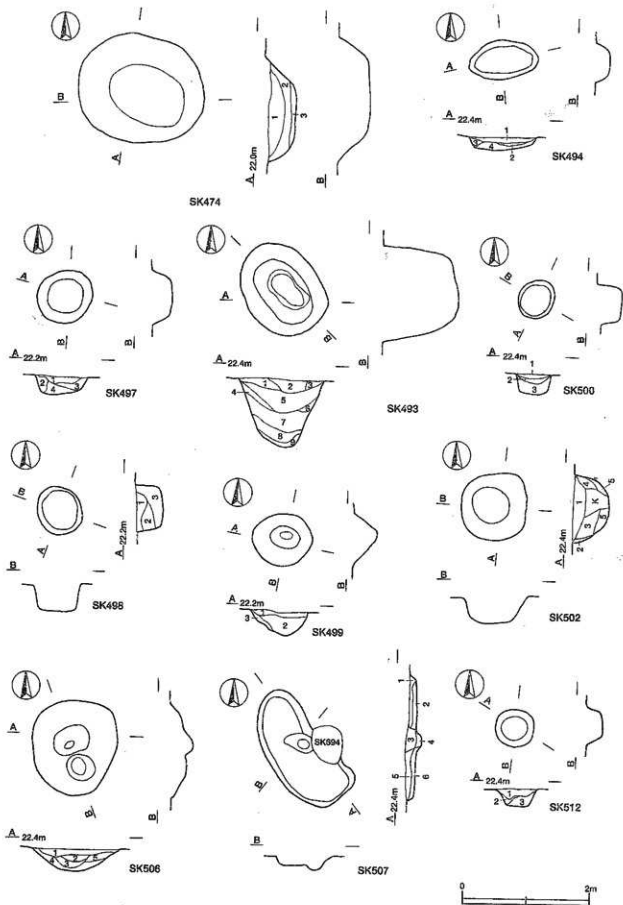
第139图 第318·319·326·327·328·329·334·338·339·340·341·342·351号土坑实测图(13)



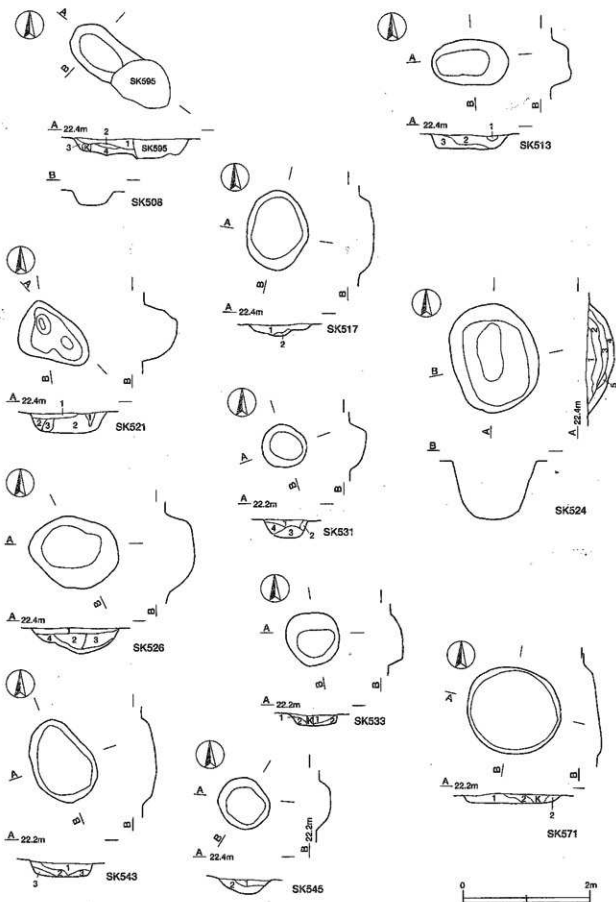
第140图 第382·389·390·391·392·393·394·397·399·402·404·407号土坑实测图(4)



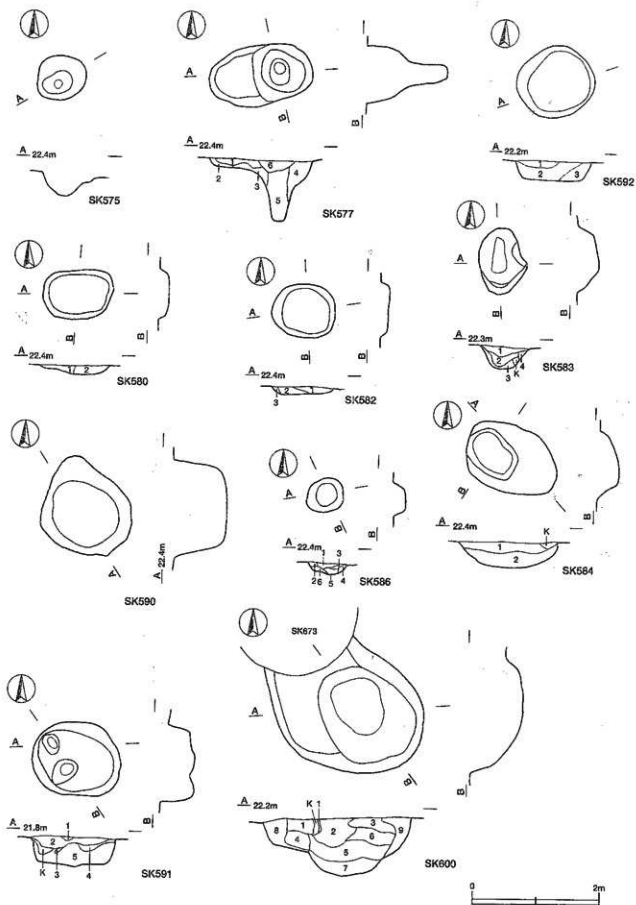
第141图 第413·436·448·449·450·451·452·459·462·463号土坑实测图(9)



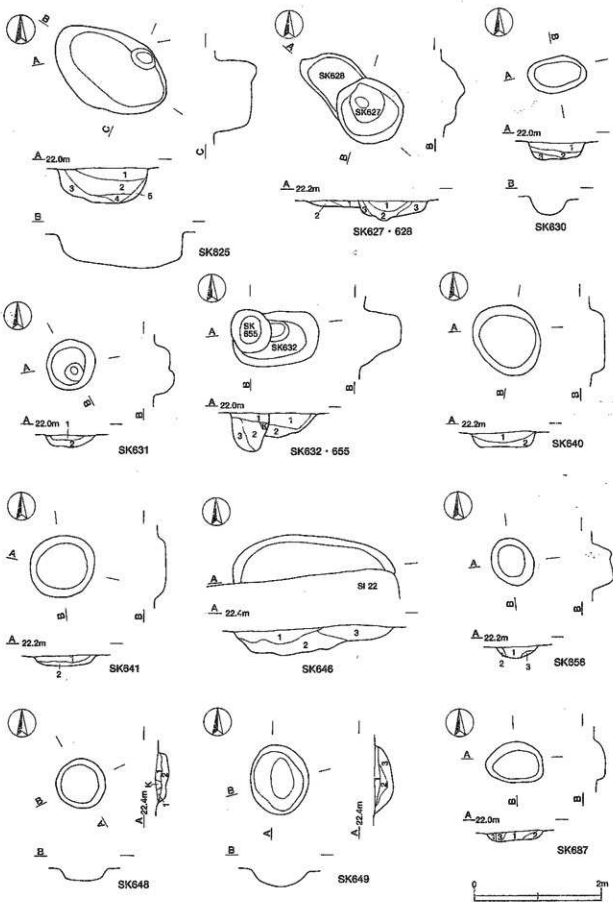
第142图 第474·493·494·497·498·499·500·502·506·507·512号土坑实测图(16)



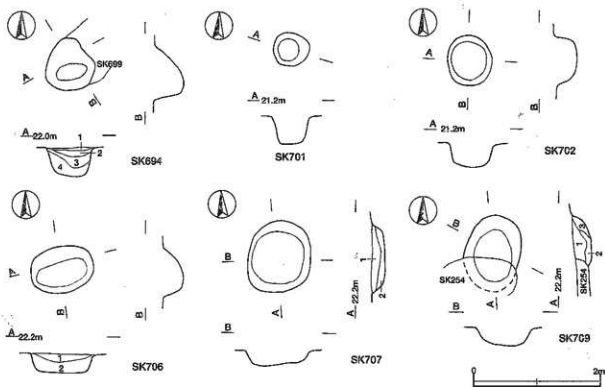
第143图 第508·513·517·521·524·526·531·533·543·545·571号土坑实测图(17)



第144图 第575·577·580·582·583·584·586·590·591·592·600号土坑实测图(米)



第145图 第625·627·628·630·631·632·640·641·646·648·649·655·656·687号土坑实例图(时)



第146図 第694・701・702・706・707・709号土坑実測図(2)

第83号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第89号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量

第96号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
- 2 黒色 炭化物中量, ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 炭化物少量, ローム粒子微量

第109号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第128号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

第130号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第137号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子中量

第175号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第210号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

第241号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第243号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量 掃まり有り

第248号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第248号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第252号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量 掃まり有り
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック少量 掃まり有り
- 6 褐色 ロームブロック少量
- 7 褐色 ロームブロック中量

第253号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量 掃まり有り

第254号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第256号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第260号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック微量

第287号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第289号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第294号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第295号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第298号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第297号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第299号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第300号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第306号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第307号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第312号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第316号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 4 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 7 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、炭化粒子微量

第318号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第319号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第326号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ロームブロック微量

第327号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック多量、ロームブロック微量

第328号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック中量、ロームブロック微量
- 6 褐色 ロームブロック多量

第329号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第334号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第336号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第339号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量 礫まわり有り

第340号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第341号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第342号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ロームブロック微量

第351号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第362号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック微量
- 7 褐色 ロームブロック微量

第389号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量

第390号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量

第391号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第392号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第393号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

第394号土壌土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第397号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第399号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

第402号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第404号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第407号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第413号土壌土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第436号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 粘性有り

第448号土壌土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第449号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第450号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 粘性有り
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第451号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第452号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 4 暗褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック中量 粘性弱し

第459号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック多量、炭化物微量

第462号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第463号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 黒色 炭化物多量、ローム粒子少量

第474号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量
- 2 褐色 炭化物微量
- 3 暗褐色 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量

第493号土壌土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子・炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 6 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量、ローム粒子・炭化物少量
- 8 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第494号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第497号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第498号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第499号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

第500号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第502号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第506号土壌土層解説

- 1 棕暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量, ローム粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第507号土壌土層解説

- 1 棕暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 炭化物少量, ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第508号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量, ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 棕暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量

第512号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 棕暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第513号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量, ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第517号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物中量, ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第521号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第524号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化材中量, 焼土ブロック少量, ロームブロック微量
- 2 棕暗褐色 ロームブロック・炭化材少量
- 3 黒褐色 炭化材多量, ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土ブロック微量
- 5 暗赤褐色 炭化物・焼土粒子少量, ロームブロック微量

第526号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 棕暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第531号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 棕暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第533号土壌土層解説

- 1 棕暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第543号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第545号土壌土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第571号土壌土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土ブロック微量

第577号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量, ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, ローム粒子・炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第580号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第582号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第583号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量

第584号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第586号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 棕暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第591号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 棕暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第592号土壌土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量

第600号土壌土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 黒褐色 炭化物少量, ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土ブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 棕暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 8 褐色 ロームブロック少量
- 9 褐色 ロームブロック微量

第626号土壌土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量, ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量

第627号土壌土層解説

- 1 棕暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量

第628号土壌土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第630号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第631号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第632号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第640号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量

第641号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第646号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量, 焼土ブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第648号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第649号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第655号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第656号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量

第687号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第694号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化物・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第706号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量, ローム粒子微量

第707号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第709号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

2 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で、古墳時代の竪穴住居跡7軒を検出した。以下、検出した遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第12号住居跡(第147~149図)

位置 調査Ⅱ区北部、E6c0区の平坦部に立地し、北には第11号住居跡、北西には第13号住居跡、南には第18号住居跡が位置している。

規模と形状 長径6.20m、短径5.96mの方形であり、主軸はN-25°-Wである。壁高は42~58cmで、ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦であり、擾乱を受けた中央部を除いた周辺部が踏み固められている。壁溝は北壁と南壁の一部を除いて、壁下をほぼ全周している。

竈 砂泥じりの褐色粘土で、北壁中央部に構築されている。天井部は崩落しているが、両袖部は遺存している。突口部から煙道部まで160cm、両袖部幅105cm、竈外への掘り込みは20cmほどである。火床部は床面とほぼ同レベルで火熱を受けて赤変硬化し、煙道部は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------|----------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 にぶい褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 9 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子・砂粒微量 |
| 4 赤褐色 | 焼土ブロック多量、粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 にぶい褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 12 にぶい褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、炭化粒子微量 |
| 6 にぶい褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子微量(掘り方) |
| 7 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1~P4は深さ51~76cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。P5は粘土や灰が含まれているため、竈から掻き出した灰の、灰溜の可能性もあるが、貯蔵穴とも考えられる。深さは14cm、底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。

P5土層解説

- 1 にぶい褐色 粘土粒子中量、炭化物・灰少量、砂粒微量
- 2 にぶい褐色 粘土粒子中量、砂粒少量、ローム粒子・灰微量
- 3 にぶい褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・灰・砂粒微量

貯蔵穴 長軸96cm、短軸75cmの隅丸長方形で、南壁寄りの中央に付設され、周りには馬蹄形状の高まりが検出された。深さは65cmで、底面は平坦で外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

覆土 16層からなり、含有物や不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

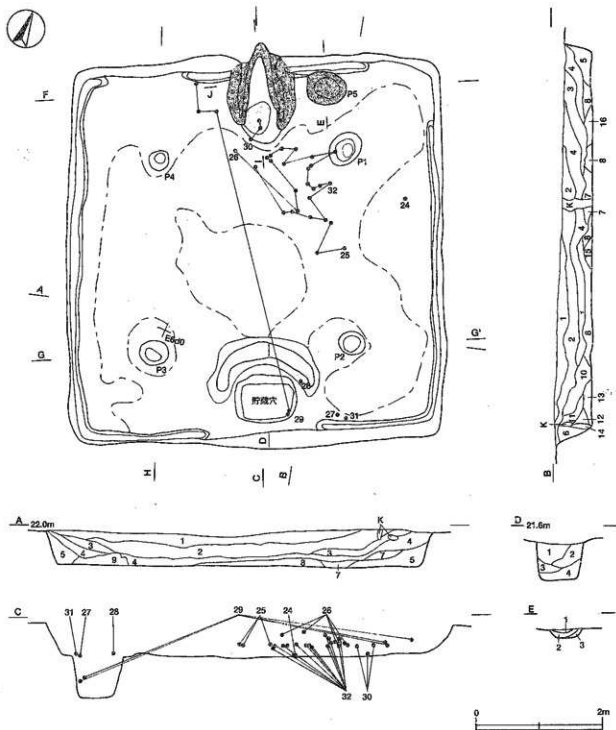
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量 | 15 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物少量、ローム粒子微量 |
| 8 褐色 | ロームブロック多量、炭化物少量、焼土粒子微量 | 16 褐色 | ローム粒子少量、炭化物少量、焼土粒子微量 |

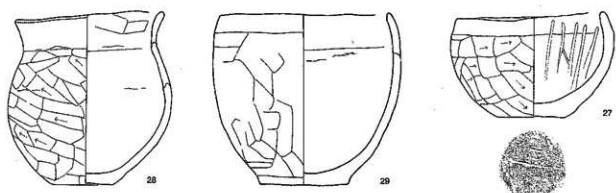
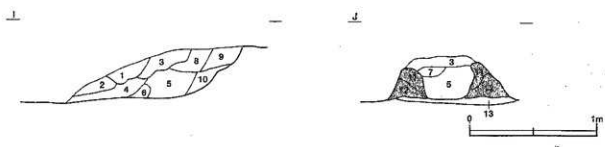
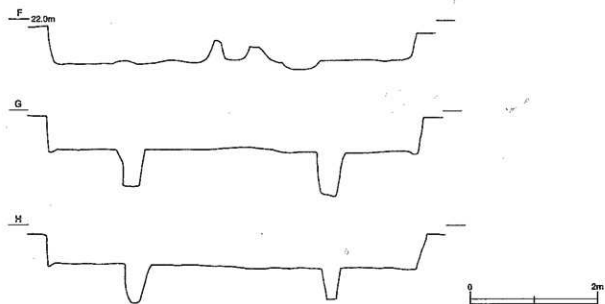
遺物出土状況 土師器片210点(環32, 甕178)、縄文土器片265点(口縁部21, 胴部244)、陶器1点、土製品1点、石器(石錘)1点、鏝4点、炭化材、焼土塊が出土し、縄文土器片、陶器片、鏝は混入である。出土土器は中央部からやや北東側の覆土下層中の出土量が多い。24は東部床面、27は正位で南壁貯蔵穴寄りの床面から

出土し、また、28は貯蔵穴周辺の床面から斜位で出土している。29は竈左袖部付近の覆土中層と貯蔵穴内の覆土中層から出土した土器片が接合した資料である。30は竈内の覆土中層・下層から出土した土器片が接合された資料であり、32はP1付近の覆土中層からの多く土器片が接合された資料である。また、炭化材、焼土塊は壁周辺の覆土下層及び床面から出土している。

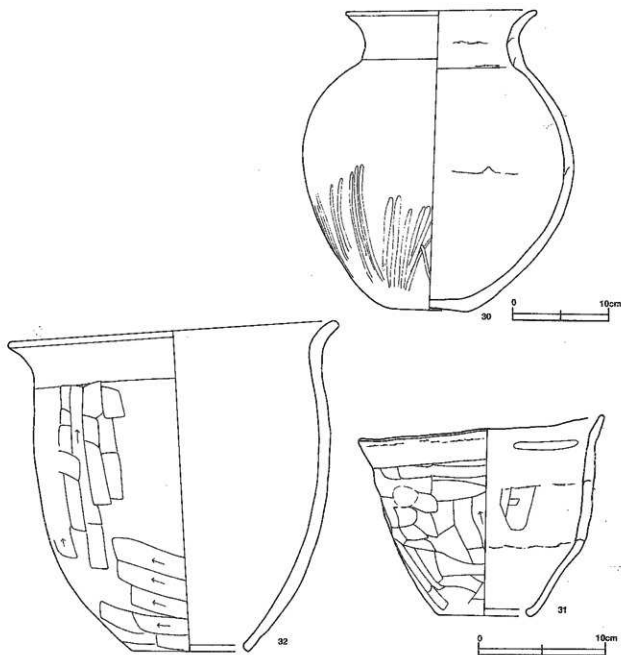
所見 本跡は炭化材、焼土塊が壁周辺の覆土下層及び床面から出土しており、焼失家屋と考えられる。時期は出土土器や竈の煙道部の掘り込みが浅く古手の様相を示していることなどから、6世紀前半と考えられる。



第147図 第12号住居跡実測図



第148圖 第12号住居跡・出土遺物実測図



第149図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
24	土師器	環	15.2	5.2	—	長石・石英・雲母	にぶい散	普通	口縁部外周縁ナテ内面ヘラ巻き	東部床面	100% PL.28
25	土師器	環	15.0	5.1	—	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	口縁部内・外周ヘラ巻き	中央部中層	100%内周縁部 PL.28
26	土師器	環	15.0	5.2	—	長石・雲母・白色粒子	赤褐色	普通	口縁部両周縁ナテ内面ヘラ巻き	中央部中層	100%内周縁部 PL.28
27	土師器	輪	11.8	8.4	5.4	長石・石英・雲母	にぶい散	普通	底面ヘラ磨(後)後ヘラナテ	南西部床面	100% PL.28
28	土師器	小形甕	11.8	13.8	5.0	長石・石英・雲母	にぶい散	普通	底面本意でヘラ内周縁ヘラナテ	南西部床面	100% PL.28
29	土師器	小形甕	13.4	13.7	7.0	長石・白色粒子・雲母	にぶい散	普通	底面ヘラ磨(後)後ヘラ磨	最上層部付着・磨滅穴中層	20%底面中層 80%内周縁部 100%内周縁部 100%内周縁部
30	土師器	甕	20.2	31.9	8.5	長石・石英・雲母	にぶい散	普通	底面ヘラ磨(後)後ヘラナテ	壺中・下層	100%内周縁部 100%内周縁部
31	土師器	瓶	19.4	15.8	7.4	長石・石英・雲母・ 白色粒子・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部両周縁ナテ外周内面ヘラ ナテ	南西部床面	100%内周縁部 100%内周縁部
32	土師器	瓶	25.6	25.3	9.2	長石・石英・雲母	にぶい散	普通	口縁部両周縁ナテ	中央部中層	100% PL.28

第14号住居跡 (第150～153図)

位置 調査Ⅱ区北部、F6h7区の平坦部に立地し、第21号住居跡及び第1号土器焼成遺構と重複関係にあり、南には第36号住居跡が位置している。

重複関係 縄文中期の第21号住居跡と第1号土器焼成遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.32m、短軸5.31mの方形で、主軸はN-12°-Wである。壁高は44～68cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦であり、竈の右及び東壁周辺の一部を除いて、ほぼ全面が踏み固められている。壁溝は竈右の一部を除いて、壁下を全周している。さらに、焼土塊が中央部を取り囲むように西壁周辺の床面から出土している。

焼土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量 | 4 褐色 ロームブロック多量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 | |

竈 砂混じりの褐色粘土で、北壁中央部に構築されている。天井部は崩落しているが、両袖部は遺存している。

焚口部から煙道部まで158cm、両袖部幅100cmで、壁外への掘り込みは17cmである。火床部は床面とほぼ同レベルで、浅い皿状を呈しており、火熱を受けて赤変硬化している。また、煙道部は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|--|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量 | 9 褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化物少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量、粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック中量、砂粒少量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子多量、砂粒少量 | 11 にぶい褐色 焼土ブロック多量、粘土粒子・砂粒中量、炭化物少量 |
| 4 灰褐色 粘土粒子多量、砂粒中量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 にぶい褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化物・砂粒少量 |
| 5 にぶい赤褐色 粘土粒子多量、砂粒・焼土ブロック中量 | 13 にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒中量、炭化物少量 |
| 6 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 | 14 にぶい褐色 粘土粒子中量、炭化物少量、ローム粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 | 15 褐色 粘土粒子・砂粒中量、炭化物少量、ローム粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 焼土ブロック多量、粘土粒子・砂粒少量、炭化物微量 | 16 褐色 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| | 17 暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、粘土粒子微量 |
| | 18 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ39～60cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。P5は深さ20cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1土層解説

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック・砂粒微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量、砂粒少量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 | |
| 4 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 | |

P2土層解説

- | |
|-----------------------|
| 1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量 |
| 3 褐色 ロームブロック多量 |
| 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

P3土層解説

- | |
|-----------------------|
| 1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量 |

P4土層解説

- | |
|-----------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物少量、焼土ブロック・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子・砂粒微量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量 |

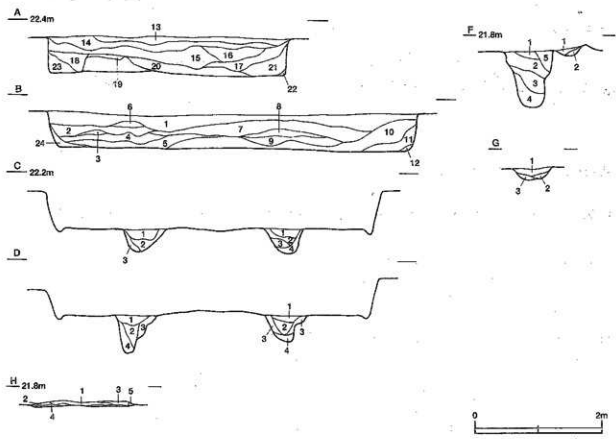
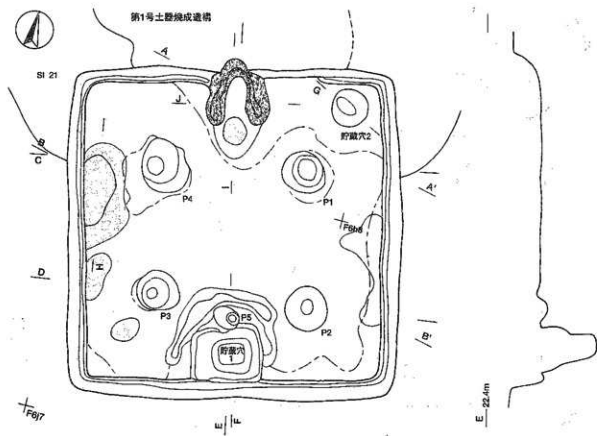
P5土層解説

- | |
|-------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量 |
| 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |

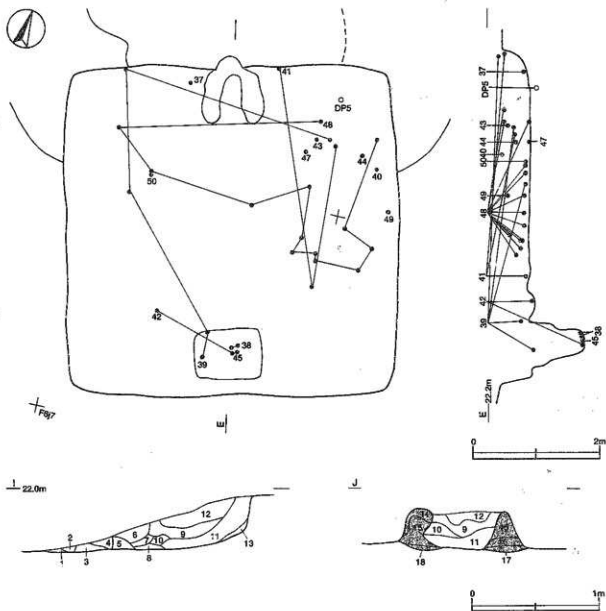
貯蔵穴1 長軸110cm、短軸80cmの隅丸長方形で、南壁寄りの中央に付設されている。深さは95cm、底面は平坦で外傾して立ち上がる。

貯蔵穴1土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 1 褐色 ロームブロック多量、炭化物少量 | 4 褐色 ローム粒子多量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 | |



第150图 第14号住居跡実測图(1)



第151図 第14号住居跡実測図(2)

貯蔵穴 2 径60cmほどの円形で、北東コーナー部に付設されている。深さは15cm、底面は皿状を呈し外傾して立ち上がる。

貯蔵穴2土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

覆土 24層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

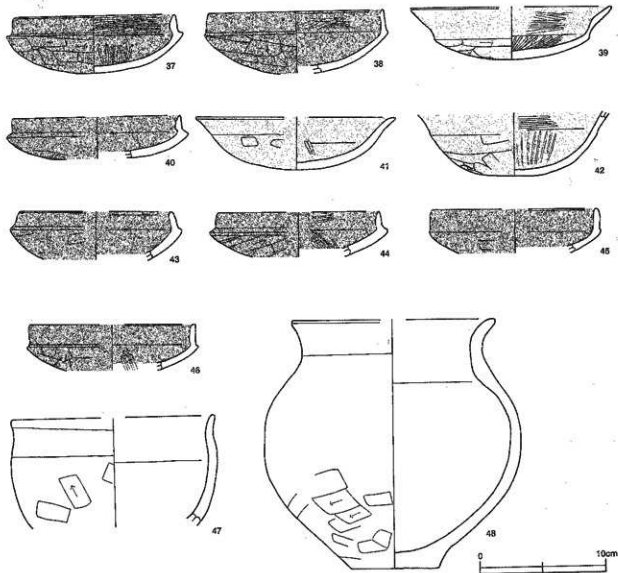
土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量 |
| 2 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック多量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化物中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック多量, 炭化物少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 5 褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 12 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 13 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量 |
| | | 14 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量 |

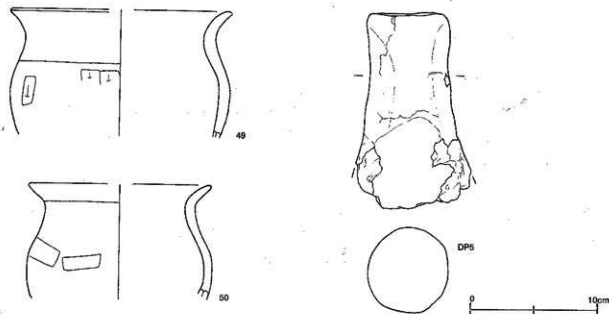
- 15 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子微量
 16 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
 17 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
 18 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
 19 暗褐色 粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量

- 20 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物中量
 21 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
 22 褐色 ローム粒子中量
 23 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子微量
 24 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片262点(坏123, 甕139), 縄文土器片1210点(口縁部98, 胴部1101, 底部11), 土製品(支脚)1点, 焼土塊が出土し, 縄文土器片は混入である。全体的に土器が出土しているが, 特に北東部コーナー付近から, 集中して出土している。37は竈左袖部付近壁際の覆土下層, 38は貯蔵穴の底面からそれぞれ出土している。39は貯蔵穴周辺と北側の, 覆土上層から下層の土器が接合した資料である。DP 5は貯蔵穴2の覆土下層から斜位で, 焼土塊は中央部を取り囲むように東壁・南壁・西壁の周辺の, 床面から出土している。所見 本跡は焼土塊が壁周辺の床面から出土していることや, 土層中にも炭化物が含まれていることなどから焼失家屋と考えられる。竈際の壁面は, 縄文の焼土遺構を掘り込んで構築しているため赤変した土が露出している。時期は出土土器や竈の煙道部の掘り込みが浅く古手の様相を示していることなどから6世紀中頃と考えられる。



第152図 第14号住居跡出土遺物実測図(1)



第153図 第14号住居跡実測図(2)

第14号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
37	土師器	坏	12.7	4.5	—	灰石・石英・雲母	黒色	普通	口縁部外面ナシ	竈穴上部付近層	灰質磁器片
38	土師器	坏	13.8	(4.9)	—	灰石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面ナシ	貯蔵穴1底面	灰質磁器片
39	土師器	坏	[16.0]	4.2	—	灰石・雲母	明赤褐色	普通	口縁部外面ナシ・底部へハシ	貯蔵穴1上層	灰質磁器片
40	土師器	坏	[13.2]	(3.3)	—	灰石・雲母・白色粒子	黒色	普通	口縁部外面ナシ	東部上層	灰質磁器片
41	土師器	坏	[15.6]	4.1	—	灰石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部外面ナシ	中央部底面	灰質磁器片
42	土師器	坏	—	(5.0)	—	灰石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部外面ナシ・底部へハシ	貯蔵穴1底面	灰質磁器片
43	土師器	坏	[12.0]	(3.6)	—	灰石・赤色粒子・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部外面ナシ・底部へハシ	東部中層	灰質磁器片
44	土師器	坏	[12.6]	(3.5)	—	灰石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部外面ナシ・器面やや滑減	東部中層	灰質磁器片
45	土師器	坏	[12.8]	(3.4)	—	灰石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面ナシ・器面滑減	貯蔵穴1底面	灰質磁器片
46	土師器	坏	[13.0]	(3.5)	—	灰石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部外面ナシ・器へナシ	東部上層	灰質磁器片
47	土師器	鉢	[16.0]	(8.6)	—	灰石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面ナシ	東部表面	灰
48	土師器	釜	[15.8]	19.7	7.0	灰石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面ナシ・底部へハシ	北部下層	灰質磁器片
49	土師器	釜	[17.3]	(10.0)	—	灰石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面ナシ・器面滑減	東部埋没中層	灰
50	土師器	小形器	[14.2]	(9.1)	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面ナシ・器面滑減へナシ	西部下層	灰質磁器片

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DPS	支脚	(15.5)	(9.0)	(8.3)	(798.0)	土製	外面ナシ。器面やや滑減	貯蔵穴2底面	

第15号住居跡 (第154~158図)

位置 調査Ⅱ区北部、E 6 g 2区の平坦部に立地し、東には第40号住居跡、南には第16号住居跡が位置し西側の約半分は調査区域外に延びている。

重複関係 第224・225号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 西側部分が約2分の1ほど調査区域外に延びているため、長軸6.30m、短軸は3.02mだけが検出され、N-14'-Wを主軸とする方形または長方形と推定される。壁高は50~59cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり、検出された中央部が踏み固められており、壕溝が南部中央壁下を除いて周囲している。また、北コーナー付近に粘土塊が検出されている。

粘土層解説

- | | | |
|---|--------|---------------|
| 1 | 褐色 | 粘土粒子中量 |
| 2 | にぶい赤褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子中量 |

竈 砂混じりの褐色粘土で北壁に構築されている。天井部は崩落しており、左袖部が調査区外のため、右袖部のみ検出されている。規模は焚口部から煙道部まで130cm、壁外への掘り込みは25cmほどである。火床部は浅い皿状を呈して火熱を受けて赤変硬化し、煙道部は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|------------------------------|----|--------|----------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子・ローム粒子微量 | 7 | 褐色 | ローム粒子少量、炭化物粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物・砂粒微量 | 8 | 褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化物粒子・砂粒微量 |
| 3 | にぶい赤褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化物粒子微量 | 9 | にぶい赤褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・砂粒微量 |
| 4 | 黒褐色 | 砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 | 10 | にぶい褐色 | 粘土粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 11 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 (掘り方) |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 | | | |

ピット 3か所。P1～P2は深さ43～46cmで規模や配列から主柱穴と考えられ、P3は出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 径80cmほどの円形と推定され、南壁寄りの中央に付設されている。深さは29cm、底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- | | | |
|----|-----|------------------------|
| 21 | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物粒子微量 |
|----|-----|------------------------|

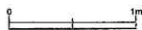
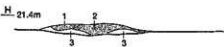
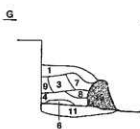
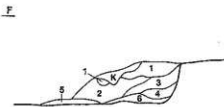
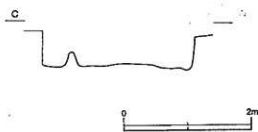
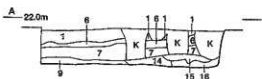
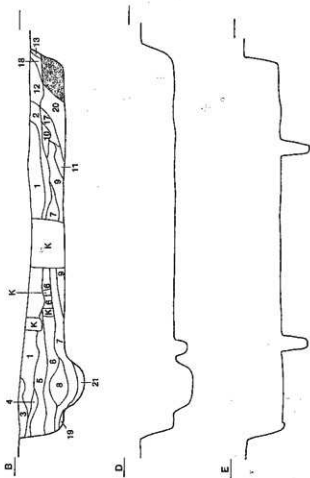
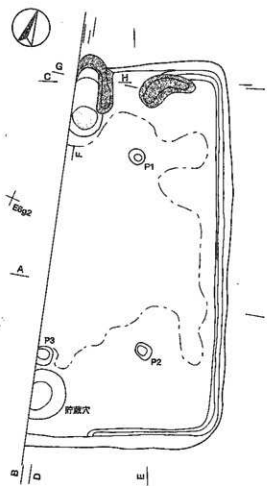
覆土 20層からなり、含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

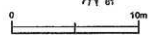
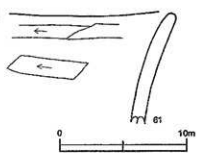
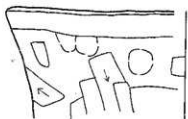
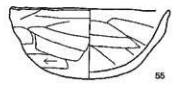
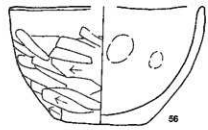
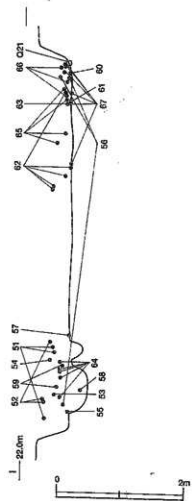
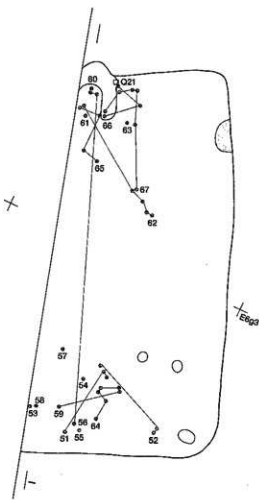
- | | | | | | |
|----|-----|---------------------|----|-----|---------------------------|
| 1 | 黒色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 11 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 | 棕褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 12 | 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック少量 | 13 | 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量 | 14 | 褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | 15 | 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 6 | 暗褐色 | ロームブロック微量 | 16 | 暗褐色 | 炭化物多量、ロームブロック中量 |
| 7 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 17 | 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物粒子微量 |
| 8 | 褐色 | 焼土ブロック中量、焼土粒子・炭化物微量 | 18 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 9 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 | 19 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 10 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 20 | 褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片602点(坏90, 甕503, 瓶9), 縄文土器片165点, 土製品(支脚)1点が出土し、縄文土器片は混入である。土器は北部と南部の覆土中や床面からの出土がほとんどである。55・57は貯蔵穴付近の床面から出土し、特に57は長胴形の特徴的な器形を呈し、58は貯蔵穴の覆土中層から横位で出土している。60は竈内の底面から逆位で出土し、貯蔵穴付近の土器が接合された資料である。また、63は竈右袖部の下層から斜位で出土した、ほぼ完形品である。67は竈内の覆土下層の土器と中央床面の土器が接合された資料である。さらに、焼土や炭化材・炭化物は北部と南部の床面及び覆土中から出土している。

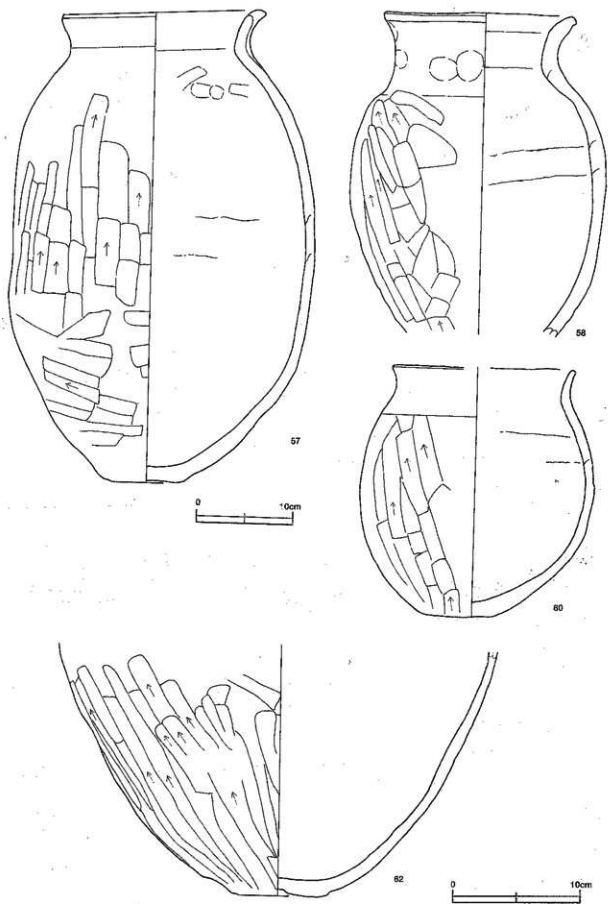
所見 本跡は西側約半分が調査区外のため、調査された部分は少ないが、出土遺物は豊富である。特に、甕類はほとんどが厚手に作られている。覆土や床面から焼土や炭化材・炭化物が出土しているため、焼失家屋と想定できる。竈内では甕が逆位で出土し、支脚として利用された可能性もあり、甕は南壁中央の土器と接合され、居住段階での焼失と考えられる。時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



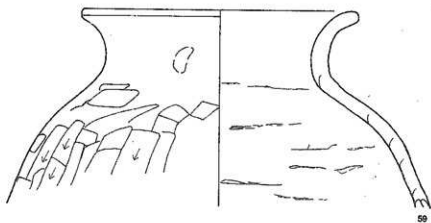
第154图 第15号住居跡实测图



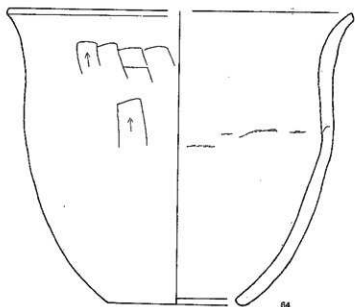
第155图 第15号住居跡・出土遺物実測図



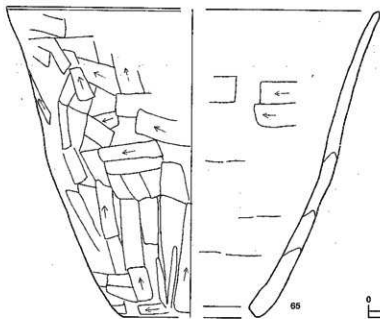
第156图 第15号住居跡出土遺物実測図(1)



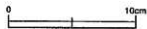
59



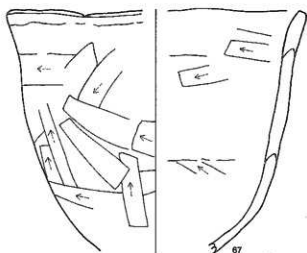
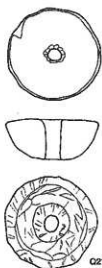
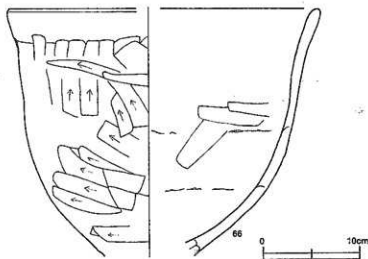
64



65



第157图 第15号住居跡出土遺物実測図(2)



第156図 第15号住居跡出土遺物実測図(3)

第15号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土状況	備考
51	土師器	坏	12.1	4.4	—	長石・雲母	にぶい黒	普通	口縁部内面磨ナシ	南西部中層	器の内面彩色塗料付
52	土師器	坏	[13.0]	4.6	—	雲母	にぶい黒	普通	口縁部内面磨ナシ	南部上・中層	器の内面彩色塗料付
53	土師器	坏	[13.0]	4.5	—	長石・雲母	にぶい黒	普通	口縁部内面磨ナシ	南西部中層	器の内面彩色塗料付
54	土師器	坏	[13.0]	(4.4)	—	石英・雲母	にぶい黒	普通	口縁部内面磨ナシ・内面へツナシ	南西部中層	器の内面彩色塗料付
55	土師器	碗	12.4	5.5	—	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黒	普通	器底内面へツナシ	南部東部	器の内面
56	土師器	鉢	[18.1]	9.6	7.2	長石・雲母	にぶい黒	普通	口縁部内面磨ナシ	北・南下部	器の内面
57	土師器	甕	21.7	49.9	8.1	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黒	普通	口縁部内面磨ナシ・器底内面ナシ	南部東部	器の内面
58	土師器	甕	14.6	(25.0)	—	長石・石英・雲母	明輪灰	普通	口縁部内面磨ナシ・器底内面ナシ	貯蔵穴中層	器の内面
59	土師器	甕	21.4	(15.6)	—	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黒	普通	口縁部内面磨ナシ・器底内面へツナシ	南西部中・下層	器の内面
60	土師器	甕	[14.0]	19.9	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	普通	口縁部内面磨ナシ・器底内面ナシ	東北部	器の内面
61	土師器	瓶	[28.0]	(8.7)	—	雲母	にぶい黒	普通	口縁部内面磨ナシ・口縁部・器底内面へツナシ	東北部	器の内面
62	土師器	甕	—	(19.8)	7.8	赤色・長石・雲母・赤色粒子・石英	にぶい黒	普通	器底内面へツナシ・内面ナシ・器底ナシ・内面に彩色塗料付	中央部中・下層・床	器の内面

番号	種別	器種	口徑	器高	底徑	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
63	土 師 器	小 彩 甕	11.4	12.7	7.2	長石・石英・赤土	に ぶ い 黄	普通	口縁部内面ナメ内面ヘナメ表面内面ナメ	竈際下層	20% 9層前丸土
64	土 師 器	甕	[27.0]	23.3	10.8	長石・石英・赤土	に ぶ い 黄 橙	普通	口縁部内面ナメ表面ナメ中々ナメ	竈部下層	8% PL29
65	土 師 器	甕	[29.4]	24.5	[11.6]	長石・石英・赤土	に ぶ い 黄	普通	口縁部内面ナメ表面内面ヘナメ	竈中・下層	20%
66	土 師 器	甕	[32.4]	[26.4]	—	長石・石英・赤土	に ぶ い 黄	普通	口縁部内面ナメ表面内面ヘナメ	竈下層	8% PL30
67	土 師 器	甕	[33.0]	[19.4]	—	赤土	に ぶ い 黄 橙	普通	口縁部内面ナメ表面内面ヘナメ	北部下層・束	8%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石材	特徴	出土位置	備考
Q21	特 種 瓦	4.8	4.9	2.1	55.0	泥岩	器面彫刻, 孔径0.7cm	竈右横床面	PL35

第16号住居跡 (第159~161図)

位置 調査Ⅱ区中央部, E 6 3区の平坦部に立地し, 北には前述した第15号住居跡, 南には第17号住居跡が位置しており, 西側は調査区域外に延びている。

規模と形状 西側部分が約3分の1ほど調査区域外に延び, 長軸5.58m, 短軸は3.86mだけが検出され, N-19'-Wを主軸とする方形または長方形と推定される。壁高は35~42cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり, 中央部のピット (P10~12) を伴った不定形状の掘り込み部を除いて, 踏み固められている。壁溝は東部分の壁下に検出されている。

竈 砂混じりの褐色粘土で北壁に構築されている。天井部は崩落しているが, 両袖部は遺存している。規模は焚口部から煙道部まで150cm, 両袖部幅125cmで, 壁外への掘り込みは15cmほどである。火床部は浅い皿状を呈して, 火熱を受けて赤変硬化し, 煙道部は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 暗 褐 色 | 粘土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 黒 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量 | 7 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量 |
| 3 灰 褐 色 | 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・砂粒微量 | 8 褐 色 | ローム粒子多量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物・砂粒微量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 5 赤 褐 色 | 焼土ブロック多量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック多量 |

ピット 12か所。P1・P2・P3は深さ24~48cmで規模や配列から主柱穴と考えられ, その他のピットの性格は不明である。

貯蔵穴 径85cmほどの円形と推定され, 南壁寄りの中央に付設されている。深さは41cm, 底面は皿状で壁は外傾して立ち上がる。

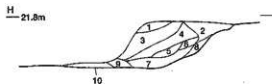
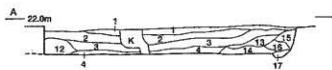
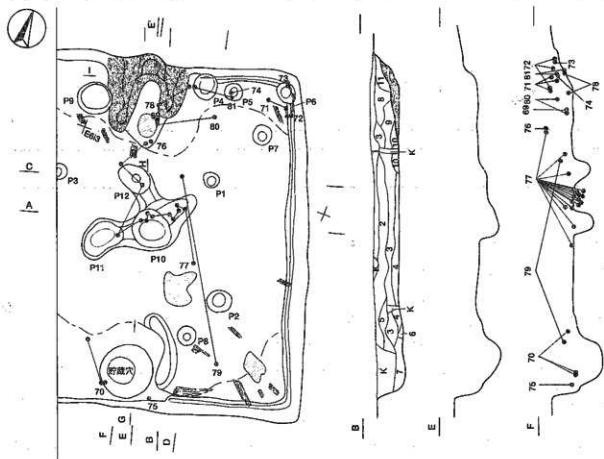
貯蔵穴土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化物少量, ロームブロック微量
- 2 灰褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 炭化物中量, ローム粒子微量

覆土 17層からなり, 含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 黒 色 | 炭化物多量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒 色 | 炭化物多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 黒 褐 色 | 炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 |
| 3 黒 褐 色 | 炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 9 黒 褐 色 | 炭化物少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 黒 褐 色 | 炭化物少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 10 黒 褐 色 | 炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 5 黒 色 | 炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 11 黒 褐 色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 6 褐 色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化物微量 | | |

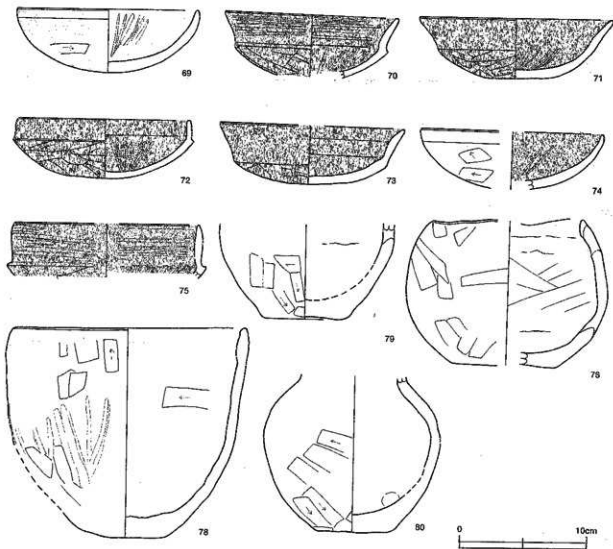


第159图 第16号住居跡实测图

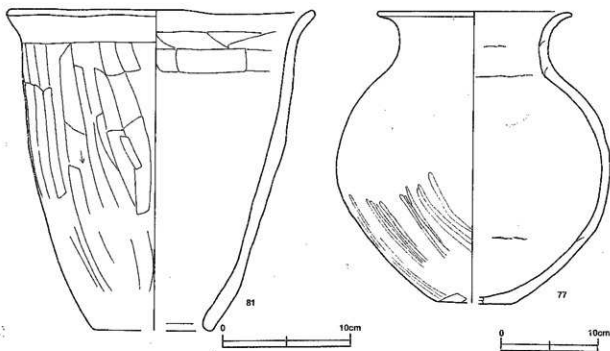
- | | |
|---------------------------------------|------------------------|
| 10 暗褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 | 14 黒色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 11 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 | 15 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 12 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 16 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 13 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量 | 17 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片517点(坏142, 瓦366, 鉢9), 須恵器片1点, 縄文土器片253点, 土製品(支脚)2点, 炭化材, 燧8点が出土し, 縄文土器片は混入である。また, 土器は北部を中心に出土し, 69は竈の南側覆土下層, 78は竈石袖部近くの底面からそれぞれ出土している。さらに, 77は中央部のP10~P12を伴った不定形の掘り込みや床面及び覆土下層から出土した多くの破片が接合された資料である。炭化材や焼土が竈周辺部や南部から出土している。支脚は原形をとどめていないので, 図示できなかった。

所見 本跡は西側約3分の1が調査区外になっており, 調査された部分がやや少ないが, 出土遺物は豊富である。とくに甕類は厚手に作られているものが見られ, 周辺部遺跡の同時期の土器とはやや様相が異なる。この様相は前述した第15号住居跡にも見られた特徴である。また, 焼土や炭化材・炭化物が覆土や床面から出土しており, 焼失家屋と考えられる。前述した第15号住居跡同様, 居住段階での焼失と想定され, 時期は出土土器や竈の煙道部の掘り込みが浅い古手の様相を示していることなどから, 6世紀中頃と考えられる。



第160図 第16号住居跡出土遺物実測図(1)



第161図 第16号住居跡出土遺物実測図(2)

第16号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色澤	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
69	土師器	杯	14.3	3.0	—	雲母	にぶい黄緑	普通	口縁部外面横ナテ・底部外面へウ巻	室下層	伊勢国志摩郡
70	土師器	杯	13.7	(4.9)	—	石膏・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面・底部外面へウ巻	南部下層	伊勢国志摩郡
71	土師器	杯	15.3	5.3	—	雲母・赤色粘土	にぶい黄緑	普通	口縁部外面横ナテ	北部上層	伊勢国志摩郡
72	土師器	杯	13.4	4.8	—	雲母	にぶい黄緑	普通	口縁部外面横ナテ	北部上層	伊勢国志摩郡
73	土師器	杯	[15.0]	4.6	—	石英	にぶい橙	普通	口縁部外面・底部外面へウ巻	北コート上層	伊勢国志摩郡
74	土師器	杯	[14.4]	(4.6)	—	赤土	にぶい黄緑	普通	口縁部外面横ナテ	北部上層	伊勢国志摩郡
75	土師器	杯	[14.5]	(4.2)	—	雲母	にぶい黄緑	普通	口縁部外面へウ巻	南階段下層	伊勢国志摩郡
76	土師器	鉢	[11.8]	11.7	[8.0]	雲母	にぶい橙	普通	底部外面へウ巻・内面横ナテ	室階上層	伊
77	土師器	甕	20.2	31.4	8.0	長石・雲母・赤色粘土	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナテ・底部外面へウ巻	中央上・床面	伊勢国志摩郡
78	土師器	甕	18.0	16.8	8.0	石膏・雲母	にぶい橙	普通	底部外面へウ巻・内面横ナテ	室下層・庭園	伊99
79	土師器	小形甕	—	(7.5)	6.6	雲母	にぶい橙	普通	底部外面へウ巻・内面横ナテ	中央・中下層	伊
80	土師器	小形甕	—	(12.4)	6.0	石英	にぶい黄緑	普通	底部外面へウ巻・内面横ナテ	室下・下層	伊
81	土師器	甕	31.0	25.5	[9.3]	赤土・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面へウ巻・内面横ナテ	北部中層	伊99

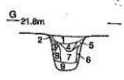
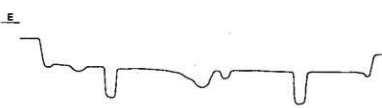
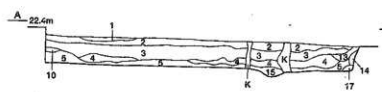
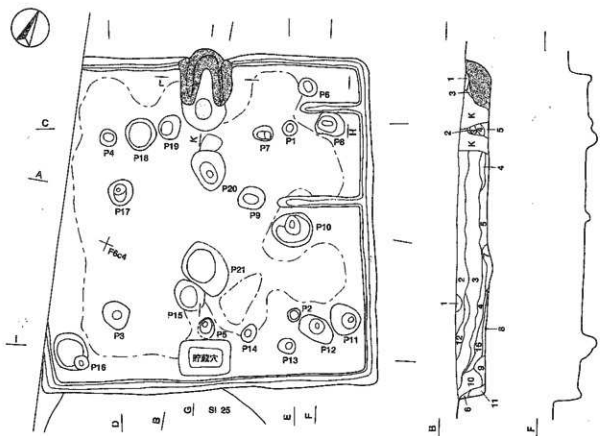
第17号住居跡 (第162~165図)

位置 調査Ⅱ区中央部、F6b4区の平坦部に立地し、第25号住居跡と重複している。北には第16号住居跡、北東には第23号住居跡が位置している。

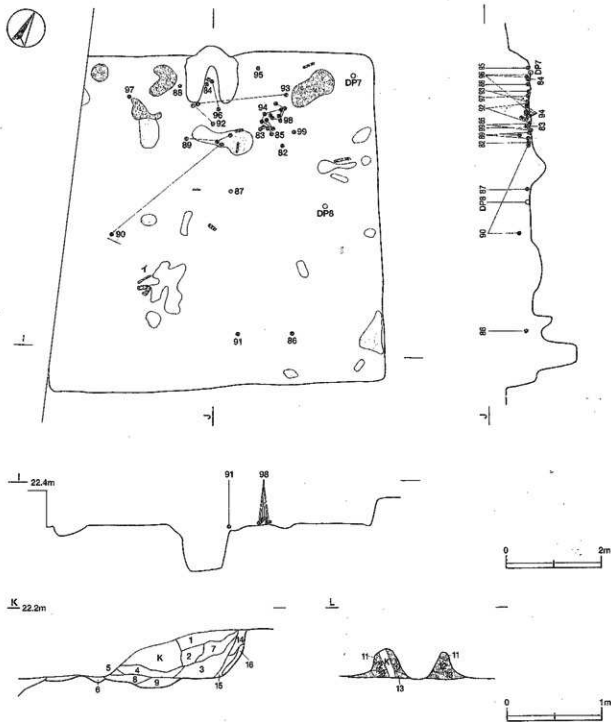
重複関係 第25号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 西側部分が調査区域外に延び、長軸7.03m、短軸は6.98mだけが検出され、主軸はN-22°-Wの方形と推定される。壁高は40~54cmで、ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦であり、中央部分が全体的に踏み固められている。壁溝は全周しているものと考えられる。また、東壁下から2条の間仕切り溝が中央部に向かって延び、幅20~25cm、深さは8~12cmである。また、北東コーナー周辺には粘土混じりの土が床面上に検出され、籠の構築材が流れ出して堆積したものと考えられる。



第162图 第17号住居跡実測图(1)



第163図 第17号住居跡実測図(2)

間仕切り土層解説

I 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒・炭化物微量

竈 砂泥じりの褐色粘土で北壁に構築されている。天井部は崩落しているが、両袖部が遺存している。規模は焚口部から煙道部まで175cm、両袖部幅105cm。壁外への掘り込みは20cmほどであり、両袖部の先端部分は攪乱を受けている。火床部は浅い皿状で、火熱を受けて赤変酸化しており、煙道部は外傾して立ち上がる。竈土層断面図中の、3・4層は天井部の崩落土である。

壁土層解説

- | | | | |
|-----------|--------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量 | 12 にぶい褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・炭化材中量、ローム粒子微量 | 13 褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 にぶい褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子微量 | 15 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 16 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量 |
| 7 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化物微量 | | |
| 8 赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物微量 | | |
| 9 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量 | | |
| 10 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量 | | |

ピット 21か所。P1～P4は深さ61～72cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。P5は深さ42cmほどで位置や形状から出入り口施設に伴うピットと考えられ、その他のピットの性格は不明である。

貯蔵穴 長軸108cm、短軸76cmほどの隅丸長方形で、南壁寄りの中央に付設されている。深さは88cm、底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 柳暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・ローム粒子微量 | 9 灰褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化物少量 | | |

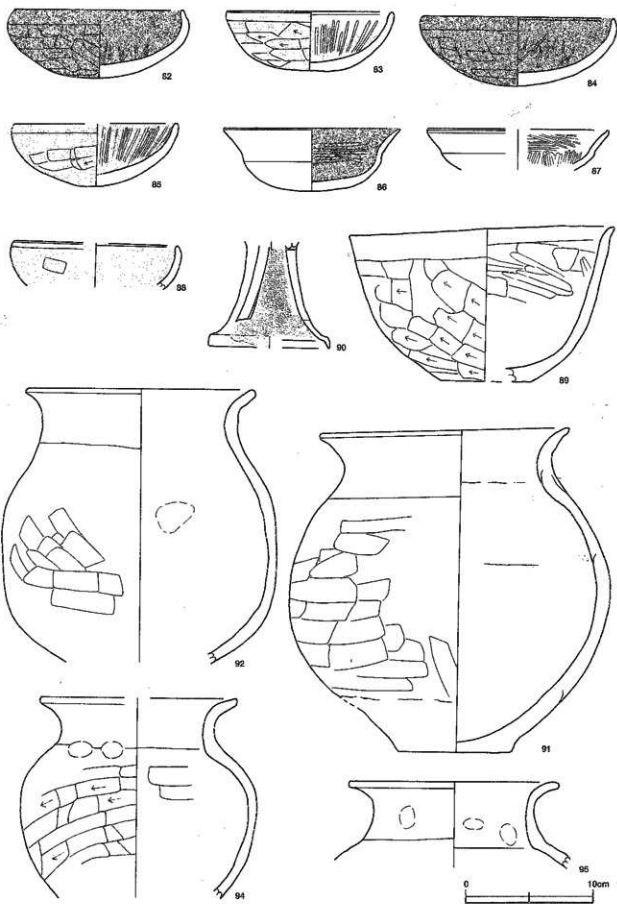
覆土 17層からなり、含有物や不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

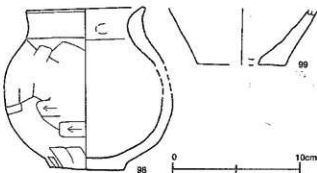
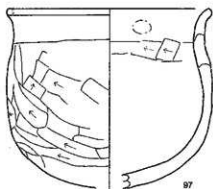
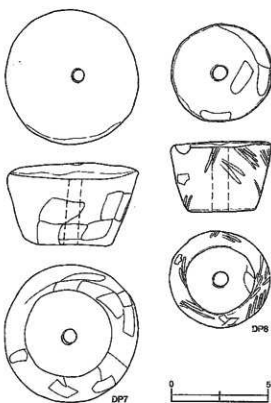
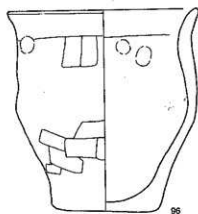
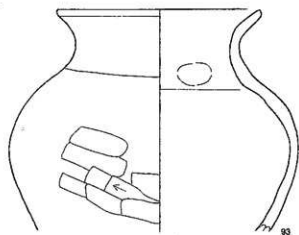
- | | | | |
|-------|-----------------------|-----------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 | 13 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量 | 14 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化材微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 7 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片526点(坏71、寛454、甌1)、須恵器片3点(高坏3)、縄文土器片727点、土製品(紡錘車)2点、礫10点、炭化材、焼土が出土し、縄文土器片は混入である。图示した土器は土師器と須恵器であり、遺物は全体的に散在しているが、特に竈周辺部からの出土が多い。82・83は北東部床面から正位で出土し、ほぼ完形品に近いものである。84は室内の火床面、92は竈左袖部前の床面から逆位で出土している。91は南壁中央寄りの床面から横位で出土し、94は北東部床面に散在していた土器片が接合された資料である。97は北西部の床面から出土し、その周りには粘土塊が出土している。90は中央部からやや電寄りの床面の土器と北西部の覆土中層の土器が接合し、さらに第22号住居跡南東部の覆土下層から出土した土器も接合した須恵器高坏の脚部であり、カキ目調整が施されている。また、全体的に床面から炭化材や焼土が散在した状態で出土している。この炭化材の樹種同定を行った結果、クスノギ節であることが明らかとなり、住居用の構築材の一部として使用されたものと考えられる。〔付章〕参照)

所見 本跡は西側壁が調査区外に位置し、遺構の遺存状況も良いとは言えないが、出土遺物は豊富であり、とくに瓦類は厚手に作られているものが見られる。焼土や炭化材・炭化物は、覆土や床面から出土し、焼失家屋と考えられる。須恵器の高坏脚部は、第22号住居跡の覆土下層から出土した遺物と接合され両者の住居施築の段階で投棄された可能性があり、これらは同時に存在した住居と考えられる。また、接合関係から祭祀行為も想定されるが明確ではない。時期は出土土器や竈の煙道部の掘り込みが古い古手の様相を示していることから、6世紀中頃と考えられる。



第164图 第17号住居跡出土遺物実測図(1)



第165図 第16号住居跡出土遺物実測図(2)

第17号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
82	土師器	坏	13.3	5.1	—	雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナテ	北部塚南	昭和46年10月25日
83	土師器	坏	13.6	5.8	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナテ	北部塚南	昭和46年10月25日
84	土師器	坏	15.1	5.5	—	石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナテ	北部塚南	昭和46年10月25日
85	土師器	坏	[12.9]	5.2	—	長石・赤色砂子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナテ	北部塚南	昭和46年10月25日
86	土師器	坏	14.0	5.0	—	雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナテ内面へテ特	東部下層	昭和46年10月25日
87	土師器	坏	[14.2]	(3.2)	—	雲母	橙	普通	口縁部外面横ナテ内面へテ特	中央部床前	西
88	土師器	坏	[12.9]	(3.5)	—	石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナテ	北部塚南	昭和46年10月25日
89	土師器	钵	20.7	12.4	[7.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面横ナテ	北部塚南	昭和46年10月25日
90	瓦志郎	高坏	—	(8.4)	[9.6]	砂粒	黄	灰	筒部中央口縁部横ナテ内面へテ特	北・西床前	昭和46年10月25日
91	土師器	甕	19.7	25.9	9.1	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナテ内面横筋入	南部塚南	昭和46年10月25日

番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎上	色澤	地成	手法の特徴	出土位置	備考
92	土師器	甕	17.8	(21.7)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	1区西側面中ナテ・3区南内面ナテ	東部床面	70% PL30
93	土師器	甕	16.0	(17.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	1区西側面中ナテ・3区南内面ナテ	北部床面	60% PL30
94	土師器	甕	[15.5]	(15.8)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	3区西側面中ナテ・3区南内面ナテ	北部床面	45%
95	土師器	甕	16.5	(16.7)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	1区西側面中ナテ	北部床面	25%
96	土師器	甕	14.0	16.3	8.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	1区西側面中ナテ・3区南内面ナテ	東部床面	70% PL30
97	土師器	甕	15.7	(14.2)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	1区西側面中ナテ・3区南内面ナテ	西部床面	70% PL30
98	土師器	小形甕	9.2	13.0	3.8	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	1区西側面中ナテ・3区南内面ナテ	北部床面	70% PL30
99	土師器	甕	—	(1.45)	(1.74)	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	3区西側面ナテ	北部床面	5%

番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP7	紡錘車	7.1	7.0	4.3	208.0	土質	上面ナテ・前面ヘラ張り、孔径0.7cm	北コーナー床面	P.L.36
DP8	紡錘車	5.1	5.2	3.7	108.0	土質	上下面ヘラナテ・前面ヘラ張り、孔径0.8cm	東部床面	

第22号住居跡 (第166~168図)

位置 調査Ⅱ区南部、G6F7区の平坦部に立地し、第34号住居跡と重複している。東には第29号住居跡、南東には第30号住居跡が位置している。

重複関係 第34号住居跡と第646号土坑を掘り込んでおり、第457号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.47m、短軸6.46mの方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は48~50cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部を中心に竈周辺から南壁中央までよく踏み固められ、壁溝が貯蔵穴付近を除いてはほぼ全周している。

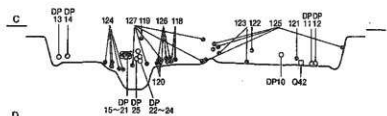
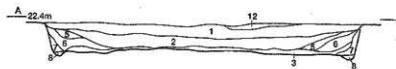
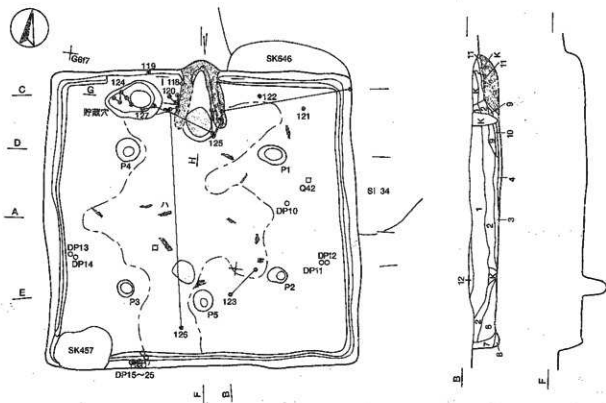
竈 砂混じりの褐色粘土で北壁中央に構築されている。規模は焚口部から煙道部まで167cm、両袖幅100cm、壁外への掘り込みは20cmほどであり、左袖部は残存状況が悪く、粘上が少量残っているのみである。火床部は浅い皿状を呈し、火熱を受けて赤変硬化しており、煙道部は外傾して立ち上がる。

壁土層解説

1 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、 ロームブロック・炭化物微量	7 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量、 ロームブロック・炭化物微量
2 にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、 炭化物微量	8 にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量、 炭化物微量
3 にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、 炭化物微量 篩まり有り	9 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量、粘土粒子・ 砂粒微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック多量、粘土粒子・砂粒中量、 灰少量、ロームブロック・炭化物微量	10 褐色	ローム粒子中量、粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子・ 炭化物微量
5 にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、 ローム粒子・炭化物微量	11 暗褐色	ローム粒子少量、炭化物・粘土粒子・砂粒微量
6 にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・ 炭化物微量	12 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
		13 暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化物微量

ピット 5か所。P1~P4は深さ54~72cmで規模や配列から主柱穴である。P5は位置や形状から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 長径117cm、短径77cmほどの楕円形で、竈の左に付設されている。深さは58cm、底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。



第166图 第22号住居跡実測图

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

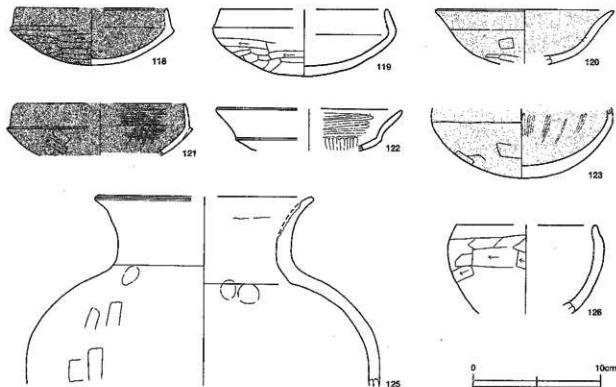
覆土 12層からなり、含有物などから人為堆積と考えられる。

土層解説

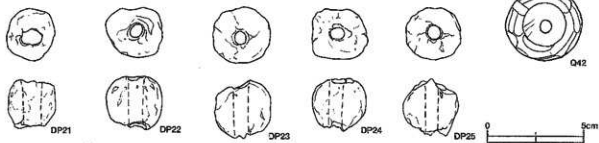
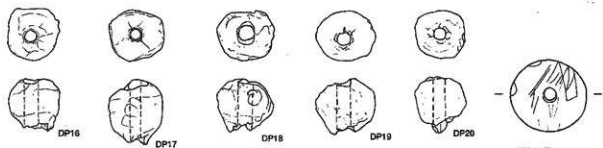
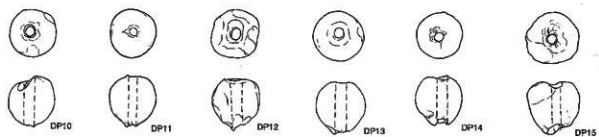
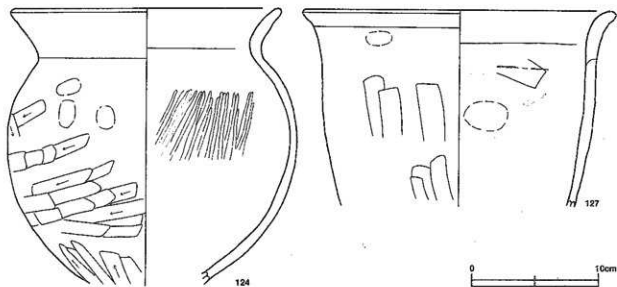
- | | | | |
|-------|---------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 9 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 10 暗褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量 | 11 灰褐色 | 粘土粒子中量、砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 炭化物少量、ローム粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | | |
| 7 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片437点(坏130, 甕307), 須恵器片2点(高坏2), 縄文土器片202点, 土製品16点(球状土錘), 石製品1点(紡錘車), 礎34点が出土し, 縄文土器片は混入である。土器は竈周辺部からの出土が目立つ。118は竈左袖部付近の覆土下層から正位の状態出土し, 124は貯蔵穴の覆土上層から潰れた状態で出土している。北東部の覆土下層から出土した須恵器高坏片は第17号住居跡から出土した90に接合されており, DP15~25は南側壁の中央からやや西コーナー寄り壁際の覆土下層から並んだ状態で出土している。炭化材口, 火は散在した状態で床面から出土し, 樹種同定の結果コナラ節であることが明らかになった。〔付章〕参照

所見 本跡は出土遺物が豊富で, 壺類は厚手に作られているものがほとんどであり, 前述した住居との類似が認められる。炭化材は全体的に散在した状態で床面から出土しており, 焼土家屋と考えられる。また, 南壁際から球状土錘が並んで出土している状態や須恵器高坏片が他の住居跡から出土した高坏片と接合関係にある状況から住居を廃絶する際, 何らかの祭祀的行為が行われたと想定される。時期は出土土器や竈の煙道部の掘り込みが浅い古手の様相を示していることなどから, 6世紀中頃と考えられる。



第167図 第22号住居跡出土遺物実測図(1)



第168图 第22号住居跡出土遺物実測图(2)

第22号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色澤	造成	手法の特徴	出土位置	備考
118	土師器	坏	[12.0]	4.5	—	5段	黄	普通	口縁有段糸文内面筋ナ	遺跡下層	49.内外底面色黄
119	土師器	坏	[13.2]	5.3	—	長石石灰	にぶい黄橙	普通	口縁有段糸文内面筋ナ	北部惣土層	49.
120	土師器	坏	[14.0]	(4.2)	—	赤赤赤色灰子	にぶい黄橙	普通	口縁有段糸文内面筋ナ	遺跡下層	7.内外底面筋
121	土師器	坏	[13.4]	(4.2)	—	赤橙	黒	普通	口縁有段筋ナ内面へり筋	北部下層	9.内外底面筋
122	土師器	坏	[14.8]	(3.3)	—	砂粒	明赤黄	普通	口縁有段筋ナ内面へり筋	北部中層	2.
123	土師器	坏	—	(5.5)	—	石灰・赤赤赤色灰子	にぶい黄	普通	口縁有段筋ナ内面へり筋	中央部下層	62.内外底面筋
124	土師器	甕	21.6	(21.9)	—	長石・赤黄	にぶい黄	普通	口縁有段筋ナナ	貯蔵穴上層	89. PL31
125	土師器	甕	[16.8]	(15.0)	—	長石石灰赤色灰子	にぶい黄橙	普通	口縁有段筋ナ糸文内面筋ナ	北部中層	33. PL31
126	土師器	椀	[12.0]	(7.0)	—	石灰・赤黄	にぶい黄橙	普通	口縁有段糸文内面筋ナ	北・南下層	59.
127	土師器	甕	24.4	(13.5)	—	長石・赤赤赤色灰子	にぶい黄橙	普通	口縁有段筋ナ糸文内面へり筋	遺跡下層	29. PL31

番号	器種	径	厚さ	孔径	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
DP10	埴状土鉢	2.5	2.4	0.6	14.0	土製	ナテ、下面へり傾り、片面穿孔	南部中層	PL7
DP11	埴状土鉢	2.7	2.5	0.5	15.0	土製	ナテ、片面穿孔	南部床面	PL5
DP12	埴状土鉢	2.6	2.5	0.9	14.0	土製	ナテ、側面へり傾り、上面側縁折、片面穿孔	南部床面	PL7
DP13	埴状土鉢	2.7	2.6	0.6	17.0	土製	ナテ、上下面へり傾り、片面穿孔	西部下層	PL7
DP14	埴状土鉢	2.8	2.4	0.5	14.0	土製	ナテ、孔縁縁縁折有り、片面穿孔	西部下層	PL7
DP15	埴状土鉢	2.8	2.7	0.6	18.0	土製	ナテ、上下面へり傾り、片面穿孔	南部惣土層	PL7
DP16	埴状土鉢	2.8	2.7	0.7	18.0	土製	ナテ、上下面へり傾り、片面穿孔	南部惣土層	54.内外底面筋
DP17	埴状土鉢	3.5	2.7	0.6	22.0	土製	ナテ、側面へり傾り、片面穿孔	南部惣土層	53.
DP18	埴状土鉢	2.8	3.0	0.9	13.0	土製	ナテ、側面へり傾り、片面穿孔指縁折有り	南部惣土層	PL7
DP19	埴状土鉢	3.0	3.1	0.7	17.0	土製	ナテ、側面へり傾り、片面穿孔	南部惣土層	PL7
DP20	埴状土鉢	2.9	2.6	0.7	15.0	土製	ナテ、上下面へり傾り、片面穿孔	南部惣土層	PL7
DP21	埴状土鉢	2.5	2.8	1.1	12.0	土製	ナテ、側面穿孔	南部惣土層	PL7
DP22	埴状土鉢	2.8	3.0	0.9	18.0	土製	ナテ、側面へり傾り、片面穿孔	南部惣土層	PL7
DP23	埴状土鉢	3.1	3.0	0.9	20.0	土製	ナテ、側面へり傾り、片面穿孔	南部惣土層	PL7
DP24	埴状土鉢	2.8	2.9	0.7	18.0	土製	ナテ、へり状工具による側縁有り、側面穿孔	南部惣土層	PL7
DP25	埴状土鉢	3.0	2.9	0.7	17.0	土製	ナテ、上下面へり傾り、側面穿孔	南部惣土層	PL7

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	特徴	出土位置	備考
Q42	柄鉢	3.7	4.0	1.7	36.0	凝岩	器面縁折、表面研削孔19.7cm	南部床面	PL3

第28号住居跡 (第169～171区)

位置 調査Ⅱ区南部、G7h1区の緩やかな斜面部に立地し、第31号住居跡と重複している。北西には第29号住居跡、西には第30号住居跡、南には第35号住居跡が位置している。

重複関係 第31号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.48m、短軸5.37mの方形で、主軸方向はN-21°-Eである。壁高は45～60cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部が中心によく踏み固められており、壁溝が全周している。さらに、焼土が各コーナー部から出土している。

焼土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、
灰燼量 | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量、ロームブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量 | 4 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |

竈 砂混じりの褐色粘土で北壁中央に構築されている。規模は焚口部から煙道部まで124cm、両袖部幅88cmで、壁外への掘り込みは20cmほどである。火床部は浅い皿状を呈し、火熱を受けて赤変硬化しており、煙道部は外傾して立ち上がる。

焼土層解説

- | | | | |
|-----------|------------------------------------|-----------|--------------------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭燼量 | 13 灰褐色 | 粘土ブロック・砂粒中量、ローム粒子・
焼土粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量、
炭燼量 | 14 褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、炭化物微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック・炭化物・
炭燼量 | 15 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・炭化物・
炭燼量 | 16 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子・
炭化物微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、炭化物・
炭燼量 | 17 にぶい褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子・
炭化物微量 |
| 6 暗赤褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック・炭化物・
炭燼量 | 18 赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、粘土粒子・砂粒少量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量、
炭化物・炭燼量 | 19 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子少量 |
| 8 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量、
ローム粒子・炭化物微量 | 20 にぶい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 9 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、
ローム粒子微量 | 21 褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・
粘土ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量、
ローム粒子・炭燼量 | 22 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、
焼土粒子微量 |
| 11 にぶい赤褐色 | 粘土ブロック・砂粒中量、ローム粒子・
焼土ブロック・炭化物微量 | 23 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック少量、
粘土ブロック微量 |
| 12 にぶい赤褐色 | 粘土ブロック・砂粒少量、ローム粒子・
焼土粒子微量 | 24 にぶい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、
焼土粒子微量 |
| | | 25 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・
粘土ブロック少量 |

ピット 14か所。P1～P4は深さ48～80cmで規模や配列から主柱穴と考えられ、P5は位置や形状から出入り口施設に伴うピットと考えられる。その他のピットの性格は不明であるが、P8・P10は位置的に横持ち柱の柱穴と考えられる。

貯蔵穴 長径88cm、短径65cmほどの楕円形で、竈の右に付設されている。深さは50cm、底面は平面で、壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

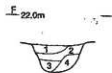
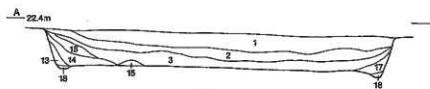
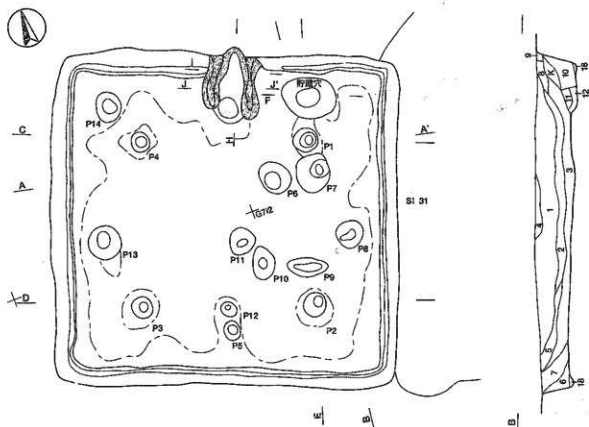
- | | | | |
|--------|------------------------|---------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化材少量、焼土ブロック微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 4 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |

覆土 18層からなり、自然堆積の状況を示している。

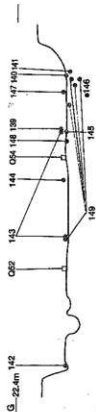
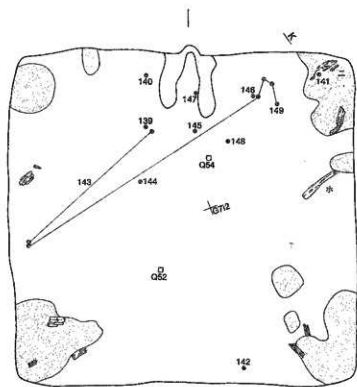
土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 10 極暗褐色 | ロームブロック・炭化材・粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 11 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子・
砂粒微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 12 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック・炭化材少量、焼土ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土ブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 16 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 8 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・
粘土粒子・砂粒微量 | 17 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 9 黒色 | 炭化物中量、ロームブロック微量 | 18 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片144点(埴42, 甕100, 鉢2), 須恵器片1点(高環1), 縄文土器片240点, 石製品3点(白玉2, 有孔円板1), 礫9点。炭化材が出土し、縄文土器片は混入であり、遺物は甕付近を中心に出土している。141は北東コーナー付近, 145・148・Q54は竈前, 140は竈の左袖部, 142は南壁中央のそれぞれ床面から出土している。147は竈内の火床部, 146は貯蔵穴の底面からそれぞれ斜位の状態で出土している。149



第169图 第28号住居跡实测图(1)



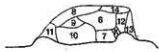
H 22.2m



I



J



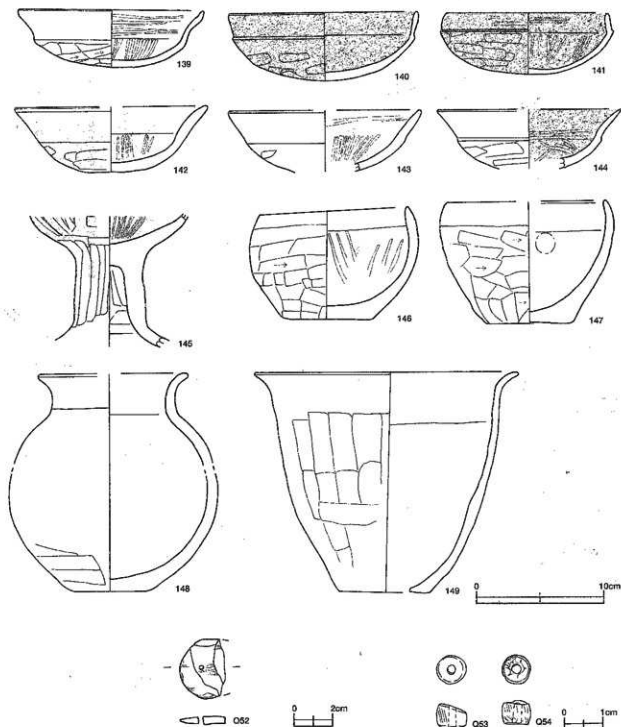
K



第170図 第28号住居跡実測図(2)

は貯蔵穴の覆土上層と西部の床面から出土した土器が接合された資料である。また、炭化材や焼土塊は各コーナー部の床面から出土している。この炭化材ニ、木の樹種同定を行った結果、クヌギ節であることが明らかとなり、住居用の構築材の一部として使用されたものと考えられる。〔「付章」参照〕

所見 瓦類は厚手でに作られているものが見られる。焼土や炭化材・炭化物は、各コーナー部の床面から出土しており、焼失家屋と考えられる。室内では鉢が斜位で出土し、高坏の脚部のほか壺付近からの出土が多く、住居の廃絶は居住していた時の状況をほぼ示していると考えられる。時期は、出土土器から6世紀中頃と考えられる。



第171図 第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
139	土師器	坏	14.7	4.5	—	砂鉄・雲母	赤褐色	普通	口縁部外面-体部内面十字	中央部下層	図21E
140	土師器	坏	14.9	3.4	—	雲母	黒褐色	普通	口縁部外面-体部内面十字	北西側面	図21C(内面)①
141	土師器	坏	12.9	4.9	—	砂鉄	にじい・黒	普通	口縁部外面-体部内面へうろた	西側底面	図21D(内面)①
142	土師器	坏	[15.2]	5.2	—	石英・雲母	にじい・黄褐色	普通	口縁部外面十字	南側底面	図21E②
143	土師器	坏	[15.0]	(4.8)	—	石英・雲母	浅黄	普通	口縁部外面十字-内面へうろた	中央・西側面	図21E②
144	土師器	坏	[14.5]	(4.7)	—	長石・石英	にじい・黄褐色	普通	口縁部外面十字	中央部下層	図21E②

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土状況	備考
145	土 壺	高 杯	—	10.4	—	石英・玄瑛	にぶい靑	普通	外縁部外面へナナテ	庭裏(北面)	94年発掘P13
146	土 壺	鉢	11.8	9.0	7.0	長石・石英・雲母	にぶい靑	普通	口縁部外面ナナテ	貯蔵穴(北面)	94年発掘P13
147	土 壺	鉢	12.5	9.6	7.0	石英・雲母	靑	普通	口縁部外面ナナテ, 底部内面ナナテ	庭裏(南)	94
148	土 壺	鉢	12.0	11.7	6.0	長石・雲母	にぶい靑	普通	口縁部外面ナナテ, 底部内面ナナテ	庭裏(北面)	94
149	土 壺	瓶	20.9	17.6	7.1	玄瑛	靑	普通	口縁部外面ナナテ, 底部内面ナナテ	貯蔵穴(中)	94, P13

番号	器種	径	厚さ	孔径	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q52	瓦 瓦 瓦	3.10	0.40	0.25	(4.80)	滑石	両面縁部の傾斜, 片面穿孔孔 (2.4) cm	中央部(南)	P.1, 36
Q53	瓦 瓦	0.77	0.65	0.20	0.62	滑石	側面が直線の女門形状, 片面穿孔	瓦土中	
Q54	瓦 瓦	0.73	0.61	0.20	0.51	滑石	側面がやや膨らむ女形状, 片面穿孔	中央部(南)	

住居跡一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長横×短横 (m)	壁高 (cm)	築造 時期	内 部 基 礎				瓦土	主な出土遺物	発掘 (時英)			
							柱間	入口	土	柱						
1	C 6 b5	N-33-E	[楕円形]	7.38 × 7.32	3~5	平型	—	8	—	1	管2	—	自然	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
2	D 6 b3	—	[楕円形]	4.90 × 4.50	0	平型	—	3	—	1	管1	—	不明	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
3	C 6 j1	N-7-W	[楕円形]	3.65 × (2.82)	12~22	平型	—	5	—	1	管1	—	不明	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
4	C 6 i0	N-42-E	[楕円形]	3.00 × (6.20)	0	平型	—	6	—	4	管2	—	不明	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
5	D 6 a6	N-60-W	[楕円形]	3.11 × (3.60)	4~8	平型	—	8	—	1	管1	—	自然	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
6	D 6 b4	N-30-W	[楕円形]	5.82 × (6.65)	1	平型	—	3	—	9	管2	—	自然	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
7	D 6 g4	N-34-W	[楕円形]	4.28 × 4.12	6~14	平型	—	4	—	2	管1	—	自然	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
8	D 6 j4	—	[楕円形]	6.88 × (3.70)	17~30	平型	—	3	—	4	管4	—	自然	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
9	D 6 j1	N-60-W	[楕円形]	7.85 × (4.28)	6~10	平型	—	5	—	5	管4	—	自然	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
10	D 6 i0	N-35-W	[楕円形]	4.73 × 4.16	11~14	平型	—	4	—	7	管1	—	自然	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
11	E 6 a0	N-5-E	[楕円形]	5.10 × 5.10	7~18	平型	—	6	—	4	管1	—	自然	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
12	E 6 c0	N-25-W	方形	6.29 × 5.90	42~26	平型	2段	4	—	1	管1	1人	土師器(片-片-片)	土師器(片-片-片)	6世紀前半	
13	E 6 i6	N-41-E	[楕円形]	4.27 × 3.90	12~20	平型	—	4	—	—	管1	—	自然	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
14	F 6 h7	N-12-W	方形	3.32 × 3.31	41~68	平型	全周	4	1	—	管2	2人	土師器(片-片-片), 土師器	土師器	6世紀前半	
15	E 6 g2	N-14-W	[長方形]	6.29 × (3.69)	50~29	平型	全周	2	1	—	管1	1人	土師器(片-片-片), 土師器	土師器	6世紀後半	
16	E 6 i3	N-19-W	[長方形]	3.38 × (3.63)	35~42	平型	一部	3	—	9	管1	1人	土師器(片-片-片)	土師器	6世紀中頃	
17	F 6 b4	N-22-W	[方形]	7.03 × 6.88	40~54	平型	全周	4	1	16	管1	1人	土師器(片-片-片), 土師器	土師器	6世紀中頃	
18	E 7 i1	N-7-W	[楕円形]	7.94 × 7.54	6~26	平型	—	6	—	3	管1	—	1人	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
19	E 6 g0	N-46-W	[楕円形]	8.60 × (2.30)	1~12	平型	—	5	—	2	管3	—	自然	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
20	E 7 i1	N-2-E	[楕円形]	4.28 × 3.90	13~20	平型	—	5	—	8	管1	—	自然	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
21	F 6 g7	N-70-E	[円形]	7.25 × (3.30)	22~29	平型	—	6	—	2	管4	—	4人	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
22	G 6 f7	N-8-W	方形	6.47 × 6.46	48~50	平型	全周	4	1	—	管1	自然	土師器(片-片-片), 土師器	土師器	6世紀中頃	
23	E 6 j6	N-57-E	[円形]	3.15 × 3.02	12~20	平型	—	3	—	3	管1	—	1人	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
24	F 6 i4	N-20-W	[楕円形]	4.27 × 4.61	9~16	平型	—	4	—	3	管1	—	1人	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
25	G 7 e2	N-60-W	[円形]	3.58 × 3.32	10~22	平型	—	3	—	7	—	—	1人	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
27	G 7 d2	N-26-E	[楕円形]	6.00 × (3.71)	7~10	平型	—	3	—	4	管1	—	自然	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
28	G 7 h1	N-21-E	方形	3.48 × 3.27	45~60	平型	全周	4	1	9	管1	1人	自然	土師器(片-片-片), 土師器	土師器	6世紀中頃
29	G 6 g0	N-18-E	[円形]	3.20 × 3.00	16~21	平型	—	4	—	7	管2	—	1人	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
30	G 6 i0	N-75-W	[楕円形]	5.38 × 4.88	17~22	平型	—	6	—	4	管1	—	1人	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
31	G 7 i3	N-29-E	[楕円形]	6.22 × (4.70)	4~10	平型	—	2	—	7	管1	—	1人	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	
32	H 6 b0	N-22-W	[楕円形]	4.81 × 4.32	11	平型	—	—	—	—	管1	—	1人	瓦土(赤)	縄文時代中期(加賀川式)	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)	床面	築造	内 部 施 設			備上	主要出土遺物	備考 (時期)		
								土柱	入口	ヒット					
33	C 7 g3	N-65°-W	円形	2.2 × 4.6	5~12	平掘	—	6	—	3	中1	—	人為	縄文土器(漆器)	縄文時代中期(加曾川B式期)
34	G 6 e8	N-35°-W	【楕円形】	6.2 × (3.85)	6~5	平掘	—	6	—	10	B1	—	人為	縄文土器(漆器), 陶器	縄文時代中期(加曾川B式期)
35	G 7 j2	N-35°-E	円形	7.30 × 7.00	6~16	平掘	—	6	—	16	B3	—	人為	縄文土器(漆器), 石環, 磨石	縄文時代中期(加曾川B式期)
36	G 6 b9	N-80°-W	円形	8.21 × 7.80	5~21	平掘	—	4	—	16	B1	—	人為	縄文土器(漆器), 石器	縄文時代中期(加曾川B式期)
37	D 6 i7	N-0°	【円形】	18.20 × (7.60)	—	平掘	—	4	—	10	B1	—	不明	縄文土器(漆器)	縄文時代中期(加曾川B式期)
38	D 6 g5	N-66°-E	【楕円形】	(7.90) × (6.70)	—	平掘	—	4	—	3	B1	—	不明	縄文土器(漆器)	縄文時代中期(加曾川B~C式期)
39	D 7 i1	N-0°	【円形】	(5.00) × (4.00)	6~12	平掘	—	—	—	5	B1	—	人為	縄文土器(漆器)	縄文時代中期(加曾川B~C式期)
40	E 6 f4	N-15°-E	楕円方形	3.34 × 3.10	8	平掘	—	2	—	—	B1	—	3A)	縄文土器(漆器), 石板	縄文時代中期(河子台B~C式期)

3 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期不明の土坑45基と不明遺構4基を検出した。特に、第4号不明遺構については、住居跡として調査を進めたが検討の結果、不明遺構とした。以下、検出した遺構と遺物について記載する。

(1) 土坑

土坑の特徴については、一覧表と全体図(付図)で掲載する。

土坑一覧表

番号	方位	長径方向 (長径方向)	平面形	縦 横		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径 (m)	深さ (cm)					
1	C 6 a2	N-0°	円形	1.07 × 1.02	22	外傾	平坦	自然	縄文土器	縄文時代中期(加曾利B式期)
2	C 6 a3	N-0°	円形	1.52 × 1.40	30	外傾	平坦	自然	縄文土器	縄文時代中期(加曾利B式期)
3	C 6 a4	N-86°-W	長楕円形	1.76 × 1.20	32	外傾	平坦	自然		
4	C 6 b3	N-38°-E	楕円形	1.32 × 1.10	77	外傾	平坦	人為		縄文時代中期
5	C 6 b3	N-15°-E	楕円形	1.15 × 0.98	32	外傾	底状	自然		
6	C 6 a5	N-55°-W	楕円形	1.16 × 1.00	79	垂直	底状	人為		縄文時代中期
7	C 6 c5	N-15°-W	楕円形	1.15 × 1.15	63	縦斜	底状	自然		
8	C 6 a7	N-3°-E	隅丸長方形	1.17 × 1.07	5	外傾	平坦	自然		
9	C 6 c4	N-78°-W	長楕円形	1.56 × 0.67	7	縦斜	平坦	自然		
10	C 6 c5	N-86°-W	長楕円形	1.06 × 0.40	9	外傾	平坦	自然		
11	C 6 d6	N-2°-E	隅丸長方形	1.17 × 1.07	5	外傾	平坦	自然		
12	C 6 d4	N-83°-W	不定形	2.56 × 1.16	10	縦斜	平坦	自然		
13	C 7 a1	N-32°-E	楕円形	2.10 × 1.83	29	外傾	平坦	自然		
14	C 6 e2	N-74°-E	楕円形	0.81 × 0.66	21	外傾	底状	自然		
15	C 6 b3	N-1°-E	長楕円形	1.21 × 0.73	26	縦斜	底状	自然		
16	C 6 b3	N-71°-E	舟形	2.54 × 1.81	24	外傾	底状	自然		
17	D 7 b2	N-62°-W	楕円形	0.54 × 0.51	24	外傾	底状	自然		
18	D 7 b2	N-13°-E	楕円形	0.67 × 0.43	14	外傾	凹凸	自然		
19	C 6 i3	N-0°	円形	1.55 × 1.43	90	垂直	底状	人為	縄文土器	縄文時代中期(加曾利B式期)
20	C 6 c7	N-30°-E	長方形	0.59 × 1.24	66	外傾	平坦	自然		
21	C 6 b7	N-36°-E	楕円形	0.85 × 0.61	45	外傾	平坦	自然		
22	C 6 i9	N-68°-W	楕円形	0.76 × 0.69	10	—	平坦	自然		
23	D 7 a2	N-90°-W	隅丸長方形	1.89 × 1.08	7	縦斜	平坦	自然		
24	D 7 a2	N-0°	楕円形	0.45 × 0.42	22	外傾	底状	自然		
25	C 7 i2	N-76°-W	楕円形	(1.08) × 0.76	7	外傾	平坦	自然		
26	C 7 i1	N-80°-E	長楕円形	1.08 × 0.54	9	外傾	平坦	自然		
27	C 7 j1	N-7°-E	隅丸長方形	1.88 × 1.07	7	縦斜	平坦	自然		
28	C 6 i8	N-78°-E	不整形長方形	2.31 × 0.51	47	外傾	凹凸	自然		
29	C 6 i8	N-55°-E	不定形	1.78 × 1.20	15	縦斜	凹凸	自然		
30	C 6 i5	N-87°-W	長楕円形	1.04 × 0.60	7	縦斜	底状	自然		
31	C 6 i0	N-84°-W	長楕円形	1.06 × 0.56	7	縦斜	底状	自然		
32	C 7 d1	N-87°-E	不整形長方形	2.03 × 0.85	12	外傾	底状	自然		
33	D 7 a1	N-4°-E	楕円形	0.64 × 0.53	12	外傾	底状	自然		
34	D 7 b1	N-44°-W	楕円形	1.16 × 1.02	44	外傾	平坦	自然		
35	D 7 c2	N-88°-E	不定形	1.02 × 0.42	30	縦斜	底状	自然		
36	D 6 a0	N-40°-W	楕円形	0.55 × 0.48	38	外傾	平坦	自然		

序号	位置	长轴方向 (长轴方向)	平面形	面积		壁面	地面	出土	主要出土器物	备注
				长径(轴) (m)	短径 (m)					
37	D 6 e0	N-10°-E	梯形	2.11	1.90	17	硬泥	平垣	自然	
38	D 6 e9	N-0°	圆形	0.88	0.81	75	垂直	平垣	人为	陶文土器
39	D 6 e9	N-60°-E	[其他圆形]	(0.96)	0.85	20	硬泥	圆状	自然	
40	D 6 e8	N-20°-W	长方形	2.26	1.54	23	外植	圆状	人为	陶文土器
41	D 6 f8	N-70°-W	梯形	0.90	0.53	28	硬泥	圆状	自然	
42	D 6 e7	N-02°-W	梯形	2.45	2.10	32	外植	圆凸	自然	
43	D 6 f7	N-0°	不规则圆形	1.06	0.66	37		圆凸	自然	
44	D 6 f7	N-55°-E	梯形	1.72	1.28	30	外植	圆凸	自然	
45	D 6 f7	N-0°	圆形	0.42	0.41	12	硬泥	圆状	自然	
46	D 6 f7	N-0°	圆形	0.52	0.51	27	硬泥	平状	自然	
47	D 6 g7	N-13°-W	梯形	1.00	0.78	24	外植	圆凸	自然	
48	D 6 g7	N-34°-E	不定形	3.78	2.98	50	外植	平垣	自然	
49	D 6 f4	N-45°-W	不定形	(1.61)	1.61	13	硬泥	圆凸	自然	
50	D 6 e4	N-33°-W	梯形	0.78	0.66	18	外植	圆状	自然	
51	D 6 e5	N-25°-W	梯形	1.07	0.85	22	硬泥	平垣	自然	
52	D 6 e5	N-0°	圆形	0.71	0.69	14	硬泥	平垣	自然	
54	D 6 f4	N-20°-W	椭圆形	1.15	0.75	3	外植	平垣	自然	
55	D 6 h0	N-9°-W	不规则圆形	1.38	0.91	25	硬泥	圆状	自然	
56	D 6 g5	N-5°-W	梯形	1.15	0.98	42	外植	平垣	人为	陶文土器
57	D 6 g5	N-74°-W	不规则方形	1.87	1.10	20	外植	平垣	自然	
58	D 6 h8	N-61°-E	梯形	1.85	1.45	42	外植	圆凸	自然	
59	D 6 f9	N-32°-W	梯形	1.75	1.22	28	硬泥	圆凸	自然	
60	D 6 g4	N-73°-E	不规则圆形	1.42	1.09	75	硬泥	平垣	自然	陶文土器
61	D 6 h4	N-22°-W	梯形	0.70	0.66	34	硬泥	平垣	自然	
62	D 6 h4	N-10°-E	长方形	0.82	0.58	18	外植	平垣	自然	
63	C 7 g1	N-19°-W	圆形	0.71	0.50	15	外植	圆状	自然	
64	C 7 g1	N-68°-W	不规则方形	1.20	0.71	21	硬泥	圆状	自然	
69	D 7 b1	N-81°-E	梯形	0.74	0.41	12	硬泥	圆状	自然	
71	D 6 e4		不定形	(1.87)	(0.63)	40	硬泥	圆状	自然	
72	D 6 h9	N-66°-W	梯形	0.84	0.52	15	硬泥	圆状	自然	
73	D 6 i5	N-67°-W	梯形	1.14	0.98	22	硬泥	平垣	人为	陶文土器
74	D 6 i5	N-20°-E	梯形	1.76	1.57	42	外植	圆状	自然	
75	D 7 f1	N-55°-W	梯形	0.70	0.68	52	外植	圆凸	人为	陶文土器
76	D 7 f1	N-52°-W	长方形	0.82	0.52	26	外植	圆状	自然	
77	D 7 f2	N-0°	圆形	1.13	1.04	65	外植	平垣	人为	陶文土器
78	D 7 f1	N-76°-W	梯形	1.12	0.82	37	硬泥	圆凸	自然	
79	D 7 f2	N-0°	圆形	1.15	1.14	32	外植	圆状	人为	陶文土器
80	D 7 e1		不定形	2.34	(1.02)	16	外植	平垣	自然	
81	D 6 h9	N-58°-W	长方形	1.10	0.49	26	硬泥	圆凸	自然	
82	D 6 h9	N-55°-W	长方形	1.12	0.63	23	硬泥	圆状	自然	
83	D 6 h9	N-30°-E	梯形	0.75	0.74	16	硬泥	平垣	自然	陶文土器
84	D 6 h0	N-03°-E	长方形	1.36	0.78	25	外植	圆凸	自然	
85	D 6 h0	N-82°-E	梯形	0.93	(0.66)	28	外植	圆状	自然	
86	D 6 h0	N-15°-E	长方形	2.41	1.45	35	外植	圆状	人为	陶文土器
87	D 6 h5	N-60°-E	梯形	0.90	0.71	20	硬泥	圆凸	自然	
88	D 6 j7	N-21°-E	梯形	2.25	1.60	66	外植	圆凸	自然	陶文土器

序号	位置	方位 (长轴方向)	平面形	规格		层数	地面	地面	墓主	主要出土器物	编 号 (时期)
				长径(A) (m)	短径(B) (m)						
89	D 6 09	N-20°-W	椭圆形	1.31	× 1.05	20	券洞	四凸	自然	绳文土器	绳文时代
90	D 6 10	N-16°-E	不定形	1.86	× 1.18	32	碓路	圆状	自然	绳文土器	绳文时代中期(加曾利B式期)
91	D 6 10	N-54°-E	圆九台形	1.25	× 0.94	15	外堀	圆状	自然		
92	E 6 08	N-14°-E	椭圆形	1.02	× 1.00	41	外堀	四凸	自然		
93	D 6 10	N-0°	圆形	0.90	× 0.85	7	碓路	圆状	自然		
94	E 6 08	N-0°	圆形	1.22	× 1.14	42	外堀	圆状	自然		绳文时代中期
95	E 6 10	N-12°-E	不定形	2.85	× 1.38	88	—	—	自然	绳文土器	绳文时代
96	E 6 06	N-83°-W	圆九台形	2.40	× 1.37	17	碓路	四凸	自然	绳文土器	绳文时代
97	E 6 06	N-60°-W	椭圆形	0.65	× 0.46	12	外堀	平皿	自然		
98	E 6 06	N-81°-W	椭圆形	0.83	× 0.32	13	碓路	平皿	自然		
99	E 6 03	N-55°-W	椭圆形	0.74	× 0.68	21	碓路	圆状	自然		
100	D 7 11	N-14°-E	椭圆形	1.10	× 0.72	22	碓路	圆状	自然		
101	D 6 16	N-68°-W	椭圆形	0.63	× 0.59	21	外堀	四凸	自然		
102	E 7 02	N-10°-E	椭圆形	[0.72]	× 0.67	10	外堀	四凸	自然		
103	E 7 02	N-88°-E	椭圆形	1.47	× 1.17	11	外堀	四凸	自然		
104	D 7 11	N-67°-E	椭圆形	0.71	× 0.50	25	碓路	圆状	自然		
105	E 7 02	N-44°-W	不定形	1.62	× 1.20	34	碓路	四凸	自然		
106	E 7 12	N-41°-W	椭圆形	2.36	× 1.85	9	外堀	平皿	自然		
107	E 7 11	N-2°-E	圆九台形	1.60	× 0.83	17	碓路	圆状	自然		
108	E 7 11	N-38°-W	椭圆形	0.84	× 0.53	42	外堀	圆状	自然		
109	E 7 11	N-62°-W	椭圆形	1.32	× 1.11	22	碓路	圆状	人为	绳文土器	绳文时代
110	E 7 12	N-73°-E	椭圆形	1.62	× 1.48	20	碓路	四凸	自然		
111	E 7 11	N-8°-W	椭圆形	1.20	× 0.92	82	外堀	平皿	人为	绳文土器	绳文时代中期
112	D 7 11	N-63°-W	不规则圆形	[1.30]	× 0.78	24	碓路	平皿	自然		
113	D 6 10	N-83°-W	椭圆形	1.13	× 0.90	26	碓路	四凸	自然	绳文土器	绳文时代
114	D 6 15	N-80°-E	椭圆形	1.28	× 1.12	18	外堀	圆状	人为	绳文土器	绳文时代中期(加曾利B式期)
115	E 7 11	—	不定形	0.88	× [0.81]	15	外堀	四凸	自然		
116	E 7 11	—	不定形	0.71	× [0.60]	10	—	四凸	自然		
117	E 7 12	N-0°	圆形	0.65	× 0.65	28	外堀	平皿	自然		
119	E 6 16	N-77°-E	椭圆形	1.07	× 0.75	30	碓路	四凸	自然		
120	E 6 15	N-84°-E	圆形	1.00	× 0.76	30	碓路	圆状	自然		
121	E 6 15	N-92°-W	椭圆形	0.74	× 0.66	58	外堀	平皿	自然		绳文时代中期
122	E 6 11	N-16°-W	椭圆形	0.92	× 0.63	20	碓路	四凸	自然		
123	E 6 16	N-32°-W	长椭圆形	2.57	× 1.94	14	碓路	平皿	自然		
124	E 6 11	N-65°-E	不定形	1.70	× 1.12	6	碓路	四凸	自然		
125	E 6 16	N-30°-E	椭圆形	1.51	× 1.14	72	圆状	圆状	自然	绳文土器	绳文时代中期(加曾利B式期)
126	D 6 15	N-62°-E	椭圆形	0.69	× 0.63	18	碓路	四凸	自然		
127	D 7 12	N-56°-W	椭圆形	1.21	× 0.87	20	外堀	四凸	自然		
128	D 7 11	N-40°-E	不定形	1.45	× [1.38]	21	碓路	四凸	人为	绳文土器	绳文时代中期
129	D 6 10	N-17°-E	长椭圆形	0.83	× 0.40	28	外堀	四凸	自然		
130	D 6 16	N-50°-W	长椭圆形	1.22	× 0.78	21	外堀	四凸	自然	绳文土器	绳文时代
131	D 6 16	N-20°-E	椭圆形	1.20	× 1.06	22	外堀	平皿	人为		绳文时代中期后半
132	D 6 16	N-4°-E	椭圆形	2.50	× 2.16	30	外堀	平皿	自然		
134	D 6 17	N-16°-W	椭圆形	1.92	× 1.30	23	外堀	四凸	人为		绳文时代中期
135	D 6 16	N-0°	圆形	1.12	× 1.04	49	碓路	平皿	人为	绳文土器	绳文时代中期(加曾利B式)
136	D 6 16	N-65°-E	椭圆形	1.24	× 1.06	52	外堀	平皿	人为		绳文时代中期

番号	位置	基址方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	地面	敷土	主要出土遺物	編年 (時期)
				長径(軸)×短径 (m)	深さ (cm)					
137	E 6 a7	N-20°-E	楕円形	1.46 × 1.33	46	葎葎	扇状	人為		縄文時代
138	F 7 c2	N-45°-E	楕円形	1.09 × 0.80	35	垂直	平坦	自然		
139	D 6 j6	N-84°-W	長楕円形	1.01 × 0.62	26	外傾	扇状	自然		
140	E 6 e7	N-37°-W	楕円形	1.08 × 0.86	42	外傾	平坦	自然		縄文時代中期
141	E 6 d9	N-18°-E	楕円形	1.92 × 1.10	36	外傾	平坦	自然	縄文土器	縄文時代中期
142	D 7 g1	N-60°-W	楕円形	0.80 × 0.63	37	外傾	扇状	自然	縄文土器	縄文時代中期後葉
143	D 7 g1	N-27°-W	楕円形	0.58 × 0.50	18	外傾	平坦	自然		
144	E 6 i7	N-13°-W	楕円形	1.64 × 0.86	28	外傾	平坦	人為	縄文土器	縄文時代中期後葉
145	E 6 e8	N-11°-E	長楕円形	1.17 × 0.56	21	外傾	扇状	自然		
146	E 6 e9	N-68°-W	楕円形	1.46 × 1.32	52	外傾	平坦	人為	縄文土器	縄文時代中期(加曾利田式期)
147	E 6 e6	N-62°-E	不定形	1.40 × 0.62	23	葎葎	扇状	自然		
149	E 6 d7	N-69°-E	楕円形	1.33 × 1.23	15	外傾	平坦	自然		
150	E 6 e7	N-81°-E	楕円形	1.12 × 0.92	30	外傾	平坦	自然		縄文時代中期
151	E 6 c4	—	平楕長方形	3.20 × 1.27	22	葎葎	平坦	自然		
152	E 6 d4	N-61°-E	楕円形	1.50 × 1.48	8	外傾	平坦	自然		
153	E 6 e5	N-25°-E	長楕円形	1.22 × 0.78	28	外傾	凹凸	自然		
154	E 6 e5	N-50°-E	楕円形	0.83 × 0.71	12	葎葎	扇状	自然		
155	E 6 e7	N-62°-E	不整形円形	1.30 × 1.00	33	外傾	平坦	自然		
156	E 6 e6	N-27°-W	楕円形	0.98 × 0.89	40	垂直	平坦	自然	縄文土器	縄文時代中期(加曾利田式期)
157	E 6 e6	N-69°-W	楕円形	1.23 × 0.85	33	外傾	平坦	自然	縄文土器	縄文時代中期(加曾利田式期)
158	E 7 a2	N-0°	円形	1.20 × 1.10	66	外傾	扇状	人為	縄文土器	縄文時代中期(加曾利田式期)
159	E 6 d9	N-72°-E	楕円形	1.11 × 0.96	40	外傾	平坦	人為	縄文土器	縄文時代中期(加曾利田式期)
160	E 6 d9	N-13°-W	不整形円形	1.38 × 0.44	18	葎葎	平坦	自然		
161	E 6 d9	N-82°-E	楕円形	0.70 × 0.61	30	葎葎	平坦	自然		
162	E 7 b1	N-46°-E	長楕円形	2.03 × 1.37	55	外傾	平坦	自然		
163	D 6 g8	N-13°-W	不整形円形	1.58 × 0.90	22	葎葎	扇状	自然		
164	D 6 g7	[N-31°-E]	[楕円形]	[2.10] × [1.80]	92	葎葎	扇状	自然		
165	E 6 g9	N-57°-E	[楕円形]	0.90 × 0.80	20	外傾	平坦	自然		
166	E 6 d9	N-0°	円形	1.16 × 1.10	32	外傾	平坦	自然	縄文土器	縄文時代中期(加曾利田式期)
167	E 6 d9	N-66°-E	不整形円形	1.41 × 0.81	30	外傾	平坦	自然		
168	E 7 h2	N-0°	円形	1.07 × 1.04	43	外傾	平坦	人為	縄文土器	縄文時代中期(加曾利田式期)
169	E 6 i6	N-36°-W	不整形長方形	1.65 × 0.80	24	葎葎	扇状	自然		
170	E 6 g2	N-38°-W	不定形	1.52 × 1.26	82	垂直	平坦	人為	縄文土器	縄文時代中期(加曾利田式期)
171	E 6 d9	N-0°	円形	0.76 × 0.73	16	葎葎	平坦	自然		
172	E 6 h5	N-25°-W	楕円形	1.10 × 1.08	20	外傾	凹凸	自然		
174	E 6 d9	N-75°-E	楕円形	1.13 × 0.86	20	外傾	平坦	自然		
175	E 6 g8	N-65°-W	不整形円形	1.38 × 0.86	15	葎葎	平坦	自然	縄文土器	縄文時代
176	E 6 i6	N-0°	円形	0.60 × 0.58	19	外傾	平坦	自然		
177	E 6 i6	N-0°	円形	0.73 × 0.69	13	葎葎	扇状	自然		
178	E 7 g3	N-43°-W	楕円形	1.07 × 0.86	63	葎葎	扇状	自然		
179	E 7 g3	N-24°-E	長楕円形	[1.96] × 1.12	15	外傾	平坦	自然		
180	D 7 f2	—	平円形	[0.93] × [0.35]	30	葎葎	扇状	自然		
181	D 7 e2	N-0°	円形	0.67 × 0.65	15	葎葎	扇状	自然		
182	D 7 g2	N-52°-E	楕円形	1.25 × 0.99	16	葎葎	平坦	自然		
183	D 7 e2	N-49°-W	楕円形	0.52 × 0.42	17	葎葎	扇状	自然		
184	E 7 f3	N-74°-W	楕円台形	1.05 × 0.90	25	葎葎	扇状	自然		

番号	位置	長短方向 (長軸方向)	平面形	規		壁面	庭面	覆土	主要土上遺物	層 考 (時期)	
				長径(軸) (m)	短径 (m)						
185	D 7 e 2	N-35°-W	楕円形	0.62	× 0.54	14	緩斜	崖状	自然		
186	E 6 b 4	N-0°	円形	1.08	× 1.07	70	緩斜	凹凸	自然		
187	E 7 2	N-42°-W	不定形	2.37	× 2.30	46	外傾	凹凸	自然		
188	E 7 2		不定形	(2.23)	× (1.86)	68	緩斜	凹凸	自然		
189	D 6 b 7	[N-32°-W]	[楕円形]	[0.66]	× 0.43	28	外傾	—	自然		
190	E 6 d 8	N-70°-E	不整形	1.50	× 1.32	30	緩斜	崖状	自然		
192	E 6 d 7	N-0°	円形	0.66	× 0.62	20	緩斜	崖状	自然		
193	E 6 4 8	N-36°-W	楕円形	1.61	× 1.16	13	外傾	平坦	自然		
194	E 6 j 7	N-5°-W	楕円形	2.00	× 1.45	57	外傾	平坦	入石	縄文土器、土製陶板	縄文時代中期(加谷利B式期)
195	D 6 b 7	N-80°-W	楕円形	0.95	× 0.84	48	外傾	崖状	自然		
196	F 7 b 1	N-5°-W	楕円形	1.13	× 0.94	22	緩斜	崖状	自然		
197	F 7 b 0	N-47°-E	楕円形	1.26	× 1.02	46	緩斜	平坦	自然		
198	F 7 a 1	N-37°-W	不整形四角形	0.75	× 0.62	68	外傾	平坦	自然		
199	E 5 j 0	N-67°-W	楕円形	0.77	× 0.71	8	緩斜	平坦	自然		
200	F 7 b 1	N-13°-W	楕円形	1.56	× 1.28	26	外傾	平坦	自然	縄文土器、土製陶板	縄文時代中期(加谷利B式期)
203	E 7 j 1	N-3°-W	楕円形	1.45	× 1.20	33	外傾	平坦	入石	縄文土器、土製陶板	縄文時代中期(加谷利B式期)
205	F 7 a 1	N-0°	楕円形	0.80	× 0.64	16	緩斜	崖状	自然		
206	F 7 b 1	N-0°	円形	0.48	× 0.46	19	緩斜	崖状	自然		
207	F 7 b 1	N-0°	円形	0.66	× 0.62	35	緩斜	崖状	自然		
208	K 6 e 8	N-41°-W	円形	0.52	× 0.50	18	緩斜	平坦	自然		
209	E 6 c 8	N-45°-W	楕円形	0.87	× 0.55	29	外傾	崖状	自然		
210	E 6 6	N-66°-W	楕円形	1.04	× 0.67	26	緩斜	平坦	自然	縄文土器	縄文時代
211	K 6 e 7	N-78°-E	楕円形	1.07	× 0.50	20	緩斜	崖状	自然		
212	D 6 d 0	N-80°-E	楕円形	0.82	× 0.74	23	緩斜	凹凸	自然		
213	D 6 b 0	N-50°-E	楕円形	0.87	× 0.66	26	外傾	凹凸	自然		
214	D 7 2	N-40°-E	楕円形	1.00	× 0.84	21	緩斜	凹凸	自然		
215	F 6 e 9	N-73°-W	楕円形	1.50	× 0.94	15	緩斜	平坦	自然		
216	F 6 b 0	N-59°-W	楕円形	0.59	× 0.32	13	緩斜	崖状	自然		
218	F 7 a 1	N-37°-W	楕円形	0.58	× 0.49	26	緩斜	崖状	自然		
219	E 6 b 7	N-0°	円形	0.78	× 0.76	15	緩斜	崖状	自然		
220	E 7 3	N-0°	円形	1.36	× 1.27	30	緩斜	崖状	自然		
221	E 6 b 7	N-20°-E	楕円形	0.65	× 0.64	9	緩斜	崖状	自然		
222	F 6 d 0	N-36°-E	楕円形	1.00	× 0.65	15	緩斜	崖状	自然		
223	E 7 e 2	N-35°-W	楕円形	1.50	× 1.32	63	外傾	平坦	自然	縄文土器、土	縄文時代中期(加谷利B式期)
224	E 6 g 2	N-20°-E	[楕円形]	1.20	× 0.95	34	外傾	平坦	自然		
225	E 6 g 2	N-54°-E	不整形四角形	1.23	× 0.76	50	外傾	平坦	自然		
226	E 6 b 0	N-40°-E	楕円形	1.37	× 1.22	4-12	緩斜	凹凸	自然		
227	E 6 b 4	N-10°-E	不整形四角形	0.51	× 0.41	4	緩斜	平坦	自然		
228	F 6 e 7	N-0°	円形	1.74	× 1.69	68	外傾	平坦	自然	縄文土器、土	縄文時代中期(加谷利B式期)
229	F 6 e 7	N-78°-W	楕円形	0.64	× 0.58	21	外傾	平坦	自然		
230	F 6 e 7	N-9°-E	楕円形	1.17	× 0.95	18	外傾	平坦	自然	縄文土器	縄文時代中期(加谷利B式期)
231	F 6 e 6	N-25°-E	不整形四角形	1.00	× 0.87	25	緩斜	平坦	自然		
232	F 6 e 0	N-30°-W	楕円形	0.99	× 0.78	33	緩斜	崖状	自然		
233	F 6 j 0	N-0°	円形	0.62	× 0.60	17	外傾	平坦	自然		
234	F 6 d 0	N-10°-E	楕円形	0.61	× 0.47	19	緩斜	崖状	自然		
235	F 6 e 0	—	楕円形	0.90	× 0.65	11-21	緩斜	凹凸	自然		